

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
旅と文化 第1号 (創刊号)	昭和32年 (1957年) 12月8日	(1)	<p>設立記念式典・厳粛にしかも和やかに 発刊のことば(山本理事長) 祝辞(文部省初等中等局長 内藤誉三郎氏) 祝辞(参議院議員 荒木正三郎氏) 主張 財団法人の発足に際して</p> <p>(2) 修学旅行は一生を支配する(東京都教育庁指導部長 小尾虎雄氏) 日教組と修学旅行(日教組福対部副部長 西塚喜久美氏) 信念と友情の団結に感激(茗溪会理事 岩下雄三氏) 本年度の事業計画 実態調査と支部強化を目標に</p> <p>(3) 財団法人となるまで:永井事務局長経過報告 第1回支部長会議 法人許可を記念して 研究 修学旅行の心理的考察[上](山石一ト) 事務局風景(河野)</p> <p>(4) 財団法人全国修学旅行研究協会 趣意書・寄付行為 役員氏名 編集後記</p>
第2号	昭和33年 (1958年) 2月28日	(1)	<p>全国組織完成近し 修旅への関心昂る 支部だより・支部結成式 【宮城(事務局 堀野孝司)・千葉(支部長 狩野政一)・ 石川(支部長 内田武雄)・山口(支部長 宮崎匠)・香川(支部長 山川菊一)・ 鳥取(支部長 伊佐田亮蔵)・兵庫県(支部長 岡本仁)】 主張 修学旅行の安全性を確保せよ</p> <p>(2) 随筆山陰路(島根県支部長) 修旅アンケート 中間報告 研究 修学旅行の心理的考察[中](山石一ト) 事務局だより(藤村) 編集後記(藤村、山本)</p>
第3号	昭和33年 (1958年) 3月31日	(1)	<p>第2回理事会開かる 新段階を確認し事業推進を誓う 新任支部長協議会 中国・四国ブロック会議 全修協第1回作品修学旅行映画16ミリ クランクアップ近し 撮影中スナップ 父兄の見送り(奈良駅)、箱根火山模型による事前学習 主張 支部組織の完成に際して、修学旅行にまつわる封建制をたちぎれ</p> <p>(2) 各校長と語る「修学旅行の座談会」 支部結成式風景 研究 修学旅行の心理的考察[下](山石一ト) コラム 旅にひろう(福井県立乾徳高校教諭 藤森喜範氏) 事務局だより 33年度研修旅行案内 北海道(十和田)コース・九州コース</p>
第4号 研修旅行 特集号	昭和33年 (1958年) 5月8日	(1)	<p>第2回教職員現地研修旅行 夏休みは北海道・九州へ 北海道への誘い 思い出の記 網走から摩周へ(開進三中 吉田岩蔵氏) 33年度研修旅行コース 北海道(十和田)コース・九州コース</p> <p>(2) 九州への誘い この企画について 研修旅行の利点 各都府県研修旅行の申込場所</p>
第5号	欠番		
第6号 研修旅行 特集号	昭和33年 (1958年) 7月10日	(1)	<p>教職員のための現地研修旅行 教育見学旅行特集 :編成と日程 :快適な旅行をするために :参加者へのお知らせ</p> <p>(2) 宿泊旅館一覧表 研修旅行写真コンクールのお知らせ コラム 旅にひろう</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第7号	昭和33年 8月30日 (1958年)	(1)	春の修学旅行をきる 初めて動いた特別専用列車 :だが、未だ道遠し安全対策 設定臨について(東京都修学旅行対策委員長 川合八郎氏) 修旅の時間制限を考慮せよ(東京都立城南高校長 田波又男氏) 修旅の非常対策 日頃の訓練と心掛けが必要 全修協の動き 役員会及び東西支部長会議 行硯
		(2)	区費の補助により修学旅行に全員参加、教委・学校・PTAの温かい配慮 教師に訴える旅館業者の声、旅館も学習の場 春の日光新記録 1日にどっと1万人(栃木県支部長 高橋通亮) 厳島と修学旅行 年間30万人の宿泊者(広島県支部長 大西八郎) 中国地方の旅(山口県支部長 宮本吉正) 問題を投げかける修旅団体の宿泊料大巾値上げ(栃木県支部長 高橋通亮) 北陸の京都 九谷焼の金沢(石川県支部長 内田武雄) 計画的に四国路へ(香川県支部長 山川菊一) 旅にひろう(石川支部) 編集後記(山本)
第8号	昭和33年 10月31日 (1958年)	(1)	第2回総会開かる 財団事業ここに確立す 総会に引続きブロック会議を開催
		(2・3)	北海道・九州教育研修旅行特集 :ほんとうによかった(宮崎県上江小学校 副団長 池江末利氏) :摩周の水澄める(石川県金沢市十一屋町小学校 岡本淑子氏) :旅は楽しく(山形県 高橋俊一氏) :私なりに(東京都学習院初等科 山口正重氏) :北海道の原野と街(東京都立足立第四中学校 内田弘氏) :感想(宮城県塩釜第一中学校 安部藤之進、渡辺秀幸氏) :オオワンダフル(埼玉県熊谷石原小学校 吉州寛哉氏) :旅の歌(大分県北海道郡坂ノ市東小学校 房前アヤ子氏) :まりもの歌もなつかしく(高知県安芸郡田野小学校 川口滋代氏) :さいはての旅に憶う(兵庫県 富岡当二氏) 第二回研修旅行参加者の声 アンケート回答
		(4)	忘れえぬ雲仙の宿(埼玉県児玉郡金屋小学校 根岸保氏) 【短歌】～九州へ旅しての～(埼玉県児玉郡金屋小学校 根岸保氏) 修学旅行の改善向上のため 懸賞論文募集 修学旅行写真コンクール 来春1月より募集開始 創刊36年を記念する小学館の奉仕運動 図書館用備品の贈呈 第2回写真コンクール入選発表 研修旅行応募写真 研修旅行の座談会 編集後記
第9号	欠番		
第10号	昭和34年 1月1日 (1959年)	(1)	年頭の辞(文部大臣 灘尾弘吉氏) 立派な修学旅行を(日本教職員組合 中央執行委員長 小林武氏) 年頭の挨拶(全修協理事長 山本種一) 年頭のあいさつ(全修協事務局長 永井熙) 行硯
		(2・3)	北海道・九州研修旅行写真コンクール入選作品 友情のダリア(山口県豊浦郡神田小学校長 藤村敏道氏) 全国支部長修学旅行座談会 「これからの修学旅行の改善すべき点は」「修旅の時期や日程」 「輸送問題をどうするか」「事故をなくすには」「新しい見学地とコース」 「明日の修旅の研究課題」 読者だより(山口県長門高校 富永徳司氏)
		(4)	全修協・福島県野田中学校共催 修学旅行研究発表会 大阪支部の発会式 旅行地選定の問題点[一](東京都立石神井高等学長 松木茂氏) 編集後記(山本)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第11号	昭和34年 (1959年) 1月20日	(1)	<p>修学旅行補助費きまる 論説 まだある下見について(常務理事 岡本仁) 明るく旅行ができる(東京都砂川中学校長 鈴木万一氏) 旅行地選定の問題点[二](都立石神井高等学校長 松木茂氏) 全修協のうごき 第三回研修旅行 申込者既に1千余名 行硯</p> <p>(2) 修旅新コース(東京)の研究 愛知・岐阜の中学校長60余名 車中戯作「或る日のわが家」(山形県 藤津博氏) 旅行先と留守宅を結ぶ修旅電報とラジオ放送 教科課程に位置づけられた修学旅行[一](文部事務官 柳川覚治氏) 建築の見どころ 出雲大社 編集後記</p>
第12号	昭和34年 (1959年) 2月28日	(1)	<p>修学旅行の補助法案をめぐって 国会・関係各省へ陳情 論説 専用電車の今後の為に 参議院 文教委での論議 湯山勇氏の活躍 増額運動を起こそう 衆議院文教委員 原田憲氏語る 専用電車で望む(立川市立第二中学校長 小林仁藏氏) 校長代表を増やせ(三鷹市立第一中学校長 清水貞助氏) 全修協のうごき</p> <p>(2) 修旅研究発表会 貴重な成果を挙げて終わる(奈良・山口・松山) 九州ブロック修旅研究発表会(鹿児島鴻池中学校) 研究課題を残した 宿泊料値上げに世論の反げき 全修協“時の動き”(NHK)に録音 益々好評の図書館設備充実運動</p>
第13号	昭和34年 (1959年) 3月30日	(1)	<p>修学旅行を理想的に 楽しく無事故で終わらせよう 修学旅行のねらい[一](松山市教育委員会 指導主事 玉井通孝氏) 旅行地選定の問題点[三](都立石神井高等学校長 松木茂氏) 時代と逆行する引率教員の運賃割引率引下げ 国鉄へ復元要請の声昂まる 事故は不注意から 行硯</p> <p>(2) 春の修学旅行座談会 東京都内中学校長と語る : 関西の新コース : 修旅の時間制限 : 計画輸送から専用電車へ : 東北方面の輸送状況は : 神戸の観光と物産展の参観 ホッとした気持ちになる 修旅電報を貰った東京豊島岡女高の父兄 GUIDE「建築の見どころ」 三重県 皇大神宮正殿 全修協のうごき 旅行先の安否を速報する“修学旅行のタイム”松山放送局は3年前から実施 編集後記</p>
第14号 研修旅行 特集号	昭和34年 (1959年) 4月20日	(1)	<p>北海道・九州教育研修旅行 第三回目の企画 「いざない」 : さいはての国 北海道! : 神話と伝説の九州! さいはてに旅して(宮崎県小林小学校教諭 下田みゆき氏)</p> <p>(2) 優れた内容と利点を持つ北海道・九州教育研修旅行 : この旅行の特色 : 参加方法 あの手この手 : 伸びゆく北海道へ(北海道庁物産幹旋東京事務所長 木下春雄氏) 研修旅行写真コンクール</p>
第15号	昭和34年 (1959年) 4月30日	(1)	<p>春の修学旅行 輸送宿泊など向上著し 併し未だ改善を要する見学方法 東京 毎日1万人の修旅生徒に賑う 関西 多すぎる神社仏閣の見学 コース紹介「鍾乳石の殿堂」 山口周辺の旅 修学旅行と体験(文部省大学学術局 視学官 理学博士 花井重次氏) さいはての魅力(長崎市立上長崎小学校 角川すみ子氏) 武家屋敷を残す北陸の京都「金沢」 教育課程に位置つけた「修学旅行の諸注意」文部省、シーズンにさきがけて通達 行硯</p> <p>(2) 修学旅行の懸賞論文 厳選の上7篇(入選選外)決まる 修学旅行懸賞論文審査結果 入選第二位第一席 修学旅行を効果的に行う為の方法論 ～中学、高校の修学旅行改善策～[一](広島県福山葦陽高等学校 近藤正弘氏) 「NHK教育相談室」修学旅行問題を放送 事務局ニュース</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第16号	昭和34年 (1959年) 5月30日	(1)	<p>第3回教育研修旅行 夏休みは北海道へ九州へ : 一日千秋の思い(宮崎県神門小学校教諭 久澄守恒氏) : 夢は最涯の空へ(山口県防府市国府中学校 浅川数之丞氏) : 三十年来の夢(宮崎県 延岡市立土々呂中学校 竹内齊孝氏) 心は遠く九州へ(名古屋市立庄内小学校教諭 鈴木保氏)</p> <p>(2) 素晴らしい大自然の眺め(大阪市立玉出小学校教諭 脇川秀子氏) 旅の追想(鳥取県船岡小学校教諭 風坂正義氏) 楽しかった九州路(学習院教諭 大沢孝氏) 研修旅行をご夫婦で(山口県徳山小学校教諭 箱崎潔氏) 九州旅行の思い出(京都市伏見高校教諭 諏佐未吉氏) 団体旅行は楽しい(大阪市立清明小学校教諭 神月行雄氏) 編集後記</p>
第17号	昭和34年 (1959年) 6月30日	(1)	<p>陽の当らぬこの現状 特殊児の修学旅行 宿泊・輸送に温かい対策を : 選定に困る宿泊旅館 目が離せない精薄地小津 : 物にふれ、匂いや雰囲気 で感得する盲生徒 : 身体障害児に劣等感なくす心遣い : 来年乗れる“ひので”号 明るい聾生徒 必要な特殊児の旅行(東京都教育委員会 指導主事 小杉長平氏) 修学旅行のねらい [二] (松山市教育委員会 指導主事 玉井通孝氏) 行硯</p> <p>(2) 中京に専用電車できるか 愛知修学旅行研究委員会発足す 入選第二位第一席 修学旅行を効果的に行う方法論 ~ 中学、高校の修学旅行改善策 ~ [二] (広島県福山葦陽高校教諭 近藤正弘氏) もう一度行ってみたい(姫路市立飾磨幼稚園長 三木藤枝氏) 図書館の設備をよくしよう 続々集まる三角カード 編集後記</p>
第18号 研修旅行 特集号	昭和34年 (1959年) 7月10日	(1)	<p>北海道・九州研修旅行 憧れの未知の国へ 歓迎のことば(北海道知事 町村金五氏) 参加者へのお知らせ 編成と日程</p> <p>(2) 歓迎のことば(福岡県知事 鶴崎多一氏) 青島のケスタ地形 宿泊旅館一覧表(北海道地区、九州地) 研修旅行 写真コンクール あなたの傑作を期待する 楽しい集い、昨年参加の先生達(鳥取県) 班の編成と班長さんの互選 北海道と九州の特別見学場所</p>
第19号	昭和34年 (1959年) 7月30日	(1)	<p>山と海の夏期施設 マンネリ化した安全対策 計画立案は地教委 年中行事になった小・中校 鍛練を主とした高校生 施設は各校独自 全員参加の学校も 海・山の事故防止に努めよう(文部省体育局長 清水康平氏) 夏の行事施設に望む(東京都教育委員会 指導主事 佐野政雄氏) アメリカのサマースクール</p> <p>(2) 野外活動に諸注意 ~ 文部省、事故防止に通達 ~ 入選第二位第一席 修学旅行を効果的に行う方法論 ~ 中学・高校の修学旅行改善策 ~ [三] (広島県福山葦陽高校 近藤正弘氏) 愛知修学旅行研究委員会役員 大阪府・市を視察す いよいよ活動態勢に入る ちえの遅れた子供達と修学旅行(大阪市立元町小学校 竹林和良氏)</p>
第20号 児童の読み物 特集号	昭和34年 (1959年) 8月30日	(1)	<p>児童の読み物特集号 : 転換期に立つ児童雑誌 各界の動きは批判から指導へ : よい雑誌の編集を マンガは再検討の時期 (小学館 児童雑誌編集部次長 兼 週刊少年サンデー編集長 豊田亀市氏) 児童読物指導の問題点(成蹊学園教育研究所長 滑川道夫氏) 子供の雑誌について(評論家 村岡花子氏) 月刊雑誌のできるまで</p> <p>(2) 「学習図書の調査と研究」年鑑として価値ある“新学習年鑑” ~ 学校図書研究会・教育技術研究所の共同研究でわかる ~ 優良図書館の紹介</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第21号	昭和34年 (1959年) 9月30日	(1)	今後の修学旅行 輸送面はどう改善されるか 各地に新設機運昂まる 快適な専用電車大好評 国鉄は営業とサービスに苦悩 バス利用の多い大都市周辺 道路整備が発展の鍵 主張 修学旅行の安全輸送確立のために 教師の指導力が大切(東京教育大学教授理学博士 青野寿郎氏) 修学旅行の補助金返上 問題化した青森県の八市町村 修学旅行の専用船
		(2)	修学旅行専用電車新設 国鉄へ陳情 中京地区修学旅行研究委員会連合の代表 みのり号に乗って大喜び 甲府市連合小学校児童三千人の東京見物 入選第二位第一席 修学旅行を効果的に行う方法論 [四] (広島県福山葦陽高校教諭 近藤正弘氏) 点から面まで進めたい今後の修学旅行(東京昭和第一商業高校長 白石藤夫氏) 編集後記
第22号 研修旅行 特集号	昭和34年 (1959年) 10月30日	(1)	第3回研修旅行特集号 全国教職員参加一万名 快適な臨時列車による現地視察 若さに溢れる未来の国北海道(全修協香川県支部長 吉田一三) 郷愁残すアイヌ部落(奈良県吉野工業高校教諭 吉本千代子氏) マリモ会誕生 一見は百聞にまさる(熊本大学教授理学博士 松本唯一氏)
		(2・3)	第3回北海道・九州研修旅行写真コンクール入選作品
		(4)	第3回北海道・九州研修旅行参加者の座談会 添乗員のお手柄 東京駅でスリを捕らえる
第23号	昭和34年 (1959年) 11月30日	(1)	来春の修学旅行にまた朗報 中京に専用電車誕生 東海連合修旅委の陳情が結実 ホッとした今年の修学旅行 関係者の努力で無事故 高知 修学旅行補助金に寄付 鹿児島 実習を兼ねた農高校の修学旅行 新潟 適切な処置で集団食中毒も無事 鳥取 山陰地方にも専用列車が必要 修学旅行と博物館見学(交通博物館 学芸員 福地利司氏) これからの修学旅行はどうあるべきか(練馬区立旭丘中学校長 松本和二郎氏) 行硯
		(2)	山形県修学旅行研究委員会発足 近く東北各県とも結成機運 伊勢湾台風に咲いた花 修学旅行生徒の温かい贈り物 :被災の友人に義金 大阪の中学生在が送る :東京の高校生修学旅行の途中でお小遣いを委託 :北海道の長沼高生が惟信高に救援品渡す :東京の中学生友情の贈り物 入選第二位第一席 修学旅行を効果的に行う方法論 [五] (広島県福山葦陽高校教諭 近藤正弘氏) 随筆 旅を楽しもう [一] (東京都教育委員会指導主事 栗林繁実氏)
第24号	昭和34年 (1959年) 12月30日	(1)	年頭にあたって(文部大臣 松田竹千代氏) 小・中の修旅は全額公費で(日本教職員組合中央執行委員長 小林武氏) 年頭の挨拶(全修協理事長 山本種一) 新年度の抱負(全修協事務局長 永井) 行硯
		(2・3)	新春の修学旅行座談会 関東各県指導主事・教諭と語る :新教育課程に則した修旅の新方式 :修旅専用電車は驍の見本市 :見学を断る大工場 実施困難な産業コース :事前・事後の指導に効果のある研究会 :レクリエーションと教育が融合 :体力に適した見学時間 改善に役立つ各地の修旅委 随筆 旅を楽しもう [二] (東京都教育委員会指導主事 栗林繁実氏) 民主的な英国の校外教育
		(4)	東海三県に専用電車新造 :修学旅行に百万弗のお年玉 :小倉副総裁 よい子へ置き土産 各界名士のアンケート 修学旅行の思い出と感想 修学旅行研究指定校決まる
第25号	昭和35年 (1960年) 1月30日	(1)	全修協、国鉄へ陳情 集約臨と団待の設定 九州行・品川駅 東海三県修旅委員会結成す 今後の修学旅行は総て専用電車一本で 山形県修旅委員会、県に予算を要求する 主張 修学旅行の救世主 行硯
		(2)	修旅研究発表会開かる 神奈川県藤沢市立第一中学校 東京修旅コースの実地踏査 福井県下中学校長ら30余名 入選第二位第一席 修学旅行を効果的に行う方法論 [六] (広島県福山葦陽高校教諭 近藤正弘氏)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第26号	昭和35年 (1960年) 2月29日	(1)	<p>近畿ブロック研究発表会 神戸市にて開かる 熱心な発表や討論 修旅の重要性を認識 修学に価する旅行を(東京都立一ツ橋高等学校教諭 築浦進一氏) 九州ブロック研究発表会 熊本市にて開催 真剣なる研究討議 問題点を追及</p> <p>(2) 品川駅の修旅団待、便所と上屋は完成 だが雨天の東口広場はどろんこ 集約臨の実現要望 山形県修旅委員会活動始む 入選第二位第一席 修学旅行を効果的に行う方法論[七](広島県福山葦陽高校教諭 近藤正弘氏) 研修旅行出足よし、参加申込700名を突破 各支部の動き</p>
第27号	昭和35年 (1960年) 3月30日	(1)	<p>修旅の季節を迎えて 無事故でほしい各界の準備と対策 : 教委 周到な調査と計画、関係者の協力が必要 : 校長 効果ある修旅を、事故対策に万全の処置 : 教諭 十分な事前学習、事故は油断から : PTA 衣服新調は中止、土産物は計画的に : 輸送 国鉄7%増車、バスは準備OK : 休憩場 待たれる雨天時の設備、忘れられた東京の現状、東京タワーは200人収容 マンネリ化した修学旅行の打破について(大田区立羽田中学校校長 櫻田弥兵衛氏) 主張 修旅指導の深化を</p> <p>(2) 中高の校長教諭を囲む修旅座談会 : 指導の欠乏がマンネリの原因 : 新コースに適した貿易港神戸市 : 疲労の少ない修学旅行を 論説 修学旅行をよりよくするために[1](都立白鷗高校教諭 川合元彦氏) 楽しい修旅を録音、北海道愛別高(定時制)32名 初心者に登竜門、研修旅行写真コンクール</p>
第28号	昭和35年 (1960年) 4月30日	(1)	<p>東海三県修旅専用電車“こまどり”号走る : 初乗りは長良中生ら800人 : 愛称“こまどり”は早川広一君(愛知)当選 初運転に当たっての挨拶(東海三県修学旅行委員会会長 岩瀬繁一氏) 初乗り雑感 熊本市立中学校の修学旅行「北九州コース」について[上](熊本市教育研究所 吉良敏雄氏)</p> <p>(2) 東北三県 秋田・山形・福島 秋より修旅列車実現 : 各県修旅委の国鉄陳情みのる : 改造して修旅列車 : 温情示す長瀬課長、秋田・山形代表等と一問一答 京阪神三市修学旅行委員会、教師用菜(きぼう号)と陳情 論説 修学旅行をよりよくするために[2](都立白鷗高校教諭 川合元彦氏)</p>
第29号	昭和35年 (1960年) 6月1日	(1)	<p>九州へ集約臨決まる : 近畿地方高校修学旅行に朗報 : 全修協の国鉄陳情結実 まだ多い一般混乗、専用電車は大都市のみ 小口輸送の問題点、校長と車掌の意見 水戸でも集約臨へ、集団修旅の機運昂まる 三重県修旅研究会開かる 良くなった修旅生の宿泊 修旅で自信深める北海道定時制高校生(NHK学校教育部 高塚暁氏) 熊本市立中学校の修学旅行「北九州コース」について[下](熊本市教育研究所 吉良敏雄氏)</p> <p>(2) 創立五周年記念 第3回全修協総会開かる : 修旅の改善めざして財団事業飛躍的發展 : 35年度、事業計画なる : 協会功労者表彰さる 論説 修学旅行をよりよくするために[3](都立白鷗高校教諭 川合元彦氏)</p>
第30号	昭和35年 (1960年) 7月1日	(1)	<p>山と海の夏季行事 心身鍛錬と地域観察 突発的な災害、事故に注意 : 指導は地教委・校長会、細案の実施は小学校で : 高校は身心の鍛錬を 海・山の事故防止に努めよう(文部省体育局長 杉江清氏) 夏季行事施設への希望(東京都教育庁指導部主任 佐野政雄氏) ドイツの夏季行事と修学旅行(東京ドイツ学園長 B. エバスマイヤー氏)</p> <p>(2) 東海道を走る“こまどり”号、デラックス新造車で、6月21日の国鉄本社理事会で決まる 山形県で法改正運動、修旅の補助金を2年生へ 大和路を語る会好評 夏季施設の食中毒・赤痢予防 論説 修学旅行をよりよくするために[4](都立白鷗高校教諭 川合元彦氏) 我が校の関西修学旅行、新コースの実施と反省(東京都砂川中学校校長 鈴木万一氏)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第31号 研修旅行 特集号	昭和35年 (1960年) 8月1日	(1)	北海道・九州・東北・南紀・四国・箱根研修旅行 : 愈々近づく憧れの旅、快適・有意義な企画に期待 歓迎のご挨拶(北海道知事 町村金五氏) 研修旅行団の編成と日程
		(2)	歓迎の言葉(福岡県知事 鶴崎多一氏) 宿泊旅館一覧表 研修旅行写真コンクール、昨年度写真コンクール入選者の声
第32号	昭和35年 (1960年) 9月1日	(1)	近畿地区高等学校修旅委結成近し “こまどり”来春に完成、国鉄本社常務会で正式決定 地理的に修旅を研究、地理教育研究会全国連合会第五回大会で発表 72ドル50セントで沖縄から修学旅行、首里高校生徒を囲む座談会 東京に誕生した近代設備の修旅旅館、日本学生会館・日本青年文化会館 鳥取県における修学旅行の近況(全修協鳥取県支部長 伊佐田甚蔵)
		(2)	修旅地を歩く[一] 箱根路 : 火山の標本地、雄大な眺望と歴史の探究 : 博物館と閑所跡
第33号	昭和35年 (1960年) 10月1日	(1)	団体輸送の円滑化、国鉄各支社に団体センター設置 修旅の輸送難解決は、秋季実施と地区連合計画輸送 明るい色の“こまどり”社会科に役立つ諸設備 “むらさき丸”就航、快適な瀬戸内修学旅行 高校の集約臨、福岡県五市連合で 沖縄における高等学校の修学旅行の現況について[上](都立桜町高等学校教諭 小沼常治氏) 修学旅行の方面別研究(都立城南高等学校教諭 谷信勝氏)
		(2)	修旅地を歩く[二] 江ノ鎌路 : 陸繋島(トンボロ)と歴史の都、休養地帯に続く武士の夢のあと 食中毒は予防できる、秋の修学旅行に都で通達(東京都教育庁保健課長 水野俊夫氏)
第34号	昭和35年 (1960年) 11月1日	(1)	修旅補助費の法改正調査の上で検討、文部省内藤初中局長語る 法改正に努力したい、熱意示す黒金泰美氏 修旅研究発表会決まる。東北は11月11日山形二中で 東海道新幹線展を見る、39年度には東京-大阪3時間 設備とサービスを誇る東京本郷の修旅旅館 山形県における修学旅行の近況(全修協山形県支部長 完戸一郎) 沖縄における高等学校の修学旅行の現況について[下](都立桜町高等学校教諭 小沼常治氏)
		(2)	秋の“こまどり”号快適で気持ちよい、三重県修旅生徒の感想 : 清潔だが水が足りない、三重県南部はダイヤを考慮せよ : 楽しい東海道の旅、テーブルとマイクが不十分 先生の修学旅行、来夏第五回実施計画決まる 高知県における修学旅行について(全修協高知県支部長 中沢義之) 二年連続北海道旅行に参加して(愛媛県美川中央中学校教諭 宮岡登茂久氏) 写真コンクール当選者発表
第35号	昭和35年 (1960年) 12月1日	(1)	修旅研究発表会開かる、東北ブロック研究発表会山形二中で 修旅コースの巡検、愛知県下中学校長ら40名 関西旅行の実施案について[1](都立桜町高等学校教諭 小沼常治氏) 研修旅行に参加して[1](長崎県支部 教諭3名)
		(2)	紙上座談会、新教育課程の移行措置による修旅の位置づけ、現場小中教諭は語る : 全国的指導書作成は困難か : 試案程度は可能。資料の蒐集が急務(港区立芝浦小学校教諭 渋谷清司氏) : 三条件を明確に、地域毎の諸例を(文京区立茗台中学校教諭 小椋憲臣氏) : 積極的対応が必要、各方面を考えて立案(都立白鷗高校教諭 川合元彦氏) 主張 修旅の真の目的を凝視せよ 研修旅行に参加して[2](長崎県山内小学校教諭 松村治氏)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第36号	昭和36年 (1961年) 1月1日	(1)	年頭の所感(文部大臣 荒木万寿夫氏) 年頭のご挨拶(全修協理事長 山本種一) 年頭に当り修旅に望む(全日本中学校長会長 平良恵路氏) 修学旅行に望むこと(日本教職員組合中央執行副委員長 鈴木功氏)
		(2)	“こまどり”と修学旅行の座談会 :反省と新造車 東海三県の各関係者は語る こまどり号は最新型 日本車両わらび工場で三月完成 鎌倉への修学旅行に望む(市立鎌倉国宝館学芸員 三山進氏) 修旅地を歩く[3] 東京タワー展望台による東京見学
		(3)	第4回研修旅行写真コンクール入賞作品・批評(小西六写真工業㈱ 審査員 朽木光綱氏) 修学旅行の説明役として—京都—(立正大学名誉教授理学博士 田中啓爾氏)
		(4)	修旅研究発表会 九州地区・福岡市箱崎中で開催 関西旅行の実施案について[2] (都立桜町高等学校教諭 小沼常治氏) 各県中学校長のアンケート・修旅の問題点と希望
第37号	昭和36年 (1961年) 2月1日	(1)	補助金引き上げ決定・補助対象7%に拡大 全修協、国会に陳情・補助費の法改正、増額等で 陳情書 広島県における修学旅行の現況について(広島県支部長 大西八郎) 沖縄見たまま[1] (理事長 山本種一)
		(2)	旅館の関係者を困む修旅座談会、後をたため脱線行為 関西旅行の実施案について[3] (都立桜町高等学校教諭 小沼常治氏) 修学旅行と地図(前日本中学校長会長 牛山栄治氏) 各県中学校長のアンケート・修旅の問題点と希望
第38号	昭和36年 (1961年) 3月1日	(1)	修旅研究発表会開かる、中四国ブロック発表会・広島可部高で :計画と安全実施、問題点を深く追求 「ひので」号利用の都立高校修学旅行について(東京都立高校修学旅行実行委員会 谷信勝氏) 沖縄見たまま[2] (理事長 山本種一) 千葉県修旅委発足
		(2)	近畿地区高校修旅委発足、委員長は大阪府立三国丘高校長 関西旅行の実施案について[4] (都立桜町高等学校教諭 小沼常治氏) 各県中学校長のアンケート 修旅の問題点と希望 好評の研修旅行、参加申込み800名突破
第39号	昭和36年 (1961年) 4月1日	(1)	こまどり号誕生 各関係者の努力結実す :新車展示会開かる、名古屋・大垣・四日市駅で :走るホテルの感じだ。こまどり号試運転に乗って 「こまどり号」新車の誕生を祝う(東海三県修学旅行委員会会長 岩瀬繁一氏) 祝「こまどり号」誕生(全修協理事長 山本種一)
		(2)	修旅の国会論戦、実情にそう善処了承、 修旅の非行と事故防止、警視庁防犯部少年課で希望 関西旅行の実施案について[5] (都立桜町高等学校教諭 小浅常治氏) 本年度の課題として提案(茨城県教育庁管理主事 水飼隆助氏) 各支部だより
第40号	昭和36年 (1961年) 5月1日	(1)	修旅の春たけなわ 見学地は学生服一色 :東京は修旅の人波 短時間で多くの見学 :修旅ラッシュの京都 見学地はバスで賑う 古代文化に目をみはる 奈良の修旅生 日光見学とバスに問題点 校外学習指導の留意点—特に事故防止について—(渋谷区立代々木小学校教頭 櫻井勇氏) 関西旅行の反省(世田谷区立梅丘中学校教頭 小川竹尾氏)
		(2)	修学旅行の事故防止の対策は！ :楽しい旅行のため、行け入れ地東京の表情 :国鉄 対策万全の東京駅 不明な点は乗客係の助役に :バス 安全な輸送対策 事故は不注意や悪条件で :旅館 手落ちのない準備 自主的に食品衛生対策 :見学地 危険な場所は金網 安全に見学できる交通博物館 :休養室やマイク完備の羽田国際空港 修学旅行座談会(三重県津市)安全な専用電車・実情に適したコース選定
第41号	欠番		

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第42号	欠番		
第43号	欠番		
第44号	昭和36年 (1961年)	8月1日	<p>(1) 修学旅行専用列車 来春各地で建造 :近鉄で修学旅行専用列車ビスタカー 来春近畿の小学生のせて :走る社会科教室 愛称は児童生徒より募集 :東北六県に修旅列車 来春走るディーゼルカーに列車 修学旅行専用列車の新造について(全修協理事長 山本種一)</p> <p>(2) “こまどり”号四両増 東海三県修旅委、国鉄陳情の結果 奈良県修旅委発足 第一目標、修旅輸送の改善 第二きぼう号の建造 近畿各県で計画進む 八丈島の修学旅行について(NHK学校放送部 高塚暁氏) 研旅団各地を出発 北海道より一同元気との第一信</p>
第45号	昭和36年 (1961年)	9月1日	<p>(1) 秋の修旅はじまる 国鉄輸送は全国で延1,218本 近畿東海支部長会議開催 諸問題を協議 九月より活動開始 修旅の事前事後指導や経費 地理教育研究会第六回大会で発表 修旅の体質改善を望むー昔のムードをふりかえってー(日本大学教授 牛山栄治氏) 随筆 教養と品性(元島根県中学校校長会長 栗間久氏)</p> <p>(2) 京都路 修旅地を歩く[4] :千年の歴史を残す 修学旅行地として最適の京都 :京都は歴史の街 年間百二十万 京都市の修学旅行一案[1] (都立桜町高等学校教諭 小沼常治氏)</p>
第46号	昭和36年 (1961年)	10月1日	<p>(1) 東北地方に2専用列車実現！ 僻地の修旅に朗報 2年来の運動奏功 来秋に第二きぼう号 近畿地区修旅委代表国鉄陳情 随筆 飛驒の高山(練馬区教育委員会教育長 栗林繁美氏) 京都市の修学旅行一案[2] (都立桜町高等学校教諭 小沼常治氏) 土産品の審査と展示 東京都内各区や三越で 近畿教互主催で研修旅行反省会</p> <p>(2) バスガイド・運転手の修旅座談会、足りない事前指導・日程の組み方に難点 :まじめな小・中学生 高校生の自由行動に問題 :多い無理なコース 下見は閑散期に :安全運転に協力を 苦勞するガイドの養成 見学地紹介 江ノ島の修学旅行と水族館・マリランド(江ノ島水族館常務取締役 坂本正氏)</p>
第47号	昭和36年 (1961年)	11月1日	<p>(1) 秋の修学旅行 駆足で東京見学 コース設定に再考慮 :京都も生徒の波 本年度は無事故で :東京見学二つの問題点 雨天の昼食とバスの交通難 修学旅行地としての大和路(奈良県教育委員会指導主事 亀岡作雄氏) 京都市の修学旅行一案[3] (都立桜町高等学校教諭 小沼常治氏)</p> <p>(2) 高校生の語る修旅の感想 :ほしい親切な案内 時間の無駄と不愉快が多い :夜行列車は寒い タワー・空港は出口が不明 :実地より美しいスライド 上高地・乗鞍を訪ねて(練馬区立開進第四中学校校長 松本和二郎氏) 好評の研修旅行 来夏の計画進む 協会だより</p>
第48号	昭和36年 (1961年)	12月1日	<p>(1) 日本で最初の修学旅行専用船誕生 来春関西汽船で完成 :瀬戸内海を学習、海上の移動教室 :安全輸送の完備、瀬戸内展望と海洋学習 :総工費1億5千万、愛称は生徒より募集 祝修学旅行専用船誕生(全修協理事長 山本種一) 協会だより</p> <p>(2) “第二ひので”要望し烈 関東各県教育長陳情書集る 修旅研究最初の試み 期待される公開授業 12月12日千葉県五井中で 修学旅行について(全修協千葉県支部長 狩野政一) 校外学習の計画と指導[1] (東京都北区教育委員会指導室長 鈴木英男氏) 小学館の全国児童作品コンクール 東京会館で授賞式举行</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第49号	昭和37年 (1962年) 1月1日	(1)	<p>新年を迎えて(文部大臣 荒木万寿夫氏) 年頭の御挨拶(全修協理事長 山本種一) 年頭の修学旅行雑感(全日本中学校長会会長 平良恵路氏) 修学旅行に望む(日本教職員組合書記長 宮之原貞光氏)</p> <p>(2・3) 新春の修学旅行座談会 第一線の報道記者と語る :全国に専用列車がほしい 車内放送は親切すぎて教育過剰 :大人の旅行に比べると立派だ :金の使い方の指導を痛感しましたね 減った事故や非行 :宿泊旅館は団体訓練のできるもの :現在の日程では「疲れる修学旅行」計画立案の再検討が必要 修旅は教室の延長か</p> <p>(4) 関東・東北ブロック修旅研究発表会開かる :わが国初の公開授業 千葉県の五井中学校で :各教科との関連を重視 視聴覚による班別指導 :修旅の問題点を突く コースや学習効果など研究発表 小学館の児童作品コンクール 盛大に授賞式終る 修旅コース調査 愛知県下中学校長ら40名 修学旅行の基本的問題について(長野県支部長 田崎辰夫)</p>
第50号	昭和37年 (1962年) 2月1日	(1)	<p>中学生はベビーブームで一杯 混雑する今年の修学旅行 :専用列車以外は定員オーバー 必要な各県毎の輸送対策 心配される事故と健康管理 第二ひのでで国鉄陳情 東京近県教育界代表ら 都立高校の“ひので”利用(東京都立学校修学旅行実行委員会委員 谷信勝氏) 車窓の観察(東京教育大学名誉教授 田中啓爾氏)</p> <p>(2) 近鉄修学旅行専用電車の愛称あおぞら号に決る :入選校は大阪市玉川小と三重県鳥羽小 校外学習の計画と指導[2] (東京都北区教育委員会指導室長 鈴木英男氏) 工業高等学校の工場見学(都立向島工業高等学校教諭 川上祐之氏・中川恵二氏) “ひので”で長距離修旅 身体障害児の独立心養成 “岩手を語る会”好評 出席者より有益な意見発表</p>
第51号	昭和37年 (1962年) 3月1日	(1)	<p>法人創立の5周年記念式典開かる 法人創立5周年を迎えて(全修協理事長 山本種一) 「わかば丸」受賞のよろこび 尼崎市立尼崎高校二年 高原政子さん 修学旅行専用電車“あおぞら号”感銘深い入賞 鳥羽市立鳥羽小学校長 谷口睦夫氏 受賞のよろこびで胸が一杯です 大阪市立玉川小学校児童 野田英二君</p> <p>(2) 春の修学旅行の問題点 生徒増で期間延長 影響を及ぼす輸送・宿泊・見学地 :防ぎたい交通事故 望まれる安全対策の確立 :高校生に多い非行事件 必要な道德教育と集団訓練 :心配される食中毒と火災発生 保健所と消防署へ事前連絡 校外学習の計画と指導[3] (東京都北区教育委員会指導室長 鈴木英男氏) 修学旅行地として飛躍した神戸市 全修協と座談会ひらく 専任職員おき はりきる 三重県修旅委</p>
第52号 第6回 研修旅行 特集号	昭和37年 (1962年) 5月1日	(1)	<p>夏休み・先生の現地学習のチャンス! :教職員だけの貸切特別列車で行ける :すずらんとアイヌの国 涼しい北海道一周旅行 明日の教育に役立つ現地講演と学校視察 :夢をよぶ歴史の国九州一周旅行</p> <p>(2) 小諸なる古城のほitori 詩情あふれる信濃路へ 霊場・高野山と熊野川 南紀 那智・新宮・潮岬・白浜 めぐり 山陰文化を探る 陸中のリヤス式海岸から十和田湖を訪ねて 樺の大島めぐりと伊豆・富士バスの旅</p>
第53号	欠番		
第54号	欠番		
第55号 第7回 研修旅行 特集号	昭和38年 (1963年) 8月1日	(1)	<p>北海道・九州・四国・南紀・山陰・黒部能登・アルプス信州研修旅行 :北へ南へさあ出発だ 胸ふくらむ研修旅行 :快適な旅行のために 守りたい規律ある行動 歓迎のご挨拶(北海道知事 町村金五氏) 研修旅行団の編成と日程</p> <p>(2) 宿泊旅館一覽 研修旅行写真コンクール 新刊紹介 大山高明著「高校生ひとり旅」</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第56号	昭和39年 (1964年) 4月1日	(1)	<p>オリンピックで繰上げ 混雑する春の修学旅行</p> <ul style="list-style-type: none"> : 望まれる非行・事故・保健対策 : 東京方面は春に繰上げが多い : 国鉄輸送は200万人 : 非行や事故対策 : 保険に特別配慮を <p>全修協第6回総会開かる 生徒の喜びを乗せて 関東・近畿地区修旅 専用列車 4両第一陣出発 主張 修学旅行は社会での公開授業 教師用修旅パンフレット 三和銀行より出版 関西汽船の修旅専用第二船「ふたば丸」別府港でレセプション 文部省選定 修旅映画「若い瀬戸内海」全修協で監修 ブルーリボン賞に輝く近鉄あおぞら号 “愛唱歌”の贈呈 九州旅行に参加して[1] (秋田県支部長 梅津正雄)</p>
		(2)	<p>第七回研修旅行写真コンクール入選作品 教育界の一大行事 研修旅行ますます好評 申込者既に昨年を上廻る</p>
第57号 第8回 研修旅行 特集号	昭和39年 (1964年) 8月1日	(1)	<p>北海道・九州・沖縄・南紀・山陰・立山能登・アルプス信州 研修旅行</p> <ul style="list-style-type: none"> : さあ！研修旅行へ 南に北に未知の景観は招く : 快適な旅行のために 守りたい規律ある行動 <p>歓迎のごあいさつ(北海道知事 町村金五氏) 研修旅行団の編成と日程</p>
		(2)	<p>宿泊旅館一覧 研修旅行写真コンクール 全修協理事・山形県支部長 完戸一郎「欧米にひらく目」8月中旬刊行さる</p>
第58号	昭和40年 (1965年) 1月1日	(1)	<p>年頭の所感(文部大臣 愛知揆一氏) 修学旅行の新しい発展のために(東京都教育長 小尾帛雄氏) 修学旅行の姿勢を正そう(全修協理事長 山本種一)</p>
		(2・3)	<p>第8回研修旅行写真コンクール入選作品 審査の総評(日本写真家協会会員 藪部孝三氏) 研修旅行に参加して 北海道の思い出(沢田甚吉氏) 沖縄教育の概観(水谷善男氏)</p>
		(4)	<p>近畿・関東教育界への朗報 修学旅行専用電車建造決まる</p> <ul style="list-style-type: none"> : 本年秋より12両編成で運行 <p>修学旅行の正しい方向へ運動展開 各地区協議会で検討 愛知県のお母さん あおぞら号で修学旅行 第八回九州研旅第一団参加者 原爆患者へ見舞金 修旅の美化運動「きれい袋」二万枚配布 三重県の修学旅行(全修協三重県支部長 森孝太郎)</p>
第59号 第9回 研修旅行 特集号	昭和40年 (1965年) 7月10日	(1)	<p>北海道・九州・沖縄・南紀・山陰・四国・香港・東北・黒四・乗鞍研修旅行</p> <ul style="list-style-type: none"> : さあ！研修の旅へ 全国七千名の教職員参加 : 快適な旅行のために 規律ある行動を <p>歓迎のごあいさつ(北海道知事 町村金五氏) 沖縄旅行の思い出(赤座憲久氏) 研修旅行団の編成と日程</p>
		(2)	<p>宿泊旅館一覧 研修旅行写真コンクール 北海道雑詠(第八回研修旅行参加者 宮坂延次氏)</p>
第60号 <改称> 修学旅行新聞	昭和41年 (1966年) 1月1日	(1)	<p>年頭所感(文部大臣 中村梅吉氏) 修学旅行を人間形成の場に(東京都教育会委員長 小尾帛雄氏) 新たな一歩をふみだそう(全修協理事長 山本種一) 使命への前進(全日本中学校長会長 小林茂氏) 高校の修学旅行について(全国高等学校長協会会長 成田喜英氏)</p>
		(2・3)	<p>第9回研修旅行写真コンクール入選作品 研究報告: 修旅コースとして注目される奥東北 教育界代表や協会と合同研究 修学旅行の印象: 古代文化と日本人の誇り(台東区下谷中学校三年生 岩井あや子さん) 台北と香港の旅(新潟県新発田外ヶ浜小学校長 滝沢誠一郎氏) 主張 不況下の修学旅行対策を 短歌・替歌集(高橋洋介氏、岡野英雄氏、和田千代氏) 提案 北海道の自然を守れ(岡山県西大寺市立大伯小学校長 宗政勲氏)</p>
		(4)	<p>修学旅行専用電車相ついて登場</p> <ul style="list-style-type: none"> : わかば号・わかくさ号運転はじまる : 感謝と希望をのせて わかば号初発式 : わかば号に乗って(西脇中学校生徒 笹倉美也子さん) : わかば号の初発を祝して(近畿二府三県修学旅行運営委員会会長 渡辺銚一氏) : 大きな期待をのせて わかくさ号出発式 : 修学旅行生とともにただ感謝(関東地区中学校修学旅行委員会会長 篠原秀男氏) : わかくさ号の活躍を期待-初乗車手記(市川五中生徒 石井光子さん) <p>中国地区(山口・広島)にも修旅専用電車建造さる : 10両編成で近畿・関東へ 「修旅を改善する」NHK第二放送「教育時評」で全国放送</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第61号	昭和41年 (1966年) 4月1日	(1)	<p>考え直そう修学旅行 全修協主催の座談会[1] : 学校生活の総仕上げ 問題は実施の方法に : 業者依存はこまる : 検討の時期に到達 : 中止せぬ日比谷高校 : 病人が出なくなった-専用電車の誕生で-</p> <p>(2) 楽しく安全に 宿泊対策(東京消防庁本郷消防署) : 昼夜の特別査察も・学校側はぜひ協力を・確定人数を消防署へ : 危険な生徒の喫煙 京都市消防局から注意 : サービスは防災で 本郷旅館組合が力こぶ 産業・技術的な傾向へ : 近畿地区高校修旅調査 秋期型が圧倒的 成果を持ち寄って : 近畿地区公立高校修旅研究大会開く 祭りの歳時記・博多どんたく</p>
第62号	昭和41年 (1966年) 5月1日	(1)	<p>専用宿舎建設を要望 近畿地区高校修学旅行研究大会で決議 資料 上代の寺(6~8世紀) 学問の道場として創立[上] (奈良県嘱託 松本樽重氏) 修旅基準概要調査 全修協から41年版発行 : 全修協だより(栃木県代表 野沢寅・三重県支部長 森孝太郎) : 通行料の割引きを 伊勢・志摩のスカイライン 修旅新コース誕生</p> <p>(2) 全修協主催 修学旅行座談会[2] : 計画は学校の総力で・実施面に残る改善策・文化財学習確立へ : 総合的な事前指導 : 単独が少ない非行 : 海へ出る「非常口」 : 痛い拝観料値上げ サービス過剰のバス</p>
第63号	昭和41年 (1966年) 6月1日	(1)	<p>年間25万人を運ぶ 海へひらく修学旅行 “動く海の教室”専用船が大活躍 学校はお客様か(尼崎市立産業高校長 岡本仁氏) 三割余を引き上げ : 大阪府教委 修旅経費の基準額 : 大阪市教委でも改正 : 東京は年末に NHKで放送 根釧パイロット・ファーム 修学旅行の専用宿舎 大阪と札幌に誕生 五所川原の善意銀行 生徒の修旅に補助 もう少しの努力を 都内旅館の食品衛生</p> <p>(2) 文京区の旅館街 : 大がかりな避難訓練「救助・救急隊が出勤」修旅生徒も参加して 佐賀県で高校の一部が夏型の修学旅行に : 東京では批判的 “あげ底”など追放 土産品業者がのり出す 川越市の教育委員が 研修費にと報酬を返上 私学の現地研修会 ことしも2コースで 函館市からメッセージ 山本全修協理事長へ 資料 上代の寺(6~8世紀)[下] : 役所の工人在らば仏像作り(奈良県嘱託 松本樽重氏)</p>
第64号	昭和41年 (1966年) 7月1日	(1)	<p>青少年はどんな旅行をするか 半数以上は観光に 修学旅行“日程が混みすぎる” 引率旅費を別枠で 富山 中学は2,500円 健康な夏を送ろう(文部省体育局長 西田剛氏) 小中学校のアンケート 海や山へ団体訓練・夏の剣道学校も 高校修旅の課題(北海道議会議員 高田治郎氏) 九十九里に国民宿舎誕生 夏山の事故防止 都教委が高校に通達 下田もカッパ天国</p> <p>(2) 民族の誇りを種まこう[上] (大阪市立大学教授 蛭原徳夫氏) 賛否が対立 修学旅行と文化財見学 : 理解できぬ…反対派/将来のためだ…賛成派 : 有料か無料か 果てぬ社寺の悩み</p> <p>(3) 修旅非行の実例を見る : ガンつけたと刺す/単純な優越感の産物か/睡眠薬飲んで散歩 : 宝物盗んで捨てる 警察の知らせでびっくり 道外禁止の再通達 北海道中学の修旅 青森の業者が悲鳴 費用削減のためか 民謡や方言も研究 長崎・山里中の修学旅行 旅先で疲労調査 高崎二中が修旅改善 修旅のこづかいを寄付 布施六中の生徒</p> <p>(4) 旅と文芸「沖縄・台北・ソウルかけあえる記[1] 感慨をきざむ記念碑」 (日本経済新聞記者 岸本昌弘氏) 奥の細道随想(編集顧問 笥中静雄氏) 祭りの歳時記・秋田竿灯 新映画「アイヌのまるきぶね」尊い文化財を再現</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
号外 第10回 研修旅行版	昭和41年 (1966年) 7月10日	(1)	第10回・全修協研修旅行の幕開く :11コースの企画で 北へ南へ旅立つ“実験学習を目指して” 衛生に深い注意を “身軽”は旅の秘訣 よりよい企画樹立 アンケートで回答を 歓迎の言葉-ご理解と批判を-(北海道知事 町村金五氏)
		(2)	研修旅行写真コンクール ことしも傑作を 本部旅館一覧表
第65号	昭和41年 (1966年) 8月1日	(1)	修学旅行の実態・東京都豊島区の中学校[1] :二条城見学は圧倒的 :新コースの開拓 努力の跡みえる 修学旅行と文化財[下] 見学や観賞は集約して(大阪市立大学教授 蛭原徳夫氏) 近畿中学修旅委と改称 和歌山も加わる 修旅実施は完璧に 来年から新企画の修学旅行・長野伊那北高で 研修旅行始まる 九州コースを皮切りに
		(2)	旅と文芸「沖縄・台北・ソウルかけある記[2] 高砂族は観光資源に」 (日本経済新聞記者 岸本昌弘氏) 異国趣味の長崎・明治百年と異人館(異人館常務取締役 入江市郎氏)
第66号	昭和41年 (1966年) 9月1日	(1)	今秋から関東の旅館 宿泊料を値上げ 中学生は七百年に :一部旅館に批判の声 成人教育と“旅”(東京都小学校PTA協議会副会長 西村文夫氏) 八万六千名を運ぶ 近畿高校修旅船運営協 今秋の輸送計画 :奉仕料を10%に 九月から福岡市の旅館で :修旅基準引上げ・大分 ぜひ必要な不寝番 豊島区内中学校の修旅調査 おやつは一括購入 ガンバレ事務局!・九州研修旅行余話 56年ぶり恩師と再会(全修協常務理事 永井熙)
		(2)	旅と文芸「沖縄・台北・ソウルかけある記[3] ひしめき合う人の街」 (日本経済新聞記者 岸本昌弘氏) :ゴミの旅 :30台女性が最少 国鉄の旅客調べ :”雪国が知りたい” 福岡から秋田の小学生へ
第67号	昭和41年 (1966年) 10月1日	(1)	修旅補助金 来年度の要求予算決まる :中学生5,295円に 小中平均43%の増 盛り場にご用心 東京警視庁が要望 郷土料理の研究に 赤堀栄養学園 味覚の修学旅行 道南修旅の懇談会 函館と全修協共催で開く お母さんの修学旅行 東京私立高校で大和路へ 東京見学、減る傾向 大都市からの修学旅行 乗車割当など決定 あおぞら号近畿地区運営協開く 風致地区に指定 奈良県で大和三山など
		(2)	修学旅行添乗員の座談会:裏方さんもまた楽し 旅と文芸「沖縄・台北・ソウルかけある記[4] 果てぬ歓楽境の陰に」 (日本経済新聞記者 岸本昌弘氏) 修学旅行のスポット 京都・寂光院 孤独と祈りと 祭りの歳時記:長崎おくんち
第68号 創立10周年 記念号	昭和41年 (1966年) 11月1日	(1)	全修協創立10周年を迎う 多くの功績を残す さらに飛躍の第一歩 :感激の記念式挙行 11月8日茗溪会館で :心から祝福を(文部大臣 有田喜一氏) :大きな役割果たす(東京都知事 東竜太郎氏) :教育的開発へ期待(熊本県知事 寺本広作氏) :知的な修学旅行を(衆議院議員・文教委員 原田憲氏)
		(2・3)	グラフで見る10年の歩み・修旅改善に成果のあと 「相ついで専用電車誕生」、「マスコミにも快よく」、「設立総会も茗溪会館で」 「多角的な運動で-全修協の活躍ぶり-」、「絶えず研究会もひらく」 「修旅船用船も二隻誕生」、「年中行事の研修旅行」、「学童用にはあおぞら号」 「新コースの開拓も課題」、「さかんな図書出版活動」、「本部事務局と二事務所」
		(4・5)	よろこびに寄せて :新たな出発へ-創立10周年を迎えて-(全修協理事長 山本種一) :よい修学旅行を(東京都教育委員会教育長 小尾祐雄氏) :今後の発展を祈る(全国都市教育長協議会会長 千葉清治氏) :今後の成果に期待(全国高等学校長協会会長 成田喜英氏) :生徒とともに学ぶ(全日本中学校長会会長 小林茂氏) :組織的活動の母体(全国連合小学校長会会長 近藤修博氏) :強力な指導を望む(小学館社長 相賀徹夫氏) :更に業務の発展を(近畿日本ツーリスト株式会社社長 久保常明氏) :海上の輸送に貢献(関西汽船株式会社社長 長谷川茂氏)
		(6)	修学旅行是非論の是非(東京学芸大学教授 深川恒喜氏) 本年度研修旅行写真コンクール入賞作品きまる 修学旅行のスポット 小石川・後樂園。造園技術の粋

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第69号 創立10周年 第二記念号	昭和41年 (1966年) 12月1日	(1)	<p>全修協・創立10周年 栄光の記念式典開く : 菊花かおる感激の日 喜びをわかち合う : おもな参列者 第8回総会開かる 研旅に8,000名獲得へ</p> <p>(2) よろこびに寄せて : 専用宿舎建設に取り組む(常務理事・兵庫県支部長 岡本仁) : 伝統と実績を生かして(新潟県支部長 宮腰春吉) : 新しいいぶきを与う(青森県支部長 盛田三喜雄) : 情熱傾けたこの十年(宮崎県支部長 田尻貴) : 修旅の障害を除く全修協(福島県支部長 小沢一郎) : 意義ある尊い仕事(大阪事務所長 小西惣二郎) : 記念にぜひ山形方式を(理事・山形県支部長 完戸一郎) : 今後も力を合わせて(島根県支部長 大谷久満) : 初心忘れず第一歩から(石川県支部長 長谷川耕蔵) : 明確にした自己の使命(愛媛県支部長 大野稔) : 生徒と教職員の利益(山口県支部長 開地茂行) : 多くの困難を克服して(鹿児島県支部長 佐枝常一) : 人間を結びつけるきずな(監事・京都府支部長 芦田重左衛門) : 社会的にも大きな足跡(秋田県支部長 梅津正雄)</p>
第70号	昭和42年 (1967年) 1月1日	(1)	<p>修学旅行新しい胎動へ : 圧倒的な有用論 全修協の実態調査から : 「形態にくふうを」、「学年が主体で計画」 万国博で修旅の割引き</p> <p>(2) 修学旅行どんな“ねらい”で／学校は主体性持て 【41年度文部教研の発表から】 <中学校> ・全国共通問題:「修旅をどのようなねらいによって計画し実施したらよいか」 : 教育価値の高い場所を(栃木県熱田中学校校長 入江清吉氏) : 近代産業と文化遺産を(富山県杉原中学校教頭 温井慈寛氏) : 全市の連合体で運営(千葉二宮中学校教諭 宮野勝男氏) : 計画を授業に織りこむ(熊本県東野中学校教諭 永井隆一氏) : 全教員が取り組み(高知県小川中学校校長 大久保幹生氏) ・都道府県問題:「修旅において教科及び学級活動との関連を生かした事前事後の指導はどうあったらよいか」 : 事前事後の指導計画例(鹿児島県桜山中学校教諭 川野末彦氏) <高等学校> ・全国共通問題:「修旅をどのようなねらいによって計画し実施したらよいか」 : 五項目に分け検討(青森県むつ工業高校教諭 山内幸吉氏) : “高原教室”で再出発(静岡県富士高校教諭 谷田沢彰氏) : 研究係を設け常時検討(大分県大分女子高校教諭 後藤運依氏) : 学年単位でキャンプを(鳥取県鳥取東高校教諭 藤井宗雄氏) ・都道府県問題:「遠足はどのようなねらいによって計画し実施したらよいか」 : すべてに耐える訓練も(神奈川県平塚江南高校教諭 山本武雄氏)</p> <p>(3) 文化財、関心を高めよう : 先ず学校教育から 文化財保護委 対策にのり出す : 全修協と協力して 文化事保護委員会 坂元普及課長の話 修旅のアンケート 秋田県、誘致の資料に 沖縄で文化財展 143点を陳列 不当な支出めだつ 修旅補助金 文部省が改善を通達 研修旅行に協力 宮崎県教職員互助会で 海洋思想の普及へ ふたば丸運営協で座談会 修学旅行のスポット 科学技術館 英知の集大成</p> <p>(4) 万葉の歌枕たずねて カメラとペンで10年 東京杉並の堀田勇先生 研究記録近く完成へ 昔の旅は命がけ =旅と宿の今昔物語= (全関東団体旅館協議会事務局長 石塚妙子氏) 変革期の修学旅行[1] (全修協調査研究部長 山本実) 新映画 マツオカプロ作品「彦根」 感銘深い薪能</p>
第71号	昭和42年 (1967年) 2月1日	(1)	<p>修学旅行値上がりに対処する : 教育関係者の意見をきく 日程にシワ寄せ 恒久化に補助金制度を 問題点を討議 関係委 東大旅研が 修旅と取り組む 修旅対策を議題に 都道府県教育長協議会開く 春の輸送を協議 近畿高校 専用船運営協で 事故防止など検討 都教育庁 業者を招き懇談会 琵琶湖コース 滋賀県が埼玉で説明会 私立博物館に 科学技術館を指定 大和路を語る会 奈良県主催で 修旅に一貫性 慶応で研究会 修学旅行のスポット 鈴鹿サーキット、近代的な夢が</p> <p>(2) バス運転手・ガイドさん 私のみた修学旅行 座談会 : 交通悪化で苦勞する 最盛期睡眠不足でクタクタ 変革期の修学旅行[2] (全修協調査研究部長 山本実) 万葉史蹟めぐり[1] 初瀬朝倉宮跡 古代乙女の姿うかぶ(随筆家 堀田勇氏)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第72号	昭和42年 (1967年)	3月1日	(1) 関修委の研究集会開く 改善努力に邁進 付添旅費の支給も 修旅コースの説明会懇談会 中国五県主催で開く 修旅目標を明確に 都道府県教育長協次回も継続検討 133万を突破 昨年の文京区内宿泊 熱海の宿泊増える 首都美化運動で推進功労者に感謝 伊豆大島で視察研究会 専用列車の増設を、安全輸送関係者に対策をきく 都内見学の研究会、バスで東京を一めぐり (2) よき修学旅行のために(三重県教育委員会教育長 小林敦夫氏) 生きた観察から(鳥取県支部長 伊佐田甚蔵) 中学は三泊四日に 山形市修旅委で結論 万葉史蹟めぐり[2] 飛鳥の里 古都への慕情うたう(随筆家 堀田勇氏) 修学旅行のスポット 江の島水族館、海の科学振興
第73号	昭和42年 (1967年)	4月1日	(1) 修旅の補助金 本年度予算案 :増額認められず、現行通り中学生3,473円で :“僻地”全額削られる :「修旅補助金を出す 仙台市が保護世帯に」、「中学校7,500円に 滋賀県教委で決定」 新幹線も登場 修旅専用列車に 新しい伊豆大島 私立高校教諭が視察 去年は41万人が入場 科学技術館の修学旅行 宿泊料続々値上げ 奈良と箱根で 第一陣が出発 修旅シーズンたけなわ 小学校高学年まで 皇居参拝のワク拡がる 伊豆モデルコース あおぞら号運営協で作成 沖縄の視察へ 今夏都小PTAが 高校は6泊7日で 山形市修旅研究委 新基準を打ち出す スタジオ102で放送 修旅シーズン迎えて 大和文化会で新会員を募集 映画「九州」完成 西鉄で修旅用に作成 (2) 第11回研修旅行研修旅行 申込先・連絡本部旅館一覧 (3) 第11回本年度教職員研修旅行 会員募集はじまる 緑はえる山河 11コース 研修行事も豊富に 自然との対話(写真家 岡田紅陽氏) 真実を求めよう(国学院大学教授 樋口清之氏) (4) 灰になったモミジ 平城宮跡発掘の余話(文部省文化財保護委員会普及課長 坂元正典氏) 万葉史蹟めぐり[3] 和歌浦 潮騒とツルの羽音と(随筆家 堀田勇氏) 修学旅行のスポット 上野動物園水族館 ワイドの水槽 新刊紹介「関西の旅路」東京都歴史教育研究会編
第74号	昭和42年 (1967年)	5月1日	(1) 都内私立高校修学旅行実態調査まとまる :殆ど“存続”賛成、4泊5日で九州が多い 関心たかまる日本万国博 内閣広報室で世論調査 奄美へ初の修旅団 駒場学園高校が あいぼり丸誕生 関汽の新観光船 はまゆう丸が進水 東海汽船で完成 修学旅行のみかた[1] 生徒の印象に重点(大阪府立成城工業高校教諭 北原富男氏) (2) 昭和42年度 第11回研修旅行 申込先・連絡本部旅館一覧 (3) 第11回本年度研修旅行 申込み殺到 旅情に誘われて 目立つグループ参加 (4) 万葉史蹟めぐり[4] 岩代の松 絶望のなかの祈り(随筆家 堀田勇氏) はるかな日本“奄美”[上] サンゴ礁の北限地帯(名瀬市役所職員 岩井茂彦氏)
第75号	昭和42年 (1967年)	6月1日	(1) 修学旅行のスポット 伊豆の菰山町 史跡に富む :集団の訓練も 教育的配慮に取組む 都道府県教委 教育界あげて支援 研修旅行に人気集まる 修旅基準概要調査 全修協から発行 7月に修旅調査 都道府県教育長協、監事長は野尻氏内定 体験で生かそう修旅(全修協教育研修部長 浅沼操) 相談室 凝海岸の視察 松島 瑞巖寺 キリシタン遺跡も(全修協教育研修部長 浅沼操) もっと改善して… “修旅は必要か”放送 NHKテレビ (2) 研修旅行申込先一覧表、連絡本部一覧表 :魅力の11コース (3) 第11回本年度 グラフで見る研修旅行 黒四ダム・摩周湖・十和田湖・長尾鶏・開聞岳・亜熱帯の国(奄美) (4) はるかな日本“奄美”[下] 泥染めの大島紬(名瀬市役所職員 岩井茂彦氏) 修旅ききがき 旅先で家業勉強(教育評論家 川崎哲夫氏) 万葉史蹟めぐり[5] 黄金山神社 “黄金”産む村に(随筆家 堀田勇氏) 愛護のマーク作る 文化財保護委で “高野山の文化財”スライド完成 マリンパーク建設 京浜急行が油壺に

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第76号	昭和42年 (1967年) 7月1日	(1)	<p>修旅の目標はどこに 全修協調査[2] :責任感の体得 同時に“安全教育”も 都道府県教委 “楽しさを失うな” 千葉 船橋市で修旅研修会 研修旅行の写真展 青森の日教組大会で 修学旅行のみかた[2] 門を通して見る(大阪府立成城工業高校教諭 北原富男氏) 見学の花ざかり 国会議事堂 修旅生に埋まる</p> <p>(2) 万葉史蹟めぐり[6] 安積山 山かげに伝承の井戸(随筆家 堀田勇氏) 自由が悩みのタネ 私立女子校教諭の告白(佼成学園女子高校教諭 相原善胤氏) すぐお申込みを 研修旅行 白熱の人気よぶ</p>
号外 第11回 研修旅行版	昭和42年 (1967年) 7月1日	(1)	<p>第11回・全修協 研修旅行の幕ひらく :さあ元気で出発 実らせよう“実験学習” :新コースも登場 :統一のある行動で 衛生にもご注意を :“身軽”は旅の秘訣 土産の買い方にも一工夫 :よい企画の樹立に アンケートで回答を 歓迎の言葉-ご理解と批判を-(北海道知事 町村金五氏) 写真コンクール ふるって傑作を 北海道知賞も参加</p> <p>(2) 研修旅行 連絡先一覧表 連絡本部旅館一覧表 集合場所案内図</p>
第77号	昭和42年 (1967年) 8月1日	(1)	<p>修旅の目標はどこに 全修協調査[3] :人間的接触も 改善の機運たかまる 都道府県教委 修学旅行のみかた[3] “塔”は観賞用に(大阪府立成城工業高校教諭 北原富男氏) “修旅やめないで” 吹田市のお母さん 教委の廃止に反対 実施計画の検討へ 青森県教委のりだす 研修旅行団が出発 11コース・35団で 研修旅行の写真展 神奈川県教組の大会で</p> <p>(2) 万葉史蹟めぐり[7] 筑波山 庶民感情を生む風土(随筆家 堀田勇氏) “近江路”修学旅行のために 多い武家文化の遺産(大阪市立大学教授 原田伴彦氏) 欲ばり修旅(東京都調布市教育長 河野正夫氏) 修学旅行のスポット 平泉の毛越寺 典型的な浄土庭園</p>
第78号	昭和42年 (1967年) 9月1日	(1)	<p>修旅“手引き書”作る 都教委 :効率高い校外学習へ 明年三月までに完成 修学旅行のみかた[4] “五重塔”投売り(大阪府立成城工業高校教諭 北原富男氏) 研修旅行終わる 約五千名が参加 見学は積立金で 万国博 青森県教育厚生会が 本年度の新役員 三重県修旅研究会 修旅対策を続ける 都道府県教育長協で 百十万を突破 科学技術館の修旅生 写真コンクールのお知らせ 豪華観光船二隻が就航 関西汽船</p> <p>(2) 建築技術で保つ高倉 奄美・徳之島 研修旅行に参加して (東京都千代田区立一橋中学校教諭 北沢寿恵子氏) 修学旅行のスポット 兵庫・姫路城 魅せられる破風の美 万葉史蹟めぐり[8] 三叢山 田園に生まれた恋歌(随筆家 堀田勇氏) 法律で保護されぬ文化財</p>
第79号	昭和42年 (1967年) 10月1日	(1)	<p>万国博と修学旅行 全修協調査 :関心度は高い 入場料100円以内で :修旅委で対策 都の公立中学校 :万国博説明会開く 小学校用絵新聞も計画 :都の修旅基準 具体化後に検討 修学旅行のみかた[5] 生活にとける“書院”(大阪府立成城工業高校教諭 北原富男氏) 論点 これからの修学旅行(全修協教育研修部長 浅沼操) “修旅の改善”を 全日中でアンケート 関修委の運営委開く 輸送計画など協議 NHKラジオで放送 奥東北へ修旅研究 都内の先生らが参加 東京をきれいに 10月5日から美化運動</p> <p>(2) 修旅の補助金要求 文部省 :中学生5,250円に 小学生は540円増 研修の反省会 全修協支部で開く 思い出を綴る 研修旅行の作品 :「小豆島へ」、「山と湖の旅」、「風の紋」 万葉史蹟めぐり[9] 真間手児奈 はかない乙女の生涯(随筆家 堀田勇氏)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第80号	昭和42年 (1967年)	11月1日	<p>(1) 女子中学生投書の波紋 誤解を招くおそれ 背後にひそむ“悪意” 東京・荒川 論点 時間外手当の支給を(全修協教育研修部長 浅沼操) 油壺マリンパーク 来年4月に開場 土産物にウジ 雲仙 東京の高校生が届出 府県別に役員選出 近畿中学校修旅委で 運営協の役員決る あおぞら号近畿地区 修旅縮出しはデマ 姫路城 迷惑がる管理事務所 二年間で検討 三重県修旅研乗出す 来年2月に完成 東京青年文化会館 風紋</p> <p>(2) 本年度研修旅行写真コンクール 入賞作品きまる 万葉史蹟めぐり[10] 武蔵野 草深い風土に咲く花(随筆家 堀田勇氏)</p>
第81号	昭和42年 (1967年)	12月1日	<p>(1) 文部省の教育課程 研究発表会ひらく :疲れも原因に、中学校修学旅行集団規律の“乱れ” 実情調査に関西へ 都指導部の斑目課長ら 論点 修学旅行と付添教員(全修協教育研修部長 浅沼操) 修学旅行のスポット 交通博物館 修旅電車に人気集まる 関東地区のわかくさ号 43年の割当て決まる 関修委で研究集会 事故対策など討議 “本番そっくり” 旅館の消防訓練 東京・文京 全修協だより 風紋</p> <p>(2) 万葉史蹟めぐり[11] 上毛の歌枕 ひなびた風情が漂う(随筆家 堀田勇氏) 本年度第11回研修旅行 写真コンクール入賞作品 思い出を綴る研修旅行の作品</p>
第82号	昭和43年 (1968年)	1月1日	<p>(1) 1968年を迎えて(全修協理事長 山本種一) 修学旅行も交通安全 無事故でいこう(今までの修学旅行の大きな交通事故例) :先ず健康管理から 関修委研究集会で討議 :乗り入れを延長 わかくさ号 全修協だより 風紋</p> <p>(2) 論点 幹旋業者の利用(全修協教育研修部長 浅沼操) 新コースも加えて 第12回研修旅行 内容充実して登場 北海道研修旅行記[1] 光る赤い屋根(神戸市立摩耶高校教諭 柳生正喜氏)</p> <p>(3) 赤字を生んだ修学旅行 自衛艦の利用中止で :長崎 悩む辺地校の実情 バイトで積み立て 修旅の実態調査 教育長協 年度内にまとめる 形態を変えよう 指導部課長会で意見 こまどり号 車内灯の調節を 東海3県修旅委で要望 新コースに連絡船 函館-青森の遠足開発 飛鳥の里は民宿ブーム 史跡の明日香村 防火のコンクール 本郷旅館従業員が参加 牧水記念館が完成(宮崎県東郷村) 新国定公園を答申 下北半島など10カ所 相談室 国民休暇村の利用</p> <p>(4) ヨーロッパ旅行記[1] 感覚のずれる時差(全修協常務理事・尼崎産業高校長 岡本仁氏) :有難き無税の世界/頭の中は時間混乱/夜のない北極圏で 万葉史蹟めぐり[12] 信濃路 防人の心情刻む歌碑(随筆家 堀田勇氏) 修旅生に好評 九十九島観光ホテル</p>
第83号	昭和43年 (1968年)	2月1日	<p>(1) 文部省で実態調査(昨年度修学旅行集計中) 教育長協のアンケート 効果は大きい 輸送と宿舎に問題残す 43年度修旅補助金 中学生3,660円に チョッピリ増額へ 第9回総会開く 全修協運動 新段階へ躍進 関修委で万博を下見調査 広い会場に驚く “修旅”で研究成果 東大旅行研がまとめる 修学旅行を誘致 岡山県主催で懇談会 論点 まじめな実践を(全修協教育研修部長 浅沼操) 風紋</p> <p>(2) 北海道研修旅行記[2] 近代的な札幌(神戸市立摩耶高校教諭 柳生正喜氏) ヨーロッパ旅行記[2] 厄介なお金の換算(全修協常務理事・尼崎産業高校長 岡本仁氏) :土産物のタイプ/税関で黙認の特典 修旅宿泊費きまる 全関東団体旅館協議会 全修協だより</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第84号	昭和43年 (1968年) 3月1日	(1)	<p>全修協第9回通常総会開く :組織あげ前進、修旅の改善向上へ 7,000名達成へ 本年の研修旅行 校長に裁量与える 秋田県教委、修学旅行基準を決定 修学旅行の誘致策 山口県主催で懇談会 論点 二つの議題を中心に(全修協教育研修部長 浅沼操) 風紋</p> <p>(2) ヨーロッパ旅行記[3] 多い日本人観光客(全修協常務理事・尼崎産業高校長 岡本仁氏) :伸びる日本の商社/飾窓に柔道衣陳列/驚いた幕の内弁当 北海道研修旅行記[3] 悠久と永遠と(神戸市立摩耶高校教諭 柳生正喜氏) 万葉史蹟めぐり[13] 多摩川 昔をしのぶ歌碑1基(随筆家 堀田勇氏) 早くも申込殺到 研修旅行の人気高まる 伊豆大島を研究 全修協などの主催で 東京に修旅の宿舎 新宿コマ劇場が建設 あまみ丸が就航 大島運輸、鹿児島・奄美間に 修養団の新館誕生 代々木に新名所 “しまね旅情”上映 島根県主催で映画会</p>
第85号	昭和43年 (1968年) 4月1日	(1)	<p>修学旅行基準概要まとまる 全修協調査 :旅費は値上がり 中高とも日程延長の傾向 都教委“修旅の手引き”[上] 明確な指導方向示す 引率費は公費に 青森県教委で決める 中学男子に多い暴行など修旅の被害 京都府警調査 万博の修学旅行部会 活動方針打ち出す 修旅生の安全を 警視庁が一役 島根県の修旅実態 中学校は4泊5日が限度 風紋</p> <p>(2) 万葉史蹟めぐり[14] 足柄峠 はなむけを峠に歌う(随筆家 堀田勇氏) ヨーロッパ旅行記[4] 変わらぬ商いの道(全修協常務理事・尼崎産業高校長 岡本仁氏) :もちこみお断り/おでん屋そっくり/歌声渦巻く酒場で/コーラの看板君臨 北海道研修旅行記[4] 沈む神秘的な湖(神戸市立摩耶高校教諭 柳生正喜氏) 奈良県明日香村の社寺 団体拝観料きまる オリバー！上演 五月から帝劇で 東京コマ旅行会館で営業事務を開始 関東修旅委の運営委 万博対策など協議</p>
第86号	昭和43年 (1968年) 5月1日	(1)	<p>万国博年次の修旅専用電車 現行通り運転 国鉄運行期間延長も 学校側とも話合う 明年度・近畿の専用電車 3泊4日で割当て 米代10円値上げ 今秋から本郷の旅館で 万博の見学校調査 本年度の関修委当番制で研究会も 見学個所が多い 三重 集合時刻にも難点(三重県修学旅行研究会実態調査(小学校) 準備進む研修旅行 殺到する参加申込み 都道府県教育長協議会 修学旅行の改善へ 近く具体案作成 8万人運ぶこまどり号 第一陣が出発 万博の入場料内定 修旅の小中学生は200円 本年度の研究指定“学校行事等”に8校 (文部省43年度中学校教育課程研究指定校) 修旅は花ざかり 科学技術館に8万人 風紋</p> <p>(2) 修旅生運んで100万人 専用船わかば丸・ふたば丸 :100万人目の幸運 冠美妃さん(泉南高)に 歓呼にわく港 ヨーロッパ紀行[5] わが身は神の国に(全修協常務理事・尼崎産業高校長 岡本仁氏) :路傍のキリスト像/見逃した血の史蹟/大聖堂と五彩の光</p>
第87号	昭和43年 (1968年) 6月1日	(1)	<p>夜間バス避けよ 運輸省が通達 関修委 秋に研究集会ひらく 本年の新役員も決る 都教委 “修旅の手引き”[下] 明確な指導方向示す 東京にも“友の会” 研修旅行の参加者で結成 680万人を予想 日本万国博 修学旅行などの入場者 函館は平常に戻る(十勝沖地震) 市長が各方面に通知 100万人乗船で 山本理事長に感謝状 関汽 “大和路を語る会”長野、新潟県で開催 三館共通券を発売 江の島水族館などで 新映画 “北海道物語” 人間との触れ合い 風紋</p> <p>(2) 研修旅行のみどころ案内 :北海道、飛鳥・吉野・近江路、南紀、隠岐・大山、東北コース ヨーロッパ紀行[6] 科学的に能力決める(全修協常務理事・尼崎産業高校長 岡本仁氏) :ドイツの職業学校/ローマの技術学院/パリの中高一貫校</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
号外 第12回 研修旅行版	昭和43年 (1968年) 7月1日	(1)	<p>第12回 全修協研修旅行の幕ひらく :北へ南へ出発“学習効果”を高めよう :登場した新コース :規律のある行動で :衛生にもご注意を :ふるって傑作を 写真コンクール :コース別・地区別 集合場所と集合時刻予定表 :理想的な先生方のサマープランに(研修旅行実施対策本部長 白滝末紀)</p> <p>(2) 研修旅行連絡先一覧表 連絡本部旅館一覧表 集合場所案内図</p>
第88号	昭和43年 (1968年) 7月1日	(1)	<p>都道府県教育長協 修学旅行改善策まとまる :見学地の精選など 積極的検討を 都教委が“特例”出す(万博) 都立高校 2学年は4月から 論点 修学旅行の意義 よい国民旅行の教育も(全修協事務局長 白滝末紀) 「オリバー！」で4万人動員 みやげものを検査 東京・台東のモニター 青森県 教委案練り直し 現場からの突きあげで 風紋</p> <p>(2) 全修協主催座談会 都立高校 修学旅行の“ねらい” :野外か古文化財か 各学校で特色を生かす 基調の三点から見て有意義だ/生徒の気持ちも汲みとらねば…… 修学旅行を機に行事をたて直す/国鉄の目標は輸送増強に 高校ではセット旅行は無意味/額に汗する修学旅行でありたい 対話のない修学旅行はさびしい/古い形の修学旅行にもよい点が 新しい方向はいくらでも出る/修旅の万博見学には宿舍確保</p> <p>(3) 米国へ飛ぶ修学旅行 来春横浜の山手学院が :国際的認識を 民宿、勤労奉仕で :日米交歓に一と役 あくまで学校行事として “青年の家”利用も 改善の具体例をみる (都道府県教育長協議会) 京都市の小学校 あおぞら号で協議 研修旅行のみどころ案内 興味引く文化財 科学の枠にも触れる 専用船の100万人突破 記念写真送る 関汽 100万人を突破 こまどり号で感謝状(国鉄中部支社)</p> <p>(4) 万葉史蹟めぐり[15] 弥彦山 孤峰に神を見た人々(随筆家 堀田勇氏) ヨーロッパ旅行記[7] 雨にけむる異国の街(全修協常務理事・尼崎産業高校長 岡本仁氏) :霧雨のロンドンで/水の都ヴェニス/サンロードの夕立 法隆寺展 再現した金堂壁画 修学旅行のスポット 五稜郭タワー、洋式の築城を眼下に 文化庁が全国から選ぶ 30市町村を文化財愛護モデル地区に</p>
第89号	昭和43年 (1968年) 9月1日	(1)	<p>貧しい子へ愛の手 修旅補助の枠ひろげる :文部省“全額獲得”と張切る 遠足、林間学校にも :中学生の修旅要求5,700円に 専用電車の乗入れ わかくさ号 関修委が国鉄に要望 東京私立中高協会内に 修学旅行研究調査会が発足 研修旅行 反省会や友の会 各地で活発に開催 全修協 万博の説明会開く 早くも申込み殺到 東京コマ旅行会館 新映画“大和の石” 生活を支えた石の物語 風紋</p> <p>(2) 万葉史蹟めぐり[16] 越の国 家持の詩情つちかう(随筆家 堀田勇氏) ヨーロッパ旅行記[8] 異郷で活躍する邦人(全修協常務理事・尼崎産業高校長 岡本仁氏) :日本人のガイド達/香水店には日本娘/留学生も各大学に/高校にも日本青年</p>
第90号	昭和43年 (1968年) 10月1日	(1)	<p>万国博の計画進む“修旅の基準緩和を” 石坂会長が文相に要望 :旅館も修旅優先に :全修協の主催で 説明・映画会開く 県別の割当て決る 万博時のわかくさ号 修学旅行の事故防げ 文部省が再び通達 時論 万博を校外学習に 望まれる教育的な態勢 八戸高校 慣行破る修学旅行 夜間行事も組入れて 風紋</p> <p>(2) 万葉史蹟めぐり[17] 富士山 息をのむ感動の霊峰(随筆家 堀田勇氏) ヨーロッパ旅行記[9] 旅行写真の秘訣(全修協常務理事・尼崎産業高校長 岡本仁氏) :フィルムは空回り/絵葉書購入の奨め/記念写真の作り方 思い出を綴る 研修旅行の作品 修学旅行のスポット 滋賀 彦根城、美しい天守閣の構築</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第91号	昭和43年 (1968年) 11月1日	(1)	こまどり号 各県乗入れを陳情 石田国鉄総裁あてに : 関東支社長“前向きで検討する” : 交通網対策からむ あおぞら号 新役員きまる 近畿地区運営協で 修旅の研究集会 埼玉県大宮市で開く 愛知県教委から 宮本秀吉氏表彰 時論 有馬の惨事を教訓にせよ(全修協研究調査部長 山本実) 江戸時代の名残りにとどめる 皇居東御苑を公開 風紋
		(2)	研修旅行写真コンクール 入賞作品きまる : 推薦は引田、吉野氏 : 北海道知事賞 高橋、前田氏が獲得 : 総評 構図に難点残る こぼればなし
		(3)	資料 遠足・修学旅行について 文部省通達全文 [1] 有馬温泉の火災 修学旅行にショック : 事故の絶無を期せ あくまでも“人命尊重” : 万全を期す 本郷の旅館街 全社研が発足 会長に高田氏 来年から五稜郭タワー 入場料金を改定 霞が関ビルと国際劇場 新旧二か所に人気 修学旅行を勧誘 北海道ユースホステル協会 明年1月7日開館 東京コマ旅行会館 修学旅行のポイント 長島熱帯植物園 南国の自然を再現 集印帳 興福寺、薬師寺
		(4)	ヨーロッパ旅行記[10] 三偉人の面影しのぶ(全修協常務理事・尼崎産業高校長 岡本仁氏) : 気魄あるダビデ像/ナポレオンの棺/独裁者終えんの地 万葉史蹟めぐり[18] 三河路 小舟に託す人生哀歌(随筆家 堀田勇氏)
第92号	昭和43年 (1968年) 12月1日	(1)	関修委の研究集会開く 付添医師の不足訴う “父兄の負担”重荷に : 教職員旅費と超勤問題 対策迫らる “ピンはね”やめよ わかくさ号 ビストン輸送が本旨 鹿児島島の中学校で バスを列車に切替える 本郷の旅館で防火訓練 本番そのもの 風紋
		(2)	ヨーロッパ旅行記[11] 灰に沈む貴族の街(全修協常務理事・尼崎産業高校長 岡本仁氏) 万葉史蹟めぐり[19] 三国山 里を去ったムササビ(随筆家 堀田勇氏) 楽焼きから鉛検出 大津で買った土産物 所得税の減税を 史跡買い上げに要望 土地造成か、文化財保護か 成田市の古墳群
第93号	昭和44年 (1969年) 2月1日	(1)	修旅の補助金 満額近く獲得 中学生5,400円に : 文部省 教育的意義を認めて 久保田政務次官らの努力 1969年にこう対処する(全修協理事長 山本種一) 基準概要調査 本年も全修協で 全修協の総会開く 2月6,7日組織活動展開に備う 風紋
		(2)	盛りあがる万国博 修旅は273万人 : わかくさ号など決る 4月に学校計画出揃う 会場への交通 研修旅行20コースで実施 内容も一新、期待に添う : 健脚向きに 尾瀬・日光 写真コンクールの北海道知事賞 高橋・前田両氏に
		(3)	ねらいは海洋思想普及 わかば丸・ふたば丸全国的利用高まる 東京コマ旅行会館が開館 奈良の宿泊激増か 埼玉で大和路を語る会 三重県修学旅行研究会 新役員きまる 科学技術館の修学旅行生 昨年は40万人突破 修学旅行のスポット 山口衛星通信所、国際通信の基地 横顔 古武士の面影も 全修協埼玉県支部長 岡田憲一郎 修旅のモデルコース[1] 近畿日本ツーリスト、学校の企画資料に
		(4)	ヨーロッパ旅行記[12] 霧の都と二つの壁(全修協常務理事・尼崎産業高校長 岡本仁氏) : 貸室ありの広告/カンカン帽に誇り/対照的な戦士の墓/東西ベルリンの壁 万葉史蹟めぐり[20] 伊勢路 仮寝の寂しさを歌う(随筆家 堀田勇氏) 文化財の土地代金課税 300万円まで無税 集印帳 法隆寺、飛鳥寺 修旅宿泊料を改訂 1月から札幌市で

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第94号	昭和44年 3月10日 (1969年)	(1)	全修協・第10回通常総会開く 組織あげ使命達成へ : 沖繩支部も誕生/来賓と祝電/新支部長など委嘱 : 総会の課題を考える 組織的思考行動の場に : 12支部を表彰 研修旅行で成果上げる 風紋
		(2)	新しいビジョンを 山本理事長の挨拶から : 各界からの祝辞 : 本土との交流も 沖繩支部の発足で期待 研修旅行 申込受け始め 期待に添う教育的効果 万博を一目で 近鉄 ロープウェイ作る
		(3)	研修旅行に特別措置を 山本理事長ら文部省に陳情 : 陳情書 国鉄 春の修旅輸送計画 新幹線利用ふえる 修旅のモデルコース[2] 重要地しぼる関東 横顔 温厚篤実な文化人 全修協長崎県支部長 田崎辰夫 あおぞら号運営協で 電車や宿に注文 忌憚のない意見を聞く
		(4)	万葉史蹟めぐり[21] 関ヶ原 雪原に刻む歴史の影(随筆家 堀田勇氏) ヨーロッパ旅行記[13] ゆっくりと粗末な食事(全修協常務理事・尼崎産業高校長 岡本仁氏) : 能率不在でのんびり/懐かしいさくらんぼ 青年育成に施設 完戸山形県支部長が私材を投げ青柳荘 奈良県明日香村で史蹟文学教室開く 研修旅行のみどころ 北海道の巻 集印帳 唐招提寺、当麻寺
第95号	昭和44年 4月10日 (1969年)	(1)	修学旅行 国鉄運賃据置き 6月30日まで 全修協 修旅基準概要調査から 四国・九州方面増える : 日程は短縮の傾向 : 高等学校、中学校、小学校 論点 修旅自体を見直せ(三重県教育委員会指導課長 前畑安宏氏) 研修旅行 福島でも補助金 各県で特典ふえる 風紋
		(2)	教職員の研修旅行 厚生運動にふさわしく : コースも倍増 集印帳 秋篠寺、東大寺
		(3)	東京12チャンネル 修旅の座談会放送 : “現象”をとらえるな 重んじたい生活体験 : 発想は経験学習 研修旅行友の会 本年の事業決る 修学旅行で仲よし 東京・鷗友学園と岩手・柳沢小中で交遊 映画“秋田”完成 修学旅行向きのカラー作品 曲がるガラスも 科学技術館で展示 横顔 駿府城の西郷どん 全修協静岡県支部長 木村愛一 祭りの歳時記: 鍋冠祭
		(4)	ヨーロッパ旅行記[14] ハイヒールにご注意(全修協常務理事・尼崎産業高校長 岡本仁氏) : 日本人一寸待て/補助イス無しバス 船の旅行記 楽しい世界一周(大阪市教職員互助組合理事 藤原忠氏) 万葉史蹟めぐり[22] 近江大津宮 旧都への哀感こめて(随筆家 堀田勇氏)
第96号	昭和44年 5月10日 (1969年)	(1)	国鉄 乗客無事故の快記録 4年6か月も : 労使協調で“安全輸送” 修旅の基準概要調査発行 万国博の説明会 東京の私学対象に 研修旅行友の会 東京都支部で総会開く 修学旅行たけなわ 東京 いたるところで鉢合せ 論点 教師の共通理解から(立正女子大学教育学部講師 仙崎武氏) 風紋
		(2)	特集 研修旅行の見どころ : 豊富な現地指導も 海外ふくめ21コース
		(3)	悪徳みやげ品 追放へ 国鉄ご自慢のバス 東名高速道路に登場 山形県教委「修旅の手引き」作る 実例豊富な資料 関西汽船の万国博対策 修旅船用船も動員 横顔 妥協許さぬ信念 全修協青森県支部長 盛田三喜雄 名物大和志 きっかけは工人開放(国学院大学教授 樋口清之氏)
		(4)	万葉史蹟めぐり[23] 住吉神社 海の守護神に祈る心(随筆家 堀田勇氏) ヨーロッパ旅行記[15] 花は誰のために咲く(全修協常務理事・尼崎産業高校長 岡本仁氏) : 車窓には田園風景/不便な長い昼休み/面倒くさいチップ 修学旅行のポイント 岡山関谷学校 庶民教育の先駆

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第97号	昭和44年 6月10日 (1969年)	(1)	万国博見学に団体規則[上] 修旅は“優先”取扱い 場内の秩序保つため :団体観客の取扱基準/団体サービスセンター/ 団体バスの利用予約/学校行事団体の早朝特別入場 論点 旅行の価値増を 全修協新潟県支部長に小島要氏が就任 風紋
		(2)	全修協企画 人気たかまる研修旅行 :自然に触れよう 伸び行く産業の実情も
		(3)	沖縄支部で活動開始 修旅の効果をめざす 研修旅行にも参加 専用船を実地調査 沖縄支部 近鉄が阿児町の海岸に 海洋科学館を建設 物騒な土産物 成田 シャモジからホルマリン 横顔 実践型の情熱家 全修協兵庫県支部長 魚谷時太郎 東京の文化財[1] 敷石に刻む年輪 今もなお残る江戸時代 :文京区の巻
		(4)	ヨーロッパ旅行記[16] 机に残る思い出(全修協常務理事・尼崎産業高校長 岡本仁氏) :旅先からの絵葉書/私のアルバム製作/ノートに誌す記録/わが秘蔵の土産物 万葉史蹟めぐり[24] 瀬戸内海 妻子を恋う憂悶の歌(随筆家 堀田勇氏) 祭りの歳時記 岳のノボリ 郷土の花 三重・宮崎 はまゆう、南国の海辺を飾る風物詩
号外 第13回 研修旅行版	昭和44年 7月1日 (1969年)	(1)	第13回 研修旅行いよいよ開幕 :元気に楽しく“学習効果”も高めよう :教育界あげて支援 理想的なサマープランに(研修旅行実施対策本部長 白滝末紀) 研修旅行連絡先一覧表
		(2)	連絡本部旅館一覧表/集合場所案内図 来年は万国博で会いましょう 友の会や思い出の集い
第98号	昭和44年 7月10日 (1969年)	(1)	万国博めぐり動き活発 :教育推進協が発足 三重県 :文部省と関修委 指導書・手びきつくる :教育界総ぐるみで/文部省は指導書を20万冊/色刷りの会場地図も 万博の団体規制 早朝入場もよい 食堂料金は低廉に 東京私学の万博見学 半数は5月中旬に 論点 人間関係を作る機会(新潟県教育庁指導課長 渡辺栄一氏) 風紋
		(2)	特集 研修旅行の見どころ :辺地に残る文化財 豊かな研修行事も期待 :天地の境に立って/湿原に乱れ咲く花 改善重ねる研修旅行(秋田県高尾小学校 加藤政雄氏)
		(3)	総理府 本年度の構想 旅行ブームに対処 :文化財保護を 正しい国民教育が必要 わが研修旅行(全修協鳥取県支部長 伊佐田甚蔵) 研修旅行 過去3年を上回る 組織力の強さ示す 提言 体験学習への試み(全修協兵庫県支部長 魚谷時太郎) 日光の“校外教室”東京の小学生で賑わう 横顔 野性味ある迫力 全修協福井県支部長 和田直三 東海汽船のかとれあ丸誕生
		(4)	万葉史蹟めぐり[25] 鞆の浦 波にうたう愛妻の死(随筆家 堀田勇氏) 鳥取に残る修学旅行の記録 地域の特性を生かす(鳥取県教育研究所所員 篠原昭二氏) 教育界に想う 失われた思考の時間(全修協大阪支部長 石川為蔵) :はき違いの世界観/人間性の本質とは/互いに拌み合う心 祭りの歳時記 数方庭 郷土の花 埼玉 さくらそう 初春にさきがけて咲く

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第99号	昭和44年 9月10日 (1969年)	(1)	<p>貧しい子にも万博を 文部省特別に補助金出す :全国の中学1,2年生に/要求額8億円越す 関修委で運営委員会開く 万博時の海上輸送 修旅船も動員 近畿地区高校修旅専用船運営協で 新役員きまる 三重県の万博推進協議会 新事務所を開設 宮崎市の青島で 第20回全教互総会ひらく 南紀でも宿泊態勢 万博時に盛んな旅館建設 大阪市交通局 万博修旅へ特別措置 全修協の要望で 論点 生活研修と視察研修(北海道札幌市立札幌開成高校長 磯貝芳司氏) 風紋</p> <p>(2) ことしの研修旅行 好成績おさめる 過去3年を上回る 全教育界の支持うけて 研修旅行新潟県支部で反省会 “チラシ”配布は早く 研修旅行に米女子大生 飛鳥・大和路へ 北奥羽3県で修旅研ひらく 横顔 強い信念を貫く 全修協宮崎県支部長 田尻貴 集印帖 西芳寺・中宮寺</p> <p>(3) 奈良の東大寺 拝観料を値上げ 旅館の火災防げ 自治省が強い指示 「奈良・大和」映画を貸し出す(奈良県) 奈良に遺跡博物館 天理市に修学旅行会館 市の開発公社が建設 千葉の佐倉に博物館 国立歴史民俗博物館を準備中 東京の文化財[2] 文京区の巻 珍しい迷子の石標・災害受けぬ名主屋敷も 修学旅行のポイント 箱根・大涌谷 不気味な火山の一断面 祭りの歳時記 金刀比羅宮大祭</p> <p>(3) 「神話のくに」におもう 古墳の西都原を訪ねて(全修協事務局長 白滝末紀) 万葉史蹟めぐり[26] 砂弥島 波間に人麻呂の投影(随筆家 堀田勇氏) 思い出を綴る 研修旅行の作品</p>
第100号	昭和44年 11月10日 (1969年)	(1)	<p>北海道高校修旅改善協 修学旅行改善策を答申 :「見学旅行」と「宿泊研修」二つに分ける 盛り上がる万博研修旅行 全修協地区会議終わる あおぞら号運営協 会長に北野勝氏 高田氏(理事・北海道支部長)に藍綬褒章 山口県観光連盟で 観光標語を募集 論点 白馬岳の事故に思う 風紋</p> <p>(2) 修学旅行を考える :統計と記録に基づく反省資料が必要(埼玉県教育委員会指導主事 大木義夫氏) :新しい発想と斬新な企画を期待する(山形市立第一中学校長 大武重雄氏) 好評の“現地講演”本年度の研修旅行 会員のアンケートから</p> <p>(3) 三重県万博教育推進協 新事務局が誕生 活動の拠点に 全県教育界が支援 :すでに7万人突破/開局式の出席者 静岡 研旅反省会で要望 “会員の親睦会を” 三重県修学旅行研究会 本年度の役員決る 関修委 生徒用の“万国博”ガイドブック完成 横顔 北方風土の逸材 全修協理事・北海道支部長 高田治郎 集印帳 天竜寺、大仙院 若狭湾を国立公園に 福井県などが運動</p> <p>(4) 万葉史蹟めぐり[27] 熟田津 歌とともに勇躍出陣(随筆家 堀田勇氏) 奄美・徳之島の植物をみる タコ足のようなアダン(千代田区立西神田小学校長 牧野晩成氏) :多種多様な植物群/植物分布の境界線/一日花のハマボウ 栃木県まごころ会活躍 青少年の育成に 野沢支部長の念願みのる 思い出を綴る 研修旅行の作品</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第101号	昭和44年 12月10日 (1969年)	(1)	小学校学校行事研究大会ひらく よい校風と遠足の役割 指導要する自主性 教員の勤務にも問題残る 論点 修学旅行への一つの試み(大阪府立泉陽高校長 大杉政之祐氏) 全教互の新役員決る 山形にハワイ・ドリーム・ランド 風紋
		(2)	教育に役立てよう万国博研修旅行 :安全で快適に 列車・バス、旅館も確保 :“史上最大”を誇る シンボル・ゾーン 各国自慢の展示館 本年度研修旅行写真コンクール入賞作品さまる 研修旅行の思い出(長崎市立桜馬場中学校教諭 吉田秀穂氏) 鈴鹿サーキットに修旅宿舎 500名が宿泊できる
		(3)	第4回関東地区中学校修旅研究発表会開く :付添費の交付など 地区ぐるみで対策強化 :価値高い修学旅行 諸条件の整備から 事故防止に万全を 修旅廃止論は早計 青森県教委 修旅基準に弾力性 へき地校へ緩和策 瀬戸内海に“動く橋”関汽のフェリー六甲丸が誕生 横顔 人間制復活を念願 全修協大阪支部長 天理教宿舎を開放 万国博で中高生に
		(4)	奄美・徳之島の植物をみる [下] (千代田区立西神田小学校長 牧野晩成氏) :利用度高い南国の樹 万葉史蹟めぐり [28] 荒津崎 港に咲いた友情の花(随筆家 堀田勇氏) 修学旅行のポイント 多武峰談山神社、山あいには聳える十三重の塔 東京都内私立高校 北海道修学旅行へ注文
第102号	昭和45年 1月10日 (1970年)	(1)	躍進の70年に寄せて 教育界から年頭の言葉 :人間形成への努力(文部大臣 坂田道太氏) :先ず交通事故防止(運輸大臣 原田憲氏) :基礎固めの年(国鉄総裁 磯崎勲氏) 風紋
		(2)	教育的な創意性を(日本教職員組合 中央執行委員長 宮之原貞光氏) 楽しい修学旅行に(日本高等学校教職員組合 中央執行委員長 小森秀三氏) 家族旅行を(全国高等学校長協会会長 西村三郎氏) 少年時代の夢を(全日本中学校会会長 福島恒春氏) 見聞を広める(全国連合小学校長会会長 高橋早苗氏) 教育目標に添って(全国市町村教育委員会連合会会長 松本英三氏) 新たな世代を迎えて(全修協理事長 山本種一)
		(3)	新幹線に専用電車 修旅の機関相呼応して国鉄に陳情 急行料金の全額免除も 陳情文 大島運輸のにほん丸誕生 無事故で10年迎う こまどり号125万人を運ぶ :こまどり号のあゆみ :中学生の夢を運ぶ(愛知県副知事 岩瀬繁一氏)
		(4)	年頭の辞 :生きる希望と喜び(あおぞら号近畿地区運営協議会会長 北野勝氏) :万博を考える修旅(関東地区中学校修学旅行委員会会長 徳橋善四郎氏) :話題は日本万国博(近畿地区高校修学旅行 専用船運営協議会会長 坪井明氏) :万博見学も一環に(東海三県修学旅行委員会会長 仲谷義明氏) :修学旅行も超特急(近畿中学修学旅行委員会運営委員長 多田義雄氏) :万博研修旅行六千名に 特集募集の三重県では八万突破 京阪神三市 中学校修旅委開く 横顔 熱情たぎる教育人 全修協千葉県支部長(狩野 政一)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第103号	昭和45年 2月10日 (1970年)	(1)	<p>新幹線に専用電車 関東・関西の修旅委 運輸省に陳情 新しい国土学習へ 修旅専用船利用の生徒 昨年度12万5千人も 修学旅行の基準概要調査 全修協で近く完成 東京私学中高が全修協の主催で万国博を実地調査 論点 修学旅行専用電車の今後の課題 風紋</p>
		(2)	<p>人類の英知あつめて 花ひらく万国博 進歩と調和と 全会場にあふれるテーマ :テーマ館、お祭り広場、万国博ホール、水上ステージ、万国博美術館 :夢と技術の外国館 :サービスにも配慮 モノレール、動く歩道、ロープウェイ、会堂、無料の施設など 研修旅行募集始まる 新味加えた13コースで</p>
		(3)	<p>全修協第11回通常総会ひらく 2月6・7日京都で 修旅に不便かけぬ 万博時の奈良県大和路を語る会で説明 三重県修旅委で高校修旅の検討委決定 京都市で万博開催時交通規制 自由にコース選ぶ 静岡高校の新しい試み 江戸城の名残り 皇居東御苑 開設以来100万人が入園 人気高まる“駅弁” 郷土の味で千六百種も</p>
		(4)	<p>老紳士の友情物語 一本の鉛筆を交換(埼玉県幸手中学校長 高田福松氏) 道路の愛称を募集 室戸・阿南海岸国定公園 廃寺跡から銅印 前橋市総社町 横顔 在野の実践教育者 全修協栃木県支部長(野沢寅) 万葉史蹟めぐり[29] 山背路 歌物語の風情も残る(随筆家 堀田勇氏) 本“わが街わが人” 軽妙な筆致で青森を描く</p>
第104号	昭和45年 3月10日 (1970年)	(1)	<p>全修協第11回総会開く 運動の推進を誓う 人間関係を基盤にして :優良支部を表彰/全議案を討議・可決 要保護家庭の修旅援助費5800円に(中学生の基準) 国会通過まち本決まり 風紋</p>
		(2)	<p>全修協第11回総会 各界から寄せられた祝辞 :京都市教育長、全国教職員互助団体協議会会長、日本万国博協会会長、関西汽船社長 :近畿日本ツーリスト社長、他来賓と祝電 論点 修学旅行費の急増について 天理市に修旅会館 3月1日からオープン 隠岐島から宣伝隊 研修旅行写真コンクール 授賞式開く 横顔 殿さまの風格備う 全修協佐賀県支部長 菊池武貞</p>
		(3)	<p>修学旅行専用列車 新幹線に設定 :特急料金 中学生は半額 高校生二割引きに :中学は5往復 高校2往復 :国鉄回答全文 :教育的配慮の成果 あおぞら号は8万名を運ぶ 46年度大阪一宇治山田間 近鉄 鳥羽線も竣工 賢島へ特急電車乗入れ バス料金アップに悩む 近畿の修旅委代表 運輸省などに陳情 修学旅行のポイント 静岡登呂遺跡 古代農耕文化資料の宝庫</p>
		(4)	<p>犬と国鉄 軽量なら同伴OK “完備”している専用路 万国博の研修旅行 既に満員の県も 新映画“大和の道” 役割果たす道路の変遷 広島県教委で 山陽新幹線ルートで埋蔵文化財調査 万葉史蹟めぐり[30] 明石 胸に点じた祈りの灯(随筆家 堀田勇氏)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第105号	昭和45年 5月10日 (1970年)	(1)	誰が幼い生命を… 大涌谷の落石事故 : 出入自由の危険地 “管理責任”からみ合う (経過・見取り図) : 無事故の安心感が : 今後は安全第一主義で(箱根地区公園管理事務所 管理課長 小嶋秀夫氏) 風紋
		(2)	大涌谷落石事故 校長 霊前に無事故を誓う : 全修協と協力して 現地ルポ : “無責任きわまる”憤然として語る曾呂小学校校長 : もう一瞬で大事故になるどころ 曾呂小学校教頭 : 割り切れぬ気持ちでいっぱい 父親 : 危険防止を依頼したばかり 奥箱根観光株式会社支配人 : みんなで率直に自己反省を 黒玉子売店 論点 箱根大涌谷事故が教えるもの
		(3)	国鉄と各修旅委 新幹線の利用調査 : 新ダイヤ組む 従来の専用電車も生かす : 関修委では四案で(A・B こだま・ひかり、C わかくさ、D ひので) 値下げを要望 関修委と大阪府校長会 貸切バス値上がり攻勢下の修学旅行 倍以上の地区も 全修協調査 横顔 気骨溢れる長州人 全修協山口県支部長 開地茂行
		(4)	万国博と修学旅行 : 会場地図の学習を グループは5名まで: 関修委事務局長 高橋儀六氏の話 : 場内に本部設ける(鷗友学園 新井福之助氏の話) : 夜間の見学も一方法: 女子聖学園 大久保教道氏談 万葉史蹟めぐり[31] 室津港 にじむ仮泊の哀感も(随筆家 堀田勇氏) 新映画 “みちのく” 美しい風土と文化遺産再現
号外 万国博 研修旅行版	昭和45年 6月1日 (1970年)	(1)	万国博研修旅行 “進歩と調和”求めて 安全、快適を目標に : 連絡カードを配布 出発まで・出発当日・会場 : 国力誇示する各館 全修協選定モデルコース 一般向き、若人向き、子ども連れ、広場ごとの各コース
		(2)	光と音で理想像を “伝統芸術”生かして : 国内展示館 : その他の施設など シンガポールゾーン、テーマ館、お祭り広場、万国博ホール、水上ステージ、万国博美術館 宿泊旅館一覧
第106号	昭和45年 6月10日 (1970年)	(1)	昨年度修旅の“基準”まとまる : 旅費は決められぬ 小中学校とも値上り予測つかず : 小学校・中学校・高等学校の日程・旅費 中学校は2泊3日へ 旅館のサービス低下おそる 万国博修旅の影響で 論点 修学旅行改善の方向(山形県教育庁指導課長 八楯重夫氏) 風紋
		(2)	研修旅行に申込み殺到 “北海道”が人気最高 火の国“九州”が続く 大和文化会 創立30年を迎う 感激の樋口博士 横顔 徳望の教育政治家 全修協常務理事・山形県支部長 完戸一郎 集印帖 三千院・竜安寺
		(3)	東京は“ご免だ” 今春の修学旅行異変 : 入込み大幅ダウン 反安保運動に巻きぞえ懸念か 最高は富士五湖へ 脚光をあびる新修学旅行地 伊勢志摩を中心に近鉄特急で多彩なコース 北海道教委 新基準決る 見学と宿泊の二本立て 関東修学旅行委員会で本年度新役員決る 飛鳥を守る議員連盟 超党派で発足
		(4)	国鉄 乗客の忘れ物2割は戻らぬ現金 夏バテの八月が最高 : 車内の網棚が一位/火曜は忘れ物デー/第二位占める七月 摩周湖は澄む 万葉史蹟めぐり [32] 倉無の浜 古社にとどめる風情(随筆家 堀田勇氏) 修学旅行のポイント 奈良歴史教室 圧巻は薬師寺 西塔の模型 箱根後楽園 宿泊記念に植樹 サツキの花がいっぱい

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
号外 第14回 研修旅行版	昭和45年 7月1日 (1970年)	(1)	第14回研修旅行いよいよ出発 夏休みを有意義に 国土学習、健康増進へ : 集合場所と集合時刻 各コース : 楽しい旅にしよう : 理想的なサマー・プランに(研修旅行実施対策本部長 白滝末紀) : 連絡先一覧表
		(2)	ご参加の皆さまへ : 集合場所案内図/連絡本部旅館一覧 写真コンクール ふるってご応募を!
第107号	昭和45年 8月10日 (1970年)	(1)	飛鳥 保存と開発の亀裂 緊急の抜本対策を : 壊滅寸前の現地をみる 現地報告 : 全修協と共同研究 総理府歴史的風土審専門委員・奈良教育大学教授 寺尾勇氏 談 : 消える飛鳥の里 国学院大学教授・文学博士 樋口清之氏 談 論点 修学旅行の問題点 主として事故防止の立場から (品川区教育委員会指導主事 横溝章氏) : 交通安全について/保健の面から/災害に備えて/生活指導の立場で 風紋
		(2)	高価すぎる食堂 万国博のアンケート 全修協三重県支部が調査 名古屋分室に昇格 全修協、東海の重要性に対処 栃木県支部長に北条虎雄氏 修学旅行の実態調査から [2] 埼玉古墳～風土記の丘第二号をたずねる～ [上] (埼玉県幸手中学校長 高田福松氏) : 壮大な面影残す 保護政策にまもられて : 二か所に発掘の跡/研究の成果をきく/盛大な葬祭の儀式 横顔 信望厚い教育人 全修協新潟県支部長 小島要
		(3)	夏にきたえる施設 東京・台東区教委 : 汚れる海、敬遠 公害から逃れ“林間”へ 楽しい生活させる(望月指導主事) 近畿中学校修旅委で運営委員長きまる 修旅誘致に大わらわ 各施設では衣がえ : 科学技術館/長島熱帯植物園/鈴鹿サーキット
		(4)	筑紫路の旅 [1] 太宰府天満宮 栄枯盛衰きざむ(福岡県文化財専門委員 筑紫豊氏) : 目にしみるクスノキの青葉/貴重な多くの文化財ばかり/歴史を背負っていまも残る 万葉史蹟めぐり [33] 黒の瀬戸 うず巻く瀬戸に感動(随筆家 堀田勇氏) 豊島園 郷土芸能を披露 みちのくの夏まつり 五稜郭タワーで研修旅行団に割引 千葉県支部移転 研修旅行はじまる 万博と一般コースで

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第108号	昭和45年 9月10日 (1970年)	(1)	<p>保護家庭の修学旅行 援助費の増額を 全修協組織あげ運動展開 : 文部省の概算要求 要保護家庭 中学生7120円 新幹線と修学旅行(国鉄旅客営業課長補佐 百瀬茂氏) : 昭和46年春季輸送計画 神奈川・関東・甲府市・東海三県・静岡県中学連合 (2面に続く) 運輸省 青少年旅行村を計画 北陸三県が懇談会 修学旅行を誘致 首都美化運動始まる 10月1日から1週間 風紋</p> <p>(2) (1面の続き) 46年春季輸送計画 : 中学連合…福井県、近畿地区、富山県 : 高校連合…北海道、岩手・宮城県、青森・岩手県、九州、四国地区、東京都公立 : 別表 修学旅行輸送計画 新幹線利用状況 : 輸送は府県単位で 教職員も同率割引 横顔 進取の気象に富む 全修協栃木県支部長 北條虎雄</p> <p>(3) 新幹線の利用で修旅はどう変わる : 夜行の悩み消える 効率のよい時間短縮 : 在来線が便利 栃木県/見学個所は増えぬ 近畿中学校修旅委 宿泊費の値下げを 関修委が現地交渉へ 明日香村の民宿 利用の最高は東京 会津若松の飯盛山に動く歩道が登場 考える修学旅行(全修協事務局次長・調研部長 山本実) 埼玉古墳～風土記の丘第二号をたずねる～[下] (埼玉県幸手中学校長 高田福松氏) : 1500年の風雪に/今も残る貴重な文化財/出土する武具など</p> <p>(4) 筑紫路の旅 [2] 太宰府跡と観世音寺 謎を解く礎石群 (福岡県文化財専門委員 筑紫豊氏) : 懐古の情もふかい特別史跡/めずらしい唐風の水時計/万葉集に歌われた天平筑紫 万葉史蹟めぐり [34] 水島 溶けあう哀愁と優雅(随筆家 堀田勇氏) 集印帳 白毫寺・新薬師寺 “月の石”を公開 東京・科学技術館で</p>
第109号	昭和45年 10月10日 (1970年)	(1)	<p>修学旅行費の基準 無用時代を迎う 全修協調査 : 実際は倍もかかる 値上がりに追いつかぬ 三重県万博推進委で はなやかに解散式 万博へ10万人動員 論点 白紙に戻して検討を(修学旅行の改善案) (北海道旭川商業高校教頭 渡辺敏郎氏) 全修協だより 風紋</p> <p>(2) 新幹線の修学旅行(国鉄・旅客局営業課長補佐 百瀬茂氏) : 近畿は10月11日から 46年秋季の輸送計画 10月1日には関東地区 : 中学連合…近畿地区、関東地区、和歌山、 : 高校連合…北海道、山形県、岩手・宮城県、宮城・福島県、秋田県、 青森・秋田県、九州、東京都公立 修学旅行のポイント 箱根の関所あと 当時の面影を再現 横顔 実行型の“熱の人” 全修協香川県支部長</p> <p>(3) 関修委代表が関西へ宿泊料値下げ要望 : 京都 昨年なみは無理/奈良 交渉の余地のこす/滋賀 話し合いに応じる 関修委の顔ぶれ : 新局面開拓を期待(関修委会長 渋谷宣二氏)</p> <p>(4) 旅にみる児童文学(東京成徳短大教授 滑川道夫氏) : 夢よぶ人魚姫の像～わずか文学碑ていどの日本～/ 現代に生きる造型/国内にある文学碑 万葉史蹟めぐり [35] 玉島川 アユ釣る仙女たち(随筆家 堀田勇氏) “古都保存連盟”発足へ 住民も創意工夫に参加 飛鳥古京を守る会 東京講演会開く 大和文化会の見学旅行 柳生街道、飛鳥へ 関修委、宿泊料交渉で 各県で報告会開く 奈良公園で交通規制</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第110号	昭和45年 11月10日 (1970年)	(1)	全修協15周年の記念総会 志摩・賢島で開く 来年2月発足の地でふたたび 全修協地区会議終る 強力な修旅改善策 研修旅行1万名の動員も決る 活動する修旅専用船 ことし8万名運ぶ 近畿地区運営協で報告 東海3県修旅委で決定 新幹線利用する あおぞら号近畿地区運営協 本年度の新役員 全修協愛知県支部長 宮本秀吉氏に叙勲 風紋
		(2)	特集 脚光あびる近江路 光る湖と文化財 新幹線利用で修学旅行がふえる :彦根城・玄宮園・開国記念館・井伊美術館・醒ヶ井養鱒場・石山寺・三井寺・延暦寺 :宿泊と施設 延暦寺会館・琵琶湖旅行会館・びわ湖パレイ・志賀町民宿 :ドライブ・ウェイと貸切バス料金 :モデル・コース :修旅生を迎える(滋賀県知事 野崎欣一郎氏)
		(3)	北海道教育委員会 宿泊研修が大受け すでに百校が実施 学校側“人間性とり戻した” :人間関係の発見(道教委学校教育課長 田中保氏談) 関修委運営委員会開く 大和路を語る会 北海道四市でひらく 研修旅行写真コンクール 入賞作品きまる :推薦に館、杉山両氏 北海道知事賞は仁川、清水氏の手に 横顔 純粋な人柄に魅力 全修協福島県支部長 小沢一郎
		(4)	記紀と風土記の相違 出雲の伝承文化 (東京私立中高協会修学旅行研究調査会代表委員 古橋博氏 :雄大な国引き神話／つなぎ合せた大地／古事記にみる伝承／ 沖積地を見守る神／記紀と異なる性格 万葉史蹟めぐり [36] 都野の浦 荒磯に別離を歌う(随筆家 堀田勇氏) 集印帳 蔵王堂・室生寺
第111号	昭和46年 1月10日 (1971年)	(1)	全修協創立15周年を祝す 今後の飛躍を期待(文部大臣 坂田道太氏) 交通政策の樹立へ(運輸大臣 橋本登美三郎氏) 尊い使命感(衆議院議員・前運輸大臣 原田憲氏) 安全輸送に協力を(国鉄総裁 磯崎勲氏) さらに提携の強化を(国鉄旅客局長 伊江朝雄氏) 風紋
		(2)	青少年育成のために 創立15周年を迎えて(全修協理事長 山本種一) 全修協運動に感謝(全国連合小学校長会長 高橋早苗氏) 修旅改善に努力を(全日本中学校長会長 福島恒春氏) 効果的な実践望む(全国高等学校長協会会長 吉田寿氏) ご健闘を切に祈る(日本教職員組合 中央執行委員長 宮之原貞光氏) 有意義な研究期待(日本高等学校教職員組合 中央執行委員長 小森秀三氏) よろこびに寄せて 全修協役員と支部長(7名)
		(3)	よろこびに寄せて 全修協役員と支部長(19名) 全修協創立15周年記念総会開く 2月5・6日伊勢賢島で 中学生7000円 要保護の補助 全修協の運動で満額近く獲得へ
		(4)	わが外遊記 [1] 先進国と後進国(全修協理事・北海道議会議員 高田治郎氏) :物価高のアメリカ／道路と空港は完備／好演出で開拓史を 万葉史蹟めぐり [37] 壱岐島 不安な心情漂う離島(随筆家 堀田勇氏) 郷土の玩具…幸福をもたらす ポロロ・ニボポ人形(北海道) 近畿各県が関東地区各県で説明会ひらく

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第112号	昭和46年 2月10日 (1971年)	(1)	<p>全修協・創立15周年 盛大に記念総会 :運動の推進を誓う 思い出あたたな賢島 :祝辞 意義ある修学旅行に(衆議院議員・前運輸大臣 原田憲氏) :挨拶要旨 喜びの日迎えて(全修協理事長 山本種一)</p> <p>風紋</p>
		(2)	<p>15年の歴史刻んで 青年期への第一歩 同志の意気も高らかに :一万名動員へ研修旅行/役員会開く/表彰 研修旅行関係・永年勤続者 :“15年の歩み”関係者に贈呈 来賓・祝電 :全役員再任さる 常務理事に白滝氏 :総会の模様を報道 各紙・NHKテレビも :総会出席の支部長ら本田技研工場を見学 :楽しい行事も</p>
		(3)	<p>来年度の新幹線修学旅行 各県の基本割当て :北関東7万3千余名で4月12日に第一陣 :48年度から全部新幹線に 奈良歴史教室に飛鳥コーナーなど設置 奈良県土産物連盟で不良品追放に成功 古都と修学旅行(浦和本太中学校長 荒幡義輔氏) :多い高度な手引書 中学生は先ず展望から “少年自然の家” 埼玉県教委がつくる</p>
		(4)	<p>わが外遊記 [2] 先進国と後進国(全修協理事・北海道議会議員 高田治郎氏) :七色に輝く大瀑布/人気ある日本庭園/1日に500機発着 よろこびに寄せて 全修協役員と支部長(3名)(前号のつづき) 飛鳥古京を守る会 講演会と現地見学 万葉史蹟めぐり [38] 能登半島 旅情も消える都恋い(随筆家 堀田勇氏) 郷土の玩具 祭礼から生まれる 牛鬼と起上がり(愛媛)</p>
第113号	昭和46年 3月10日 (1971年)	(1)	<p>新幹線・修旅専用列車 第1陣が関西へ :ふくらむ夢のせて 東京駅頭 はなやかな出発式 :“車内放送”を実施 マナーも立派と好評 :くず入れに協力を(新幹線総局営業課主席 古橋孝次郎氏 談)</p> <p>風紋</p>
		(2)	<p>47年度 輸送計画きまる 東海三県修旅委で 近畿地区4月14日から新幹線の修学旅行 修学旅行費の補助(文部事務官 松隈茂喜氏) :全員参加への施策 経費業者からは明細書を :傷害保険も含む/内容を確認せよ/迅速支給を望む</p>
		(3)	<p>研修旅行募集はじまる ことしは17コース多彩な行事を盛込んで 日教組の欧州教育事情視察団 本年から全修協が実施 横顔 原野に道つくる 全修協長野県支部長 大熊通夫</p>
		(4)	<p>万葉史蹟めぐり [39] 因幡の雪 雪に消えた家持の歌(随筆家 堀田勇氏) わが外遊記 [3] 先進国と後進国(全修協理事・北海道議会議員 高田治郎氏) :氾濫する日本商品/不徹底な黒人教育 関西汽船の総会で 役員きまる 郷土の玩具 今でも残る危除け 流しびな(鳥取) よろこびに寄せて 全修協役員と支部長(3名)(前号のつづき)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第114号	昭和46年 4月10日 (1971年)	(1)	<p>高校の修旅地図 大幅に塗りかえ 自然のふとこに 長野県へ入込み激増 :おもな目標/1校の参加人員/特別な催し/日程と形態など 笑顔のせて 新幹線修学旅行 関西第一陣出発 :国鉄でアンケート 新幹線の修旅生に 科学技術館 場内模様がえ 新展示品も登場 瀬戸内にフェリー 関西汽船の大型船 風紋</p> <p>(2) 教職員の研修旅行 1万名達成へ突進 続々と申込み殺到 多彩なコースに魅力 ヨーロッパ教育事情視察 日教組と全修協提携 和歌山と大阪 新支部長が就任 全修協支部長各地で当選 府県議会議員に 修学旅行の手引書 京都市で発行 私学現地研修会 “飛鳥の里と山の辺・柳生両古道の探究”</p> <p>(3) 関西旅行の意識調査 近畿都市観光センター 東京の2私立高校対象に :もう一度京都へ 自然美 伊勢・南紀を選ぶ :“近畿”の概念薄らぐ :知っている祇園祭 修学旅行の日程 新幹線・近畿中学校 修学旅行のポイント 鎌倉の大仏 東大寺に次ぐ巨像の逸品</p> <p>(4) 新幹線に乗って 中学生の作文 :大仏さまとの対面(埼玉県栗橋東中学校生徒 北島佐知子さん) :感動した出発式(埼玉県吉田中学校生徒 金沢一正君) :なつかしい思い出(埼玉県鷲宮中学校生徒 福島史子さん) わが外遊記 [4] 先進国と後進国(全修協理事・北海道議会議員 高田治郎氏) :神殿に額づく巡礼/羊飼いの奇蹟生む</p>
第115号	昭和46年 6月10日 (1971年)	(1)	<p>来年の新幹線修旅 輸送計画決る :総計100万名突破へ 3地区修旅委21万名におよぶ 国鉄ストでも予定通り出発 関係者の努力みものる 関修委ひらく 新役員を選出 文化映画など 石川県で貸し出し 風紋</p> <p>(2) 教職員の研修旅行 全国の人気集めて満員近い各コース 夏の訪れ拍車かける :一部コースを除き、締切り延長 全修協代表幹事会開く 若い力で推進誓う 研修旅行の意義認めて 各県で補助金ふえる 生協連学協部会で 全修協運動に支援 アルペンルート展 今年開通を記念して国鉄本社PRコーナーで</p> <p>(3) 楽しさがいっぱい 池田中学校(大阪府)の生徒 高まる修学旅行の価値 校長の話 近畿日本ツーリストで「見学のポイント」シリーズ完成 印象に残る接遇を 近畿都市観光センター 高校教諭と座談会 半数近く不適格 土産品検査で槍玉 京都市では推奨マークつける “大和路を語る会”盛岡・青森・仙台で 拝観料値上げ 京都市内の社寺</p> <p>(4) 新幹線に乗って 中学生の作文 :風景と建築の調和(埼玉県幸手中学校生徒 長嶋順子さん) 研修旅行の作品 緑濃きみちのくへ(静岡県 井上西三氏) わが外遊記 [5] 先進国と後進国(全修協理事・北海道議会議員 高田治郎氏) :多い日本の成功者/夢見る“一獲千金”/つきまとう宝石屋 集印帳 妙法寺・覚園寺</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
号外 第15回 研修旅行版	昭和46年 7月13日 (1971年)	(1)	<p>研修旅行愈よ開幕 : 国土学習 現場に役立てよう : 集合場所と集合時刻 各コース : ご参加の皆さまへ(研修旅行実施対策本部長 白滝末紀) : 連絡先一覧表</p> <p>(2) 集合場所案内図 連絡本部旅館一覧 : 集合場所と集合時刻 各コース(一面のつづき)</p>
第116号	昭和46年 8月10日 (1971年)	(1)	<p>要保護の補助額 中学生8,600円に 文部省来年度の概算要求 来年の輸送決る 在来線・専用電車 : わかくさ号 大半占める栃木県 関東地区は春季だけ : わかば号 二府二県で4,000名 近畿地区は四日間に : こまどり号 春秋で55,000名 260校の東海地区 兵庫県中学校修旅委 斎藤氏が委員長に 近修委の新役員決る 委員長に久保田氏 来年度のあおぞら号 85,000人を運ぶ 名古屋市修旅委で 奥日光方面を視察 風紋</p> <p>(2) 研修旅行に参加して “文芸作品” 続々と 詩や歌に思い出を託す : 魅力あふれる山陰(山陰コース参加者 田中道子氏) : 北海道初旅(北海道コース参加者 小池富夫氏) : 和城遊行(飛鳥・柳生・京都コース参加者 井上西三氏) : 南紀旅情のうた(南紀コース参加者 森井吉夫氏)</p> <p>(3) 東京の私立中・高校 修学旅行の実態調査 : 高校は九州方面へ 関西と東北が多い中学 : 費用は最高4万円/公德心を育てたい/各校からの要望は 国鉄からプレゼント ことし新幹線利用の中学生に 生徒に利益を還元 東京国際空港の試み 土産購入にチップ制 新映画「京都の川」川が育てた人間の歴史</p> <p>(4) 暮しと貨物の話 到着駅で違う品物 : 鉄道の社会科 季節を飾る果物も わが外遊記 [6] 先進国と後進国(全修協理事・北海道支部長 高田治郎氏) : スペイン文化の都/街には乞食の群れ/最古のピラミッド/遙拝する回教徒/牧歌的な風景も 長崎 古賀人形: 郷土の玩具 故事と祭りが源流に</p>
第117号	昭和46年 9月10日 (1971年)	(1)	<p>引率費の獲得運動 一般旅費の枠外に 全修協各修旅委と呼応して 秋深む近江路へ 修旅生で賑わう 全修協研究部長に岩崎武夫氏が就任 各修旅委の顔ぶれ : 埼玉県、千葉県、茨城県、栃木県、名古屋市、東海三県 研修行事のPRを 新潟県支部で反省会 秋の科学技術館 宇宙部門など充実 風紋</p> <p>(2) 研修旅行に参加して : 和城遊行(飛鳥・柳生・京都コース参加者 井上西三氏) : サビタの花(北海道コース参加者 栗本信子氏) : 浜木綿(俳句) (伊勢・志摩・南紀コース参加者 秋吉良子氏) 奈良歴史教室で“柳生街道”上映 わが外遊記 [7] 先進国と後進国(全修協理事・北海道支部長 高田治郎氏) : 赤道直下の動物園 / 牧歌的な農業風景 / ケニアの動物園で</p>
第118号	昭和46年 10月10日 (1971年)	(1)	<p>閑古鳥なく旅館街 “東京”は素通り 悪条件かさなつて 本郷地区 あおぞら号近畿地区運営協開く 琵琶湖コースの説明会 滋賀県主催で開く 大宮市・船橋市 拝観・入場料など 奈良市内の社寺 [1] 研修旅行 多シーズン制採用 来年三月から 海外ふくめてコースもひろげる 関修委の運営委開く 48年度の計画 新幹線は10万名に 全修協だより 風紋</p> <p>(2) 研修旅行写真コンクール 入賞作品きまる : 推薦作は杉・川原氏、北海道知事賞は太田・帆足氏が獲得 研修旅行文芸作品 : 和城遊行(飛鳥・柳生・京都コース参加者 井上西三氏) : コタン(川柳) (北海道Aコース参加者 成田風足氏) : さいはての国(北海道Bコース参加者 黒川天源氏)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第119号	昭和46年 11月10日 (1971年)	(1)	<p>“緑の学校”(文部省)軌道にのる :盛んな施設づくり 大気汚染から子どもの健康を守る :来年1億円に…文部省 / 区市に補助金出す…東京都 あおぞら号新会長に乾氏就任 近畿地区運営協開く 北海道ブーム続く 年を追って盛んに 新幹線の乗車記念 国鉄からプレゼント 全修協だより 風紋</p> <p>(2) 研修旅行文芸作品 朝の散策記 [上] (北海道研修旅行参加者 山田秀子氏) :はまなすの花(短歌) (北海道Aコース参加者 岩崎登美氏) わが外遊記 [8] 先進国と後進国(全修協理事・北海道議会議員 高田治郎氏) :残酷な鳥葬風景 / 木の上に乗る死体 / 美醜甚だしい街なか(ボンベイ)</p>
第120号	昭和46年 12月10日 (1971年)	(1)	<p>“緑の学校”敬遠 三重県四日市市 予算獲得が困難で 先ず林間学校拡充へ 1月に48年度計画 東海三県修旅編成委できる 新幹線・こまどり号 修学旅行のポイント ミキモト真珠島 養殖の工程も展示 風紋</p> <p>(2) 来年の研修旅行決る 研修旅行文芸作品 :朝の散策記 [下] (北海道研修旅行参加者 山田秀子氏) :はまなすの花(短歌) (北海道Aコース参加者 岩崎登美氏)</p>
第121号	昭和47年 1月10日 (1972年)	(1)	<p>輝く新春を迎う :勇気と英断の年代(文部大臣 高見三郎氏) :先ず交通安全対策(運輸大臣 丹羽喬四郎氏) :新世紀へ脱皮 快適な修学旅行に(国鉄総裁 磯崎勲氏) 風紋</p> <p>(2・3) 輝く新春を迎う :新しい転換期を迎えて(全修協理事長 山本種一) :全修協と協力して(日本教職員組合中央執行委員長 榎枝元文氏) :民主的修学旅行を(日本高等学校教職員組合中央執行委員長 小森秀三氏) :豊かな人間性を(全日本中学校長会会長 野沢登美男氏) :自然を与える運動(全国連合小学校長会会長 加藤嘉男氏) :山積する任務を遂行(近畿中学校修学旅行運営委員会委員長 久保田八郎氏) :厚い壁を突き破る(あおぞら号近畿地区運営協議会会長 乾英三郎氏) :総合研究の場を持つ(関東地区中学校修学旅行委員会会長 戸田俊雄氏) 新春を迎う 全修協役員と支部長の言葉 :人間尊重のために(全修協大阪支部長 西岡権治郎) :過疎地の子に光を(全修協理事・北海道支部長 高田治郎)</p> <p>新春を迎う 全修協役員と支部長の言葉 :全修協発展を祈る(宮崎県支部長 田尻貴) :合国の同士で研究(福島県支部長 小沢一郎) :積上げる運動成果(和歌山県支部長 岩尾覚) :行動主義で進もう(長崎県支部長 田崎辰夫) :修学旅行に息吹き(三重県支部長 西山文男) :新しい旅行の創造(香川県支部長 吉田一三) :研修旅行に支援を(秋田県支部長代 畠山克己) :期待にこたえたい(新潟県支部長 小島要) :全修協発展のため(鹿児島県支部長 山口貞一) 見学 流れ作業化反省 栃木県で研究集会 “新幹線”は疲れぬ 新コース開拓の現地調査 関修委が関西方面に</p> <p>(4) 春の研修旅行登場 山陽新幹線で西へ 全学期休暇実施へ本格化 わが外遊記 [9] 先進国と後進国(全修協理事・北海道議会議員 高田治郎氏) :日米決戦の古城 / 虎の子を抱いて / 水攻めの地下壕</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第122号	昭和47年 2月10日 (1972年)	(1)	コンバイン輸送の新幹線も割引に 信州コースに対処 久保田近修委員長国鉄へ要望 僻地の学校に配慮“新幹線”に道ひらく 国鉄が栃木の中学校に 全修協第13回通常総会2月24・25日熱海市で開く 全修協香川県支部長吉田一三氏死去 風紋
		(2)	中学生8400円 47年度要保護補助要求額近くを獲得 人気呼ぶ春の研修旅行 各県とも出足好調 全教互 田畑氏が会長に 副会長もきまる 農業コーナー開設 科学技術館で展示 北海道知事賞を受賞 研修旅行写真コンクール わが外遊記 [10] 先進国と後進国(全修協理事・北海道議会議員 高田治郎氏) :稲作は年中行事(フィリピン) / やっと沖縄の土を / 戦争の傷あと残る
第123号	昭和47年 3月10日 (1972年)	(1)	全修協第13回総会ひらく 第二期計画実現へ :研修・研究が二本柱 来賓と祝電 :挨拶 飛躍の道へ突進(全修協理事長 山本種一) 運賃値上げ阻止へ 全修協と修旅委が陳情(国鉄) 全修協愛媛県支部長 大野稔氏逝く 風紋
		(2)	山陽新幹線・岡山営業(3月15日) 時速210キロで突っ走る :鉄道工学の凱歌 式典や試乗で賑わう :沿線のみどころ 国鉄本社旅客局営業課長須田寛氏の車内放送から
第124号	昭和47年 4月10日 (1972年)	(1)	緑も濃く旅行シーズン始まる 夢もふくらむ修学旅行 春季研修、好天候に成果あがる 全修協 修旅の基準を調査 引率の旅費なども [修学旅行私はいこう思う] :見学地の精選を(東京都教育委員会指導部 中学校指導課長 宇留田敬一氏) :人間性回復から(東京都文京区立文林中学校長 篠原春雄氏) 風紋
		(2)	第16回夏季研修旅行 全国で募集はじまる :北へ南へ20コース “研修行事”盛りこんで 視野をひろめよう 日教組 欧州教育事情視察 全修協主催 郷土の玩具 鹿踊りなど 故事をたくみに表現 東北
		(3)	第16回夏季研修旅行 全国で募集はじまる :実験学習を拡げる 教職員福利と厚生のために :公的機関が支援 補助金や休暇などで :会費一覧 問合わせ・申込先一覧表 :すばらしい企画(元東京都石神井西小学校長 池沢弘人氏)
		(4)	東京私学の現地研修会 南近江と若狭・越前へ 研修旅行の作品“原生林と荒波と” 北海道研修旅行の記録 (山口市白石小学校教諭 小野井信子氏) 研修旅行をふりかえって 身にしみた講演(全修協新潟県支部事務局長 徳橋新次) 東京、釧路間カーフェリー就航 4月6日から近海郵船 集印帳 天竜寺・退蔵院
第125号	昭和47年 5月10日 (1972年)	(1)	修学旅行の生徒輸送 スト中でも走る はずむ心のせて ホットした関係者たち :解説 修旅電車運転をきめた国鉄の両労組 九州への船旅コース 東京私学が研究会 勲六等を授与 香川県支部長 故吉田一三氏に 風紋
		(2)	出発日きまる 教職員の研修旅行 [修学旅行私はいこう思う] 農耕生活の体験(文京区立第七中学校教諭 竹村富士子氏) 人とのつながり持った日本の旅 伊勢参りは“歓待”(武蔵野美術大学教授 宮本常一氏) 横顔 たぎる若い情熱 全修協京都府支部長 糸井一

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第126号	昭和47年 6月10日 (1972年)	(1)	連絡協結成へ 各修旅委で共同研究の場つくる 全修協の呼びかけで 新幹線の修学旅行専用電車 信州コースに特設 近修委の要望みのる 修旅運賃据置きを 全修協、文部省に陳情(陳情書) 東海三県の編成委 新役員を選出 関修委の運営委 運動方針決る 新役員も選出 風紋
		(2)	研修旅行 出発日など決る 多彩で充実したコース :問合わせ・申込先一覧表
		(3)	さよなら“わかくさ号” 9年間の感慨のせ 最終列車、品川を出発(6月7日) :解説 教育関係者の愛情みのる “基準は変えない”青森県、地方教委の要望認めず 修旅に団体保険 傷害と賠償 掛金は一人30円 近修委 引率費の獲得へ 埼玉県修旅委で運動
		(4)	[修学旅行私はこう思う] ながい眼でみよう (新宿区立西戸山第二中学校 前校長 葛巻政男氏) 滋賀県 モデルコースつくる 湘南めぐりなど5種類 修学旅行で“驚き”を発見したい 一日はゆっくりと(武蔵野美術大学教授 宮本常一氏) 科学技術館の夏期休館
第127号	昭和47年 7月10日 (1972年)	(1)	三地区修旅委 連絡協を結成 共通問題に取り組む 全修協運動に呼応して 見通しは明るい 栃木の特別輸送扱い 関修委 [修学旅行私はこう思う]学習旅行に切換え 農村の子どもたちとの交流 (練馬区立石神井東中学校長 岩亀幸三朗氏)
		(2)	東へ西へ出発 研修旅行 20コース88団で :問合わせ先一覧表
		(3)	修学旅行の付添旅費 予算化に成功 :特殊業務手当加え 茨城県北相馬・取手校長会 新制度、全国に率先 :修学旅行を明るく(取手一中校長 中村武男氏の話) 西中国へ現地視察 全修協東京都支部主催 都内公立高校教諭で 三地区 連絡協の規約全文
		(4)	第16回全特活研究協議大会 人間形成をテーマに 埼玉県に2000人が集って 富山・新潟「大和路を語る会」開く “受入れ”に万全を 滋賀県主催でびわ湖コースの説明会ひらく(仙台市) 北奥羽三県観光連絡協議会 修旅担当の懇談会開く(練馬区豊島園) ヒョコふ化に人気 科学技術館で新展示 国鉄昨年度 “忘れもの” うっかりと居眠りで 四百万円入りカバンも
第128号	昭和47年 8月10日 (1972年)	(1)	京都府乙訓郡の小中学校 修学旅行費を補助 :小学生には全額支給 中学生は実費の半額を負担 :当局の熱意にうたれる(乙訓中学校長 八木伊佐美氏の話) 秋田県教委 修旅基準改訂の構え :高校は1泊減に 中学は現行で “日程延長は認めない” 風紋
		(2)	大きな成果あげて研修旅行終わる アンケート“実りある旅だった” 近畿二府四県修旅委ひらく 久保田委員長を再選 関修委の運動と目標 [1] (埼玉県幸手中学校長 高田福松氏) :関東5県が大同団結 苦労かさねて“わかくさ号”設定へ
第129号	昭和47年 9月10日 (1972年)	(1)	修学旅行補助要求額決る 中学生9,100円に :要保護・準要保護 満額獲得を期待 全修協も運動開始 国鉄スト修旅に影響か 円滑輸送要請へ 研修旅行の反省会 静岡・新潟県支部で 全修協の新人事 前田中央研修部長が副事務局長に 第二回3地区修旅委連絡協(10月20日頃)で修旅補助金も焦点に 風紋
		(2)	研修旅行の作品 :美しい湖水と原生林と(北海道一周Bコース参加者 原田英俊氏) :草原に石の羊(山陽・山陰コース参加者 伊東亀雄氏) :遺跡たずねて昔をしのぶ(佐渡・磐梯・蔵王コース参加者 奥村今川氏) 関修委の運動と目標 [2] (埼玉県幸手中学校長 高田福松氏) :修学旅行の内容と今後の学習 / 自覚する郷土の誇り 日本歴史の資料に富む関西地区

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第130号	昭和47年 10月10日 (1972年)	(1)	<p>全修協地区会議始まる :研修旅行の拡充と修旅委の組織活動へ あおぞら号運営協 近畿地区・役員改選も 要保護対策進める 三地区修旅委連絡協 立花欣一氏が関汽の常務に 関修委の運動と目標 [3] (埼玉県幸手中学校長 高田福松氏) :修学旅行の宿泊について / びわ湖と鈴鹿を選んでみた 既成概念こえる宿舍 風紋</p> <p>(2) 人気よぶ奈良歴史教室 大和の歩み一堂に 事前指導に大きな役割 近鉄奈良駅 :類をみない施設(国学院大学教授 樋口清之氏) 富士緑の休暇村 樹海の中に誕生</p> <p>(3) 関東の中学校修学旅行 新幹線時代迎う :10万人の大台に 来年度の各県大幅な増加へ 出発時刻変わる 来年の新幹線 関修委で報告 新幹線増設を要望 東海三県 修旅列車編成委で アンケートから ことしの研修旅行 すばらしかった講演 宿のサービスも満点</p> <p>(4) 研修旅行の作品 :セミの声ふる野天風呂(山陽・山陰コース参加者 伊東亀雄氏) :遺跡をたずねて昔をしのぶ(佐渡・磐梯・蔵王コース参加者 奥村今川氏) :さいはての国吟行(北海道Bコース参加者 中野つた女氏) 近江路散歩 [1] しなの大津京の繁栄(能登川高校教諭 渡辺守順氏) 集印帳 妙成寺・三井寺</p>
第131号	昭和47年 11月10日 (1972年)	(1)	<p>関修委設立10年を迎え 記念式と研究会 :功労者表彰、講演も 11月22日千葉柏中でひらく 引率旅費の獲得へ 三地区修旅委連絡協で 国鉄の来年度修学旅行の輸送 優等列車へ移る傾向 (国鉄旅客局営業課 竹鼻照雄氏) 1. 修学旅行の一般的傾向 2. 修学旅行専用列車の利用傾向 乾会長を再選 あおぞら号近畿運営協 風紋</p> <p>(2) 沖縄研修旅行1月3日に出発 春は3コース 全修協地区会議で決る 研修旅行写真コンクール :北海道知事賞 中野、山田氏が獲得 :カラーの部/白黒の部/総評</p> <p>(3) 鳥取・倉吉農業高校 汗の修学旅行へ :北海道で酪農実習 17年間も続けて実施 :効果をあげた(倉吉農業高校教諭 山本要氏の話) 関修委 49年は輸送困難 新幹線利用ふえる 関修委の運動と目標 [4] (埼玉県幸手中学校長 高田福松氏) :安全の保障/付添旅費は別枠で/生徒の事前指導にもっと力を 循環方式に割引を 近畿委員長ら国鉄陳情</p> <p>(4) 研修旅行参加作品 流刑と法難の地へ(佐渡磐梯蔵王コース参加者 村野充郎氏) 近江路散歩 [2] 甲賀忍者のふるさと(能登川高校教諭 渡辺守順氏) 郷土の玩具 民間信仰にいと役 陶鈴と瓦猿 九州の旅(井上西三氏)</p>
第132号	昭和47年 12月10日 (1972年)	(1)	<p>関修委設立10周年記念集会 新しい修学旅行を :柏中学が成果を発表 感謝状全修協理事長・柏中校長に 全修協愛媛支部長 仙波勉氏が就任 風紋</p> <p>(2) 研修旅行春のコース 九州・四国・飛鳥路へ 三月下旬・全地区で実施 近江路散歩 [3] 万葉のロマンも再現(能登川高校教諭 渡辺守順氏) 愛知県支部長 宮本秀吉氏表彰 社教の功労者として</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第133号	昭和48年 1月10日 (1973年)	(1)	<p>輝く新春を迎う :創造性豊かに(文部大臣 奥野誠亮氏) :国土開発に努力を(運輸大臣 新谷寅三郎氏) :第2世紀迎う(国鉄総裁 磯崎勲氏)</p> <p>風紋</p>
		(2)	<p>新年を迎えて :みのり多い73年を(全修協理事長 山本種一) :情緒養成のために(全国連合小学校長会長 加藤嘉男氏) :本然の姿いかして(全日本中学校長会長 野沢登美男氏) :楽しい修学旅行に(全国高等学校長協会会長 土肥輝雄氏) :修学旅行と教育と(日本教職員組合中央執行委員長 楨枝元文氏) :別枠で付添旅費を(日本高等学校教職員組合中央執行委員長 小森秀三氏) :日日新面目に(全修協新潟県支部長 小島要)</p>
		(3)	<p>新年を迎えて :人間育成の機会を(近畿修学旅行委員会委員長 久保田八郎氏) :躍進の年としたい(関東地区中学校修学旅行委員会会長 高橋俊麿氏) :修学旅行は公費で(東海三県修学旅行委員会・列車編成委員会委員長 桜井敬一氏) :自然を求める旅へ(あおぞら号近畿地区運営協議会会長 乾英三郎氏)</p> <p>第14回通常総会開く 全修協 2月22・23日熱海で 春秋で解消へ 関修委 来年度の新幹線輸送 全修協神奈川県支部長 沢田三郎氏 逝去 全修協初代事務局長 佐藤哲衛氏 逝去</p>
		(4)	<p>新年を迎えて :教育界へ貢献(全修協秋田県支部長 高橋堯) :感銘得る旅行(静岡県教職員互助組合事務局長 菅原孝氏) :牛にあやかる(全修協宮崎県支部長 田尻貴) :人間形成の場(全修協大阪支部長 西岡権治郎) :がんばりの年(青森県教育厚生会専務理事 伊藤喜蔵氏) :退職者組織を(全修協京都支部長 糸井一) :新時代の研旅(島根県学生協常務理事 山本亮氏)</p> <p>近江路散歩[4] 湖東の文化財めぐり(能登川高校教諭 渡辺守順氏)</p>
第134号	昭和48年 2月10日 (1973年)	(1)	<p>修学旅行費の補助拡大 へき地(3級以上)全域に :本年度から国が2/3、市町村1/3 / 全修協運動に成果 教育水準の向上へ 高度へき地の修学旅行費補助 (文部省初中局財務課・文部事務官 松隈茂喜氏) 中学生 8,900円に 48年度 要保護の補助決る 熊本県主催で懇談会(東京渋谷)修旅で意見を交換 全修協 第14回通常総会開く 2月22・23日熱海で 全修協広島県支部長 大西八郎氏 逝去</p> <p>風紋</p>
		(2)	<p>ことしの抱負 :さまざまな旅(全修協愛媛県支部長 仙波勉) :学究的に向上(全修協島根県支部長 相墨登一郎) :旅のこころ(福岡県教職員互助会事務局長 森田則一氏) :研旅の“三徳”(新潟県教職員厚生財団常務理事 徳橋新次氏)</p> <p>研修旅行 春の3コース「四国」「九州」に「南近江と飛鳥」も加え 研修行事も充実 :沖縄研修旅行に参加して(鹿児島県加治木町 伊達スミ氏)</p>
		(3)	<p>来年度・近畿の修学旅行 信州コース激増へ 遂に10万人突破 近修委希望調査まとまる さかんな新・増築 各地の修学旅行宿舍 さるびあ丸就航 東海汽船 東京-伊豆大島に</p> <p>ことしの抱負 :ウシの歩みで(全修協佐賀県支部長 菊池武貞) :真価発揮の時(全修協大分県支部長 貞池富夫) :足もとを開拓(全修協三重県支部長 西山文男) :理解と協力を(全修協兵庫県支部長 魚谷時太郎) :旅と日本民族(全修協東京都支部長 青山良道) :研旅の多様化(全修協長崎県支部長 田崎辰夫)</p> <p>全福協 第2回理事会 教職員福祉厚生運動を報告 写真コンクール北海道知事賞 中野・山田両氏に</p>
		(4)	<p>関修委現地研修同行記 琵琶湖、京都、吉野をめぐって(浦和市白幡中学校長 佐々木公彦氏) :修学旅行に転換期 近江路散歩[5] 湖北路は戦国の史跡(能登川高校教諭 渡辺守順氏) 郷土の玩具 伝統うけつぐ素朴さ 信州と飛騨</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第135号	昭和48年 3月10日 (1973年)	(1)	全修協通常総会開く 同志の決意も堅く 第2期の目標達成へ :機構整備、前進へ 山本理事長の挨拶から 風紋
		(2)	総会グラフ 地区会議で検討 全修協第34回役員会開く 特別委員会の設置へ 運動展開に協力布陣 特別委活動に期待 解説 さかんな船づくり 旅の海洋時代を迎う :新さくら丸誕生 大島運輸 東京ー沖縄航路に :「すみよし」も就航 名門カーフェリー :「さんふらわあ5」 日本高速フェリーで完成 :おりおん丸も 大洋フェリー 大阪と北九州(苅田)に就航 観光事情の説明会 愛知県の主催で開く(新宿小田急百貨店) スライド「古墳」 奈良歴史教室で上映
		(3)	国鉄の値上げ反対 修学旅行界で陳情 現行で据置を“実施に支障がでる”と :陳情書…全修協、三地区修旅連絡協、関修委、近修委、東海三県修旅委 “付添い旅費”確立へ 全修協など運動展開 49年度あおぞら号近畿地区 8万5千余名運ぶ 三地区修旅連絡協で第三回協議会開く 人員超過で再調整 関修委運営委で定める 東海三県の編成委 名称を変更「東海三県中学校修学旅行委員会」
		(4)	夏の教職員研修旅行募集はじまる 17コースで実施へ「海外教育事情視察」も 近江路散歩 [6] 史跡も豊かな湖西路(能登川高校教諭 渡辺守順氏)
第136号	昭和48年 4月10日 (1973年)	(1)	三地区連絡協ひらく 理論と実践を推進 新コース、輸送打開も 2県支部長が就任 神奈川県 大庭和夫氏、福島県 佐々木二郎氏 全修協高知県前支部長 中沢義之氏 死去 春の研修旅行 好天に恵まれ 3コース無事終わる 風紋
		(2)	研修旅行募集はじまる 研究行事がいっぱい 締切り前満員のコースも
		(3)	ご苦労さま 半生を修学旅行に 大任はたして千葉柏中高橋校長、教壇を去る 修学旅行は船でどうぞ 海運会社がハッスル フェリーも勢ぞろい わかくさ号表示板 国鉄、全修協へ寄贈 近く「わかば号」も大阪事務所へ
		(4)	飛鳥断片 [1] 全国に残る地名 『1.飛鳥とは/2.各地の飛鳥/3.大和の飛鳥』 (近畿日本ツーリスト株式会社常務取締役 桑原守也氏) 近江路散歩 [7] 詩情ただよう琵琶湖(能登川高校教諭 渡辺守順氏) 集印帖 南禅寺・勸修寺 史跡めぐりは自転車で 近鉄沿線にレンタサイクル 宿泊料金を改正 オリンピック記念青少年総合センター
第137号	昭和48年 5月10日 (1973年)	(1)	“新幹線をふやして” 名古屋市の中学校 修学旅行の調査から 富士五合目に人気 :目的地・校数と利用列車/印象深かった見学箇所/ 持参するおやつとその費用/カメラと時計は/旅行費はいくら :ゆとりある日程で 学校の意見 旅行先・日程/旅館について/交通について 論点 快適な修学旅行を～実態調査結果をかえりみて～ (名古屋市中学校修学旅行委員会委員長 横山正氏) 風紋
		(2)	ことしも研修旅行へ 海外ふくめ18コース 満員近し、申込はお早く 第10回東京私学現地研修会 美濃路の探究 筑紫野(俳句)(春の研修旅行西九州コース参加者 中野つた子氏)
		(3)	来年度の修学旅行輸送計画きまる 関東、信州へ19万名(近畿) 東海は「こまどり」併用 :関東地区 近畿地区 東海地区 一部の学校は延期 交通ゼネストに対処 本年度の役員決る 埼玉県修旅委 第62回運営委開く 関東地区修旅委で 教育一途に生きた故中沢義之氏の信念
		(4)	飛鳥断片 [2] 古墳奇石の群れ 『4.石造遺物』 (近畿日本ツーリスト株式会社常務取締役 桑原守也氏) 近江路散歩 [8] 歴史いろどる山と峠(能登川高校教諭 渡辺守順氏) 郷土の玩具 素朴に故事を生かす 獅子頭など 団体拝観料 京都の社寺値上げも

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第138号	昭和48年 6月10日 (1973年)	(1)	付添旅費を別枠に 北海道教委 本年は1億8千万円 7千名が増加 49年度 関東地区の新幹線利用 河野正夫理事逝く 全修協運動に功績残して 昔を語る友いまはなく 山本種一氏談 全修協新潟県支部長に徳橋新次氏が就任 三地区連絡協開く 風紋
		(2)	研修旅行の申込殺到 緑と水をもとめて 魅力あふれる各コース アルバムひろげて 全修協東京都支部主催で 研修旅行思い出を語る会 阿蘇(俳句)(春の研修旅行九州コース参加者 吉田アヤ子氏)
		(3)	関修委運営委ひらく 新会長に佐藤武男氏 枠の拡大を検討 へき地補助金8月末までに結論 文部省 3年間の実態調査 東京私学修旅研究調査会で 新さくら丸誕生 大島運輸 東京ー沖縄間に わかば号の表示板 役目終えて全修協へ 大和路を語る会 九州の高校対象に 東京ー小倉に就航 東九フェリーの「とね」 氷川丸が資料館に ホテル営業振るわず 回転椅子 郷土料理 集印帖 三宝印・金地院
		(4)	飛鳥断片 [3] 謎の多い石造物 『4.石造遺物(つづき)』 (近畿日本ツーリスト株式会社常務取締役 桑原守也氏) 補助活動進む 京都市文化観光資源保護財団 目標達成も間近か 近江路散歩 [9] 暮らしを支えた産業(能登川高校教諭 渡辺守順氏) 郷土の玩具 いまなお民衆のなかに 木うそなど
第139号	昭和48年 7月10日 (1973年)	(1)	青森県 修学旅行基準を改正 小・中学校は1泊増 6年ぶり現場の要望とおる 東海三県中学校修旅委 中山氏が委員長に 第四回三地区連絡協ひらく 現場感覚注入へ 風紋
		(2)	研修旅行いよいよ開幕へ 7月21日に第1陣 光を求めて6千名が 住居の誕生(国学院大学教授 樋口清之氏) 大和文化会の6月例会の後援から
		(3)	修旅列車を優先運転 関修委運営委で報告 栃木県中学校修旅部会総会 新部長に伊藤守氏 新幹線専用列車増設を要望 兵庫県修旅委開く 斎藤武人委員長を再任 全教互第24回総会 田畑会長を再選 全修協青森県支部役員総会 強力に事業推進 車はふえてもガイドが不足 三地区修旅連絡協で検討された意見 本(修学旅行ガイド「秋田」県政、文化財などを解説) 富士観光開発会社でロッジ新館が完成(富士緑の休暇村)
		(4)	箸墓考 [上] 神話の中の古墳(全修協事務局長 白滝末紀) 近江路散歩 [10] 風土に育つ豊かな味(能登川高校教諭 渡辺守順氏) 郷土の玩具 農事の信仰にひと役 ワラ馬など 民族学博物館 51年、万博敷地跡に
139号とじこみ 研修旅行ガイド (1973年)	昭和48年 7月10日	(1)	48年夏教職員研修旅行ガイド ご参加の皆さまへ:全修協研修旅行実施本部長 ご注意など 集合について 集合場所案内図 研修旅行問合わせ先一覧表
		(2)	写真コンクール ふるってご応募を 北海道観光連盟賞も 知事賞に花添える 連絡本部旅館一覧

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第140号	昭和48年 8月10日 (1973年)	(1)	<p>修学旅行の実態調査 東京の私立高校 :九州方面が圧倒的 輸送にフェリーも登場 :余裕のある三月に／奈良コースも漸増／飛行機の利用校も :修学旅行実施の有無、実施学年 実施時期、目的地、交通機関、 旅行費、学校側意見 緑の学校研究会(都内) 長野県の主催で 風紋</p> <p>(2) 夏の研修旅行終了へ 緑を満喫した6千名 18コースで快適な旅 写真コンクール 日本海博ひらく 北陸の夢を展示 金沢市 大和文化会 秋の史跡見学旅行 近江・奈良大和路へ</p> <p>(3) 近畿二府四県修旅委で久保田委員長再選 付添旅費は枠外で 埼玉県修旅委が運動 滋賀県 二泊三日の中学校用モデルコースを 歴史・技術を組み合わせ 新コース鈴鹿と古都を結ぶ(ホンダランド) 男鹿国定公園誕生 5月15日 41番目の国定公園</p> <p>(4) 箸墓考〔下〕 古代の謎を推理する(全修協事務局長 白滝末紀) 修学旅行のスポット 江戸城の名残り 皇居東御苑 郷土の玩具 簡素な笹野彫と赤べこ 東北地方 “お白石持”の行事 伊勢神宮遷宮祭の前に</p>
第141号	昭和48年 9月10日 (1973年)	(1)	<p>へき地への拡大は見送り 49年度修学旅行の補助金要求 中学生1万700円に 専用列車の増設を :乗りつぎも円滑に／関修委が国鉄に要望／難点は通勤時運転 千葉県修旅委の役員 山形氏が委員長に 風紋</p> <p>(2) 研修旅行に参加して アイヌの実態を知る 北海道一周コース (青森県教育厚生会福祉課長 鈴木広氏) 四国紀行(研修旅行 四国一周コース参加者 伊藤亀雄氏) 研修旅行アルバム みちのく(俳句6篇)(研修旅行 東北一周コース参加者 本多英佐子氏) 四国路(短歌9篇)(研修旅行 四国一周コース参加者 伊藤孝太郎氏) 下中記念財団で300万円の助成金</p> <p>(3) 近修委で希望コースを調査 中国地方加え 50年度信州地区は飽和状態 静岡のフィールドワーク(1) 新教材を授業に活用(静岡大学教授 岩橋徹氏) 郷土の玩具 木彫りから練りものへ 吉良の赤馬 科学技術館で入館料を改訂 来年4月から実施</p> <p>(4) [文化] 豊かな海との協調 沖縄国際海洋博覧会 :船のクラスター 科学／技術のクラスター 民俗／歴史のクラスター :魚のクラスター／アクアポリス(竜宮城の現代版 輝く五彩の光) 海の無い県に海神社 奈良・近鉄沿線に2社も 海人族進出の名残り (近畿日本ツーリスト株式会社 常務取締役 桑原守也氏) 展望車 バイコロジー(国鉄・広報部提供)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第142号	昭和48年 10月10日 (1973年)	(1)	望ましい修学旅行座談会[1] 生涯教育の一環に 東京都中学校の実践にきく 修学旅行向上のために／人間づくりに貢献／綿密な指導体系を 風紋
		(2)	研修旅行 思い出も新たに“旅の心”を語る会 アイヌ問題に惹かれる(北海道研修旅行参加者 千々岩敏子氏) ゆく雲(俳句6篇)(研修旅行立山木曾飛騨コース参加者 吉成石汀氏) アジア歴史の旅(上) 韓国の遺跡をさぐる(全修協茨城県支部長 永井熙) 風雪に耐える石仏群 遺物は興亡の哀感を秘めて
		(3)	中国方面に131校 近修委で希望コース調査 :信州の混雑は解消へ 50年度列車編成を国鉄へ申請 公費負担など検討 岐阜で三地区連絡協開く 大阪府教互で創立25周年式典 関修委で第66回運営委開く 全修協各支部で反省会 研旅に貴重な資料 静岡のフィールドワーク[2] 富士山の成立を追及(静岡大学教授 岩橋徹氏)
		(4)	[文化] 多胡碑 みなぎる未完の美 新郡制の喜び伝う(全修協広報部長 早川泰雄) 仏との出会い 親鸞における法悦の世界(兵庫県広原寺住職 村上高信氏) 三重の円空 珍しい三尊像も現存(近畿日本ツーリスト株式会社常務取締役 桑原守也氏) :一宿一飯のお礼に刻んだ
第143号	昭和48年 11月10日 (1973年)	(1)	望ましい修学旅行座談会[2] 東京・中学校の実践にきく :計画は全校を挙げて／ふえる現地の分散型 風紋
		(2)	研修旅行写真コンクール 推薦作品には高野氏 :北海道知事賞 北海道観光連盟賞他 総評 研修旅行の作品 山陰の旅(三島市南田町 井上西三氏)
		(3)	第5回三地区修旅委連絡協で 積極策を進める :費用の軽減から／50年度 輸送力確保も重点に あおぞら号近畿地区運営協議会 乾会長を再選 第66回関修委運営委で 輸送の最終案検討 静岡のフィールドワーク[3] 目前に大自然の驚異(静岡大学教授 岩橋徹氏)
		(4)	[文化] アジア歴史の旅(中) 韓国の遺跡をさぐる(全修協茨城県支部長 永井熙) :古都も並木のかげに 点在する王陵や寺院はひっそりと 寺内町・発展の歴史(近畿日本ツーリスト株式会社常務取締役 桑原守也氏) :自由都市の面影残る 富田林と今井に旧家の遺構
第144号	昭和48年 12月10日 (1973年)	(1)	望ましい修学旅行座談会[3] 東京・中学校の実践にきく :分散には条件が必要 雨天の場合も考えよう／量数も料金次第 風紋
		(2)	補助金に続き職専免(福島県) 研修旅行の公共性認め [旅] 来年の研修旅行決る 3季で25コース設定 第17年次迎え内容充実 :特別研修コース／夏季コース／第11次海外教育視察団
		(3)	関修委と国鉄が協議 50年度計画は流動的 :社会情勢もからんで 専用列車1本の原則守る :日光コースが増加 名古屋市修旅委実態調査でわかる 滋賀県 来年7月に湖西線開通 修学旅行誘致に拍車 思い出の植樹 富士緑の休暇村で修学旅行生たち 関修委の運営委 12月20日午前11時から東京都教育会館で開く 奈良県主催の“大和路を語る会”は1月20日 茨城県水戸市で開く
		(4)	[文化] 修学旅行の作文 流動する東京(名古屋市立御田中学校3年 落合いずみさん) 残照に浮かぶ武蔵野 埼玉・平林寺 落葉の小路は冬枯れて アジア歴史の旅[下] 韓国の遺跡をさぐる(全修協茨城県支部長 永井熙) :出土品で飾る博物館 神鐘にまつわる少女の悲話も [本] 樋口清之著「日本史再発見」歴史にふれる手掛りに

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第145号	昭和49年 1月10日 (1974年)	(1)	輝く新春を迎う :人間育成のために(文部大臣 奥野誠亮氏) :輸送確保に全力を(運輸大臣 徳永正利氏) :安全第一主義で(国鉄総裁 藤井松太郎氏) 風紋
		(2)	新年を迎えて :修学旅行も転換期(全修協理事長 山本種一) :真価を発揮する時(全国連合小学校長会長 小山昌一氏) :教育的意義見直す(全日本中学校長会長 片寄八千雄氏) :適切な生徒指導を(全国高等学校長協会会長 土肥輝雄氏) :難局のり越えよう(日本教職員組合中央執行委員長 楨枝元文氏) :豊かな修学旅行に(日本高等学校教職員組合中央執行委員長 小森秀三氏) :こころ豊かに(全修協兵庫県支部長 魚谷時太郎) :使命発揮の年(全修協大阪支部長 西岡権治郎)
		(3)	新年を迎えて :国土への愛を(全修協理事・北海道支部長 高田治郎) :初心にかえる(全修協新潟県支部長 徳橋新次) :高い運動評価(全修協中央研修部幹事 伊藤喜蔵) :事業の前進を(全修協宮崎県支部長 田尻貴) :期待の団体に(全修協中央研修部幹事 中島欣一) :旅を味わおう(全修協愛媛県支部長 仙波勉) :難関克服して(全修協理事・山形県支部長 完戸一郎) :実力の発揮へ(全修協三重県支部長 西山文男) :同志とともに(全修協徳島県支部長 近藤清) :地道な運動で(全修協中央研修部幹事 貞池富夫) :中南米までも(全修協監事 芦田重左衛門)
		(4)	新年を迎えて :生きた勉強に(全修協秋田県支部長 高橋堯) :目的ある旅を(全修協東京都支部長 青山良道) :旅のモラルを(全修協理事 岡本仁) :価値高い旅行(全修協山口県支部長 開地茂行) 伊賀のことども 文化の導入も早く(近畿日本ツーリスト株式会社常務取締役 桑原守也氏)
第146号	昭和49年 2月10日 (1974年)	(1)	望ましい修学旅行座談会 [4] 東京都中学校の実践にきく :問題抱える遠隔校ノバスガイド不要かノ代休のやりくりも 風紋
		(2)	全修協総会ひらく(2月7・8日)積極策の推進誓う 研修旅行募集始まる 3月下旬3コースで 特別研修も加えて実施 冬の研修旅行終る 北海道地区
		(3)	第7回関修委研究会開く 人とのつながり協調 :中学校の修学旅行原点に戻そう 第6回関修委運営委ひらく 東海三県中学校修旅委が業界と懇談会 直前の値上げ困る :旅館の接遇に論議集中 :バス協会 燃料確保運動を
		(4)	[文化] 研修旅行の作品 山陰の旅(井上西三)【つづき】 札幌 屯田兵の建物 史跡に衣がえ 歴史の道 [1] 絹の道 明治の財政を支える 異人館や生糸豪商の屋敷あとも (郷土史家 三浦富雄氏) 郷土の玩具 面白いおめでたづくし 香川の嫁入人形
第147号	昭和49年 3月10日 (1974年)	(1)	第15回全修協総会開く 総力あげ運動展開へ 出席の全員が誓いあう :不屈の精神で前進(全修協理事長 山本種一)挨拶要旨 風紋
		(2)	望ましい修学旅行座談会[5] 東京都中学校の実践に聞く ※つづく :分散型は全国的傾向 古代への思慕をー仁徳陵随想ー(全修協常務理事・事務局長 白滝末紀)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第148号	昭和49年 4月10日 (1974年)	(1)	望ましい修学旅行座談会 [5] 東京都・中学校の実践に聞く ※つづき :疲労度違う新幹線 無駄な時間が多い 風紋
		(2)	春の研修旅行終わる 好評うけた各コース 参加者の声“学年末を有意義に” :西九州コース、沖縄・石垣コース、難波・飛鳥・大和の古文化探究コース 歴史の道[2] 絹の道 石垣に繁栄しのぶ 鉄道開通で人通りもなくなって
第149号	昭和49年 5月10日 (1974年)	(1)	別枠付添い旅費獲得 本年度は3,000万円 埼玉県修旅委の運動みのる :一人当たり約7,000円 これを突破口にして 北海道教委で基準改正 距離制に切りかえ 東海三県の中学校で 来年度輸送計画きまる 近畿二府四県修旅委 新役員の顔ぶれ 風紋
		(2)	夏の研修旅行 精選コース勢揃い 申込はお早く 歴史の道[3]絹の道 黙して語らぬ石の垣 やがて桑の木は根こそぎに (郷土史家 三浦富雄氏)
第150号	昭和49年 6月10日 (1974年)	(1)	本年度 要保護の修旅補助金 中学生1万100円に へき地も同額 小学生は3,400円 三地区修旅連絡協開く 組織あげ実態調査 本年度の近修委 新委員の顔ぶれ 「修学旅行のための大和路を語る会」秋田・山形・福島で 風紋
		(2)	修学旅行生に安眠を 東京本郷消防署 人命守る裏方さん ぶらじる丸が鳥羽で教育施設に 教職員の研修旅行7月6日まで受付中 高松塚古墳 壁画の意味するもの一模写の一般公開に寄せてー (関西大学教授 網干善教氏)
号外 第16回 研修旅行版	昭和49年 7月5日 (1974年)	(1)	第16回研修旅行はじまる 光と緑を求めて 出発日と出発時刻 ご参加の皆さまへ(全修協研修旅行実施本部長 白滝末紀) 研修旅行問合わせ先一覧表
		(2)	集合場所案内図 連絡本部旅館一覧
第151号	昭和49年 7月10日 (1974年)	(1)	修学旅行補助金制度ひろがる 倍増や校外活動にも 東京 秋川、羽村、立川など 関修委総会ひらく 活動目標を決定 風紋
		(2)	最高の成績おさめて 研修旅行はじまる 教職員六千余名が参加 研修旅行写真コンクール 北海道コース 知事賞、道観連賞も 集印帖 中尊寺、毛越寺 横顔 愛される人柄で 全修協青森県支部長
		(3)	近修委 輸送計画まとまる 関東など3コースで 50年度656校の168,000名 岡山県の修学旅行 ほとんどが九州へ 本年から専用列車運転 台風8号・新幹線の運転中止 応急措置で全員運ぶ 修学旅行 栃木県23校が影響 延期校の日程決る 別館・比叡が8月1日開業 延暦寺会館 さっぽろ丸が8月から就航 日本沿海フェリー
		(4)	夏を色どる風物詩 京都の祭り(11箇所) 歴史の道[4] 絹の道 新河岸川 早船で運ぶ江戸の味(郷土史家 三浦富雄氏)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第152号	昭和49年 8月10日 (1974年)	(1)	栃木県 修旅部会の総会開く 強力な事業計画決る 部長に伊藤守氏が再選 本年度の教育予算 千葉県修旅委で検討 風紋
		(2)	特集 湖西線が開通 琵琶湖に沿って74キロ 周辺に豊富な文化財 ポイントは比叡山 山頂に自然の公園 琵琶湖八景 近江八景 味覚と特産品 滋賀県修学旅行誘致促進協議会
		(3)	あおぞら号 50年度の輸送計画 伊勢へ85,000名 近畿地区運営協で決定 教育理論たてよう(栃木県中学校修学旅行部長 伊藤守氏) 修旅委をふりかえる 教師全部が考えよ(前近畿修学旅行委員長 久保田八郎氏) 意義深める運動へ(前茨城県中学校修旅委員長 介川容介氏) さっぽろ丸が就航 日本沿海フェリー 東京ー苫小牧間に
		(4)	研修旅行の作品 鮎の宿(俳句10篇)(研修旅行 木曾立山飛騨コース参加者 秋吉良子氏) さいはての旅(俳句8篇)(研修旅行 北海道一周コース参加者 山田操氏) 古代の群馬を探る[1] 端緒をひらいた岩宿(群馬県中学校長会長 石井清二郎氏)
第153号	昭和49年 9月10日 (1974年)	(1)	修学旅行の補助金要求 文部省 中学生14,400円要保護 50年度 へき地は特殊性考慮して 全修協の実態調査から[1] 値上げ攻勢続く 修学旅行 父兄負担も重く 全修協栃木県支部長 北条虎雄氏 死去 全修協運動に功績残す 風紋
		(2)	研修旅行の作品 家族で楽しんだ研修旅行[1] 洞爺湖でボートも (研修旅行北海道コース参加者 中西道子氏) 殉教の地に立って 目をおおう原爆資料[上] (研修旅行九州一周コース参加者 山田永子氏) 北海道の旅[短歌8篇](研修旅行北海道一周コース参加者 藤原美代子氏) 郷土の玩具 素朴な姿の紙づくり 浜松・紙凧 松江・人形
		(3)	都立神代高校の体験実習 弘前市農協で受入れ リンゴ収穫の作業を 修学旅行の基準調査 本年度も全修協で 関東・東海・近畿 近く第7回連絡協 来年度の関東地区中学校 新幹線で関西へ572校 11万4000名を運ぶ 車イスの修学旅行 スクール・メイト・バス 京都市内で運行 自由時間を活用 高校修学旅行に新企画 三重県公立学校職員互助会 設立20周年の式典 東京ー松阪 航路ひらく 10月17日からフジフェリー
		(4)	古代の群馬を探る[2] 価値高い土偶の発見(群馬県中学校長会長 石井清二郎氏) 期待される沖縄国際海洋博 来年7月20日から開催 海上に浮かぶ都市も
第154号	昭和49年 10月10日 (1974年)	(1)	全修協の実態調査から[2] 物価狂乱ひしひしと 修学旅行2年間に倍額の例も 時論 修学旅行シーズンを終えて[1] 集団暴力事件を憂う(全修協研究調査部長 岩崎武夫) 風紋
		(2)	ことしの研修旅行アンケートから[1] 北海道A、北海道B、知床・納沙布、利尻・礼文島コース 飛行機の利用は満点 講演も有意義だった 研修旅行の作品 美しく雄大な山なみ にえたぎる火口へ[中] (研修旅行九州一周コース参加者 山田永子氏) 開拓者の苦労も知って[2] 魅せられた層雲峡 (研修旅行北海道コース参加者 中西道子氏) 北海道の旅[短歌7篇](研修旅行北海道一周コース参加者 藤原美代子氏)
		(3)	仲よし修学旅行 鷗友学園中学校 山村の子どもと交歓 来年は10回目岩手県の柳沢校へ 関修委 基本調査を実施 12月には現地研修会 全修協の研修旅行 6,000名突破へ 史上二回目の好成績 [本]「新幹線当世膝栗毛」時計に合わせる新旅行案内 「修学旅行のしおり」九州各県を平易に解説 ホンダ・ランド本社移転
		(4)	古代の群馬を探る[3] 縄文期の気候と住居(群馬県中学校長会長 石井清二郎氏) 17人の修学旅行 団体割引なし(上野動物園・国立博物館) 京都市内の寺院で 庭園など特別公開

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第155号	昭和49年 11月10日 (1974年)	(1)	修学旅行 三地区連絡協が調査 現実の姿をとらえる 時論 修学旅行シーズンを終えて[2] 集団暴力事件を憂う (全修協研究調査部長 岩崎武夫) 風紋
		(2)	研修旅行写真コンクール 推薦作品には大鹿氏 北海道知事賞 北海道観光連盟賞他 総評 ことしの研修旅行アンケートから[2] 東北一周、陸中海岸、佐渡・磐梯、木曾・立山・飛騨コース 部屋割りは良い 研修行事をふやして
		(3)	修学旅行専用列車のダイヤ 決定発表は年末に 国鉄本社50年度春季 総合的な検討重ねる 万全を期した上で 全修協の実態調査から[3] 軒なみアップ 中学校の修学旅行 香川、愛媛、宮崎、熊本県 中国展におもむ[1] 逞しく伸びる生産(全修協事務局長 白滝末紀) 郷土の玩具 伝説と風習を象徴 東京・みみずく 長崎・子泣相撲
		(4)	古代の群馬を探る[4] 貴重な樽式土器発見(群馬県中学校長会長 石井清二郎氏) 研修旅行の作品 来年もぜひ研修旅行に[3] 岩と滝のある風景 (研修旅行北海道コース参加者 中西道子氏)
第156号	昭和49年 12月10日 (1974年)	(1)	51年度の基本計画 コースは3方面に 近修委が方針打ち出す 茨城県中学校修学旅行委員会 組織の強化策など協議会で検討重ねる あおぞら号近畿地区協 51年の計画検討 役員も選出 三地区修学旅行の実態調査 来年一月に発表 関修委現地研修会実施 関修委で12月10日に運営委員会開く つなぎ列車の確保 栃木県が国鉄に要請 風紋
		(2)	来年の研修旅行 19回迎えて新構想 意義深い特別研修も 3季制 海外を含めて30コース 出発と会費・日程[1] 研修旅行特別委で誓い合う 1万名突破へ総力
		(3)	29年ぶりの修学旅行 名古屋明治小のOBたち 在校生といっしょに 12月から法隆寺で拝観料改正 中国展に思う[2] 美の極致示す工芸(全修協事務局長 白滝末紀)
		(4)	[本]「教育会館物語」 克明な県教育史(青森県) 古代の群馬を探る[5] 布を織る機会も出現(群馬県中学校長会長 石井清二郎氏)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第157号	昭和50年 1月10日 (1975年)	(1)	輝く新春を迎う 人間回復の絶好機(文部大臣 永井道雄氏) 交通公害の防止策(運輸大臣 木村陸男氏) 風紋
		(2)	新年を迎えて 先ず安全対策から(国鉄総裁 藤井松太郎氏) 新しい年の課題と取り組み(全修協理事長 山本種一) 共に学ぶ修学旅行(全国高等学校長協会会長 成田喜澄氏) 洗い直しを図ろう(全日本中学校長会会長 片寄八千雄氏) 修学旅行は公費で(日本教職員組合中央執行委員長 榎枝元文氏) 国土愛の修学旅行 (関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連絡協議会会長 中山正秋氏)
		(3)	新春を迎えて 楽しい修旅を(全修協大阪支部長 西岡権治郎) 計画に配慮を(全修協愛媛県支部長 仙波勉) 寿修学旅行も(全修協青森県支部事務局長 伊藤喜蔵) サービス強化(大分県教職員互助会事務局長 広畑博氏) 風雪にたえて(全修協宮崎県支部長 田尻貴) 課題を明確に(全修協秋田県支部長 高橋堯) 諸特典の活用(山形県教職員互助会事務局長 酒井充氏) 冬の北海道へ(全修協理事・北海道支部長 高田治郎) 昔の研修旅行(和歌山県教育互助会事務局長 阪上広雄氏) 参加者の共感(全修協新潟県支部長 徳橋新次) 暖かい奉仕を(大阪府教職員互助組合常務理事 中島欣一氏)
		(4)	新春を迎えて 水準を高めて(大阪府教職員互助組合事務局次長 神代義秀氏) 中国へ行こう(全修協山形県支部長 完戸一郎) 新時代の旅行(新潟県教職員厚生財団常務理事 笹川正人氏) 遠隔地対策も(青森県教育厚生会福祉課長 鈴木広氏) 新制度の活用(全修協三重県支部長 西山文男) 専用の宿舎を(近畿二府四県修学旅行委員会委員長 北牧一雄氏) 児童の交流も(あおぞら号近畿地区運営協議会会長 乾英三郎氏) 苦難のり越え(関東地区中学校修学旅行委員会会長 佐藤武男氏)
第158号	昭和50年 2月10日 (1975年)	(1)	本年度予算 要保護の修旅補助金 中学生13,500円 へき地も同額 小学生は4,800円 父母負担の軽減 三地区協で運動方針 全修協 第16回通常総会開く 3月5,6日、熱海で 引率旅費の獲得へ 旅行地は関西方面が好適 (関東地区中学校修学旅行委員会会長 佐藤武男氏) 全修協栃木県支部長に梅沢茂氏が就任 風紋
		(2)	新生中国視察記[1] 衣食たりて礼節(全修協理事・山形県支部長 完戸一郎) 研修旅行の募集開始 春季 異色の6コースで 研修旅行の作品 心に残る九州の旅 薩摩半島も思い出の一つ[下] (研修旅行九州一周コース参加者 山田永子氏) 自然との信頼感を 新しい年を迎えて(兵庫県学校厚生会理事長 白淵義雄氏)
		(3)	専用船ご苦労さま わかば丸・ふたば丸 老朽化で廃船 新造船を期待 運営協は強化存続へ 新鋭観光船で代替 関修委が大宮市で研究発表会を開く ひかり号を2本に 関修委で申請きめる 近修委の調査 新幹線増発を要望 四国と九州ふえる 埼玉県修旅委で運動の強化を決定
		(4)	古代の群馬を探る[6] 一万基以上の古墳が(群馬県中学校長会長 石井清二郎氏) 群馬県内のおもな古墳 [本]「梅干と日本刀」優れた科学性日本人の知恵 「近畿の旅」完成 関修委監修・関東五県修旅委が編集

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第159号	昭和50年 3月10日 (1975年)	(1)	全修協第16回通常総会開く 強力に施策の推進へ 全組織の活動を期待 主な事業計画 歴史の転換期迎う(全修協理事長 山本種一) 風紋
		(2)	新生中国視察記[2] 3年の食糧備蓄(全修協理事山形県支部長 完戸一郎) 春の研修旅行満員 夏季コース申込みを受付中 中尊寺修学旅行記 未来への文化遺産(秋田市立勝平小学校6年 大塚悦子さん)
		(3)	三地区修旅連絡協開く 先ず補助金獲得を 加盟地区拡大も要望 ひかり号の増発を 関修委・近修委 国鉄へ陳情 12万名に大幅ふえる・関東 中国と九州へ9万名・近畿 修旅生にお小遣い 埼玉・騎西町で
		(4)	古代の群馬を探る[7] 土器の母体も発掘へ(群馬県中学校長会長 石井清二郎氏) [本]「宮崎・修学旅行のしおり」生徒向きに好編集
第160号	昭和50年 4月10日 (1975年)	(1)	関修委・近修委 新幹線の増発要望 決定、微妙な段階 混雑時・つなぎ列車で難航 強力に要請修旅委側 車内にあふれる若さ 修学旅行シーズン迎う 修学旅行 九州へ初名乗り 近畿 新幹線延長を機に 駒場東邦で修旅手引書 学習用設問に特色 風紋
		(2)	ことしも研修旅行へ 16コースで実施 夏季 教育的行事を盛って 特別研修コース 北海道 沖縄国際海洋博 尾瀬の探勝 万葉史跡(筑紫路) 東北、四国一周、南紀・伊勢志摩コース 四国路にて(短歌他)(研修旅行四国路コース参加者 山本利左衛門氏)
		(3)	関修委の研究会開く オリエンテーリング導入の新企画 埼玉加須北中が経験発表 幻想的な旅はいかが 世界メルヘンの館 鈴鹿サーキットに建設 つなぎは一般混乗 東北線、乗務員不足で 運営委員会 関修委で開く
		(4)	新生中国視察記[3] 権力下の史跡も(全修協理事山形県支部長 完戸一郎) 古代の群馬を探る[8] 珍しい石積みの古墳(前群馬県中学校長会長 石井清二郎氏)
第161号	昭和50年 5月10日 (1975年)	(1)	国鉄スト 修学旅行列車走らず 代替策で万全 全修協・修旅委 呼応して二面作戦 3方面へ約19万名 近修委 来年度の割当て決る 来年度も混乗で 東北線 関修委でつなぎ列車対策 中国九州のモデルコースを作成 近畿日本ツーリストで 三地区協総会開く 風紋
		(2)	もりあがる研修旅行 申込み三千名突破へ 昨年より二十日も早く到達 多彩な17コース 北海点景(俳句12篇)(研修旅行北海道一周Bコース参加者 田上和美氏)
		(3)	札幌北陵高校 グループ見学に成果 一年かけて事前調査 貴重な資料まとまる 友情深める場にも 京扇子:二年二組女子、京都の味:二年三組男子、各ねらいとまとめ 茨城県中学校修旅委開く ブロック組織確立へ 新委員長に吉田四郎氏 水戸市幹事会設け運営 社寺の団体拝観料[1] 京都・四月から 相馬市立中学校3校生徒の国鉄ストによる修旅中止への抗議文まとめ
		(4)	富山県の文化財[1] 雷鳥伝説も多い(富山県教職員厚生会業務係長 清水巖氏) 立山の生い立ち/立山開山の伝説/神の使い“雷鳥”/ 立山信仰と売薬/立山と国指定の文化財 古代の群馬を探る[9] 上代を知る手がかり(前群馬県中学校長会長 石井清二郎氏)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第162号	昭和50年 6月10日 (1975年)	(1)	<p>関修委の本年度総会開く 基本方針を決定 修旅の公費負担など 会長に海保氏就任／要保護対策も推進／本年度の役員 総会挨拶[要旨](会長 海保四郎氏、全修協理事長 山本種一) 来年度は12万名に 東海地区 新幹線とこまどり号で 風紋</p>
		(2)	<p>研修旅行 全国で爆発的人気 早くも5千6百名に 沖縄国際海洋博 紺ぺきの海に展開 色とりどり、出品競う 全修協青森県支部で役員総会開く 大和路を語る会 九州各市で開く ストで出発日変更 東海三県の修学旅行 関修委の新幹線割当て 完成は七月中旬に 関修委の会則[1]</p>
		(3)	<p>韓国へ修学旅行 青森県の松風塾高校 友情深めた親善の旅 日本文化の源流も知る 柳・文相の招きで 同校教諭の話 養護学校教諭の読売新聞投書の内容 日帰り東京湾めぐり 都観光連と東海汽船 洋上教室をひらく 研究調査協力校[1] 団体拝観料[2] 京都の社寺</p>
		(4)	<p>古代の群馬を探る[10] 古墳の主を語る碑文(群馬県中学校長会長 石井清二郎氏) 富山県の文化財[2] 魚津の三大奇観(富山県教職員厚生会業務係長 清水巖氏) 集印帖 東大寺・金剛福寺 京都・七月の行事</p>
第163号	昭和50年 7月10日 (1975年)	(1)	<p>第8回三地区連絡協ひらく 本年の計画決る 目標を集団指導に 基本態勢の位置づけ 新役員きまる 会長に海保氏 作文集発行を計画／補助金増額運動も 風紋</p>
		(2)	<p>夏の研修旅行 7000名ライン突破 教育現場の支持増す 全修協新潟県支部長に笹川正人氏が就任 交歓つづけて10年 鷗友学園が記念の修学旅行 お土産も沢山持って 本年度近修委の役員決る 委員長に粕本氏再選</p>
		(3)	<p>三地区の基本調査結果 影をひそめた無用論 高い学習効果 意識調査 青森県八戸北高校 定着した自主見学 5年目迎える新方式</p>
		(4)	<p>富山県の文化財[3] 遺跡の多い氷見(富山県教職員厚生会業務係長 清水巖氏) 東京私学の現地研修会 日向・阿蘇と国東へ [本]「近江の顔」シリーズ 滋賀県から発行 関修委の会則[2]</p>
第164号	昭和50年 8月10日 (1975年)	(1)	<p>日中友好の旅へ出発 中国の招き受けて 全修協山本理事長を団長に B電車は11時12分 関東地区9時台の集約臨中止で [解説] 抜本的対策が必要 つなぎ電車運転要望 関修委運営委ひらく 修学旅行と社会科学習[1] 肌で触れた京の歴史 中学生のレポートから (都立教育研究所指導主事 江川滉洋氏) 風紋</p>
		(2)	<p>ネパール紀行 文化的な匂いも(全修協青森県支部事務局長 伊藤喜蔵) 夏の教職員研修旅行 7000名が参加 盛況のうちに終わる</p>
		(3)	<p>水戸市修旅委の活動 強力な学校集団 学年主任で幹事会 コース 各校の特徴生かす 青年の家で宿泊研修 新しい修学旅行実践 三重上野高校で成果あげる 野生動物園が誕生 日本サファリパーク会社 宮崎県佐土原町に 気象観測の特別展 科学技術館で開く 奈良の采女祭り</p>
		(4)	<p>修学旅行の作文 比叡山へ 北海道立札幌北高校 研修のねらい／研修を終えて(二年一組第四班 生徒6名) 京都慕情 青森県立八戸北高校(二年七組第十班 生徒4名) 富山県の文化財[4] 精彩な合掌造り(富山県教職員厚生会業務係長 清水巖氏)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第165号	昭和50年 9月10日 (1975年)	(1)	日本教職員友好訪華団 全修協運動に金字塔 素顔の中国で学習 各所で熱烈な歓迎を／三時間におよぶ座談会も 修学旅行と社会科[2] 詰込み主義から脱皮 ちえの宝庫ひらくカギを (都立教育研究所指導主事 江川滉洋氏) 風紋
		(2)	万葉史跡・筑紫路研修旅行記 蘇える古代への回帰(全修協事務局長 白滝末紀) 奈良・大和文華館で所蔵名品展ひらく [本]「はるかな尾瀬」朝日新聞前橋支局編 研修旅行写真コンクール お早くご応募を 沖縄国際海洋博アクアポリス十万人目の入場者は研修旅行参加者
		(3)	51年度 文部省修学旅行の補助金要求 中学生要保護14,900百円 へき地は大幅増額で対処 関修委運営委ひらく 現地研修は京都奈良へ 国鉄側から来年の輸送事情説明 「近畿の旅」編集委員会のメンバー 枚方市長に近畿二府四県修学旅行委員長 北牧氏が当選 修旅は北東北へ 首都圏の教諭招く
		(4)	富山県の文化財[5] 武将の面影伝う(富山県教職員厚生会業務係長 清水巖氏) 歴史の道[5] 井の頭池(上) 江戸で最古の上水道 縄文期の遺跡もある水源池(郷土史家 三浦富雄氏)
第166号	昭和50年 10月10日 (1975年)	(1)	[対談] 修学旅行とモラル(上) 少年蝕びむ社会風潮 大自然にかこまれて 「高原千葉村」のことなど(千葉市立緑町中学校長 時田米蔵氏) 東海三県中学校修旅委総会開く 安江氏が委員長に 栃木県修旅委で決定 全県対象に調査を 三地区協ひらく 11月14・15日、水上で 風紋
		(2)	友好訪華団の記録 全修協主催 徹底した産学協同(滋賀県教職員組合執行委員 中川泰治氏) 歴史と文化の深さ(山形県教育委員会教育長 赤星武次郎氏) 再見・中華朋友(北海道教職員組合調査部長 小関恒夫氏)
		(3)	友好訪華団の記録 全修協主催 (つづき) 育てる高い道義心(全修協栃木県支部長 梅沢茂) 八億人の素顔知る(埼玉県修学旅行副委員長 多田力氏) 一見して百考する(全修協愛媛県支部長 仙波勉) 沖縄海洋博 冬の研修旅行募集 海洋博に学生版も登場 海の未来もとめる 近畿日本ツーリスト ヤング・グループで 春季は12コースで 全修協の研修旅行
		(4)	富山県の文化財[6] 加賀百万五と越中 興亡の歴史綴る (富山県教職員厚生会業務係長 清水巖氏) 歴史の道[6] 井の頭池(下) 弁財天信仰で栄える 徳川家康が愛飲したお茶の水(郷土史家 三浦富雄氏)
第167号	昭和50年 11月10日 (1975年)	(1)	[対談] 修学旅行とモラル(下) 引率教職員の飲酒は 東京本郷の旅館街でことしも安全対策 消防署が協力 10時台のひかり号 関修委で強く要望 風紋
		(2)	友好訪華団の記録 全修協主催 すばらしい教材に(東京都杉並区立松溪中学校教諭 黒崎キヨコ氏) 祖国建設に燃える(全修協長野県支部事務局長 田口国雄) 新しい中国に学ぶ(全修協三重県支部幹事 伊藤好道)
		(3)	友好訪華団の記録 全修協主催 (つづき) 中国訪問あれこれ(秋田県学校生活協同組合専務理事 柿崎忠治氏) “自由”を誇る市民(全修協熊本県支部長 村田正実) 教育革命の推進力(都立高島高校教諭 萱原昌二氏) 古くて新しい国(全修協兵庫県支部幹事・兵庫県議会議員 村上旭氏)
		(4)	研修旅行写真コンクール入賞作品きまる 推薦作品には驚見氏 北海道知事賞 北海道観光連盟賞他 総評 51年春のコース 沖縄海洋博へ 最後のチャンスです

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第168号	昭和50年 12月10日 (1975年)	(1)	全修協の研修旅行 春夏で32コース 一万名獲得へ 特別委、地区会議で本決り 第9回三地区修旅連絡協開く 論文と生徒作文募集 本年度も実態調査実施 結束して成果を 全修協理事長 山本種一の挨拶から 風紋
		(2)	友好訪華団の記録 全修協主催 人民に奉仕する心(全修協名古屋分室長 鬼頭藤松) 階級章のない社会(東京都教職員互助会参事 鈴木春之助氏) 飛鳥と柳生 宿泊料改訂
		(3)	近畿地区あおぞら号運営協 新会長に瀬尾武敏氏 各県から役員も選出 「近畿の旅」を編集 関修委で改訂版完成 奥志摩の賢島ロッジ 修旅生を受入れ 東海三県中学校 春の輸送決る 52年度は秋型敬遠へ 修旅委 第二こまどり廃止 関修委 現地研修会は中止 宮崎サファリパークが開場
		(4)	全修協春の研修旅行 特選12コースが登場 文化育成の風土にふれる 国東文化コース 白杵に鷹崖仏の粹／点在する社寺を見学 隠岐島コース 残照に映える岩肌／歴史的風土の研究も 沖縄と石垣島コース 島の生活に触れる 春の研修旅行コース 一般・特別研修 各コース
第169号	昭和51年 1月10日 (1976年)	(1)	輝く新春を迎う 信頼と協調の精神(文部大臣 永井道雄氏) 安全輸送を目標に(日本国有鉄道総裁 藤井松太郎氏) 勇気と自信をもって(全修協理事長 山本種一) 風紋
		(2)	新春を迎えて 自覚と責任と(全修協熊本県支部長 村田正実) 限りない前進(全修協香川県支部 漆原実) さらに躍進を(全修協埼玉県支部長 岡田憲一郎) 最善の努力を(全修協理事・北海道支部長 高田治郎) 使命果たそう(全修協神奈川県支部長 露木喜一郎) 発展を期して(全修協愛媛支部長 仙波勉) 責任は大さい(全修協理事・兵庫県支部長 魚谷時太郎) 研修の重視へ(全修協常務理事・茨城県支部長 永井熙) 輝かしい歴史(島根県学校生活協同組合専務理事 山本亮氏) 輪をかためて(全修協宮崎県支部長 田尻貴) 20年を契機に(京都府教職員互助組合事務局長 梅田晶三氏) 社会から評価(大阪府教職員互助組合常務理事 中島欣一氏) 深まった理論(全修協福島県支部長 佐々木二郎)
		(3)	栄光の創立20周年 全修協・記念式を挙行 感激の同志、一堂に 2月20・21日第17回通常総会も 新春を迎えて 旅のこころ(全修協理事 成瀬幡治) 意義ある年に(大阪府教職員互助組合事務局長 神代義秀氏) 発展を祈って(京都市教職員互助組合事務長 松江一郎氏) 楽しい修旅の実施 (関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連絡協議会副会長 奥埜磯次氏) 重い修旅委の責任(関東地区中学校修学旅行委員会運営委員長 伊藤守氏)
		(4)	友好訪華団の記録 全修協主催 思想教育の場[上] (全修協理事・北海道支部長 高田治郎) 人民公社と農民と／勤務時間と賃金は／唯物史観的な説明 新中国の教育[1] (全修協理事・東京都支部長 青山良道)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第170号	昭和51年 2月10日 (1976年)	(1)	<p>文部省 修学旅行の補助金決る 中学生 124,200円 要保護 本年度・小学生は五千円に へき地の増額実らず 全修協創立20周年記念事業 論文と作文を募集 教育界の共有財産に 全国の教諭、生徒から 京都の旅館は飽和状態 宿泊は109万人に 49年度修学旅行生の入込み 研究調査協力校 風紋</p> <p>(2) 全修協 春の研修旅行 いよいよ募集を開始 特選12コースで研修を 一般コース／特別研修コース [集印帖] 円満院、一畑寺</p> <p>(3) 新春を迎えて 本年も訪華を(全修協長崎県支部長 田崎辰夫) ご努力に深謝(全修協秋田県支部長 高橋堯) 組織力拡充へ(全修協石川県支部長 谷口齊) 光輝ある年へ(大分県教職員互助会事務局長 広畑博氏) 有意義な年に(全修協理事・山形県支部長 完戸一郎) 友愛と創造と(全修協監事 芦田重左衛門) 友愛でむすぶ(全修協徳島県支部長 近藤清) 初心にかえる(全修協岡山県支部長 杉山澄生) 新方式を要望(全修協新潟県支部長 笹川正人) 時代に即して(全修協大阪支部長 西岡権治郎) 画期的な訪華(元全修協常務理事 岡本仁) 竜虎の勢いで(全修協青森県支部事務局長 伊藤喜蔵) 研究面へ展開(全修協三重県支部長 西山文男) 事業の発展を(全修協山口県支部長 開地茂行) 大飛躍の年に(全修協理事・東京都支部長 青山良道) 理想つらぬく(全修協静岡県支部長 木村愛一) 教育界が結集(全修協京都府支部長 糸井一)</p> <p>(4) 友好訪華団の記録 全修協主催 学校も革命委が運営 学習で絶えず自己反省[下] (全修協理事・北海道支部長 高田治郎) 国家へ責任と義務果たす 学区内で決める教育[2] (全修協理事・東京都支部長 青山良道)</p>
第171号 特別号	昭和51年 3月10日 (1976年)	(1)	<p>全修協 栄えの創立20周年記念式 全国の同志ここに 喜びの式場に満ちる感動 30年への原点に(全修協理事長 山本種一) 風紋</p> <p>(2) 20周年おめでとう 各界からの祝辞 [1] 推進の母体として(文部大臣代理初中局中学校教育課補佐 広田史郎氏) 教育界の貴い資産(日本教職員組合中央執行委員長 榎枝元文氏) 取戻す手作りの味(参議院議員 鈴木力氏) 研修旅行の特色を(全国教職員互助団体協議会長 田畑常清氏) 山本理事長 感謝の辞うけて 涙あふれ、絶句 感想を聞く 自問の解決に努力(理事・東京都支部長 青山良道) 30周年への飛躍を(理事・兵庫県支部長 魚谷時太郎) 深い感動を覚えた(理事・山形県支部長 完戸一郎) 二本柱の強化拡大(理事・北海道支部長 高田治郎)</p> <p>(3) 20周年おめでとう 各界からの祝辞 [2] あおぞら号も健在 (近畿日本鉄道株式会社取締役社長代理取締役業務局長 赤尾公之氏) 専用船で奉仕して(関西汽船株式会社取締役社長代理専務取締役 伊藤卯三郎氏) 今後の発展を期待(近畿日本ツーリスト株式会社取締役社長 大槻丈夫氏) 来賓名、祝電 第41回理事会開く 第17回通常総会も 青年期へ第一歩、理事長挨拶 運動の拡大強化決る 事業の目標 重点的に取り組む</p> <p>(4) 座談会[1] 思い出を語る／馬肉の味で知る友情／善意は持ちつ持たれつ 「20年の歩み」全修協が記念誌発行 創立20周年記念事業 修学旅行論文と作文募集 しめきり本年6月30日まで</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第172号	昭和51年 4月10日 (1976年)	(1)	52年度の修学旅行 輸送の計画内定 近畿地区 中国九州が激増 / 東海地区 秋からこまどり号廃止 さよならこまどり号 東海地区 復路は一部変則か 関東地区 ひかりとこだま併用 夏季は19コースで 研修旅行募集はじまる 風紋
		(2)	比叡山延暦寺 緑にたたずむ堂塔 法灯は歴史を秘めて 修学旅行で人気集まる 思い出ふかい一夜 / 比叡山の自然 気軽に宿泊できる 比叡山延暦寺会館 修学旅行のコース 各方面から比叡山へ 人間の生きかた(延暦寺会館副館長 獅子王円泰氏) 二つの自動車道 全長20キロにおよぶ 比叡山めぐりに好適
		(3)	全修協創立周年記念事業 修学旅行論文と作文募集優秀作品続々集まる しめきり6月30日 専用船として活躍 大島運輸のさくら丸 エネルギー問題を解説 科学技術館 座談会[2] 思い出を語る/研修旅行で全国制覇/公的機関の支援で定着
		(4)	友好訪華団の記録 全修協主催 教育は大衆結合の場 人間育成へのこころみ[3] (全修協理事・東京都支部長 青山良道) 念願かない訪華 案内と通訳にくらばり[1](鷗友学園女子高校教諭 新井福之助氏) 春季研修旅行の感想 南国の情緒を満喫(四国路コース参加者 捧美恵氏) 人生を見直した旅(四国路コース参加者 中山幸子氏)
第173号	昭和51年 5月10日 (1976年)	(1)	修学旅行シーズン 各地から第1陣 胸おどらせ旅立つ 全国で四百七十万名が 関東地区が皮切り 交通ストの影響うける 運転期間延長など 関修委が国鉄に要望 全修協事務局長に小室三夫朗氏 白滝氏は常勤常務理事 風紋
		(2)	研修旅行募集はじまる 夏季海外ふくめ18コースで 北辺の風土を学習/人気あつめる北海道コース 海外は2コース実施 第13次 日教組、全修協が提携
		(3)	全修協創立20年記念事業 修学旅行論文と作文募集 全国から優良作品が集まる 座談会[3] 思い出を語る 北海道ブームを生む 先駆は全修協の研修旅行 三地区協をひらく 大阪で6月下旬に 関修委の委員会 6月11・12日 鬼怒川で
		(4)	友好訪華団の記録 全修協主催 園児も立派な労働者 代価で施設の拡充はかる [4] (全修協理事・東京都支部長 青山良道) 新中国の象徴・北京 国章となった天安門 [2] (鷗友学園女子高校教諭 新井福之助氏)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第174号	昭和51年 6月10日 (1976年)	(1)	近修委総会開く 九州へは海陸併用で 52年度修学旅行日を抽選 委員も決まる 全修協岐阜県支部長に大平氏が就任 関修委の運営委 来年度新幹線利用を調整 奥埜磯次氏と一問一答 信州コース天候対策が必要 近畿地区 魅力は中四国、九州へ 風紋
		(2)	全修協創立20周年記念事業 修学旅行論文と作文募集 全国から応募殺到 ことしの研修旅行案内[2] 多彩なコース ふたつの飛鳥 東京私学の現地研修 研修旅行の懇談会 全修協東京支部主催で
		(3)	[ルポ] 大型の修学旅行 バス9台つらねて 鈴鹿市の白子中、東京へ 人気は遊園地の乗物 ふくれあがる旅館 茨城県修旅委 吉田委員長を再選 記念総会で決議の感謝状 山本理事長に贈る 日教弘総会ひらく 永井熙氏が会長に 身にあまる光栄 山本理事長の話 修学旅行の誘致へ 北奥羽三県で決める
		(4)	座談会[4] 思い出を語る 組織で支える研修旅行 友好訪華団の記録 全修協主催 歴史を物語る教材 各所に人民の技術誇る[3] (鷗友学園女子高校教諭 新井福之助氏)
第175号	昭和51年 7月10日 (1976年)	(1)	三地区修旅連絡協 修学旅行の実態調査 学年会で計画70% / 見学地63%が10か所以内 事前指導 主に集団訓練 / 現地指導 教師が不寝番 [解説] 学級中心で推進する 修学旅行実態調査にみる動向 (全修協調査研究部長 嶋津佃郎) 風紋
		(2)	全修協創立20周年記念事業 修学旅行論文と作文 応募を締切る 全国から力作ぞくぞくと 研修旅行はじまる 本月下旬からいっせいに 九州一周コース / 地獄めぐりも圧巻 研修旅行は楽しい 全修協東京支部主催の懇談会
		(3)	三地区修旅連絡協総会開く 値上げ阻止運動展開 父兄負担軽減の声にこたえ 会長に奥埜磯次氏 関東地区修旅委総会開く 会長には峯友直氏 近畿二府四県修旅委 新コースを事前調査 修学旅行費を全額補助 既に昭和36年から 三重県大内山村で小中学校に
		(4)	座談会[5] 思い出を語る 研修旅行にも誠意をもって 友好訪華団の記録 全修協主催 今や国土は緑化して[4] (鷗友学園女子高校教諭 新井福之助氏)
第176号	昭和51年 8月10日 (1976年)	(1)	三地区修旅連絡協調査 修学旅行の実態 公費で実額補助66% / 要保護の生徒 不足額の自己負担も / 自治体財政で左右 現地指導・医師の同行は困難 個人の外出は認めぬ 事後指導・感想文は殆ど全校 記録映画も作りたい [解説] 修学旅行 国などの認識不足 経済的圧迫も加わる 実態調査 (全修協調査研究部長 嶋津佃郎) 風紋
		(2)	研修旅行 6500名が参加 教職員、国土学習の旅へ 探究ブームを呼ぶ ふたつの飛鳥 混同しやすい地名も 観光業務の取次所 京都市が大丸に設置 石川県の兼六園 有料化きまる
		(3)	要保護の補助金増額を 国鉄値上げも阻止へ 臨時国会メドに 修旅委で運動展開 52年度輸送も検討 奈良大和路の懇談会ひらく 9月、北海道三市で 施設の拝観料改定 京都市の二条城など 伊勢路へどうぞ 三重県が修学旅行誘致 ひとねむり船の旅 東京ー松坂 フジ・フェリー 豪華ホテルを開放 賢島で修旅生のために
		(4)	友好訪華団の記録 全修協主催 日中むすんだ西安[5] 歴史を語る華清池 (鷗友学園女子高校教諭 新井福之助氏) 歴史の道[7] 里程元標 幕府の権力掌握から 日本橋、五街道の起点に (郷土史家 三浦富雄氏)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第177号	昭和51年 9月10日 (1976年)	(1)	<p>修学旅行の補助金要求 文部省 中学生1万9500円 要保護 52年度へき地は事情考慮し増額へ 国鉄本社に陳情 新幹線の修旅専用電車 割引率引き上げを 全修協山本理事長、三地区修旅協代表と / 補助金も増額要望、文相あて書類を提出 全修協秋田県支部長に柿崎貞治氏が就任 風紋</p> <p>(2) 21回目迎えた研修旅行 新企画が続々登場 夏は前後期にわけて 昔の繁栄しのぶ 恐山と松前・積丹の旅(栃木県黒磯中学校長 桜井宣男氏) さいはてを行く 利尻・礼文研修旅行(全修協研修旅行参加者 岡野英雄氏) 遠流の人を想う 佐渡・磐梯・蔵王研修旅行(全修協研修旅行参加者 井上西三氏) 線から点へ 研修旅行にのぞむ(埼玉県教員 匿名)</p> <p>(3) 近畿二府四県修旅委が実地調査 往路は船を利用 九州コース 各校へ新方式徹底 見学時間に余裕で ゆとりある行動で(奥埜磯次氏) / 受け入れも万全だ(桜井勇助氏) 全修協と関修委が 国鉄へ陳情第一陣 アフリカとアテネ・ローマ・パリの旅[上] さまよう猛獣のむれ(日教組顧問弁護士 森川金寿氏)</p> <p>(4) 臼杵石仏への追想 歴史秘める如来像(全修協常務理事 白滝末紀) 臼杵石仏の視点は / 大久保貴之氏の本 / 多い真野長者伝説 財力誇る臼杵一族 / 源為朝の少年時代 / 北に南に仏教文化 友好訪華団の記録 全修協主催 胸を張る中学生達[6] (鷗友学園女子高校教諭 新井福之助氏)</p>
第178号	昭和51年 10月10日 (1976年)	(1)	<p>全修協創立20周年記念事業 修学旅行論文と作文の審査 第一次選考開始へ 優秀な作品が目白押し [論点] 要保護・へき地の修学旅行 補助金増額を望む 不参加生徒をなくそう 関修委 本年度の現地研修会 京都、奈良を視察 全修協佐賀県支部長に篠崎規氏が就任 第2回友好訪華きまる 全修協主催で 風紋</p> <p>(2) 来年の研修旅行拡大 国内は35コースにも 内容強化した研修行事 冬のコース / 春のコース 参加者のたよりから 溪谷美を満喫して 大台ヶ原・大杉谷コース(12名の手紙を抜粋)</p> <p>(3) 全修協 国労と動労に感謝 ストでも運転 修学旅行の輸送配慮で 百年迎えた時計台 札幌市で記念事業 アフリカとアテネ・ローマ・パリの旅[下] 古代うけつぐローマ (日教組顧問弁護士 森川金寿氏) 福井彰二氏(元全修協研修部長)逝去</p> <p>(4) 石仏への誘い[1] 魔除けと豊穰の祈り(聖徳学園短大教授 蛭原徳夫氏) 友好訪華団の記録 全修協主催 人間の自然改造 黄土高原は田畑に[7] (鷗友学園女子高校教諭 新井福之助氏) [集印帖] 石手寺、唐招提寺</p>
第179号	昭和51年 11月10日 (1976年)	(1)	<p>全修協創立20周年記念事業 修学旅行論文と作文いよいよ選考開始 来年1月には入賞決定へ 審査委員長に堀氏 便乗値上げ阻止へ 三地区修旅連絡協開く 風紋</p> <p>(2) 研修旅行写真コンクール入賞作品きまる 推薦作品には中村氏 北海道知事賞 北海道観光連盟賞他 総評 研修旅行春のコース 内容充実 手ごろな日程が魅力 専門的研究に好適 3月下旬 特別研修コース</p> <p>(3) 第二次友好訪華の旅へ 日本学校長訪中団決る 現場指導者の収穫期待 関修委 ここの現地研修会 京都と奈良へ あおぞら号 近畿地区運営協開く 会長に瀬尾氏再任 狩野政一氏(全修協千葉県支部長)の胸像完成 教育界への貢献に感謝</p> <p>(4) 石仏への誘い[2] 今も盛んな庚申講(聖徳学園短大教授 蛭原徳夫氏) 友好訪華団の記録 全修協主催 徹底した政治教育のもとで民衆は安楽な生活を[8] (鷗友学園女子高校教諭 新井福之助氏) 研修旅行の作品 さいはてを行く 利尻・礼文研修旅行(全修協研修旅行参加者 岡野英雄氏) 遠流の人を想う 佐渡・磐梯・蔵王研修旅行(全修協研修旅行参加者 井上西三氏)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第180号	昭和51年 12月10日 (1976年)	(1)	<p>関東地区修学旅行委員会 関西の現地研修へ 52年度 バスは25%値上げ 宿泊料も一割 アップ抑制を極力要望 三重県 修学旅行基準を改正[上] 県立高校は4泊5日 新入生宿泊研修制度も 全修協・第2次日中友好の旅 日本小中学校長訪中団が帰国 風紋</p> <p>(2) 春季の研修旅行 募集はじまる 春が一と足はやい九州・四国 講和と実技とやきものコースも コース一覧</p> <p>(3) 修学旅行 長野へ入込み激増 諏訪方面5月に集中 近畿中学校が増加 今後の課題 時期、宿泊地の拡散 多摩テックに脚光 都心結ぶ新コース 丘陵の陰にエンジン教室 修学旅行誘致へのり出す</p> <p>(4) 石仏への誘い[3] 馬に寄せる深い愛情(聖徳学園短大教授 蛭原徳夫氏) 友好訪華団の記録 全修協主催 園児にも友好教育 一掃された上海の社会悪[9] (鴉友学園女子高校教諭 新井福之助氏) 研修旅行の作品 遠流の人を想う 佐渡・磐梯・蔵王研修旅行(全修協研修旅行参加者 井上西三氏)</p>
第181号	昭和52年 1月10日 (1977年)	(1)	<p>年頭に際して 現職研修の充実を(文部大臣 海部俊樹氏) 全修協へ期待(日本教職員組合中央執行委員長 榎枝元文氏) 新しい運動確立へ(全修協理事長 山本種一) 風紋</p> <p>(2) 新生国鉄づくりへ(国鉄総裁 高木文雄氏) 新春を迎えて 研修1万名へ(全国教職員互助団体協議会会長 田畑常清氏) 新時代に即し(全修協理事・山形県支部長 完戸一郎) 充実発展の年(全修協青森県支部長 盛田三喜雄) ご発展を祈る(香川県教職員組合副委員長 大林浅吉氏) 修旅は無償で(全修協理事 成瀬幡治) 協力深めよう(京都府教職員互助組合専務理事 梅田晶三氏) 新境地開拓へ(全修協熊本県支部長 村田正実) 使命の達成へ(全修協栃木県支部長 梅沢茂)</p> <p>(3) 新春を迎えて 衆知あつめて前進(三地区中学校修学旅行連絡協議会会長 奥埜磯次氏) 考え直す修学旅行(三地区中学校修学旅行連絡協議会副会長 峯友直氏) 飛躍発展祈る(全修協大阪支部長 西岡権治郎) 重み増す運動(全修協理事・東京都支部長 青山良道) 教育現場から要望(三地区中学校修学旅行連絡協議会副会長 安川武男氏) 第18回全修協通常総会 修旅委組織拡大へ 2月18・19日熱海で盛大に開く</p> <p>(4) 新春を迎えて 使命の重さ(全修協理事 芦田重佐衛門) 目標確立の年(全修協理事・北海道支部長 高田治郎) 意識の改造を(全修協三重県支部長 西山文雄) 感慨深い21歳(全修協大分県支部長 田尻一雄) 期待すること(全修協千葉県支部長 狩野政一) 教育界への貢献(全修協常務理事・福岡県支部長 村山助雄) 任務は重大に(島根県学校生活協同組合専務理事 山本亮氏) 研旅の旅へ(青森県教育厚生会参与 伊藤喜蔵) 研旅の成果を(大阪市教職員互助組合事務局長 朝川清明氏) 新しい息吹き(全修協新潟県支部長 笹川正人) 価値ある存在(大阪府教職員互助組合事務局長 瀬川尚志氏) 年輪の重みを(全修協宮崎県支部長 田尻貢) 大記録に挑戦(全修協理事・兵庫県支部長 魚谷時太郎) 全修協組織の展望[1] 北海道・東北地区 県の特徴生かす 教育機関との強い提携も</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第182号 <特集> 修学旅行論文 作文入選発表	昭和52年 2月10日 (1977年)	(1)	全修協創立20周年記念事業 修学旅行論文・作文入選決る 論文 教育理念もとめる / 作文 鋭い観察、豊かな表現力 ご応募に感謝(全修協理事長 山本種一) 審査員の顔ぶれ 入選者 論文の部 作文の部
		(2)	佳作 論文の部 作文の部 修学旅行・論文一席 本校修学旅行の理論と実際[1] (都立青山高校教諭 臺靖氏) 学校ぐるみの成果 論文一席・臺教諭の話
		(3)	修学旅行・作文一席 小学校の部…修学旅行の思い出(今治市立別宮小学校六年 玉井栄次君) 中学校の部…修学旅行 思い出の地「平泉」 (東京陽友学園女子中学校3年 前川京子さん) 高等学校の部…法隆寺(都立青山高等学校三年 中嶋肇君)
		(4)	新年を迎えて 旅を夢みつつ(秋田県学校生活協同組合専務理事 新田久松氏) ご発展を祈る(全修協佐賀県支部 山田長吉) 力量を信じる(全修協京都府支部長 糸井一) 理あり道あり(全修協愛媛県支部長 仙波勉) 全修協組織の展望[2] 関東地区 関修委との連絡強化 研修旅行の浸透みのる
第183号	昭和52年 3月10日 (1977年)	(1)	財団法人・全国修学旅行研究協会第18回通常総会開く 研修旅行 1万名必達を誓う 修学旅行教育効果の向上めざす 第43回理事会開く 強固な運動展開へ(全修協理事長 山本種一) 風紋
		(2)	総会で審議決定の詳細 教職員の福祉拡大へ 研修旅行“特典”フルに生かす 議案第二号～第四号 祝電 祝辞 全国教職員福祉団体連絡協議会 幹事 千葉直氏 全国教職員互助団体協議会 会長 田畑常清氏 近畿日本ツーリスト株式会社取締役社長 大槻丈夫氏 近畿日本鉄道株式会社取締役社長 今里英三氏(代理 取締役業務局長 赤尾公之氏) 関西汽船株式会社取締役社長 山本秀雄氏(代理 取締役営業部長 稲葉洋文氏) 人気呼ぶ春の研修旅行 一千名に到達か 映画・学習の旅 近畿日本ツーリスト 新版完成へ
		(3)	関修委で研究発表会(宇都宮市) 学校教育のまとめに 論文と作文 審査評 修学旅行・論文一席 本校修学旅行の理論と実際[2] (都立青山高校教諭 臺靖氏)
		(4)	友好訪華団の記録 全修協主催 万里の長城をみる 生きるための防備(都立高島高校長 増田信氏) 全修協組織の展望[3] 北陸・東海 研修旅行躍進つづく 独自の方式で着実に 楽しいコンピュータ展 電気通信科学館で 拝観・見学料変更 平安神宮神苑、国立京都国際会館

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第184号	昭和52年 4月10日 (1977年)	(1)	<p>コース、地図も加え 修学旅行論文・作文集を発行へ 全修協創立20周年記念 修学旅行の実態調査 中心テーマは“評価” 三地区協6月の総会で発表 全修協青森県の初代支部長 柿崎守忠氏逝く ご冥福を祈る、全修協山本理事長談 伊勢神宮で参拝時間を制限 風紋</p> <p>(2) 夏季の研修旅行 募集はじまる 前・後期で23コース 海外・特別研修も拡大へ 修学旅行・論文一席 本校修学旅行の理論と実際[3] (都立青山高校教諭 臺靖氏)</p> <p>(3) 53年度 関東地区の関西旅行 新幹線で13万名 来年度あおぞら号近畿地区 伊勢方面へ8万名 栃木県 修学旅行のアンケート 中学校PTAに 修学旅行の受け入れに 施設は衣がえ 増設と催しに力こぶ 知恵をしぼった企画登場 エジソンおじさん(人形)が説明役 (東京 科学技術館) レーザー光線投影 音と光で心の旅を (京都 レザリアム) 森林公園で動物となかよく遊ぼう (富士山麓 スバルランド) 可愛いチーターの赤ちゃんが生まれる(大分 アフリカン・サファリ) 乗り物の遊園地に万葉の森が誕生(鈴鹿 ホンダランド)</p> <p>(4) 友好訪華団の記録 全修協主催 理論と実践の教育[1] (札幌市立中の島小学校長 大沢一氏) 遺物に歴史の流れ(大阪府柏原中学校長 森内太喜雄氏) 全修協組織の展望[4] 近畿地区 年輪かさねた組織 研修旅行近教互と結ぶきずな 高松塚壁画展開く 奈良</p>
第185号	昭和52年 5月10日 (1977年)	(1)	<p>文部省 修学旅行の補助金決る 中学生 19,850円 要保護 本年度・高度へき地も同額に スト中の修学旅行専用電車 走った新幹線 両労組、運転に協力 全修協 関係者の配慮に感謝 53年度修学旅行の集約臨 輸送原案かたまる 風紋</p> <p>(2) ことしも研修旅行へ 多彩なコース揃える 教職員の期待にこたえて 後期、前期のコース、第十四次・海外事情視察団 第二次・教育福祉視察</p> <p>(3) 横浜市教組 教育白書は訴える 父母負担ひしひしと 修学旅行迫られる抜本的施策 修学旅行の第一陣出発 53年度近畿地区の中学校 旅行実施日を抽選 東京都 チョップリ上積み 修旅引率に200円 修学旅行・論文一席 本校修学旅行の理論と実際[4] (都立青山高校教諭 臺靖氏)</p> <p>(4) 友好訪華団の記録 全修協主催 奉仕に生きる人たち[2] (札幌市立中の島小学校長 大沢一氏) 眼下には雄大な景観[上] (東京都中野区教育委員長 青山良道氏) 三重県観光連盟から「みえのしおり」発行 全修協組織の展望[5] 中国地区 友誼団体との提携で 研修旅行の浸透強化</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第186号	昭和52年 6月10日 (1977年)	(1)	修学旅行の誘致 活発な運動展開 九州地区 東京私学と協議 都内の私立高51%が九州へ 滋賀 全県で呼びかけ強化へ 関東地区に照準 新たに9旅館が加盟 奈良と三重も 53年度修学旅行の集約臨[2] 大口の輸送計画 風紋
		(2)	研修旅行の補助拡大 県教委・教育団体 厚生運動で高い評価 増額、職専免など続々 全修協 新たに幹事会が発足 飛躍的發展を期す 研修旅行 申込みが殺到 しめきり前後期とも本月末日
		(3)	茨城県修旅委総会開く 委員長に荒井伸男氏 近畿二府四県修旅委で 来年度の状況協議 三地区連絡協で6月下旬に総会 修学旅行・論文一席 本校修学旅行の理論と実際[5] (都立青山高校教諭 臺靖氏)
		(4)	友好訪華団の記録 全修協主催 夜明けの自転車群[1] (新潟県五泉小学校長 青木泰也氏) 風景に思想の原型[上] (東京都中野区教育委員長 青山良道氏) 平城京の模型完成 奈良市庁舎に展示 全修協組織の展望[6] 四国地区 研修旅行に高まる意欲 参加者の倍増ねらう
第187号	昭和52年 7月10日 (1977年)	(1)	三地区修旅連絡協 連帯のきずな強く 本年度第一回総会開く 共通の問題点説明へ 会長に小笠原健治氏 53年度修学旅行補助金増額で 文相に要望書提出 要望書全文 風紋
		(2)	夏の後期・研修旅行 8月中旬からいっせいに 研修旅行写真コンクール 本年もふるってご応募を 研修旅行 東京都支部で懇談会 参加者を増やそう
		(3)	本年度関修委総会開く 輸送に万全の対策を 会長に伊藤守氏(栃木)就任 第3次友好訪華決る 8月12日から15日間で 全修協前大阪支部長 石川為蔵氏逝去
		(4)	友好訪華団の記録 全修協主催 はたらく老婦人の姿[2] (新潟県五泉小学校長 青木泰也氏) 全修協組織の展望[7] 九州地区 県独自の特色発揮へ 拡大強化された組織力
第188号	昭和52年 8月10日 (1977年)	(1)	全修協調査 都道府県修学旅行の実施基準 半数が三日の旅 中学校 物価上昇“費用規定なし”で対処 [論点] 引率教師が車中飲酒 逆効果のスキン・シップ 友好訪華団が出発 風紋
		(2)	脚光あびる三重県 点在する豊富な史跡 山と海、風光もひとときわ 北勢、中勢、伊賀、熊野路、伊勢志摩 修学旅行向き旅館 便利なフェリーも
		(3)	三重県立四日市高校 県下初のグループ研究 効果あげる基地方式 修学旅行に新機軸出す 「心のこる修学旅行」最終の編集委開く 10月には発行へ 草原に遊ぶ猛獣たち 九州 アフリカン・サファリ 研修旅行の反省会 新潟県支部でひらく 修学旅行の集約臨[3] 53年度の大口輸送
		(4)	友好訪華団の記録 全修協主催 なつかしい日本民謡 無心に歌う中国の子どもたち[1] (伊丹市立北中学校長 橋詰道信氏) 中国ところどころ 質素な生活にたくましい意欲[上] (埼玉県北足立郡南部中学校長 加藤雅信氏) 焼きものの映画「九谷焼」 石川県で製作

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第189号	昭和52年 9月10日 (1977年)	(1)	文部省 来年度の要保護補助 中学校27,200円に 要求、大幅に増える 全修協・三地区協運動の成果を期待 高校の修学旅行基準[1] 半数は5泊6日で [論点] 修学旅行マンネリ化対策へ提言 興味を持たせる学習を 岐阜県支部長 大平竜夫氏逝去 教育界に大きな業績残す ご冥福を祈る(全修協山本理事長談) 風紋
		(2)	本年度 夏季の研修旅行終わる 研修旅行を終えて(全修協研修旅行実施本部長 小室三夫朗) 旅の喜び噛みしめて 新コースに人気集まる 研修旅行写真コンクール しめきり9月末日 傑作をお寄せください “役だった研修行事” 参加者のアンケートから
		(3)	“火山灰”の友だちを激励 修学旅行で結ばれる 岩手千厩中と洞爺湖温泉中 空きびん集め義援金 新しい修学旅行めざす・兵庫 巡回方式から脱却へ 産業学習に切りかえも 京都の苔寺で拝観料三千元に 全修協調研部長 嶋津佃郎氏 逝去 修学旅行の向上に挺身 秋の修学旅行(都内) 青空にこだまする声 関修委各県 役員の顔ぶれ
		(4)	友好訪華団の記録 全修協主催 虚飾すてた八億の民 学校で目の体操、肥満児もいない[下] (埼玉県北足立郡南部中学校長 加藤雅信氏) 驚異の躍進を見て 自力更生で開発続ける産業[2] (伊丹市立北中学校長 橋詰道信氏) 京都・10月の行事 奈良の大和文華館 所蔵名品展開く
第190号	昭和52年 10月10日 (1977年)	(1)	全修協創立20周年記念出版 「心の中の修学旅行」 斬新な装いで刊行へ 教育界の期待にこたえ 私学対象に実態調査 修学旅行 全修協と東京私学で 高校連合の輸送[1] 53年度 国鉄首都圏本部のまとめ 三地区修旅連絡協 秋季総会は11月に 栃木で関修委の運営委開く 風紋
		(2)	来年の研修旅行拡大 41コースに増える 特別研修もさらに充実 研修旅行のアンケート 北方領土に深い関心をもつ 研修旅行の作品[上] 魅力あふれる九州(村野充郎氏)
		(3)	稲刈り修学旅行 農作業のお手伝い 尊い汗水を流す体験 東京・和光中 米どころで生きがい 近畿二府四県修旅委で 運営委員会ひらく 伝統的工芸品展望[1] 郷土の誇りを永遠に 伝産法 手づくり産業振興へ 津軽塗／南部鉄器／樺細工／置賜紬／会津塗
		(4)	友好訪華団の記録 全修協主催 実績あげる予防医学 人間の価値は国家への貢献度で (神戸市立大池中学校長 細見英太郎氏) 静寂に沈む名園も 琵琶湖の北東部 金剛輪寺／近江孤篷庵／渡岸寺

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第191号	昭和52年 11月10日 (1977年)	(1)	51年度・京都市への入り込み 修学旅行、大幅ダウン 前年比、29万人減る / 国鉄値上げも影響か / 一時的な現象 京都市観光課 全修協事務局強化 前田事務局長 森本常任参与 曾田大阪事務所次長ら 全修協 来年の研修旅行 海外を含め48コース 募集人員も一万名越す 風紋
		(2)	研修旅行写真コンクール入賞作品きまる 推薦作品には小林氏 北海道知事賞滝沢美知子さん 北海道観光連盟溝江年英氏 他 総評 ビジターセンター 吉野山に三月完成
		(3)	青森と東京の姉妹校 本年も交歓の修学旅行 友情のねぶた作りを ～鱒ヶ沢一中と第二亀戸中～ 寄贈の苗木も見事に育つ 高校連合の輸送[2] 53年度 国鉄首都圏本部のまとめ アンケートから ことしの研修旅行 北海道の初秋 全福協幹事会開く
		(4)	長谷詣での旅 古風な商家も並ぶ 伝統的工芸品展望[2] 生活品から美を発見 世界に誇る日本の技術 村山大島紬 塩沢紬 井波彫刻 九谷焼 越前和紙 研修旅行の作品[2] サファリも楽しい(村野充郎氏)
第192号	昭和52年 12月10日 (1977年)	(1)	三地区協の秋季総会 福岡県の加入を可決 組織の拡大、前進へ 満場一致で“連帯”誓う 三地区修学旅行の実態[1] 3学年実施が圧倒的 回答率90.7%にも 近畿地区54年度の希望調査 前年比8千名も増加 半数以上が四国九州へ 全修協の通常総会 来年2月24日熱海で 風紋
		(2)	教職員研修旅行 1月上旬から受付け 春は14コース 近く学校に要綱を掲示 一般コース そのほかのコース
		(3)	54年度新幹線 関西方面への輸送決る 関修委 第三回修旅運営委開く 人員は大幅に増加 関修委で現地研修 三重・京都 関係者と懇談 奈良 伝統工芸の作業を見学 米原駅西口に駐車場を建設 滋賀県
		(4)	[旅] 山かげに静もる室生寺 女人の寺にふさわしく 伝統的工芸品展望[3] にじみ出る風土の味 手づくり産業で躍進へ 若狭めのう細工 / 甲州水晶貴石細工 / 信州紬 ／飛騨春慶 / 駿河竹千筋細工 京都新春の行事
第193号	昭和53年 1月10日 (1978年)	(1)	輝く新春を迎う 文化の振興に努力(文部大臣 砂田重民氏) 全修協に期待する(日本教職員組合・中央執行委員長 榎枝元文氏) 二本柱の運動推進へ(全修協理事長 山本種一) 風紋
		(2)	新発想で再建の道(国鉄総裁 高木文雄氏) 新年を迎えて 組織の拡大強化へ(関東・東海・近畿三地区修学旅行連絡協議会会長 小笠原健治氏) 全修協と表裏一体(関東・東海・近畿三地区修学旅行連絡協議会副会長 門野敬男氏) 修旅委と協力して(関東・東海・近畿三地区修学旅行連絡協議会副会長 伊藤守氏)
		(3)	新年を迎えて 実績と経験で(全修協理事 成瀬幡治) 雑草から宝を(全修協理事・東京都支部長 青山良道氏) 不倒の教育愛(全修協理事・兵庫県支部長 魚谷時太郎) 精神面の開拓(全修協理事・山形県支部長 完戸一郎) 国際化時代へ(全修協常務理事 白滝末紀) 発想の転換を(全修協熊本県支部長 村田正実) 栄光ある年へ(全修協宮崎県支部長 田尻貴) 倍増を目指す(全修協山口県支部長 開地茂行) 重点主義の旅(全修協愛媛県支部長 仙波勉) 新事業を開拓(全修協三重県支部長 西山文男) 躍進のために(全修協大阪支部長 西岡権治郎) 真の教育確立(山口県教職員互助会事務局長 中山助夫氏) 目的の達成に(全修協徳島県支部長 近藤清) 全修協の総会 2月24・25日熱海市で開く

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
		(4)	<p>新春を迎えて 研究の成果を(大阪市教職員互助組合事務長 朝川清明氏) 意義の理解へ(全修協新潟県支部長 笹川正人) 力強い団結で(全修協京都府支部長 糸井一) 目標は一万名(全修協栃木県支部長 梅沢茂) 新しい決意で(大阪府教職員互助組合事務局次長 神代義秀氏) 強固な連帯性(滋賀県教育委員会福利課厚生係長 大林一美氏) 役割りは重大(北海道教職員組合総務部長 玉堀光夫氏) 総合的に企画(全修協秋田県支部長 柿崎貞治) 責務は重大に(島根県学校生活協同組合専務理事 山本亮氏) 創立の精神で(全修協香川県支部長 漆原実) 条件整備の年(全修協秋田県支部事務局長 新田久松) 新たな気持ちで(広島県学校生活協同組合専務理事 木村富十四氏) 写真コンクール入賞者の皆さまへ 京の冬の旅 文化財を特別公開</p>
第194号	昭和53年 2月10日 (1978年)	(1)	<p>第19回全修協の通常総会 二本柱を積極推進 2月24・25日熱海市で開く 54年度新幹線こだま号専用列車 国鉄、廃止を打ち出す 定期列車で分割輸送 / 校長会・修旅委 結論まで曲折が予想 こだま号 効率化ねらう あおぞら号近畿地区運営協議会 会長に瀬尾武敏氏再選 風紋</p>
		(2)	<p>全修協企画・教職員春の研修旅行 豊富な学習資料が 特選14コースで募集中 春の研修旅行一覧 沖縄・石垣・宮古コース、西九州コース説明</p>
		(3)	<p>こだま号定期列車国鉄の輸送計画案 東海地区は5分割で 関東地区、東海地区、近畿地区計画 日中友好私学教職員友の会 学習会ひらく 三地区修学旅行の実態[2] ほとんど二泊三日で 目標校外学習と集団訓練</p>
		(4)	<p>京の冬の旅 秘宝を特別に公開 「みやび」「わび」の2コース 伝統的工芸品展望[4] 手作りの技法伝えて 庶民の暮らしに明るさ</p>
第195号	昭和53年 3月10日 (1978年)	(1)	<p>(財)全国修学旅行研究協会 第19回通常総会開く 会場に熱気あふれて 躍進期待の事業計画決る 役員会も開く 祝辞 来賓 祝電 強力な運動を推進:全修協山本理事長の挨拶(要旨) たくましい不老の精神(田尻貴のうた) 風紋</p>
		(2)	<p>全修協企画・教職員 夏の研修旅行 精選の30コース 四月から全国で募集開始 装いも新たに“研修のポイント”作成</p>
		(3)	<p>定期こだま号の分割輸送 校長会・修旅委国鉄の要請を受入れ 54年度から実施決る 春季研修旅行始まる 約一千名が参加して 関修委の研究発表会 修旅と道徳教育「日常の指導が大切」松戸三中教諭が訴える 近修委ひらく 三地区修学旅行の実態[3] 文化財見学が圧倒的 計画・実施学年中心で検討</p>
		(4)	<p>[旅] 南紀めぐり 南国情緒を満喫 熊の灘も一望に 伝統的工芸品展望[5] 民芸から産業へ発展 技法は秘伝で受け継ぐ 高山茶筌/因州和紙/弓浜紺/出雲石灯籠/熊野筆</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第196号	昭和53年 4月10日 (1978年)	(1)	文部省 修学旅行の補助金決る 中学生 26,100円に 要保護 小学生8,300円 へき地も同額 財・全修協 本年度の事業計画 [1] 研修発表会もひらく 活発な調査活動に期待 53年度修学旅行の改善運動 / 教育性の向上など 全修協で陣容強化 駒井徳左衛門氏が滋賀県支部長 本部事務局の二部長も 風紋
		(2)	研修旅行募集はじまる 前・後期で26コース 行事も豊富に盛り込む 夏のコース一覧
		(3)	東京私立高校の修学旅行[1] 実態調査 約半数が九州方面 来年度近畿学童のあおぞら号 伊勢へ9万名が 交通スト 全修協と三地区協が修旅列車運転を要請 三地区修学旅行の実態[4] 時間かけて事前学習 異なる生活環境に対処
		(4)	「旅」 奈良の古道と街道をゆく[1] 樹間に雲が漂う 竹内街道 / 柳生街道 / 葛城古道 伝統的工芸品展望[6] 歴史に培われた発想 風土のかおりも添えて 赤間すずり/阿波和紙/香川漆器/砥部焼/土佐和紙
第197号	昭和53年 5月10日 (1978年)	(1)	さかんな修学旅行誘致 県単独や地区ぐるみ 教育性ふまえサービス向上 九州地区、激増にそなえる / 委員会で積極策・三重 財・全修協 本年度の事業計画[2] 父母の軽減対策 輸送量増加も強力に 53年度修学旅行の改善運動 三地区修旅連絡協 総会は6月に 風紋
		(2)	教職員 夏の研修旅行 人気集中する北海道 好みに合わせ3コース/北海道の見どころ/夏のコース一覧 日教組・全修協共催 海外事情視察団
		(3)	交通スト 修旅列車は走った 全修協の要望みのる 国鉄・両労組へ感謝表明 関修委で運営委 54年度の輸送など協議 修学旅行と道徳教育[1] 協調と規律もとめる(松戸三中教諭 坂田次雄氏) 全修協大阪事務所小西惣二郎氏の退任式 三地区 修学旅行の実態[5] 指導と生徒の自主性 現場は“調和が難しい” 事前学習と現地指導の関係 / 修学旅行の成果
		(4)	「旅」 奈良の古道と街道をゆく[2] いまも残る石畳み 暗越え奈良街道 / みゆき街道 / 清滝街道 伝統的工芸品展望[7] 装飾に写実性加えて 年輪とともに技術向上 小石原焼/博多人形/本場大島紬/宮古上布/壺屋焼
第198号	昭和53年 6月10日 (1978年)	(1)	各修旅委総会ひらく 役員、事業など決定 強力な陳情運動も展開 関東地区、会長に永山美智雄氏 近畿二府四県委員長、門野敬男氏が再選 東海三県の委員もきまる 三地区修旅委連絡協で総会 6月22・23日三重県湯の山で 千葉県支部長 狩野政一氏逝去 教育界に大きな功績(全修協 山本理事長談) 風紋
		(2)	研修旅行 爆発的人气よぶ 山口がトップを走る 根強い近畿、各地区追い上げ / 夏のコース一覧 研修旅行の補助拡大、県教委・教育団体 役員、支部長が努力 友誼団体も全面支援へ 全修協東京支部で研修旅行の推進委 開催
		(3)	三重県で修旅調査[1] 昨年度中学校 ほとんどが関東へ 引率教員数、郡市によって差が出る 東京私立高校の修学旅行[2] 実態調査 圧倒的な5泊6日 旅館の配慮を望む 修学旅行と道徳教育[2] 社会性も身につく(松戸三中教諭 坂田次雄氏) 茨城県修旅委の総会 荒井委員長が再選 東海汽船で「すつれちあ丸」就航
		(4)	[旅] 奈良の古道と街道をゆく[3] 史跡は緑のかげに 壺坂越え吉野みち/東高野街道/巡見街道 伝統的工芸品展望[8] 南方伝来の手作業も 歴史を秘めて生き抜く 久留米餅/川辺仏壇/久米島紬/谷山花織/読谷山ミンサー

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第199号	昭和53年 7月10日 (1978年)	(1)	三地区修旅連絡協総会開く 連帯のきずなも固く 山本理事長が協調、父母負担軽減に全力 役員の顔ぶれ 風紋
		(2)	夏季研修旅行はじまる 教育集団 南へ北へ旅立つ 各自が成果もとめて 研修旅行コース案内(九州7県) 歴史をいろどる風光、各所に残る文化伝来の遺跡も 投稿 すばらしい研修旅行(千葉県 林禎二氏)
		(3)	秋の修旅に国鉄案 運賃値上げ、料金は据置き 全修協・三地区協に回答 東海近畿約二万名に影響 修学旅行と道德教育[3] 生徒にはまず課題意識を持たせる(松戸三中教諭 坂田次雄氏) 三重県で修旅調査[2] 昨年度中学校 悩みの多い遠隔地校 二泊三日が60%しめる
		(4)	新しい校外学習地<佐久間電力館>自然のなかで学習とレクリエーション 手で確かめられる ~電源基地~
第200号	昭和53年 8月10日 (1978年)	(1)	三地区修学旅行の実態[6] 日常生活にも効果 判断材料 作文とレポート活用 修学旅行の成果/修学旅行の動向 関修委運営委で事業の具体化決る 京都の社寺で拝観料を値上げ 修旅委 対策にのり出す 文化財の被害最高 奈良県警が摘発 風紋
		(2)	夏・後期の研修旅行 北海道の旅 湖に秋の山かげ 涼味深まるさいはてへ 奥東北の旅 津軽と恐山めぐり 特異なイタコ文化も
		(3)	比叡山善意の修学旅行 持参の苗木を植える 屑入れ、雑布も 栃木県の中学生たち 修学旅行と道德教育[4] 校内指導の実践化へ(松戸三中教諭 坂田次雄氏) 三重県で修旅調査[3] 昨年度中学校 費用面で大きな格差 高額占めるバス料金
		(4)	東京湾の洋上教室 船で学ぶ豊富な教材 東海汽船日帰りコースに人気 [旅] 三重県の湊谷をゆく 肌に散る滝しぶき 赤目・香落溪/宇賀溪

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第201号	昭和53年 9月10日 (1978年)	(1)	三地区修学旅行の実態[7] 将来は基地方式で 各校今後も廃止考えぬ 修学旅行の動向 学校の地域環境 [提言] 修学旅行に国鉄の配慮を「可愛い子には旅を」(全修協 研究部長 小泉松雄) 京都の公共施設 伝統文化の展示に人気 風紋
		(2)	夏季研修旅行終わる 所期の目的を果たす 天候に恵まれた教育集団 研修旅行写真コンクール ふるってご応募を しめきりは9月末日 秋色濃い京都の旅 全修協都支部主催 都教職員互助会協賛で 第4次友好訪華 全修協の主催で感動の中国への旅 条約締結後の第一陣 楽しかった東北一周の旅(研修旅行参加者 田中道子氏)
		(3)	修学旅行の実態 東京の私立中52年度 半数以上が3泊4日 輸送方式は多様化へ 53年度の計画 関西方面が根強い あおぞら号で9万名を輸送 来年度の近畿地区 修学旅行と道徳教育[4] 意識の芽生えを期待(松戸三中教諭 坂田次雄氏)
		(4)	[旅] 奈良県の大宇陀町 城下町の面影残す 万葉ゆかりの地に多くの史跡 能登の御陣乗太鼓 海鳴りに鬼面の乱舞(石川県観光連盟) 奈良の社寺で秘仏など公開 京の夏の旅 9月末まで2コース
第202号	昭和53年 10月10日 (1978年)	(1)	文部省の要保護補助金要求 来年度中学生31,700円に 値上がりを見込む 全修協・三地区協、原案の通過に期待 3万円の大打に 解説 修学旅行の基準概要調査 本年度版できる 三地区修学旅行の実態[8] 費用は高等の様相 中学校三泊四日の多い近畿 学校の地域環境/学校規模/実施学年/日数/費用 和歌山県教育互助会事務局長 阪上広雄氏逝去 風紋
		(2)	研修旅行のアンケートから 充実した講演が好評 意義深い現地指導も 教職員“授業に活用できる” 自然界の脅威知る(山陰コース) 民謡をきく楽しみも 話し上手に魅せられる(能登・佐渡コース) 熱意あふれる講師(能登越前コース) 研修の成果ひととき 阪上広雄氏を悼む なつかしい紀州弁(大阪府教職員互助組合事務局次長 神代義秀氏) 反骨精神の影武者(全修協和歌山県支部長 岩尾覚氏)
		(3)	いまでも盛んな伊勢参宮 受験合格を祈る生徒 社会科学習の傾向も強い 55年度の輸送計画 関修委で作業開始へ 修学旅行改善にのり出す 先ず校内体制の確立 嘉悦女子高が対策練る 近畿二府四県修旅委で 割引率の確保要望 あおぞら号運営委開く 役員の改選も
		(4)	[旅] 暗越奈良街道の石仏 路傍に哀歎残して 昔は山賊が旅人を悩ます スズカランドに“万葉の森” ゆかりの草木に解説もつけて 女生徒の人気を集める 京都の寺院で特別拝観

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第203号	昭和53年 11月10日 (1978年)	(1)	来年度 拡大する研修旅行 精選の33コースで／諸行事 教育的意義も深めて 地区会議の日程 研修旅行に大型補助 北海道、青森、岩手支部で冬季沖縄コースに 修学旅行と道徳教育[5] 国民的自覚の高まり(松戸三中教諭 坂田次雄氏) 全修協だより 風紋
		(2)	研修旅行写真コンクール入賞作品きまる 推薦作品には小谷氏 北海道知事賞 小林氏 北海道観光連盟賞 川田氏に 九州観光連絡協議会 特選は佐々木智雄氏に 他 総評 全国推奨みやげ品名鑑 土産品連盟で発行
		(3)	駒場東邦の中・高校 修学旅行を体系化 6ヵ年、一貫教育のなかで“教室の延長”を堅持 レポートは採点の対象 教科として扱う 斉藤昌男教諭の話 三重県で修旅調査[4] 昨年度中学校 準備は二年後半から 宿泊、東京に続き箱根・日光
		(4)	[旅] 暗越奈良街道の石仏 旅人にやすらぎ 民家にみる簡素な美しさ ルネサンス発祥の地フローレンス[上] 朱色の瓦に映える花 西欧22日の旅から(青森県教育厚生会専務理事 秋元良治氏) 飛鳥の古代を探る 「飛鳥古代史研修会」12月から明日香村で
第204号	昭和53年 12月10日 (1978年)	(1)	研修旅行の拡大強化 組織あげて推進へ 全修協、地区会議開く 全修協通常総会 来年2月7・8日熱海で 三地区修旅協で秋季総会 輸送をテーマに 55年度の輸送計画 関修委運営委で検討 風紋
		(2)	来年の第23回研修旅行決る 国内外の46コースで 滞在型や退職者向けも 都の研旅推進委 現・元校長が懇談 全修協東京支部の懇談会に思う(飯田清氏)
		(3)	関修委の現地研修 吉野の歴史を学ぶ 京都・関係者と懇談会も 旅館の接遇など業界と一問一答 あおぞら号近畿運営協 会長に末吉義一氏 三地区連絡協 国鉄中沢洋也氏の質疑応答 修旅委組織が急務
		(4)	ルネサンス発祥の地フローレンス[中] 昔の少年使節も感嘆 西欧22日の旅から(青森県教育厚生会専務理事 秋元良治氏) 森林型のサファリ 静岡で来夏開園の運び 古希迎える樋口清之氏 大和文化会でお祝い 石川県観光連盟で ガイドブック作る 吉野山ビジターセンター 10月7日に開館 研修旅行の作品 (詩)南朝の秘史つづる ～吉野・十津川・南紀[1]～ (研修旅行参加 井上西三氏) 奈良 高松塚周辺を整備 友好訪華団帰る

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第205号	昭和54年 1月10日 (1979年)	(1)	<p>輝く新春を迎う 目標は日本人育成に(文部大臣 内藤誉三郎氏) 新しい修学旅行創造(日本教職員組合中央執行委員長 榎枝元文氏) 飛躍する年への課題(全修協理事長 山本種一) 全修協の新支部長 楠原信一(千葉)、伊藤深(愛媛)両氏就任 風紋</p> <p>(2) 地域密着型の経営で(国鉄総裁 高木文雄氏) 新年を迎えて 改善には4条件 修学旅行に期待して (関東・東海・近畿三地区修学旅行連絡協議会会長 永山美知雄氏) ストの対策も(全修協新潟県支部長 笹川正人) 福祉と旅行と(日本生協連学校生協部会運営委員長 福山雅夫氏) 研旅の拡大策(全修協栃木県支部長 梅沢茂)</p> <p>(3) 新年を迎えて 大目標達成へ(全修協理事・兵庫県支部長 魚谷時太郎) 任務は重大に(全修協理事 成瀬幡治) 古代学習の道(全修協理事 白滝末紀) 事業の浸透を(全修協理事・東京都支部長 青山良道) 運動に声援を(山口県教職員互助会事務局長 中山助夫氏) 一層の飛躍を(全修協山口県支部長 開地茂行) 補助金も増額(新潟県教職員厚生財団常務理事 樋浦辰治氏) 幅広い連携で(広島県学校生活協同組合専務理事 木村富十四氏) 後援も増えて(秋田県学校生活協同組合専務理事 新田久松氏) 全修協大阪支部長 西岡権治郎氏逝く 滋賀県 滋賀の文化を紹介 瀬戸内晴美さんの講演も 「修学旅行のための大和路を語る会」ひらく</p> <p>(4) 新年を迎えて 発展を祈って(島根県学校生活協同組合専務理事 山本亮氏) 教育に貢献を(全修協大阪支部長 西岡権治郎) (絶筆) 年頭提言二つ(全修協三重県支部長 西山文男) 中国で勉強を(全修協滋賀県支部長 駒井徳左衛門) 余裕もつ教育(全修協秋田県支部長 柿崎貞治) 魅力の旅に(京都府教職員互助組合事務局長 梅田晶三氏) 旅の多様性を(鹿児島県教職員互助組合専務理事 米増武夫氏) ルネサンス発祥の地フローレンス[下] 政治も移り変わって 西欧22日の旅から(青森県教育厚生会専務理事 秋元良治氏)</p>
第206号	昭和54年 2月10日 (1979年)	(1)	<p>(財)全国修学旅行研究協会 第20回通常総会開く 建設的討議で盛上げ 運動推進の強化策も決定 / 来賓・祝電 国際児童年を迎え 教育振興へ努力誓う(全修協理事長 山本種一 挨拶要旨) 風紋</p> <p>(2) ゆっくりと研修の旅 退職者向けコース ご家族、友人とどうぞ 研修旅行の作品 (詩) 海と闘う自然の姿 ～吉野・十津川・南紀[2]～ (研修旅行参加 井上西三氏) 北海道知事賞完成 道観連賞も 昨年度写真コンクール</p> <p>(3) 運賃値上げは困る 全修協と三地区協、国鉄総裁に要望 「費用に格差が出る」 ことしの抱負 一層の運動を(全修協宮崎県支部長 田尻貴) 退職者も共に(全修協京都府支部長 糸井一) たゆまぬ前進を 第20回通常総会 来賓の祝辞から ご支援を願う(関東・東海・近畿三地区修学旅行連絡協議会会長 永山美知雄氏) 全福協の先駆(全福協代表・日本教職員共済会副理事長 千葉直氏) 教育界に功績 (近畿日本鉄道株式会社代表取締役社長 富和宗一氏代理 取締役業務局長 赤尾公之氏) 有意義な活動(関西汽船株式会社取締役社長 神野純一氏代理 取締役 西田長雄氏) 信念を貫いて(近畿日本ツーリスト株式会社取締役社長 明石孝氏)</p> <p>(4) ひな人形そのふるさと 厄を払う祈りが起源 桃の節句わが子の成長を祈る 下北半島の恐山[1] 荒涼の山に漂う妖気(練馬区関町カトレヤ幼稚園長 宮坂延次氏)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第207号	昭和54年 3月10日 (1979年)	(1)	<p>スト中の修学旅行 専用列車は運転を 新潟県中学校長会が国鉄へ要請 現場にあせりと動揺 狂う教育計画、負担増も 修旅列車走らせよ(中学校長会会長 渋谷敏雄氏) 全修協 本年度の運動方針<上> 基本方針/目標/対策 料金の値上げ抑制へ 修学旅行改善と向上のために 55年度版「近畿の旅」改訂へ 新装こらして登場 風紋</p> <p>(2) 夏の研修旅行 前・後期 近く募集開始 都道府県教委も後援 夏のコース・・・前期 一般コース・特別研修コース、後期 一般コース 北海道は4コース/雄大な風景が展開</p> <p>(3) 関修委研究発表会開く 貴重な体験を率直に 吉田教諭・・・生徒の主体性尊重へ 潮地教諭・・・深い観察学習を提唱 修学旅行と道徳教育[6] 友情と信頼のきずな(松戸市教委指導主事 坂田次雄氏) 集団食中毒防止へ文部省が申請改正へ</p> <p>(4) 春うらら 桜の奈良・大和路 にぎやかな花だより 家族づれの散策に 長谷寺/信貴山/安倍文殊院/談山神社/奈良公園/壺阪寺/室生寺 吉野の桜 下北半島の恐山[下(2)] 呪文で死者が現わる(練馬区関町カトレヤ幼稚園長 宮坂延次氏)</p>
第208号	昭和54年 4月10日 (1979年)	(1)	<p>文部省・本年度 修学旅行の補助金 中学生 30,600円 要保護 小学生9,300円 へき地同額 全修協 本年度の運動方針<下> 対策/修学旅行に関する諸運動の展開/修学旅行委員会の組織と事業 研究座談会は活発に 修学旅行輸送力増強の要請も 支部長の異動 瀬尾武敏氏(大阪)、奥田元男氏(徳島) 大阪事務所も職員補充 山形県議に理事・山形県支部長の完戸一郎氏が六期連続当選 東京中野区長選に理事・東京都支部長の青山良道氏立候補 風紋</p> <p>(2) 夏の研修旅行 前・後期 全国で募集はじまる 各コース講師団の強化に魅力 九州一周/佐渡が島と能登・越前/吉野・十津川と熊野路/東北一周/ 四国一周/沖縄と八重山諸島/磐梯・蔵王と出羽路/奥東北/信濃路 夏のコース・・・前期コース・特別研修コース・後期コース</p> <p>(3) 研修旅行参加の特典 教育界あげて協力へ 義務免や補助金も増額 三重県の修旅調査 事前指導に12時間 市販のしおり併用は76% 春の研修旅行 成果あげて終わる 専用臨一本増発を 近修委が要請へ 修学旅行と道徳教育[7] こまかな事前の配慮(松戸市教委指導主事 坂田次雄氏)</p> <p>(4) 花咲くメルヘンの国へ 鈴鹿サーキット、多摩テックで同時にオランダ・フェア開幕 山陰の小京都・津和野[1] 歴史とともに歩む町 鯉の群れ、殉教の悲話も 京都になぞらえて/家老多胡家の門/人材育成の養老館/受難史語る乙女峠</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第209号	昭和54年 5月10日 (1979年)	(1)	<p>国鉄スト中の修学旅行 専用列車走る 全国で35本を運転 全修協の運動に成果 要請書の全文 修学旅行の実態調査 三重県 服装の自由な学校も 小遣い、行程によって高額に 東京都・中野区長に全修協理事・東京都支部長の青山良道氏が当選 風紋</p> <p>(2) 夏の研修旅行 国内コース 夏のコース・・・前期 一般コース・特別研修コース、後期 一般コース 教育的意義を盛り込む海外特選4コース 南スペイン・ハイライト／ハワイ・文化交流の旅／ヨーロッパ・ロマンチック街道／ 友好訪華団、8月と11月の2回に</p> <p>(3) 修学旅行地の京都 入り込み増加の一途 旅館の確保は困難に 修旅委の動き活発 6月下旬に三地区の総会 東京都支部の研修旅行推進委で友の会結成 関修委の運営委で本年度の運動方針検討 修学旅行と道徳教育[8] 生き物の美しさ知る(松戸市教委指導主事 坂田次雄氏)</p> <p>(4) 立山物語[上] 室堂の歴史をさぐる 昔は修験の聖地 (富山県教職員厚生会業務課長 清水巖氏) 山陰の小京都・津和野[2] 代表的な山城の姿も 稲成神社鮮やかな朱塗りの社殿 津和野城あと／太鼓谷・稲成神社／西周の旧居</p>
第210号	昭和54年 6月10日 (1979年)	(1)	<p>全修協特別委員会開く 研修旅行募集に積極策 退職者にも呼びかけ 修学旅行の実態調査 三重県 不寝番は半数以上も 実施率の低い避難訓練 三地区春季総会開く 風紋</p> <p>(2) 全修協特別委の発言から 参加者獲得に新機軸 夏の研修旅行 国内コース、特別研修コース、海外特選コース 夏のコース・・・前期 一般コース・特別研修コース、後期 一般コース 研修旅行五句(俳人協会員 飯田きよし氏)</p> <p>(3) 修学旅行、本年7月まで運賃据え置き(国鉄) 各修旅委が総会開く 事業推進へ始動 会長に浅香氏(埼玉) 関修委総会は6月8・9日 茨城県修旅委総会開く 荒井委員長が再選 近畿二府四県修旅委 委員長に福井氏内定 東海三県中学校修旅委 新人事を内定 新版「近畿の旅」第二回編集委ひらく</p> <p>(4) 立山物語[中] 室堂の生きものたち 可憐な高山植物 (富山県教職員厚生会業務課長 清水巖氏) 山陰の小京都・津和野[3] 今も鷗外の旧居残る 鷺原八幡宮は公園の先駆 森鷗外の旧居／鷺原八幡宮</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第211号	昭和54年 7月10日 (1979年)	(1)	本年度春季・三地区修旅連絡協総会開く “値上げ攻勢”に対処 全修協も協力 バス料金抑制も重点に 新会長に福井繁氏 本年度の役員 研究協力校を指定 特別研究委設置も承認 風紋
		(2)	研修旅行のご案内 比叡山と近江路コース 修行の霊場で体験を 貴重な文化財も見学 九州一周コース 圧巻は白杵の石仏 自然の驚異、地獄めぐり 夏のコース 前期・後期
		(3)	胸はずませ出発へ 教職員・夏の研修旅行 本年度 関修委総会開く 希望校の調査を実施 東北・上越新幹線線開通に備え 関修委役員の顔ぶれ 近畿二府四県修旅委で 本年度事業計画を決定 役員もきまる 関西汽船 さんふらわあ7 就航 全修協・新潟県支部長に樋浦辰治氏が就任
		(4)	立山物語[下] 珍しい室堂の地質 違う成因が同居 (富山県教職員厚生会業務課長 清水巖氏) ハワイの旅[1] 桃源郷 ワイキキの浜(練馬区関町カトレヤ幼稚園長 宮坂延次氏)
第212号	昭和54年 8月10日 (1979年)	(1)	文相へ全修協と三地区協が補助金増額を要請 要保護と準要保護児童生徒 修旅の実態調査 三重県 健康調査は63.3% 事後指導平均2.8時間かける 事後の指導は/今後の動向は 修学旅行実施基準調査 中学校<1> 風紋
		(2)	秋の研修旅行 国内 退職の教職員向けに 10-11月 3コースが中心で 八甲田と十和田湖 京都と奈良の秋色 加賀と飛騨路の旅 研修旅行団が出発 前期の71団 駅頭では笑顔の交歓も
		(3)	伊勢神宮は全国的に 中学校、文化財として取上げ 東北・上越新幹線の利用 関修委で調査はじめる 修学旅行と道徳教育[9] 集団生活向上と指導(松戸市教委指導主事 坂田次雄氏) 修学旅行の誘致で九州地区が力こぶ
		(4)	ハワイの旅[2] ころろ洗われる環境(練馬区関町カトレヤ幼稚園長 宮坂延次氏) [旅] 万葉の大和路散歩 堂塔に風わたる 歌びとの心に触れる旅
第213号	昭和54年 9月10日 (1979年)	(1)	修学旅行貸切りバス料金 特典拡大を陳情 目標は30%割引き 全修協と三地区協 運輸省、陸運事務所へ 修学旅行費増加に対処 修旅委が運動展開 役員動員して活発な陳情 割引き率に考慮を、各陸運事務所長あて要望 運輸相あて陳情文 関修委運営委、9月7日にひらく 56年度の輸送計画 風紋
		(2)	退職の教職員 秋の研修旅行 粒よりの海外コース/国内コース 紅葉の探勝中心に 海外の3コース ヨーロッパ5カ国ハイライト/アメリカ海岸とハワイ/東南アジア 国内は4コース 北海道一周/錦秋の京都・奈良/ 紅葉の八甲田と十和田/加賀・飛騨の秋景 夏季・研修旅行 写真コンクール ふるってご応募を
		(3)	運賃格差の解消 全修協と三地区協が要望 高木国鉄総裁あて「計画輸送で負担増」 実現は困難な見通し 各修旅委でも活躍 国鉄総裁あての要望書 学校間で不均衡も 栃木県間々田中の修学旅行[1] 生徒の希望も組入れ 泊地変え新機一転因る(間々田中学校長 長浜精氏)
		(4)	今様・奥の細道[1] (研修旅行参加者 剣持杜宇氏) 東京の名所 皇居東御苑<1> 今も江戸城の面影 石垣に秘める大奥の姿 大手門/百人番所/同心番所/皇居御苑の公開 郷土の玩具 四国地方 松山の姫だるま/高知の女だるま/松山の起上り

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第214号	昭和54年 10月10日 (1979年)	(1)	<p>文部省 要保護・修学旅行援護費、来年の概算要求 中学生3万3100円に 高度のへき地も同額で 東海3県修旅委、来年度の修学旅行 13万人を越える 修学旅行の基準調査 中学校<2> 目安として設定 権限は地教委 近畿地区あおぞら号運営協総会ひらく 会長に芥子芳雄氏 明日香村の団体拝観入場料 風紋</p> <p>(2) 研修旅行のアンケートから 教壇で役立てよう すばらしい研修行事に満足 夏季研修旅行のアンケート集計 初参加が52%に増える 申込の59%学校揭示のチラシで</p> <p>(3) 全修協調査 中四国の修学旅行 本土架橋を期待、四国地区 中国の旅行地、九州と近畿に分かれる あおぞら号 小学生の修旅に好適 56年度の修学旅行、1万名の自然減 関修委の集計結果 栃木県間々田中の修学旅行[2] ザコ寝から解放され、現地ではスケッチ展も(間々田中学校長 長浜精氏)</p> <p>(4) 今様 奥の細道[2] (研修旅行参加者 釘持杜宇氏) 東京の名所 皇居東御苑<2> 石は黙して語る 將軍家の栄華伝えて 大番所/富士見櫓/松の廊下跡/富士見多聞/石室/天守台/梅林坂/ 汐見坂/二の丸庭園/平川門/北桔橋門 歴史民俗資料館が完成 奈良県の十津川村に 集印帖 延暦寺/石山寺</p>
第215号	昭和54年 11月10日 (1979年)	(1)	<p>修学旅行の貸切バス、値上げに歯止め 運用面で料金抑制へ 全修協と三地区協、軽減対策運動に成果 陸運局が業者指導 [解説] 条件によって差も 全修協特別委ひらく 研修旅行の方針決定へ 東北・上越新幹線に備え、関修委で希望調査 風紋</p> <p>(2) 研修旅行写真コンクール入賞作品きまる 推薦作品には小柳さん 北海道知事賞 野田宏氏/北海道観光連盟賞 妹尾氏/特選 仁井氏/他、総評 紅葉の旅(俳句5篇)(俳人協会会員 飯田きよし氏) 栃木県支部が移転 奈良12月の行事</p> <p>(3) 第2回修旅の実態調査 全修協と東京私学、全国の私立高校対象に あおぞら号近畿学童共済会 修学旅行の食中毒 早い事後処置に好感 運営協に賛辞あつまる 修学旅行と道徳教育[10] 自然との共栄ねがう(松戸市教委指導主事 坂田次雄氏) 森本全修協調査役に叙勲 教育界への功績で</p> <p>(4) [旅] 再び訪ねた中国 「熱烈歓迎」今もなお (全修協参与・東京都教職員互助会参事 鈴木春之助氏) 再度の訪問に感激/交通混雑は一段と/民謡も移り変わり 懸命な外貨獲得も/中国訪問の心構え 今様 奥の細道[3] (研修旅行参加者 釘持杜宇氏) 京・北山ところどころ[1] 女人えにしの貴船神社 祈祷には馬を献じて しぐれ煙る水神の古社</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第216号	昭和54年 12月10日 (1979年)	(1)	三地区修旅連絡協総会開く 生徒増に輸送力確保/旅費高騰限界に 山本理事長が挨拶「連帯と協調のもとで」 12月4日全福協が事務局会議ひらく 新幹線の工事日 56・57年度が内定 全修協の地区会議終わる 研修旅行に積極方策 風紋
		(2)	研修旅行のご案内 冬季の2コース、沖縄と八重山へ 見学地も豊富に組み入れ 沖縄と八重山/沖縄/春の研修旅行 研修旅行のアンケートから「来年も参加したい」 知床・納沙市、九州一周
		(3)	東北4県と新潟県の修学旅行 東北・上越新幹線の意識調査 すぐ利用したい16%/つなぎ輸送対策が焦点に/修旅組織委が必要 56年度 近畿地区の輸送、来年3月に最終案 「近畿の旅」完成 関修委で新訂版つくる 修学旅行の基準調査 中学校<3> 経済的負担を軽く 浅香久氏が教育界への功勞に対し、文部大臣から表彰
		(4)	[旅] 西欧の人と自然[1] 歴史を語りつぐ噴水(富山県教職員厚生会業務課長 清水巖氏) 今様・奥の細道[4] (研修旅行参加者 釧持杜宇氏) 京・北山ところどころ[2] 宮中ゆかりの八瀬の里(全修協大阪事務所長 曾田震五) 古道に残る昔がたり 文人趣味ゆたかな山里
第217号	昭和55年 1月10日 (1980年)	(1)	輝く新春を迎う 広い文教行政展開(文部大臣 谷垣専一氏) 全修協の運動に期待(日本教職員組合中央執行委員長 楨枝元文氏) 転換を画すべき年に(全修協理事長 山本種一) 21世紀の鉄道づくり(日本国有鉄道総裁(国鉄総裁) 高木文雄氏) 風紋
		(2)	新年を迎えて(2~4ページ) 創意生かす修旅を (関東・東海・近畿三地区中学校修学旅行連絡協議会会長 福井繁氏) 高めよう体験学習 (関東・東海・近畿三地区中学校修学旅行連絡協議会副会長 早川高德氏) 新しい転換を求めて (関東・東海・近畿三地区中学校修学旅行連絡協議会副会長 浅香久氏) 教育の原点から(あおぞら号近畿地区運営協議会会長 芥子芳雄氏)
		(3)	80年への期待(全修協常務理事・東京都支部長 青山良道) 修旅委組織を(全修協理事・北海道支部長 高田治郎) 未来への設計(全修協理事・修学旅行特別委員長 白滝末紀) 修旅の橋渡し(全修協理事・研修旅行特別委員長 成瀬幡治) カギ握る教育(全修協理事・兵庫県支部長 魚谷時太郎) 初心貫く情熱(全修協監事 芦田重左衛門) 参加者も期待(全修協佐賀県支部長 篠崎規) 基本ふまえて(広島県学校生活協同組合専務理事 木村富十四氏) 奮闘を誓って(京都府教職員互助組合事務局長 梅田晶三氏) 体験いかして(新潟県教職員厚生財団常務理事 加藤敏郎氏) 理念の追求を(熊本県学校生活協同組合専務理事 藤芳早苗氏) 一歩ずつ実現(全修協三重県支部長 西山文男) 支部の連帯を(全修協京都府支部長 糸井一) 特殊性生かす(全修協徳島県支部長 奥田元男)
		(4)	飛躍と研鑽と(全修協大阪支部長 瀬尾武敏) 事業の充実へ(島根県学校生活協同組合専務理事 山本亮氏) 独自の性格で(全修協栃木県支部長 梅沢茂) 新しい飛躍を(大阪府教職員互助組合事務局長 瀬川尚志氏) 全修協に期待(大分県教職員互助会事務局長 安部次人氏) 優れた企画で(大阪府教職員互助組合事務局次長 神代義秀氏) 海外小旅行を(全修協新潟県支部長 樋浦辰治) 実績で勝負を(全修協宮崎県支部長 田尻貴) 希望ある年に(全修協熊本県支部長 村田正実) 活発な展開を(山口県教職員互助会事務局長 中山助夫氏) 責務は重大に(福島県退職教職員互助会事務局長 山田孫市氏) 積極的運動へ(秋田県学校生活協同組合専務理事 新田久松氏) 新しい決意で(全修協山口県支部長 開地茂行) 楽しい思い出に(全修協滋賀県支部長 駒井徳左衛門) 初志の貫徹を(全修協神奈川県支部長 露木喜一郎) 研旅の拡大へ(青森県教育厚生会常務理事 秋村健二氏)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第218号	昭和55年 2月10日 (1980年)	(1)	全修協の通常総会 2月20～21日 熱海市でひらく 東北・上越の新幹線 関修委の利用調査 “考慮中”が41%以上 「利用したい」は14%に 修学旅行の基準調査 “費用自由”が増える 中学校<4>/高等学校<1> 関修委主催、渋川市で研究発表会ひらく 大和路を語る会 風紋
		(2)	研修旅行のアンケートから 講演、見学指導に感銘 [旅] 西欧の人と自然[2] 歴史を物語る灰の町(富山県教職員厚生会業務課長 清水巖氏)
		(3)	全修協春の研修旅行 現職向けに11コース 非現職者にはゆとりとくつろぎの旅 飛騨高山と加賀・越前/隠岐と出雲路/萩・津和野・山口/春のコース一覽 琵琶湖へどうぞ 滋賀県主催で修学旅行誘致の講演会(埼玉県商工会館) 研修旅行写真コンクール 北海道知事賞と道観連賞が完成 修学旅行と道徳教育[11] 期待にこたえた作文(松戸市教委指導主事 坂田次雄氏)
		(4)	今様・奥の細道[5] (研修旅行参加者 釧持杜宇氏) 京・北山とところどころ[3] 常照皇寺 南北朝の悲話ここに 北山杉を縫って山国隊が 研修旅行思い出の旅(新潟県教職員厚生財団継続団員 鈴木謙次氏) 京の冬の旅 文化財を特別公開
第219号	昭和55年 3月10日 (1980年)	(1)	運輸省が通達「料金を明示せよ」 守らねば厳罰 通達全文 水増しバス会社処分 名古屋陸運局、12台40日間の運行停止 関修委、修学旅行の実態調査 旅費は3万円台 修学旅行の基準調査 高等学校<2> 日程は県の独自性で 風紋
		(2)	ことしも研修旅行へ 精選コースがずらり 申込み受けはじまる 研修旅行のコース/研修旅行総ガイド80年版・全修協から発行 ゆとりある日程で 春から夏へ、退職教職員向けに [旅] 西欧の人と自然[3] かたくなに自然守る(富山県教職員厚生会業務課長 清水巖氏)
		(3)	全修協と東京私学で実態調査 全国私学の修学旅行 中学校…費用、公立と大差なし 旅館への不満訴える 修学旅行と道徳教育[12] 旅先で自己を反省(松戸市教委指導主事 坂田次雄氏) 北海道観光便覧 道観連から発行 関修委の研究発表、群馬県渋川市で二教諭
		(4)	光をあびて花きそう 春の大和路をのんびりと 今様・奥の細道[6] (研修旅行参加者 釧持杜宇氏) 京・北山とところどころ[4] 大悲山峰定寺 浄土を望む修験の寺 鞍馬の霊地に縁起求めて 滋賀県の修学旅行誘致 映画と講演で紹介(埼玉県商工会館にて)
第220号	昭和55年 4月10日 (1980年)	(1)	第21回全修協通常総会ひらく 総力あげ前進を誓う 同志の結集いまここに 81年代の先陣に立つ 全修協山本理事長の挨拶 理事に辻原弘市氏 風紋
		(2)	研修旅行のご案内 早くも申し込み殺到 夏の特選コースずらり 研修旅行コース 特別研修コース 退職者向けコース
		(3)	東京・中野区 修学旅行に公費制 交通費の全額を補助 父母負担軽減に一と役 生徒一人に20,000円 全修協運動を実践 中野区長の話 東海三県 新装のこまどり号 春の第一陣から運転 全修協本部を強化 神部、熊井氏事務局入り 関修委で研究発表会 集合教育とり入れ・車窓見学の必要性 集合教育をとり入れた修学旅行(生方実太郎氏) 有意義な修学旅行をするために(阿部茂氏)
		(4)	今様 奥の細道[7] (研修旅行参加者 釧持杜宇氏) [旅] 西欧の人と自然[4] パリの灯は色彩制限(富山県教職員厚生会業務課長 清水巖氏) ぼたんまつり、奈良の社寺で 新装版「京都の歴史」完結記念に特別頒布

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第221号	昭和55年 5月10日 (1980年)	(1)	文部省・本年度の要保護 修学旅行の補助金 中学校31,600円に 緊縮予算の影響で低額 運賃据え置き 特例は7月まで国鉄、今回かぎりの措置 要請書 修学旅行の基準調査 6泊7日の長期間も 近畿、来年度の輸送計画 九州方面が圧倒的 風紋
		(2)	研修旅行のご案内 参加申し込み激増へ 教職員の意欲高まって 研修旅行のコース/欧州と中国訪問も
		(3)	交通スト 修学旅行専用列車走る 在来線で7本 国鉄両労組が協力態勢 国鉄スト 負担増の補償を 新潟県中学校長会申入れ 研修行事が魅力 全修協支部で懇談会 修学旅行と道徳教育[13] 最終学年に尊い体験(松戸市教委指導主事 坂田次雄氏) 全修協大阪事務所移る
		(4)	[旅] 西欧の人と自然[5] 古い歴史が息づく (富山県教職員厚生会宇奈月保養所副支配人 清水巖氏) たより
第222号	昭和55年 6月10日 (1980年)	(1)	修学旅行の非行防止 京都府警、手引き書で呼びかけ 飲酒の生徒ふえる/教職員の“勇気”を望む 生徒の自主活動育成(水戸第三高校教諭 石塚真氏) 三地区協の総会 7月4・5日、修善寺で 近畿二府四県 修旅委の役員決る 委員長に南裕之氏 風紋
		(2)	教職員 夏の研修旅行 7月15日まで受け 全国的に人気集めて、満員コースは別途手配 「教育的行事が魅力」 研修旅行 都支部で懇談会開く
		(3)	研修旅行の特別部会開く 各県計画と現状分析 募集推進の意欲たかめる 関修委の総会開く 6月19・20日 栃木県那須で 関東地区の修旅委、各県の役員きまる 栃木・大谷資料館 壮大な地下の石切場
		(4)	今様 奥の細道[8] (研修旅行参加者 釘持杜宇氏) 奈良 ハイキング・コース 鮮やかな柱状節理も 香落溪と赤目四十八滝/柳生街道と滝坂の道/葛城山麓の道
第223号	昭和55年 7月10日 (1980年)	(1)	本年度春季・三地区 修旅連絡協総会開く 積極的な運動展開へ 全修協との連帯強めて 会長に野呂正光氏 本年度の役員 風紋
		(2)	夏季研修旅行はじまる いっせいに南へ北へ 出発に際してのご注意 全修協・友好訪華団の成果 中国の大学生と交流(元大阪市立大宮中学校長 喜多四郎氏) 日本留学時は自宅で起居も
		(3)	各修旅委でも総会 費用値上がり対策も 関東・東海・近畿地区で 修学旅行 根強く伊勢参宮へ「静かな神域がよい」
		(4)	今様 奥の細道[9] (研修旅行参加者 釘持杜宇氏) 沼津歴史民俗資料館 歴史知る手がかり 電気通信科学館で「テレコムランド80」開催 志摩民俗資料館が開場 近鉄鶴方駅前に

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第224号	昭和55年 8月10日 (1980年)	(1)	全修協調査 55年度 修学旅行の実施基準 中学校、費用の制限撤廃へ 日数は昨年とほぼ同じ 関修委 東北で現地研修会 新幹線の開通にそなえ 風紋
		(2)	これからの研修旅行 紅葉探勝のびのびと 退職者向け“語らいの場”にも活用 秋と冬のコース/琉球の史跡訪ねる/宮古も加えて沖縄コース 一般向け
		(3)	来年3月から神戸博 ポートピア'81開く 海の文化都市が会場/全修協、修学・研修旅行も計画 修学旅行と集合教育[1] 生徒の主体的な取り組み (利根村立多那中学校教諭 生方実太郎氏)
		(4)	今様 奥の細道[9] (研修旅行参加者 釘持杜宇氏) 恐山 空に鳴る風ぐるま イタコは生と死の媒体に 修学旅行ガイド 岩手県観光連盟から発行 集印帖 三宝院 竜安寺
第225号	昭和55年 9月10日 (1980年)	(1)	全修協調査 55年度 修学旅行の実施基準 高校も増額で対処 旅行費高騰、制限撤廃の傾向強く/各県別基準 風紋
		(2)	退職の教職員 秋の研修旅行 もえる紅葉たずねて ゆとりと語らいの旅へ 近畿地区でも実施 北海道と佐渡・磐梯へ 研修旅行写真コンクール ふるってご応募を
		(3)	要保護の補助金増額を 全修協と三地区協、文相あて要望書提出 中学校35,000円に 友好訪華の旅へ 三大都市で史跡参観 第6次秋季の団員募集 修学旅行における集合教育[2] 成果あげた事前活動 (利根村立多那中学校教諭 生方実太郎氏)
		(4)	今様 奥の細道[10] (研修旅行参加者 釘持杜宇氏) 角館 桜と武家屋敷と みちのくの小京都
第226号	昭和55年 10月10日 (1980年)	(1)	文部省 要保護・へき地児童生徒修学旅行の補助金 56年度概算要求 中学生33,800円 修学旅行の基準調査[3] 小学校 ほとんど1泊2日 解説 人気たかまるポートピア'81 風紋
		(2)	研修旅行のアンケートから すばらしい講師陣 北朝鮮訪問記[1] 理想を貫く福祉国家(全修協理事・兵庫県支部長 魚谷時太郎)
		(3)	近畿地区あおぞら号運営協の総会ひらく 会長に芥子芳雄氏再選 関修委で割付け作業 57年度 2万2千人増える 修学旅行における集合教育[3] 学習に工夫を(利根村立多那中学校教諭 生方実太郎氏) 拝観料を改訂 京都
		(4)	今様 奥の細道[11] (研修旅行参加者 釘持杜宇氏) 青森 棟方志功記念館 美への執念あふれる
第227号	昭和55年 11月10日 (1980年)	(1)	実施基準のまとめ 中学校、大勢は2泊3日で 費用の制限撤廃へ 三地区連絡協ひらく 四条畷中学校長の発表も 関修委で発表会 12月2日、宇都宮市 全修協地区会議を開催 11月6日東北を皮切りに 56年度東海三県の修学旅行 11万6千名を輸送 風紋
		(2)	研修旅行写真コンクール入賞作品きまる 推薦作品には石橋ふじのさん 北海道知事賞栗田あき氏 北海道観光連盟賞工藤玲子氏 他入選 佳作 総評 近畿日本ツーリスト 学習の旅シリーズ 各教委へ映画を贈る 神戸博 発展途上国の展示館も登場
		(3)	長野・篠ノ井旭高校 新しい修学旅行に挑む 汗を流す漁業体験 工場公害も考える 修旅と生徒会活動 近畿でも研究発表会 北朝鮮訪問記[2] 徹底した予防保健も(全修協理事・兵庫県支部長 魚谷時太郎)
		(4)	今様 奥の細道[12] (研修旅行参加者 釘持杜宇氏) 適塾 医者 洪庵が創設 門弟3千人にも 後援と映画の会 滋賀県主催で

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第228号	昭和55年 12月10日 (1980年)	(1)	三地区修旅連絡協 秋の代表者会開く 修旅委の業績讃う 全修協山本理事長が挨拶 会長に森幾松氏 近畿二府四県 57年度の修学旅行 12万9千名に 関修委研究協議会開く 57年度の輸送 2万4千名の増 風紋
		(2)	神戸ポートピア'81開く 人工島に理想都市を 国際交流と文化の創造 56年3月20日-同9月15日 広大な地域にバビリオン32館 パンダも登場
		(3)	神戸ポートピア'81 広大な地域に バビリオン32館 テーマ館、兵庫県館、神戸館、川鉄地球館、神鋼ポートラマ館、 サントリー・ウォーターランド、ポートピアみどり館、神戸プラネタリウム・シアター、 ダイエー・バビリオン=オムニマックスシアター、住友館、大阪ガスワンダーランド、 芙蓉グループバビリオン、関西電力未来エネルギー館など 神戸新交通 ポートアイランド線/パンダも登場/修学旅行の扱い 研修旅行でどうぞ 神戸博春と夏 見どころも豊富に
		(4)	今様 奥の細道[13] (研修旅行参加者 釘持杜宇氏) 北朝鮮訪問記[3] 南北対照の38度線で(全修協理事・兵庫県支部長 魚谷時太郎) 専用線こがね丸就航 関西汽船で完成
第229号 欠番			
第230号	昭和56年 2月10日 (1981年)	(1)	財団法人全国修学旅行研究協会 創立25周年を祝う(1~3ページ) 栄えの躍進を祝して(文部大臣 田中竜夫氏) たゆまぬ努力が結実(全国教職員福祉団体連絡協議会会長 楨枝元文氏) 全修協運動に挺身(全修協理事長 山本種一) 全修協記念総会の日程 風紋
		(2)	全修協のご支援で(あおぞら号近畿地区運営協議会会長 芥子芳雄氏) 教育を支える柱に(近畿日本ツーリスト(株)取締役社長 明石孝氏) 海上輸送で奉仕(関西汽船(株)取締役社長 神野純一氏)
		(3)	修学旅行の理念貫く(衆議院議員 原田憲氏) 輸送面でご協力(日本国有鉄道総裁 高木文雄氏) 教育振興に成果(参議院議員 内藤誉三郎氏) さらに使命の達成へ(関東・東海・近畿三地区修学旅行連絡協議会会長 森幾松氏) 思い出の写真
		(4)	事務局長時代の思い出 同志が集まり結成(寺田鍊氏…現在、静岡県教育公務員弘済会理事長) 思い出つきぬ歳月(白滝末紀氏…現在、本部相談役・教育総合研究所所長) 組織づくりに専念 (永井熙氏…現在、常務理事・茨城県支部長・日本教育公務員弘済会理事長) 全修協・春の海外旅行 シンガポールとバリ島へ 関修委の新幹線利用 57年度は18万名に 思い出の写真
第231号	昭和56年 3月10日 (1981年)	(1)	(財)全国修学旅行研究協会 創立25周年を迎う 栄光の軌跡ここに 熱海で厳粛な記念式典開く 会場にあふれる感動 感謝状の贈呈式も 組織と友情で躍進 全修協 山本理事長の挨拶 風紋
		(2)	全修協企画 教職員夏の研修旅行 海外もふくめ27コース 諸行事も充実して登場/ポートピア'81も グリーン・ツアー 退職者向け特選コース 北海道知事賞・道観連賞完成 昨年の写真コンクール
		(3)	全修協運動に挺身 支部長、幹事に感謝状/特別功労者にも感謝状 海原治氏が記念講演 国民が考えよう、国際情勢と安全保障 25周年記念誌と「風紋集」発行
		(4)	今様 奥の細道[14] (研修旅行参加者 釘持杜宇氏) 京都・雲ヶ畑の岩屋不動 洞窟信仰がはじまり 役小角の修験道場にも

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第232号	昭和56年 4月10日 (1981年)	(1)	<p>文部省・本年度の要保護 修学旅行の補助金 中学校33,300円に きびしい査定で僅か増額 本年度の事業計画 教育的意義を求める [1]修学旅行三原則を柱に人間形成 修学旅行の基準調査 全修協が実施 関修委 57年度の新幹線 17万8千人運ぶ 全修協 福岡事務所を開設 九州地区のセンターに 風紋</p> <p>(2) 神戸博ポートピア'81へ 研修旅行で特別企画 人工島に科学の粋 神戸博ポートピア'81をみる (近畿日本ツーリスト株式会社 ポートピア博実施部部長 瀬野高夫氏)</p> <p>(3) 57年度 首都圏新幹線の輸送 関修委は17万8千人 高校の秋型実施つづく 関東地区・東京都・神奈川県・山梨県の中学校連合 群馬県・栃木県南部・茨城県・千葉県・埼玉県の高校連合 57年度あおぞら号 9万5千人を輸送 三重県修旅誘致委 昨年の集計まとまる 伊勢参宮は減少 歌舞伎の鑑賞教室 6・7月東京の国立劇場で 新幹線の車窓学習も研究 見学個所をしぼる[1] (群馬県新治中学校教諭 阿部茂氏) [本] 光をそそぐ親と子(西山文男著) 家庭教育の指針</p> <p>(4) 夏の研修旅行 現職には22コースで、海外4コースを実施 退職者向けも 教委などの後援も 神戸博ガイドブック発行 教材研究所から 九州アフリカ・ライオン・サファリ 営業時間と入園料 ある日のポートピア博'81 会場ぶらぶら歩き(全修協大阪事務所長 曾田震五)</p>
第233号	昭和56年 5月10日 (1981年)	(1)	<p>国鉄の修学旅行運賃と料金 据置き減収の補填 割引率引下げ論浮上 新幹線特急料 教育界の反発必至に 解説 本年度の事業計画[2] 修旅委の組織化活発に 父母負担の軽減図る 成瀬幡治氏・村山助雄氏(全修協常務理事) 叙勲 両常務、多年の功労に輝く 風紋</p> <p>(2) 神戸博ポートピア'81へ 家族向きのコースも 人気高まり新たに設定 神戸博ファミリーコース/神戸博と高野山/神戸博と京都特別拝観 賑やかな催し 国際広場</p> <p>(3) 57年度 近畿地区中学校 3方面へ22万5千人 二府四県は14万人越す 57年度 東海三県修旅委で14万3千人を輸送 関修委の運営委ひらく 全修協、スト中止を要請 修学旅行、回避で無事輸送へ アンダル展ひらく 理想美を追求</p> <p>(4) 全修協主催 夏の研修旅行 海外へ魅力のコース 誰でも気軽に参加できる ヨーロッパ・ロマンチック街道/シンガポールとバリ島/韓国歴史の旅 第7次中国友好の旅</p>
第234号	昭和56年 6月10日 (1981年)	(1)	<p>国鉄・特急料金の割引率引下げ 学校現場が猛反発 「教育的意義を無視」アンケート しわ寄せ、修学旅行へ/犠牲になるおそれ 修学旅行は別枠に/学校行事の重要性 千葉・岐阜・愛知・群馬・三重・栃木・埼玉・近畿二府四県・茨城各県修学旅行委員 風紋</p> <p>(2) 夏の研修旅行 募集たけなわ 満員近いコースも出る 北海道一周AB/知床半島と納沙布岬/利尻島と礼文島</p> <p>(3) 近畿二府四県修旅委で 南裕之氏を委員長に再選へ 全修協愛媛県支部長に竹村忠雄氏 関東5県の修旅委、各県の役員決る 三地区修旅協総会 7月2・3日、岐阜市で 関修委の総会 6月19・20日、大洗で 東海三県の県代表 大和路を語る会 7月1日、青森市で</p> <p>(4) 研修旅行 参加申込み相次ぐ 魅力は豊富な行事に 神戸博も人気高まる</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第235号	昭和56年 7月10日 (1981年)	(1)	三地区修旅連絡協総会開く「新教育課程」に対処 会長に鯉淵一郎氏が就任 「割引き率」も焦点 風紋
		(2)	研修旅行 退職者向けコース グリーン・ツアー 全修協が誇る新企画 都支部で研修旅行座談会 1室利用の配慮も 「乗物ガイド」京都散策に必携の書
		(3)	関修委で総会開催 会長に鯉淵氏 旅行費高騰の抑制へ／本年度の役員 全修協 新潟県支部長に加藤敏郎氏／全修協 調査研究部長に西沢四郎氏 新幹線の車窓学習も研究 沿線の産業を詳に[2] (群馬県新治中学校教諭 阿部茂氏) 修学旅行の懇談会 大分県と別府市が主催
		(4)	研修旅行写真コンクール ふるってご応募を 夏の研修旅行 実施コース一覧 東海汽船 新型の双胴高速船「シーガル」が就航 吉野山の謎<1> 神格化された桜の木(奈良県吉野町観光課長 桐井雅行氏) 全教互の事務局長 亀松昭重氏が就任 伊勢志摩スカイライン バス料金を改訂 東京・科学技術館 入場料を改訂 東京・交通博物館 海の特集映画会 奈良・明日香村に民俗資料館を建設
第236号	昭和56年 8月10日 (1981年)	(1)	今年度・修学旅行の基準 昨年と変わらぬ日程 費用制限の撤廃 37都府県におよぶ 牧野芳子さん全修協の大阪事務所に 風紋
		(2)	研修旅行いよいよ後期へ 北へ南へ意義ある旅を 全修協のグリーン・ツアー 秋の風光を楽しむ ゆとりの3コースで 退職者向けの企画登場 今年も写真コンクール サービス判で応募できる 京都の行事(9月)
		(3)	全修協と東京私学が実態調査 広く校外学習つかむ 東京都内の私立校 オリエンテーション 新入生対象が多い 校外学習の手引き 大分市から発行 新幹線の車窓学習も研究 学校の自主放送を[3] (群馬県新治中学校教諭 阿部茂氏)
		(4)	京都市考古資料館 埋蔵文化続々と 地下鉄工事で倍増 今様 奥の細道[10] (研修旅行参加者 釘持杜宇氏) 吉野山の謎<2> 吉野宮所在地に諸説(奈良県吉野町観光課長 桐井雅行氏)
第237号	昭和56年 9月10日 (1981年)	(1)	要保護・へき地児童生徒 修学旅行の補助金、57年度文部省の概算要求決る 中学校わずか六百円増 「補助金見直し」を考慮 要保護中学生の修学旅行37,200円に 全修協と三地区協 文相あて増額要望／要望書 今年度・修学旅行の基準 高等学校 旅行費は順次改訂、ほかの条件は変化なく 風紋
		(2)	全修協 教職員福祉問題研究会が発足 研修旅行拡大に焦点／常設機関として運動展開 職専免が生きた研修旅行 福島県教諭急死に万全の措置／全修協に感謝、校長からの礼状 新潟県支部 研修旅行の反省会 参加者代表を集めて
		(3)	あおぞら号近畿地区運営協で 会長に対馬熊雄氏 関修委58年度は18万3千人を輸送 関修委 東北地方への修学旅行 多くの課題が残る<1> 修学旅行の基準調査(1面のつづき) 高等学校
		(4)	研修旅行尾瀬コース同行記 湿原に乱れ咲く花々(全修協大阪事務所長 曾田震五) 吉野山の謎<3> 神宿る聖なる飛鳥川(奈良県吉野町観光課長 桐井雅行氏)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第238号	昭和56年 10月10日 (1981年)	(1)	校外学習の実態 全修協が全国中・高校調査 貸切バスで輸送<1> 宿泊は公共施設を利用 三地区代表者会議開く 全修協 地区会議開催 11月5日、東北を皮切りに 今年度・修学旅行の基準 高等学校(つづき)方面は自由に選出 四、五泊が大部分占める 風紋
		(2)	研修旅行写真コンクール入賞作品きまる 推薦作品には佐藤正巳氏 北海道知事賞徳重勉氏 北海道観光連盟賞川田勇氏 他 入選 佳作 総評 アンケートから ことしの研修旅行
		(3)	特集 近畿二府四県修旅委の活動 地域の特性生かす 全修協運動に呼応して (近畿二府四県修旅行委員長 南裕之氏) 本年度の役員 あおぞら号も 近鉄 学童の専用電車
		(4)	全修協グリーン・ツアー同行記[1] 紅葉のみちのく(全修協庶務部長 藤田勝次郎) エネルギーの創造 香川・仁尾太陽博 58年11月まで開催
11月号休刊			
第239号	昭和56年 12月10日 (1981年)	(1)	三地区修旅連絡協 秋の代表者会議開く 山本理事長が挨拶「費用高騰抑止へ総力」 国鉄輸送は限界に/今こそ実践力を 全修協役員会開く 57年度の事業計画を協議 風紋
		(2)	全修協企画・教職員 春の研修旅行 多彩な17コース登場 行事も厳選、豊富を誇る
		(3)	“教福研”いよいよ発足 役員と会則も決る 58年度の輸送計画 関修委で決定 道観連が修旅誘致 北海道へどうぞ 関修委・岡山へ現地研修の会 全修協、高田治郎・完戸一郎 両理事に叙勲
		(4)	わが故郷・交野市[1] 古文化伝える町(全修協大阪事務所長 曾田震五) 全修協グリーン・ツアー同行記[2] 湖と青い大空の交錯(全修協庶務部長 藤田勝次郎)
第240号	昭和57年 1月10日 (1982年)	(1)	輝く新春を迎う 次代を担う青少年を(文部大臣 小川平二氏) 修学旅行の見直しを(全国教職員福祉団体連絡協議会会長 楨枝元文氏) 地道な活動で前進を(全修協理事長 山本種一) 風紋
		(2)	輝く新春を迎う(つづき) 修学旅行輸送の強化(国鉄総裁 高木文雄氏) 新年を迎えて 組織の力を結集して 旅行費用高騰の抑止を(三地区修旅連絡協会会長 鯉渕一郎氏) 新しい修旅を(東海三県公立中学校修学旅行委員会委員長 飯田孝光氏) 見直しが必要(近畿二府四県公立中学校修学旅行委員会委員長 南裕之氏) 育成に生かす(あおぞら号近畿地区運営協議会会長 対馬熊雄氏) 全修協総会日程決る 3月3日熱海市で
		(3)	新年を迎えて(つづき) 協会運動の拡大(全修協専務理事 白滝末紀) 人間性教育を(全修協理事・東京都支部長 青山良道) 82年に思う(全修協常務理事 成瀬幡治) 使命を新たに(全修協理事・北海道支部長 高田治郎) 各県の連帯を(全修協理事・兵庫県支部長 魚谷時太郎) 今こそ実践を(全修協理事 辻原弘市) 今年も全力を(全修協監事・大分県支部長 田尻一雄) 連帯と協力を(大阪府教職員互助組合事務局長 曾山武弘氏) 修旅の原点を(全修協三重県支部長 西山文男) 全修協に期待(大分県教職員互助会・事務局長 安部次人氏) 意義ある旅行(全修協山口県支部長 開地茂行) 一層の拡大を(全修協新潟県支部長 加藤敏郎) 魅力ある研旅(岩手県学校生活協同組合専務理事 熊谷硯二氏) 事業の発展を(千葉県教育会館文化事業部常務理事 鎗田市之助氏)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第240号 ※つづき	昭和57年 1月10日 (1982年)	(4)	<p>新年を迎えて(つづき)</p> <p>修旅の教育性(全修協栃木県支部長 梅沢茂) 三者の力結集(福島県退職教職員互助会事務局長 山田孫市氏) 運動の一本化(広島県学校生活協同組合専務理事 木村富十四氏) 一層の発展を(京都府教職員互助組合専務理事 梅田晶三氏) 補助金助成へ(全修協徳島県支部長 奥田元男) 激動の時代に(鹿児島県教職員互助組合専務理事 米増武夫氏) 原点に帰って(全修協宮崎県支部長 田尻貴) さらに前進を(京都府教職員互助組合事務局次長 明賀猛氏) 浄土の教えで(全修協滋賀県支部長 駒井徳左衛門) 目標実現を(山口県教職員互助会事務局長 大野良兵氏) 新年にあたり(全修協宮城県支部長 高橋富士男) 情報の浸透を(全修協京都府支部長 糸井一) 組織の結束を(全修協大阪支部長 瀬尾武敏) PRに英知を(全修協栃木県支部事務局長 大根田光男) 新たな気持で(全修協熊本県支部長 村田正実) 心の通う旅行(全修協神奈川県支部長 露木喜一郎) 福祉の向上に(大阪府教職員互助組合事務局次長 神代義秀氏) 旅でゆとりを(熊本県学校生活協同組合専務理事 藤芳早苗氏)</p>
第241号	昭和57年 2月10日 (1982年)	(1)	<p>関修委研究発表会開く 原点に戻り見直せ “三か年教育”への結集を 関修委の第五回運営委員会ひらく／新しい探求へ 第二回近畿二府四県修旅委 三地区の統一活動を 風紋</p> <p>(2) 修学旅行の源流を求めて 明治期の修学旅行[1] (全修協三重県支部長 西山文男) 福祉活動と研修旅行 研修旅行研究会開く 昨年の写真コンクール 北海道知事賞・道観連賞完成</p> <p>(3) 特集 公害問題を学習 熊本県立第二高校修学旅行 琵琶湖汚染を視察 比叡山では精神面を学ぶ 感想に見る現地学習</p> <p>(4) わが故郷・交野市[2] 古文化伝える町(全修協大阪事務所長 曾田震五) アメリカ教育視察記 州で違う教育制度 (青森県教育厚生会生活課長・青森県PTA連合会長 鈴木広氏)</p>
第242号	昭和57年 3月10日 (1982年)	(1)	<p>第23回・全修協通常総会開く 新しい途をひらこう／新三か年計画を／研修旅行一万人達成へ 全修協 山本理事長の挨拶 教育理論の探求を 来賓・祝電／57年度の役員 風紋</p> <p>(2) 全修協企画・教職員 夏の研修旅行 北海道 一周からさい果てへ 多彩な精選5コース 北海道一周ワイド／北海道デラックス／北海道ハイライト さい果て秘境の旅 オホーツクライン縦断 知床・納沙布と利尻・礼文／松前・江差と奥尻島 特別研修コース 「健康管理のしおり」発行</p> <p>(3) 教育福祉向上へ結集 姉妹組織が発足 教職員福祉問題研究会 西尾能信会長 関修委 料金5割引き確保 旧運賃の実施を要請 56年度三地区修旅委 59万2千人を輸送 全福協幹事会開く 2月18日熱海で 完戸一郎氏を悼む</p> <p>(4) 修学旅行の源流を求めて 明治期の修学旅行[2](全修協三重県支部長 西山文男) わが故郷の記<京都>1 幼き日の憶いで(全修協大阪事務所長 曾田震五)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第243号	昭和57年 4月10日 (1982年)	(1)	運賃値上げに特別措置を国鉄に要請 学校間格差をなくせ 全修協と三地区修旅協が要請 本年度全修協事業の基調 [1] 全修協の新陣容…山形県支部長 吉村和夫氏、名古屋分室長 今井幸男氏 埼玉県修学旅行対策部会ひらく 風紋
		(2)	'82 全国修学旅行基準概要調査はじまる 第24回の調査 動向把握に貴重な資料 交通ストでも走る修旅電車 故完戸一郎氏に従五位 遺徳を偲んで準町葬に千数百人
		(3)	教職員の研修旅行 全国一斉に“夏の募集”開始 海外特別企画 ソ連教育・文化視察団 みちのくへの誘い 内容豊富な特選3コース 恐山と十和田・弘前／瀬戸内と仁尾太陽博／みちのく一周／奥の細道・みちのく編 第8次中国友好の旅 春の教職員研修旅行終わる
		(4)	修学旅行の源流を求めて 明治期の修学旅行[3] (全修協・監事・三重県支部長 西山文男) わが故郷の記<京都>2 幼き日の憶いで(全修協大阪事務所長 曾田震五) ニュース点描 国鉄5年連続値上げ・航空会社35%割引認可／桂離宮全面修理 等 お知らせ 元離宮二条城事務所は場内整備のため、休城日を設ける
第244号	昭和57年 5月10日 (1982年)	(1)	文部省 本年度の要保護修学旅行の補助金、中学校3万4千円に 緊縮予算の影響で微増 本年度全修協事業の基調(二) 58年度・三地区修旅委 55万9千人を安全輸送 運賃据え置き 国鉄運賃、一学期中は旧運賃で実施 奥田元男徳島県支部長に叙勲 風紋
		(2)	関修委運営委員会で57年度事業計画きまる 全修協東京都支部で友の会が発足 教福研幹部会ひらく 研修旅行の拡大を
		(3)	夏・教職員の研修旅行 ファミリーツアー・東京 東北新幹線開通記念 鈴鹿サーキットと伊勢・志摩／四十七士のふるさと 赤穂と倉敷／佐渡島と裏磐梯 自然を訪ねて 尾瀬 高層湿原と自然観察 北アルプス立山と飛騨・高山 慶良間諸島ザマミ島 フリータイム4日間
		(4)	修学旅行の源流を求めて 明治期の修学旅行[4] (全修協三重県支部長 西山文男) 太陽の島々 鬼界ヶ島紀行[1] (帝塚山短大講師 増井貞雄氏) ニュース点描: 子どものお小遣い／日ソ円卓会議／国鉄値上げ
第245号	昭和57年 6月10日 (1982年)	(1)	近畿二府四県修旅委 57年度・事業計画きまる 南裕之委員長再選 新役員のもと組織強化 教福研拡大幹事会ひらく 研修旅行の募集強化 関修委 東北新幹線動向調査 74校が利用へ 全教互第33回総会ひらく 日教弘30周年記念式典ひらく 風紋
		(2)	夏・教職員の研修旅行 国内企画・海外特別企画
		(3)	夏・教職員の研修旅行 国内企画・海外特別企画
		(4)	太陽の島々 鬼界ヶ島紀行[2] (帝塚山短大講師 増井貞雄氏) 教職員福祉問題研究会における発表要旨 位置づけて取組む(兵庫県学校厚生会福祉厚生部長 君本たづ子氏) 安心できる信頼感で(山口県教職員互助会事務局長 大野良兵氏) ニュース点描: お座敷列車／落書き

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第246号	昭和57年 7月10日 (1982年)	(1)	三地区修旅連絡協総会 全国連合組織へ拡大 着実な教育効果を 三地区研究集会の開催へ 南裕之委員長 実践を踏まえた研究集会を 山本理事長あいさつ 修学旅行新聞 明るく読みやすい紙面で 本号より1段14字、全紙面を大型文字で 風紋
		(2)	関修委総会 東北新幹線申込みは一学期中に 会長に山口善雄氏、新役員を選出 生徒増にみあう輸送を～東海三県修旅委ひらく～ 関修委・全修協 東北方面修学旅行新幹線モデルコースを設定 岩手県支部長に関正昭氏 三重県 伊勢神宮参拝の実態調査まとまる
		(3)	よい季節によい旅行を グリーンツアー会員募集 私達の修学旅行 京都・奈良を見学して(埼玉県鳩ヶ谷中学校三年生 竹内美貴さん)
		(4)	修学旅行の源流を求めて 明治期の修学旅行[5] (全修協三重県支部長 西山文男) 書評「大和の考古学」 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 大分県修学旅行誘致懇談会ひらく(鉄道会館) お知らせ 明日香村に民俗資料館オープン/阿蘇草千里火山博物館オープン ニュース点描:東北新幹線開業/科学万博つくば'85/平泉中尊寺
第247号	昭和57年 8月10日 (1982年)	(1)	全修協・三地区 文相あて要望書提出「修学旅行の補助金・要望」実態に即した増額を検討 中学校38,900円に/要望書全文 山形県教福協が発足 高齢化社会に配慮 今年度修学旅行の実施基準 11県で基準額をアップ 旅行費にひびく物価上昇 神奈川県支部長に小林正氏 風紋
		(2)	修学旅行実施基準・中学校 [1]
		(3)	夏の教職員研修旅行 北へ南へいっせいに アルペンルートに人気あつまる 関修委 東北で研修会 59年度実施にそなえ 東京私学の修旅研究会 今年で19回に 長崎県支部長 7.23長崎大水害のお見舞いへのお礼 垣間見た中国[1] “你好”と“謝謝”の風景(近畿日本ツーリスト(株)修学旅行部長 天野明夫氏)
		(4)	修学旅行の源流を求めて 明治期の修学旅行[6] (全修協三重県支部長 西山文男) 来春オープン「東京ディズニーランド」の料金などきまる グリーンツアー募集/シルクロードロマンの旅 お知らせ モデルカーで見る自動車展:交通博物館 ニュース点描:東北・上越新幹線/教科書問題/九州中・北部・山口県豪雨/台風10号
第248号	昭和57年 9月10日 (1982年)	(1)	修学旅行の補助金、58年度の文部省 概算要求決る 中学校35,200円に 経常経費5%削減の中を増額の要求 学校現場の実態を配慮 東京私学「校外学習」の視察研修を実施 関修委 59年度1919万22千人を輸送 関西・東北へ専用電車で 「あおぞら号」で秋の修学旅行 鹿児島支部長に伊藤稔氏 風紋
		(2)	修学旅行実施基準・中学校(2)
		(3)	いい秋いい旅 グリーンツアーに申込多数 59年より東北へ修学旅行 受入体制を万全に 研修旅行思い出綴り オホーツク紀行(研修旅行参加者 井上西三氏) 磐梯高原学生誘致懇談会ひらく 研究 修学旅行・最近の傾向について[1](滝野川女子学園高校教諭 毛呂正斌氏)
		(4)	垣間見た中国[2] “你好”と“謝謝”の風景(近畿日本ツーリスト(株)修学旅行部長 天野明夫氏) 岡山県で修学旅行生のための映画製作 科学万博-つくば85 開催まで千日 政府出展基本計画の構想まとまる “眺望360°” “大沼スカイタワー”オープン ニュース点描:国鉄リニアモーターカー/飛鳥(あすか)の地名と日韓史

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第249号	昭和57年 10月10日 (1982年)	(1)	近修委 59年度修旅へ始動 57年度約20万名を安全輸送 修学旅行基準概要調査書 本年度版を刊行 高知県支部長に土居正実氏 全修協地区会議の日程 日教済 組織を統合強化 二条城 修学旅行に便宜 「朝の静かな・国」の印象[1]—全修協「韓国歴史の旅」 (大阪国際児童文学館総務課長 瀬川尚志氏) 風紋
		(2)	近畿地区小学校の修学旅行 84,700人が実施—あおぞら号の特別割引で— 関修委が関西現地研究会を実施 修学旅行の改善を 研究 修学旅行・最近の傾向について[2] (滝野川女子学園高校教諭 毛呂正斌氏)
		(3)	旅ごころを誘う 58年度研修旅行の企画きまる “研修の充実”と“新規コース” 冬季教職員研修旅行
		(4)	垣間見た中国[3] 「紅旗」とK・R嬢(近畿日本ツーリスト(株) 修学旅行部長 天野明夫氏) [解説] 文化観光税—京都市— 熊本城天守閣を化粧直し お知らせ 鉄道記念日関連の催物 交通博物館 「学べる水族館」和歌山県立自然博物館 ニュース点描:「辛亥銘鉄剣と金石文」シンポジウム/科学万博—つくば85
第250号	昭和57年 11月10日 (1982年)	(1)	近畿地区あおぞら号 運営協議会総会ひらく 21年間に200万人を安全輸送 会長に酒井康晴氏を選出 京阪神三市修旅委 58年度修学旅行費を答申 4~5%のアップ 教福研特別委員会ひらく—58年度研旅募集拡充へ— 関修委59年度輸送計画きまる 19万5,400名を輸送 11月24・25日 三地区代表者会議 風紋
		(2)	58年度研修旅行募集へ始動 研修内容をさらに充実 「朝の静かな国」の印象[2]—全修協「韓国歴史の旅」 (大阪国際児童文学館総務課長 瀬川尚志氏)
		(3)	研修旅行のコンクール写真 推薦に鶴沢芳枝さん 北海道知事賞 田尻敏雄氏/北海道観光連盟賞 後藤志津代氏 入選/佳作 総評
		(4)	垣間見た中国[4] “晩安の世代”(近畿日本ツーリスト(株) 天野明夫修学旅行部長) 風土記の丘だより[1] 西都原・宮崎県 神話と伝説の西都・日本最大の古墳群(宮崎県観光振興課) 東京ディズニーランド 来年4月15日オープン ニュース点描:上越新幹線11月15日開業/まぼろし紀行・稲荷山鉄剣の周辺

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第251号	昭和57年 12月10日 (1982年)	(1)	<p>関東・東海・近畿三地区代表者会議ひらく 活発な合同研究の進展 父母負担の軽減に貢献 本年度約20億円 高知県支部長土居正実氏、勲四等旭日中受章受勲 広島県支部長に佐藤峯夫氏 全修協第56回理事会開かれる 風紋</p> <p>(2) 1982年を考える(全修協専務理事 白滝末紀) これからの修学旅行[1] (文部省初等中等教育局 前教科調査官 堀久氏) 堀久氏と「心へのこる」修学旅行(専務理事 白滝末紀) ことしの出来事から</p> <p>(3) 研修旅行のご案内 来年1月募集を開始 春季11コース 研修内容もさらに充実</p> <p>(4) 東京ディズニーランドがやってくる!! 人と人のふれあいを第一に '83 4月15日オープン/生徒の生活指導や自主行動の場として</p> <p>(5) 「朝の静かな国」の印象[3] ～全修協「韓国歴史の旅」～ (大阪国際児童文学館総務課長 瀬川尚志氏) 秋田県修学旅行誘致懇談会ひらく 関修委 関西現地研修会を開催 研修旅行写真コンクール作品</p> <p>(6) 風土記の丘だより[2] さきたま・埼玉県 甦る古代のロマン・百五十文字の稲荷山鉄剣 リトルワールド '83年3月18日オープン 世界の伝統文化を一堂に お知らせ 旅と鉄道映画会案内(12月・1月) 交通博物館 ニュース点描:山田寺の遺構出土/雪に強い上越新幹線</p>
第252号	昭和58年 1月10日 (1983年)	(1)	<p>新しい年'83年へスタート 教育に全力を傾注(文部大臣 瀬戸山三男氏) 修学旅行の一層の改善を(全国教職員福祉問題連絡協議会会長 楨枝元文氏) 新しい使命感にたって(全修協理事長 山本種一) 風紋</p> <p>(2) 新しい年'83年へスタート(つづき) 安全で快適な旅を提供(国鉄総裁 高木文雄氏) 鹿児島県における修学旅行の実態と問題点[1] (鹿児島県教育委員会学校教育課)</p> <p>(3) 新年を迎えて 感激と体験を(近畿二府四県公立中学校修学旅行委員会委員長 南裕之氏) 生徒参加の場を(関東地区公立中学校修学旅行委員会会長 山口善雄氏) 未来を見つめる目を(東海三県公立中学校修学旅行委員会委員長 兵東政夫氏) 主体性を保持(あおぞら号運営協議会会長 酒井康晴氏) 心と体の育成(東京私立中学高等学校協会修学旅行研究調査会委員長 新井福之助氏) 原点に戻って(全修協常務理事 村山助雄) 初心にかえって(全修協理事 魚谷時太郎) 和歌山県支部長 岩尾覚氏逝去される</p> <p>(4) これからの修学旅行[2] (文部省初等中等教育局 前教科調査官 堀久氏) 新年を迎えて ロマンをつくる(全修協理事 青山良道) 新しい決意で(全修協理事 辻原弘市) 飛躍的發展を(全修協参与 芦田重左衛門) 根本的構想を(全修協山形県支部長 吉村和夫) 大きな支えで(全修協広島県支部長 佐藤峯夫) びわ湖講演と映画のつどいー滋賀県ー お知らせ 二条城休城日の設定 ニュース点描:青函トンネル先導坑貫通/世界コミュニケーション年</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第253号	昭和58年 2月10日 (1983年)	(1)	<p>関修委研究発表会ひらく 自主性への創意工夫 三か年教育の結晶 第一発表…東北へ修学旅行を実施して(松戸市立四中学校 鈴木勝校長) 第二発表…生徒の自主プランによる修学旅行(成田市立吾妻中学校 小川辰雄校長) 近畿修学旅行委員会 59年度希望調査成る 山口県支部長に大田恭次氏 全福協幹事会開く 1月31日熱海市で 風紋</p>
		(2)	<p>鹿児島県における修学旅行の実態と問題点[2] (鹿児島県教育委員会学校教育課) 比叡山回遊コース採用校 69校が選択学習 東海三県修旅委 59年度列車日割表きまるー輸送を改善ー 近教互と全修協で研修旅行実踏実施 冬の研修旅行 研修成果をえて無事終了 びわ湖講演と映画のつどい 滋賀県</p>
		(3)	<p>これからの修学旅行[3] (文部省初等中等教育局 前教科調査官 堀久氏) 全修協発足当時の事情～創立五周年誌より～(兵庫県支部長 岡本仁) 元全修協常務理事 岡本仁氏逝去される</p>
		(4)	<p>教職員研修旅行春の特選コース '83年へ望む 意義を痛感する(京都府教職員互助組合事務局次長 明賀猛氏) やりたいこと…やってほしいこと…(全修協監事・三重県支部長 西山文男) 共に前進したい(全修協佐賀県支部長 篠崎規) 環境づくりを(全修協理事 成瀬幡治) 輝かしい記憶に(全修協岩手県支部長 関正昭) 発展を祈る(全修協鹿児島県支部長 伊藤稔) 発想の転換を(全修協熊本県支部長 村田正実) 前進の年に(全修協京都府支部長 糸井一) 新しい時代に(全修協新潟県支部長 加藤敏郎) 全修協の発展を(全修協宮城県支部長 高橋富士男) 旅行を楽しく(群馬県学校生活協同組合専務理事 手島一美氏)</p>
		(5)	<p>'83年へ望む(つづき) 一層の奮闘を(京都府教職員互助組合事務局長 梅田晶三氏) 有意義な旅行を(三重県公立学校職員互助会事務局長 福田恵治氏) 努力あるのみ(大阪府教職員互助組合事務局次長 神代義秀氏) 抜本的施策を(福島県退職教職員互助会事務局長 山田孫市氏) 現状の打開を(全修協徳島県支部長 奥田元男) 教職員に浸透(全修協栃木県支部長 梅沢茂) 新体制へ努力(全修協宮崎県支部長 田尻貴) 発展を予測する(全修協大阪支部長 瀬尾武敏) 「朝の静かな国」の印象[4] ～全修協「韓国歴史の旅」～ (大阪国際児童文学館総務課長 瀬川尚志氏)</p>
		(6)	<p>風土記の丘だより[3] 紀伊・和歌山県 一大群集古墳を形成・万葉植物の鑑賞も つうしん科学博開催 ニューメディアを紹介 東京デイズニerland 4月15日オープン お知らせ 交通博物館～鉄道映画特集～ ニュース点描:青函トンネル先進導坑貫通/薬師寺中門の再建/ 日本航空が韓国向け修学旅行運賃導入</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第254号 昭和58年 (1983年)	3月10日	(1)	全修協第24回通常総会 新しい使命感にたつて 総力あげ前進誓う 盛りあがる教育への熱気 教育の汚染浄化を(全修協山本理事長の挨拶) 来賓/58年度役員 風紋
		(2)	いま修学旅行は 北海道における修学旅行の実態と問題点[1] (北海道教育委員会学校教育部) 60年3月ダイヤ改正 修旅に影響、輸送確保を要望 第6回関修委運営委ひらく 59年度現行ダイヤで実施
		(3)	修学旅行の実態調査 ～三重県修学旅行研究会～ 57年度・小、中、高校 これからの修学旅行[4] (文部省初等中等教育局 前教科調査官 堀久氏) 春季研修旅行25日から実施
		(4)	「朝の静かな国」の印象[5] ～全修協「韓国歴史の旅」～ (大阪国際児童文学館総務課長 瀬川尚志氏) 新しい船の体験旅行 学習テーマも豊富 洋上教室・移動教室で学習 東京湾内洋上教室/洋上体験旅行/伊豆七島移動教室 お知らせ 「船舶映画特集」～交通博物館～ ニュース点描:日韓合同古代シンポ/関東の地震・二月二十七日/壺阪寺の大仏
第255号 昭和58年 (1983年)	4月10日	(1)	58年度修学旅行の補助金 文部省・要保護、準要保護 中学校35,200円に 緊縮予算の中で増額を 関心高い「つくば博」 科学万博つくば'85アンケート調査 小中高調査6,705校 風紋
		(2)	いま修学旅行は 北海道における修学旅行の実態と問題点[2] (北海道教育委員会学校教育部) 修学旅行の実態調査[2] ～三重県修学旅行研究会～ 57年度・小、中、高校
		(3)	夏季教職員研修旅行 研修行事もさらに充実 さい果ての島 雄大な北海道の旅 原生林の知床 フィールドワーク趣味と教養の旅 研修生をより深く 海外特別企画
		(4)	南部の霊場・恐山[1] (青森県東通村助役 森勇男氏) 風土記の丘だより[4] 近江・滋賀県 お知らせ 二条城観覧料を改正 ニュース点描:「稻荷山鉄剣」が国宝に/雪に強かった上越新幹線/「夏王朝」実在か?
第256号 昭和58年 (1983年)	5月10日	(1)	科学万博・アンケート調査 小・中・高校6,705校 子供の教育のために 225校が実施を希望 修学旅行指導の文部省新教科調査官に高橋哲夫氏 特別活動・生徒指導担当 福井県支部長に青山忠氏 風紋
		(2)	関東・東海・近畿三地区連合委員会 59年度56万名の修旅計画 修学旅行の実態調査[3] ～三重県修学旅行研究会～ 57年度・小、中、高校 58.4教育界のうごきから 道徳教育を実態調査/マンモス小・中学校解消へ/小学校へパソコン 学校の森や花壇づくり/徳島県教委の教育巡回相談/高校入試の全面見直し 小学校先生は25メートル泳げるように/授業で使う「赤本」にメス/校内暴力・非行の新聞報道
		(3)	夏季・教職員の研修旅行のご案内 大和文化会 花の大和文化史(桜) 樋口清之氏の講演
		(4)	南部の霊場・恐山[2] (青森県東通村助役 森勇男氏) 風土記の丘だより[5] 立山・富山県 ニュース点描:「旧長浜駅舎」が「鉄道資料館」に/古代男性「みずら」結ったまま出土/ 第二回日韓合同古代史シンポジウム/珍しい多角墳発掘/ 倭寇、中国人が大半/2万年前の赤ちゃんの骨

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第257号	昭和58年 6月10日 (1983年)	(1)	<p>全国私立高校の修学旅行 全修協・都中高で調査 飛行機利用26%増 泊数減・費用は増える 58年度修旅基準概要調査 公立校の“空の修旅”の動向 近畿二府四県修旅委総会ひらく 南裕之氏を再選 関修委 58年度・事業計画きまる 悲しみの記録 日本海中部地震 風紋</p> <p>(2) いま修学旅行は 大阪府・市における実施基準ならびに実態調査と問題点[1] 千葉県公立中学校 57年度修学旅行実態調査～好参考資料の報告書～ 57年度 修学旅行・伊勢神宮の参拝 一部地区では微増 大和路を語る会 主催奈良県 58.5教育界のうごきから 文部省が大学制度改革案／育英奨学制度の見直し／非行対策巡回相談 小中高生自殺者大幅減／都内越境入学認められず／夜の公開教育委員会 佐賀県教組事件・教組側敗訴／非行・暴力・自殺のニュース</p> <p>(3) 各地区修学旅行委員会・新役員の声 近畿二府四県公立中学校修学旅行委員会委員長 南裕之氏 関東地区公立中学校修学旅行委員会会長 高橋常松氏 東京デイズニーランド 100万人を突破 修学旅行に人気 大和文化会 藤・馬酔木と古代人 樋口清之氏の講演 困る、「ガンをつけた」の乱闘 ー京都府警ー 夏季教職員研修旅行のご案内 中部山岳3コース</p> <p>(4) 特集 科学万博一つくば'85 人間・居住・環境と科学技術 人間と科学の調和／科学万博の概要／イメージイラストで見る科学万博／会場への交通等</p> <p>(5) 特集 科学万博一つくば'85 人間・居住・環境と科学技術(つづき) 夢と楽しさがいっぱい 29のパビリオンの一部 テーマ館／歴史館／情報ステーション／サイエンスパーク／つくばエキスポセンター／ つくばみどり会／日本電信電話公社／日本鉄鋼連盟／日本アイ・ビー・エム／ 三菱科学万博総合委員会／夢のリニアモーターカーを運行／日本初登場の連節バスを運行 語録</p> <p>(6) 風土記の丘だより[6] 出雲・島根県 南部の霊場・恐山[3] (青森県東通村助役 森勇男氏) ニュース点描 修学旅行死の非常口、女子中学生転落死／紫雲丸第29回忌、遺族が海へお菓子を／ 天皇陛下、金錯銘鉄剣をご覧になる／石のつか持つ短剣初出土／ 弥生末期の周溝墓、大阪で発掘／平城宮跡に壮大な築地大垣</p>
第258号	昭和58年 7月10日 (1983年)	(1)	<p>'83年 三地区修旅連総会 関東・東海・近畿 問題行動・非行を憂慮 対策委員会で取り組む 山本理事長 北海道知事と会談 修旅・研旅で相互協力を 科学万博一つくば'85 全修協 見学動向調査書発行 新潟県支部長に星野初太郎氏 風紋</p> <p>(2) 生徒指導と特別活動・修学旅行 [1] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 生徒の問題行動、現実を直視／学校教育の総見直しを 58年度・修学旅行の実施基準 日数・旅行費・実施学年・引率教員数 58.6教育界のうごきから 教科書採択を広域化／文化・教育懇談会が初会合／ 教員免許制度見直し、文相諮問／新文部次官に佐野文化庁長官／ 共通一次検討委を設置・国大協／全盲者に都立校を開放／ 国公立大入学辞退歯止めへの兆し／先生に過失なし、最高裁／非行・暴力・自殺のニュース</p> <p>(3) 東海三県修旅委総会ひらく 新幹線専用電車増発を、委員長に本田勝彦氏を選出 修学旅行の活性化をはかる(名古屋市立伊勢山中学校長 本田勝彦氏) いま修学旅行は 大阪府・市における実施基準ならびに実態調査と問題点[2] 関修委 60年度輸送計画折衝で 専用電車は上野開業後 “京都つどいの宿”発刊</p> <p>(4) 風土記の丘だより [7] みよし・広島県 グリーンツアーのご案内 四季折々の風物と伝統を訪ねて 紅葉の十和田湖と陸中海岸／高山祭りと紅葉の黒部溪谷／天橋立と松江・出雲 お知らせ 電気通信館・コミュニケーションワールド83 ニュース点描 「最古の水時計遺構」に疑問／「猿石」の顔削った6少年／ 最古の寺院建築“山田寺”／漆紙文書290点が出土／狩猟描いた縄文土器、八戸で出土</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第259号	昭和58年 8月10日 (1983年)	(1)	全修協・三地区 要保護・準要保護中学校40,200円に 修学旅行・校外学習の補助金増額を要望 関修委 上越・東北新幹線利用へ修学旅行現地研修会 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行 [2] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 非社会的・反社会的問題行動／学校教育の総見直しを 近修委 利用実態に即した改善を 60年度輸送問題で国鉄と折衝 58.7月 教育界のうごきから 文部省、学制改革へ動き出す／中教審が入試制度を見直し 文部省、教科書法に取組み／マンモス小学校・解消急ぐ
		(3)	いま修学旅行は 大阪府・市における実施基準ならびに実態調査と問題点 [3] 修学旅行と非行生徒 [1] 教育を放棄した学校(松戸市立第六中学校校長 庄司孝一氏)
		(4)	新しい修学旅行を模索して -松戸六実高の歩み- [1] (松戸六実高校第一学年主任 青柳秀克氏) 科学万博入場料金さまる 高校600円 小・中300円 “幕末の残照”を訪ねて ～京の夏の旅～ ナガシマスパーランド 世界最大のドーム映像オムニマックス
第260号	昭和58年 9月10日 (1983年)	(1)	近畿地区あおぞら号運営協議会総会ひらく 親・子・孫を結ぶ教育性 / 会長に酒井康晴氏を再選 60年度関東地区輸送申込数 20万2000人の修旅計画 「問題行動特別委」を開催 三地区あげて取り組む 来年度文部省の概算要求 / 修学旅行費等の補助金据置 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行 [3] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) ～存在感、充実感の欠如から非社会的・反社会的問題行動へ～ 生徒指導の四つの機能 「あおぞら号」で秋の修旅 道観連で修旅研究会 全修協の後援で (株)教材研究所創立30周年記念に 京都奈良見学ガイド発行 58.8月教育界のうごきから 教科書、59年度も無償／先生の病気休職4,412人も 私学助成金10%カット／国公立大学入試は多様化(二次)／高校進学率、27年ぶり減少 10年以上勤務の教員を異動(都教委)／第58回日教組大会ひらく
		(3)	修学旅行と非行生徒 [2] 悪化は良貨を駆逐する (松戸市立第六中学校校長 庄司孝一氏) 修学旅行感想文 埼玉県戸田市立喜沢中学校 三年生の寄稿 「三十三間堂に行って」渡辺光恵さん、「嵯峨野めぐり」田村和徳君、 「座禅」帰山明子さん
		(4)	新しい修学旅行を模索して -松戸六実高の歩み- [2] 本校の目指す修学旅行 (松戸六実高校・修学旅行委員長 百瀬明宏氏) 風土記の丘だより [8] 吉備・岡山県 “現代のまほろば”吉備 交通博物館 10月の催し物 ニュース点描: 韓国で前方後円墳発見／法隆寺の秘密地下蔵／日本最古の魚の化石発見 北アルプスのライチョウ数

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第261号	昭和58年 10月10日 (1983年)	(1)	<p>関東・東海・近畿三地区 問題行動・特別委員会ひらく 問題行動防止へ総力 体験に基づく白熱論議 マスコミも注目 信念をもって判断と決断を 風紋</p> <p>(2) 生徒指導と特別活動・修学旅行 [4] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 修旅の事前指導に「ゆとりの時間」活用／全教師の共通理解と実践 58年度基準概要調査書発行 引率数、現場と格差 一般的に前年度と変わらず 全修協新潟県支部で 研修旅行反省会 58.9月教育界のうごきから 首相、学制改革に積極姿勢／六・三制見直す、文相が明言／ 私大不祥事、制裁強化／専修学校の就職戦線は好調／「共通一次」60年度から改革／ 東京の一日校長制度、問題化／文相・日教組トップ会談／校内暴力が急増・警察庁発表</p> <p>(3) 上越・東北現地研修レポート 新しい修学旅行を 日本海側・太平洋側を結ぶ [1] (埼玉県加治中学校長 澤田克郎氏) 修学旅行と非行生徒 [3] 最終的な断「連れていかない」 (松戸市立第六中学校長 庄司孝一氏)</p> <p>(4) 新しい修学旅行を模索して-松戸六実高の歩み- [3] 業者選定について (松戸六実高校修学旅行委員長 百瀬明宏氏) 冬季・教職員研修旅行のご案内 交通博物館 特集映画会 上越新幹線開業一周年にちなんで ニュース点描 飛鳥宮殿の建築跡発見／日本最古の旧石器・10万年以前か？宮城県中峰遺跡／ 修学旅行に飛行機利用を、都立五商で議会に請願</p>
第262号	昭和58年 11月10日 (1983年)	(1)	<p>補導生徒が激増 前年に比べ犯罪五・五倍、不良行為二倍に 京都府警・本年上半期 具体例その1 集団万引き、その2 修学旅行生間の乱闘事件(2ページに解説) 時言 最近の非行化について(全修協理事 成瀬幡治) 京阪神三市修旅委 59年度・修学旅行費を答申 4.7%のアップ 風紋</p> <p>(2) 生徒指導と特別活動・修学旅行 [5] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 学業指導における修学旅行の学習／学業指導の基本的理解を 解説 第4回関修委運営委 60年度輸送計画案を策定 58.10月教育界のうごきから 文相、「偏差値教育」見直す／国立大学授業料月額2万円台か／大学定員8万6千人増／ 習熟度学級編成、中学校にも導入／少年非行「原因は家庭に」46%、総理府の世論調査／ 問題児の出席停止、校長裁量に任ず。文部省が初の運用基準／ 共通一次締め切り35万6千人程度</p> <p>(3) 最近の修学旅行について想う(全修協大阪事務所長 曾田震五) 上越・東北現地研修レポート 新しい修学旅行を 日本海側・太平洋側を結ぶ [2] (埼玉県加治中学校長 澤田克郎氏) 研修旅行・入賞作品(写真・原稿) 全体的にレベルアップ 入選 北海道知事賞 北海道観光連盟賞 総評</p> <p>(4) 新しい修学旅行を模索して-松戸六実高の歩み- [4] テーマ選定について(1) (松戸六実高校修学旅行委員長 百瀬明宏氏) 研修旅行作品から 佐渡・磐梯高原の旅(長田修氏)／尾瀬の思いで(栗原きみ江氏) 博物館 資料館:交通博物館新展示「人力の交通」／歴史資料センター「黎明館」オープン ニュース点描: 現代っ子「たくましさ」上向き／砲丸投げで重体、体育祭控え練習中／ 暴力・非行など問題生徒の報道から／太陽にも「環」があった／</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第263号	昭和58年 12月10日 (1983年)	(1)	<p>関東・東海・近畿三地区 問題行動対策の臨時総会 実態調査と研究発表 事後の学校生活に好影響も／実態調査の取り組み 問題行動克服に創意工夫 師弟間の心の交流を(奈良市立平城西中学校長 孝田有禅氏) 生徒の自主活動を重視(名古屋市立伊勢山中学校長 本田勝彦氏) 問題行動をなくす実践例(千葉県白井町立白井中学校長 稲葉幸雄氏)</p> <p>60年度 近畿地区「あおぞら号」利用計画きまる 7万名の申込み 風紋</p> <p>(2) 生徒指導と特別活動・修学旅行 [6] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) “自己教育力の育成”学業指導の基本的目標／中教審報告と学業指導 近修委 60年度輸送計画を作成 信州方面復路昼行実現を 58.11月教育界のうごきから 偏差値教育、正せ 中曽根首相、文部省に検討を指示／ 中教審小委が中間報告／共通一次試験を法制化</p> <p>(3) [資料] 中学校修学旅行の実態調査 修学旅行における問題行動の指導を中心に 事前指導／事前指導の実践例 実態調査は貴重な資料 指導対策が緊急の課題(文部省教科調査官 高橋哲夫氏)</p> <p>(4) つづき [資料] 中学校修学旅行の実態調査 修学旅行における問題行動の指導を中心に 現地での指導／事後指導</p> <p>(5) 全修協 春の研修旅行 たのしく“豊かな体験”を 現職向け13コース 修学旅行に新鋭船 関西汽船「こがね丸」が就航 上越・東北現地研修レポート「新しい修学旅行を」 日本海側・太平洋側を結ぶ [3] (埼玉県加治中学校長 澤田克郎氏) 福島県修学旅行誘致懇談会ひらく 福島県観光物産課主催 大阪ロイヤルホテルで 修学旅行のための講演会 「びわ湖講演と映画のつどい」主催・滋賀県 ヤクルトホール 「大和路を語る会」主催・奈良県 千葉県教育会館</p> <p>(6) 新しい修学旅行を模索してー松戸六実高の歩みー [5] テーマ選定について (2) (松戸六実高校修学旅行委員長 百瀬明宏氏) 東京都 スキー教育活動の実態 東京都高等学校保健体育研究会・スキー研究委員会 防災寝具で火災防止 京都防災寝具普及振興会 ニュース点描 明日香のキトラ古墳に極彩色の壁画／南越王の墓発見・金印など出土 都立五商、航空機利用の修学旅行を都議会で請願／ 暴力・非行・自殺の問題行動の報道から</p>
第264号	昭和59年 1月10日 (1984年)	(1)	<p>年頭にあたって 着実に教育改革を(文部大臣 森喜朗氏) 修学旅行に指導的役割を(全国教職員福祉問題連絡協議会会長 榎枝元文氏) 青少年たちへ活力を(全修協理事長 山本種一) 風紋</p> <p>(2) 年頭にあたって(つづき) 連合体方式の修学旅行を(日本国有鉄道総裁 仁杉巖氏) 英智と努力で意義ある修学旅行を(三地区修旅連会長 本田勝彦氏) 学校行事としての原点に(近畿地区「あおぞら号」運営協議会会長 酒井康晴氏) 修学旅行へ五つの課題(関東地区公立中学校修学旅行委員会会長 高藤常松氏) 自己実現の場に(近畿二府四県公立中学校修学旅行委員会会長 南裕之氏) 全修協への期待とお願い(文部省教科調査官 高橋哲夫氏)</p> <p>(3) 新年を迎えて 組織の活性化(全修協理事 辻原弘市) 参加者増へ一層の努力(青森県教育厚生会常務理事 秋村健二氏) 年頭にあたって(全修協山形県支部長 吉村和夫) 旅づく教師達(岩手県学校生活協同組合専務理事 熊谷碩二氏) 継続的対策を(全修協鹿児島県支部長 伊藤稔) 細かい配慮を(大分県教職員互助会事務局長 藤井弥太郎氏) 連携関係プレーで(全修協山口県支部長 大田恭次) 元気回復に成果(滋賀県教職員互助会事務局長 大友恭氏) 積極的対応を(全修協高知県支部長 土居正実) 益々の拡充を(京都府教職員互助組合事務局次長 明賀猛氏) 越後路にあさひ輝きとき翔ける(全修協新潟県支部長 星野初太郎) 新たな気持で(三重県公立学校職員互助会事務局長 福田恵治氏)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第264号 ※つづき	昭和59年 1月10日 (1984年)	(4)	1984年を迎えて 教育的な旅行(全修協佐賀県支部長 篠崎規) 競争にかてる優秀な内容を(全修協宮崎県支部長 田尻貴) 今年の課題(全修協徳島県支部長 奥田元男) 企画の具体化に協力(千葉県教育会館維持財団常務理事 鎗田市之助氏) 自然の色(全修協滋賀県支部 駒井徳左エ門) 平和を学ぶ(全修協広島県支部長 佐藤峯夫) 実績向上に努力(全修協島根県支部長 山本亮) 子の歳の初頭に(全修協常務理事 村山助雄) 58.12月教育界のうごきから 「出席停止」に運用基準校内暴力対策で文部省/ 教育改革へ首相七つの構想 六三制改革偏差値教育是正/ 文部省が是正通知を・偏差値重視の進路指導、高校入試検討会議が発足
第265号	昭和59年 2月10日 (1984年)	(1)	<p>関修委第18回研究発表会 生徒が育つ修学旅行 連合の中で各校の特色 連合による修学旅行の効果的在り方を求めて(取手市立永山中学校長 岡野久氏) 生徒を生かして育てる修学旅行を目指して(水戸市立見川中学校長 青木英氏) 和歌山県支部長に妙中茂氏 東北駐在参事に今井達朗氏 風紋</p> <p>(2) 生徒指導と特別活動・修学旅行 [7] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 教科学習における学業指導の展開 修学旅行の事前指導/教科学習の動機づけ 近修委 関東・信州・中国・九州方面 21万4千名の申込み 全修協本部人事 59.1月教育界のうごきから 「六・三・三・四制」見直し論議 中教審で本格化へ 文部省方針/ 小学校、個人指導を重視 文部省が近く「手引書」を/ 教育改革、首相が文相に指示 15日までに提案を/ 教育改革、首相の姿勢を懸念 日教組委員長が/59年度文教予算政府決定(25日)</p> <p>(3) 全修協春の研修旅行 春休みは研修旅行で 筑紫路コースの人気集中 1984年を迎えて 交流と団結を(京都府教職員互助組合事務局長 東山信一氏) 本当の成果を(大阪府教職員互助組合事務局次長 神代義秀氏) 今年こそと決意(全修協理事 成瀬幡治) 旅行を通して自然・歴史・風俗を(全修協理事・北海道支部長 高田治郎) 単県企画に努力(全修協熊本支部長 村田正実) 修学旅行と非行・管理・指導(全修協三重県支部長・監事 西山文男) 100%達成を(全修協兵庫県支部長 魚谷時太郎) 新春に思う(全修協参与理事 芦田重左衛門)</p> <p>(4) 新しい修学旅行を模索してー松戸六実高の歩みー[6] 学年集団の意識づくり (松戸六実高校修学旅行委員 広川久晴氏) 安全対策をビデオで 京都府旅館衛生同業組合団体旅館部会 京都市修学旅行懇談会ひらく 京都市文化観光局・京都市観光協会・京都商工会議所 東京ディズニーランド 先生のための「体験学習ガイド」を発行 大スペースシャトル展(社)日米協会主催 東海地区で ニュース点描 奈良・牧野古墳から金銅製馬具/出雲出土の鉄剣に銘文/但馬出土の鉄剣にも銘文</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第266号	昭和59年 3月10日 (1984年)	(1)	全修協第25回通常総会 青少年に希望と活力を 連帯の輪拡げ運動展開 創立30周年に向けて力強く 新たな勇気で使命を達成(全修協理事長 山本種一) 第3回教福研総会ひらく 研旅達成へ組織活動 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行 [8] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 学級指導と生徒指導 学級指導の基本的事項/学級会活動で修学旅行指導 関修委 60年度へ向け改善を要請 本年度第6回運営委 「科学万博」現地研修を実施～宮城県中学校～ 全福協幹事会で新会長に田中一郎氏 榎枝前会長は顧問に 59.2月教育界のうごきから 「教育臨調」本決まり首相・文相一致/「教育臨調」事務局総理府に/教育改革、前面に/ 「教育臨調」性格を見極めて・日教組/義務教育9年は維持、首相初めて表明/ 出願率・競争率とも最低 国立大2.6倍・公立大も5.6倍
		(3)	全修協新潟県支部 新潟から関東へ上越新幹線に乗って 小学校修学旅行 小学校連合化へ動く 県小学校長会協賛で 近江と文化財 [1] 碧い湖を取り戻す運動(滋賀県教職員互助会事務局長 大友恭氏)
		(4)	新しい修学旅行を模索してー松戸六実高の歩みー[7] 実施年前の一年間をふりかえって (松戸六実高校修学旅行委員 植原宇一郎氏) 全修協夏季研修旅行のご案内
第267号	昭和59年 4月10日 (1984年)	(1)	全修協・三地区修旅連国鉄に要請 運賃・料金値上げに特別措置を 一学期中現行運賃・料金で 厳しい情勢のを修旅に配慮 本年度(59年度)国家予算成立 修旅費等据え置き 実際の経費はカバーできる 全修協本年度事業の大綱<1> 全修協新理事に岡本清氏 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行 [9] 自然教室推進事業 文部省・59年度の重点 特別活動(旅行的行事)生徒指導と密接に関連:文部省教科調査官 全修協 科学万博専用臨を 30万人の学生利用を想定 59.3月教育界のうごきから 「文教懇」報告書を首相に提出、臨教審法案国会へ・閣議決定 教員免許を3種類に・改正案国会へ
		(3)	科学万博開幕へあと一年 新しい科学イメージを探究[1] (国際科学技術博覧会協会輸送・観客課長 下村稔氏) 21世紀の窓を開く修学旅行(新潟県五泉市立丸田小学校長 石塚昇氏)
		(4)	近江と文化財[2] 文化財の町坂本(滋賀県大津市立晴嵐小学校長 大友恭氏) 新しい修学旅行を模索してー松戸六実高の歩みー[8] 学年集団の意識づくりその1 (松戸六実高校修学旅行委員 百瀬明宏氏) 資料 奈良国立博物館修旅団体へ夜間開館
第268号	昭和59年 5月10日 (1984年)	(1)	全修協・関修委で国鉄に要請 東北新幹線専用臨の設定を 東北・上越新幹線上野駅乗入れ 60年開業時に一編成を 約1万5千名が既に希望 本年度修旅基準概要を調査 新たに管理職の引率義務も 後をたたない生徒の飲酒 京都府警「修旅の手引き'84」から 全修協本年度事業の大綱<2> 北へ向かってスタート 関修委東北修旅第一団が出発 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行 [10] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) (続)学級指導の基本的事項 /学級会活動と学級指導 近畿二府四県 自然教室・野外活動研究会 修旅と密接に関連 関修委第一回運営委ひらく 三重県 修旅用ビデオテープを作製 「大和路を語る会」奈良県 日程きまる 日本ライン犬山地区修旅懇談会ひらく 59.4月教育界のうごきから 文部省、登校拒否に手引書/文部省、「いじめ」対策に手引書/ 日教組が臨時大会を開く 臨教審反対・免許法阻止/臨教審法案・国会審議始まる
		(3)	科学万博開幕へあと一年 科学する心を育む[2] (国際科学技術博覧会協会輸送・観客課長 下村稔氏) みのりある夏へ 全国教職員のための研修の「旅」募集開始 新刊紹介 「東京ゲタ電物語」 著者近畿日本ツーリスト社長明石孝氏著)
		(4)	修学旅行の実態調査<1> 三重県修学旅行研究会 近江と文化財 [3] 湖北や湖東(滋賀県大津市立晴嵐小学校長 大友恭氏)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第269号	昭和59年 6月10日 (1984年)	(1)	「自然教室」実施校きまる 小・中で1,163校内定 まず三泊四日が多数 東北新幹線修旅専用臨が誕生 来春「上野－盛岡間」に二往復 修学旅行・自然教室・野外活動研究会 主催全国修学旅行研究協会・近畿地区公立中学校修学旅行委員会 三地区連合委総会を開催 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行 [11] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) (続)「自然教室」と生徒指導・特別活動／実践例による「自然教室」の意義・課題 近畿地区修旅委総会 会長に南裕之氏を再選 組織強化へ名称変更 東海三県修旅委総会 委員長に本田勝彦氏を再選 59.5月教育界のうごきから 臨教審法案をめぐる動き／行政審の小委報告とのかかわり 公立高入試制度を改善／担任女教師への誕生祝い
		(3)	研究と修養を研修旅行で 7月10日迄募集を延長 教福研幹事会ひらく 福祉事業研究と夏季研旅達成を 社会福祉法人明光会理事長寺田鍊君を偲ぶ(全修協理事長 山本種一)
		(4)	新しい修学旅行を模索して－松戸六実高の歩み－[9]生徒と職員の意識 (松戸六実高校修学旅行委員 百瀬明宏氏) 修学旅行の実態調査 [2] 三重県修学旅行研究会 紅花資料館オープン 山形県河北町 「旅と鉄道」映画会 交通博物館
第270号	昭和59年 7月10日 (1984年)	(1)	修学旅行・自然教室・野外活動研究会 後援 文部省、近畿二府四県教育委員会 人間性豊かな生徒を、修学旅行固有の教育的価値を明確に いま、なぜ自然教室の教育か、その必要と実践 三地区修旅連総会ひらく 問題行動特別委を推進 福井県支部長に加藤一栄氏 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行 [12] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 学校教育の今日的課題と修学旅行・自然教室
		(3)	研究発表 1日延長学習の実際とその評価(西宮市立塩瀬中学校教諭 山城真氏) 日常の教育活動を生かした本校の校外学習 あこがれの地を求め夏の研修旅行はじまる－36コース・61団の編成 本年度関修委総会ひらく 会長に宮嶋明氏を選出
		(4)	資料 自然教室(転地学習)の学習活動＝西宮市立塩瀬中学校の実際＝ 59.6月教育界のうごきから 臨教審法案をめぐる動き／ 高校の職業教育を弾力化・多様化 文相の諮問機関「審議会」が提言／ 教育費・家計の2割も、東京都／公立高入試を多様化・文部省指導へ／ 日教組第60回定期大会沖縄で 1984年度運動方針など決定 夏休み映画会 交通博物館
第271号	昭和59年 8月10日 (1984年)	(1)	修学旅行・校外学習 補助金増額を要請 要保護・準要保護児童・生徒 全修協・三地区連 文相あて陳情書提出 関修委東北へ実地研修－専用臨運行にそなえ－ 今秋開催 国際伝統工芸博・京都 ー新しい伝統の可能性をー 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行 [13] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 「旅行的行事」改善への工夫・努力／この夏、特別活動、三つの研究発表大会から 59・7月教育界のうごきから 臨教審法案、衆院で修正可決。参院へ送付審議はじまる／ 校内暴力鎮静化へ向かう。58年度文部省調査／ 高校入試の改善、文部省通知。受験機会を2回に、など／ 教員免許法改正案廃案に／北方領土教育、全国で。外務省、副読本配布を拡大／ 中学校浪人倍増603人・東京
		(3)	本年度はどう動いているか－修旅基準概要のまとめから－ 自然と文化を求めて 秋の研修旅行
		(4)	東北修学旅行を終わって 長所とその問題点(練馬区立開進第一中学校長 荻野茂氏) インドネシアとはどんなところか [1] (元都立高校教諭 東門容氏) お知らせ 研修旅行の「作品」募集中 抄録ノート 奈良市埋蔵文化センターが完成

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第272号	昭和59年 9月10日 (1984年)	(1)	<p>昭和60年度 修学旅行の補助金 文部省の概算要求きまる 中学校35,600円に 厳しい予算の中、増額要求／据置きの壁やぶる 自然教室推進事業 2割増の拡充計画 修学旅行の意義を思うー中国の若者を見てー (関修委会長・水戸市立第二中学校長 宮嶋明氏) 鹿児島県支部長に西迫祐夫氏 文部省 西山文男監事を表彰 学校給食に多年の功労 風紋</p> <p>(2) 生徒指導と特別活動・修学旅行 [14] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 「自己教育力」を育てる修学旅行(1) ー中央教育審議会の「教育内容等の委員会審議経過報告」の示すものー 59・8月教育界のうごきから 臨教審スタート 25委員本決り／少年非行減少へ、3割減</p> <p>(3) 新しい修学旅行を模索してー松戸六実高の歩みー [10] これからの展開と課題 ー修学旅行実施を目前にー (千葉県立松戸六実高等学校 百瀬明宏氏) 東北修学旅行・現地研修 [1] 体験学習の田野畑へ (埼玉県宮代町立百間中学校長 平間隆司氏) 60年度 教職員研修旅行 科学博を中心に企画を刷新</p> <p>(4) インドネシアとはどんなところか [2] (元都立高校教諭 東門容氏) 瀬戸内探究の旅 淡路・伊予と山陽路 [1] (東京私立中学高等学校協会理事 野坂健三氏) [新著紹介] 『生きがい生活ノート』生活設計五つのK (西山文男氏 著) 『友垣日和』(鈴木廣氏 著)</p>
第273号	昭和59年 10月10日 (1984年)	(1)	<p>近畿地区あおぞら号運営協議会総会ひらく 23年間に三百余万名を 会長に酒井康晴氏を三選 近修委、国鉄と折衝 ダイヤ改正と修旅輸送の改善 問題行動の克服を 関東・東海・近畿三地区修旅連問題行動特別委員会 風紋</p> <p>(2) 生徒指導と特別活動・修学旅行 [15] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 「自己教育力」を育てる修学旅行(2)／教育史・生徒指導の観点から 関修委第三回運営委ひらく 研修旅行反省会 全修協新潟県支部で 59・9月教育界のうごきから 小学5・6年学力高い水準、文部省16年ぶりの全国調査／ 定員割れ5万人、1万人不合格 58年度全国公立高入学試験で／ 社会人の教員採用にみちひらく 文部省、具体策を検討はじめる</p> <p>(3) ふるさと交流学習 豊かな人間形成に 来年度、まず十六県 文部省 6泊7日の“自然教室” 東京・西小岩小「あすなろの里」で 全修協東京都支部 研修旅行友の会結成 研修旅行作品から 短歌6句(小川日子氏)、詩(栗原きみ江氏)、写真(渡辺祚)</p> <p>(4) 東北修学旅行・現地研修 [2] 北山崎・遠野・花巻・平泉をゆく (埼玉県宮代町立百間中学校長 平間隆司氏) 瀬戸内探究の旅 淡路・伊予と山陽路 [2] (東京私立中学高等学校協会理事 野坂健三氏) サイエンストレイン“エキスポ号”全国53駅で公開 国際伝統工芸博・京都 10月6日開幕</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第274号	昭和59年 11月10日 (1984年)	(1)	京阪神三市修旅委 60年度修学旅行費3.1%増 教委の諮問に答申 教福研臨時総会ひらく 教職員福祉の研究と研修旅行実施計画 59年度第4回 関西連合会ひらく 61年度の修旅輸送計画 関西・東北連合体方式で 全修協東京都支部 研修旅行友の会 会長に野尻高経氏 明石孝氏叙勲 勲三等旭日中綬章 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行 [16] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 「自己教育力」を育てる修学旅行 (3) ー特別活動ー効果的な体験的学習 一年半の準備実り 松戸六実高 関西修学旅行へ 教職員の方のための航空教室 ー熊本で開催ー 全修協地区会議始まる 59・10月教育界のうごきから 私学助成金2年連続ダウン 58年度総額2,751億円 教育基本法見直しを臨教審2委員が発言 米飯給食、普及伸び悩み 文部省の全国調査の結果 児童の心臓検診に補助 へき地校6,700校へ
		(3)	59年度 修学旅行についてのアンケート 神戸市立中学校長会修学旅行対策委員会 ユニークな五段階評価 瀬戸内探究の旅 淡路・伊予と山陽路 [3] (東京私立中学高等学校協会理事 野坂健三氏) 研修旅行作品から 「奥の細道・芭蕉を訪ねて」に参加して [1] (富山県横山小学校教諭 奥田純子氏) 科学万博一つくば'85ー 8割方、パビリオンの建設進む
		(4)	インドネシアとはどんなところか [3] (元都立高校教諭 東門容氏) [資料] 東京・本郷高校の韓国修学旅行 ー日本文化の源流求めて 日韓高校生間の交歓会もー 都内見学ガイド 新札幌像ゆかりの地ー論吉・漱石の跡ー 営団地下鉄運賃改定 一日乗車券新発売
第275号	昭和59年 12月10日 (1984年)	(1)	問題行動の研究 関東・東海・近畿3地区修旅連 実態調査と研究発表 教師と問題生徒との人間的内面の理解深まる 充実した研究発表 修学旅行における問題行動と生徒指導(埼玉県加治中学校長 澤田克郎氏) 特色ある修学旅行ー修学旅行の理想像を求めてー (名古屋市立東陵中学校長 後藤幾郎氏) 集団宿泊訓練の一環としての修学旅行 ー好ましい生徒集団の育成をめざしてー (富田林市立第三中学校長 浜田宏作氏) 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行 [17] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 「自己教育力」を育てる修学旅行 (4) ー修学旅行ー生徒の「わがこと」に あおぞら号運営協議会を強化 修旅等合同研究委設置 航空教室盛況 高校教職員を対象に航空機利用の修旅セミナー 熊本 59・11月教育界のうごきから 新文相に松永光氏／臨教審、四部会の部会長決まる／ 「入試」「偏差値」に意見集中 臨教審、福岡で初の地方公聴会／ 教育費のみ急増、上昇率一般物価の倍
		(3)	修学旅行実態調査 問題行動(第2回) 中学校
		(4)	'84研修旅行 写真作品入選きまる 百余点の中から厳選 研修旅行作品から「奥の細道・芭蕉を訪ねて」に参加して [2] (富山県横山小学校教諭 奥田純子氏)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第276号	昭和60年 1月10日 (1984年)	(1)	<p>年頭にあたって 新たな決意をもって—教育改革の年—(文部大臣 松永光氏) 21世紀を担う人づくりのために(全修協理事長 山本種一) 岐阜県支部長に長谷川甲子男氏 三重県支部長に安川武男氏 風紋</p> <p>(2) 年頭にあたって 新幹線利用の修学旅行を(日本国有鉄道総裁 仁杉巖氏) 新鮮な視点で研究と実践指導を (関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会会長 宮嶋明氏) 三十周年を機に事業の一層の拡大を (全国教職員福祉団体連絡協議会会長 田中一郎氏) 教職員福祉の発展を(教職員福祉問題研究会会長 西尾能信氏) 「大和路を語る会」主催 奈良県 福島県郡山市で開催</p> <p>(3) 新年を迎えて 「三十にして立つ」年(全修協鹿児島県支部長 西迫祐夫) 科学万博見学に集中的努力を(全修協高知県支部長 土居正実) 研修コース充実に期待(山口県教職員互助会事務局長 大野良兵氏) 全力尽くす決意(全修協広島県支部長 佐藤峯夫) 「あおぞら号」の運営組織を拡充(全修協大阪府支部長 瀬尾武敏) 組織の一員としての活動(全修協和歌山県支部長 妙中茂) 美しい自然の喜びを(全修協滋賀県支部長 駒井徳左衛門) 研修旅行の発展充実に微力を(三重県公立学校職員互助会事務局長 福田恵治氏) より充実した内容を求めて(近畿地区「あおぞら号」運営協議会会長 酒井康晴氏) 研修旅行を大きく発展(大阪府教職員互助組合事務局長 松本茂氏) 使命感で困難を克服しよう(全修協京都府支部長 糸井一) 協会精神を一貫堅持して進もう(全修協参与理事 芦田重左衛門) 特色ある修学旅行を(東海三県修委委員長・名古屋市立伊勢山中学校長 本田勝彦氏)</p> <p>(4) 新年を迎えて(つづき) 全修協運動の画期的飛躍を(全修協監事 西山文男) 新しい運動前進 上越新幹線時代に(全修協新潟県支部長 星野初太郎) 初夢を語る(全修協理事 成瀬幡治) 教職員福祉の向上と発展へ(千葉県教育会館常務理事 遠藤秀雄氏) 不透明でない1985年を(全修協参与理事・東京都支部長 青山良道) 研修と英気涵養同時に果たす旅行(全修協栃木県支部長 梅沢茂) 全修協の発展を願う(群馬県学校生活協同組合専務理事 小幡和夫氏) 教育活動と相互親睦に(福島県教職員互助会常務理事 菅野弘氏) 全修協設立の趣旨で頑張る(全修協山形県支部長 吉村和夫) 全修協発展へ最良の年に(全修協理事・北海道支部長 高田治郎) 教育界から大きな評価(近畿日本ツーリスト(株)修学旅行部長 天野明夫氏)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第277号	昭和60年 2月10日 (1984年)	(1)	<p>関修委 第19回研究発表会 前橋で開催 修学旅行の計画と実践 本郡修学旅行の現状と課題(群馬県中之条町立第四中学校長 福原昭氏) よりよい修学旅行のあり方を求めて(群馬県富士見村立富士見中学校長 福本長治平氏) 活発な研究討議—関修委— 近修委 国鉄大幅ダイヤ改正 対策会議開く 千葉県支部長に太田芳氏 風紋</p> <p>(2) 生徒指導と特別活動・修学旅行 [18] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 「学校行事」全般についての現状と課題(その一) 「昭和59年度特別活動担当指導主事研究協議会」の協議内容から 新しい目で日本の国土を 春の教職員研修旅行 開幕まであと一カ月 科学万博—つくば’85 国鉄 科学万博へ専用臨、大宮発着は全修協が取りまとめ 60・1月教育界のうごきから 臨時教育審議会のうごき／日教組教育研究集会を開く</p> <p>(3) 新年を迎えて 新企画で成果を(全修協宮城県支部長 高橋富士男) 一大飛躍の年へ(福島県退職教職員互助会事務局長 山田孫市氏) 運動の発展を真剣に考えよう(全修協理事 辻原弘市) 今後の課題解決を(全修協三重県支部長 安川武男) 福祉を後退させぬ教職員の総意を(京都府教職員互助組合専務理事 東山信一氏) 人生を豊かに旅に出よう(全修協山口県支部長 大田恭次) 決意を新たに教職員福祉の拡充 (大阪府教職員互助組合参事兼事務局長 神代義秀氏) 目標人員を確保(全修協徳島県支部長 奥田元男) みなさんと共に輝かしい実績を(全修協佐賀県支部長 篠崎規) 発想の転換期に際して(全修協常務理事・茨城県支部長 永井熙) 全修協熊本県支部長 村田正実氏 交通安全国民運動中央大会で表彰</p> <p>(4) 修学旅行を終えて 印象的だった15のテーマ別グループ行動 (千葉県立松戸六実高等学校教諭 百瀬明宏氏) 交通博物館からのお知らせ</p>
第278号	昭和60年 3月10日 (1984年)	(1)	<p>全修協 第26回通常総会開く 修学旅行の重要性を 教育総見直しの年 使命感に燃えて 人間形成に新たな決意を(全修協理事長 山本種一) 近修委委員会 61年度輸送計画決定 風紋</p> <p>(2) 生徒指導と特別活動・修学旅行 [19] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 「学校行事」全般についての現状と課題(その一) 「昭和59年度特別活動担当指導主事研究協議会」の協議内容から 小学校修旅等合同研究委 委員長に沼守輝夫氏 研修旅行友の会総会開く 東京文化会館 60年2月教育界のうごきから 臨時教育審議会の動き／「個性主義」を改革の理念に／ その他の審議提示問題、諸団体の動き</p> <p>(3) いよいよ開幕—科学万博— 国際科学技術博覧会の見学について(通知) 春の教職員研修旅行 万博中心に一千名 東京が近くなる(新幹線 上野～大宮間 開通) 3月14日ダイヤ改正 国鉄 大宮から新しい上野駅へ 東北・上越新幹線 関修委 第六回運営委 60年度への飛躍を 大宮発時刻繰り下げ 科学万博専用臨</p> <p>(4) 都内見学ガイド 今春変身中—上野・浅草 電気通信科学館からのお知らせ 交通博物館からのお知らせ</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第279号	昭和60年 4月10日 (1984年)	(1)	文部省 60年度修学旅行の補助金(要保護・準要保護)8,000万円の増額 二年連続の据え置き避け 国鉄運賃・料金改定に特別措置を要請 全修協参事に稲葉幸雄・澤田克郎両氏 EXPO NEWS イラストマップ作成。大宮から直行の専用臨時列車。国鉄 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行 [20] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 学校行事・修学旅行における評価の改善(その一) 60年3月教育界のうごきから 臨時教育審議会の動き/いじめの問題をめぐって 文部省「しつけ手引書」を各小中学校へ
		(3)	修学旅行を終えて 生徒の感想(千葉県立松戸六実高等学校教諭 百瀬明宏氏) 南へ北へ万博へ 夏の教職員研修旅行 59年研修旅行参加者作品 東北三大祭(俳句5句) (元東京都寺地小学校教諭 澤橋千代子氏)
		(4)	修学旅行と体験学習 三重県その1(三重県観光連盟常務理事 藤原康司氏) 都内見学ガイド 表参道一青山・原宿 都営交通運賃改定 大鳴門橋 6月開通 新著紹介「校外学習要覧」教育新聞出版センター
第280号	昭和60年 5月10日 (1984年)	(1)	全修協・都中高で調査 全国私立高校の修学旅行 飛行機利用校が激増、40%に。泊数減で費用押える。国際化時代、海外への動き 修学旅行を総合調査の中で 文部省が全公立学校対象に「特別活動」の活性化へ向けて 旅行的行事に関する調査項目 全修協参事に南裕之氏 全修協参与理事 野尻高経氏に勲三等旭日中綬章叙勲 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行 [21] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 学校行事・修学旅行における評価の改善(その二) 60年4月教育界のうごきから 首相に「審議経過の概要」渡す 岡本道雄臨教審会長と会長代理 審議経過の概要の要点/高校中退11万人超す 58年度文部省調べ/ いじめ対策、文部省の検討会発足 全修協 昭和60年度修学旅行実施基準概要調査
		(3)	全修協 夏の教職員研修旅行 今年もフレッシュ、ユニークコース 59年中の修旅補導状況 京都府警の手引'85から 東北新幹線に初めての専用臨 関修委第一回研究協議会開く
		(4)	修学旅行と体験学習 三重県その1(三重県観光連盟常務理事 藤原康司氏) 都心スナップ ならんで、ならんで修学旅行 見学ニュース 電力展示室改装 科学技術館/日本丸 横浜で公開/たんけん館完成 上野科博/ 真珠博物館 今秋公開 御木本真珠島

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第281号	昭和60年 6月10日 (1984年)	(1)	よみがえった東京・忠生中 学校再建の中で 修学旅行へ こう取り組んだ 先生達への信頼感芽生える 58年はついに四名が不参加 新潟県支部長に香西貞夫氏、石川県支部長に大浦与三吉氏 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行 [22] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 学校行事・修学旅行における評価の改善(その三) 60年5月教育界のうごきから 臨教審答申・総論に「教育の目標」教育基本法尊重をうたう/ 「個性主義」は改革目標の一つ、基本理念には総会で異論続出/ 臨教審に求める民間の声/80%の学校で「いじめ」発生 近畿中修委総会ひらく・会長に佐々木達三氏 三地区修旅連 総会開催予告
		(3)	全修協 夏の研修旅行 自然に学び人に触れ/講師陣も充実、多彩な顔ぶれ 自然・歴史・文化に新しい目で 関修委総会ひらく 会長に滝嶋壮三氏 「大和路を語る会」主催 奈良県、後援 全修協、秋田会場・山形会場 山形県修学旅行ガイドブック作成 山形県観光協会
		(4)	修学旅行の実態調査<1> 三重県修学旅行研究会 小・中・高校の一貫教育をめざし 食三代(沖縄都ホテル社長 桑原守也氏) [EXPO NEWS] 7月20日まで 15時から夜間割引、シャトルバスも団体割引 茨城県フラワーパーク開園 県花「バラ」が満開 台湾修旅ビデオ完成 日本アジア航空 東京都心案内図作成 本郷の全旅館明示 文京区
第282号	昭和60年 7月10日 (1984年)	(1)	関東・東海・近畿三地区公立中修旅連 第23回総会ひらく 新陣容でスタート 教育の新しい流れに対応、修学旅行の問題研究 飛行機利用は足ぶみ状態 60年度公立校修学旅行基準から 青森県支部長に小田切明和氏 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行 [23] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 「いじめ」への対応と特別活動・修学旅行の果たす役割 60年5月教育界のうごきから 臨教審が第1次答申/「いじめ」で転校認める・文部省
		(3)	修学旅行の実態調査<2> 三重県修学旅行研究会 小・中・高校の一貫教育をめざし 元気回復を求めて、夏の研修旅行はじまる ～全国20コースと科学万博～ 東海三県修旅委総会 委員長に本田勝彦氏 近修委総会 委員長に北條直樹氏
		(4)	名張(沖縄都ホテル社長 桑原守也氏) 都内見学ガイド 北の丸公園から竹橋へ [EXPO NEWS] 学校団体引率者 連絡所設置 短距離ランナー エキスポドリーム 国鉄 古都税実施 京都市 [催物案内] 電気通信科学館、交通博物館
第283号	昭和60年 8月10日 (1984年)	(1)	文相あて、全修協・三地区修旅連 補助金増額を陳情 要保護・準要保護・へき地校の修学旅行・校外学習 全員参加をめざして 全特活研究大会から 自己教育の育成を 教育課程改定の動き 古都税決着 京都 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行 [24] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 三年間の旅行的行事の積みかさねによる修学旅行の実践 60年7月教育界のうごきから 教育改革推進閣僚会議が発足/「共通テスト」実施は64年から/ 「教育陪審」で有田第三部会長が具体案「有田メモ」を発表/ 日教組第61回定期大会ひらく、教師が自己変革を一田中一郎委員長/ 教育荒廃克服へ対話を継続 文相・日教組委員長が会談
		(3)	修学旅行の実態調査<3> 三重県修学旅行研究会 小・中・高校の一貫教育をめざし 関修委 現地研修会開催 奈良・京都へ 思い出に残る研修旅行 元気回復富士登山 途中で一休み 研修旅行の「作品」募集中 力作、傑作を期待

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第283号 ※つづき	昭和60年 8月10日 (1984年)	(4)	中国再訪の印象[1] 逛馬路(コアンマル) (近畿日本ツーリスト修学旅行部長 天野明夫氏) 終戦回顧 集中營での憲法講義(沖縄都ホテル社長 桑原守也氏) EXPO NEWS 7月20日までの特典を会期末まで延長(夜間割引時刻繰り上げ、シャトルバス団体割引) 戸隠への迂回路 戸隠有料道路(バードライン)が通行不能な期間の3つの迂回路。
第284号	昭和60年 9月10日 (1984年)	(1)	特別活動実施状況 文部省調査結果 修学旅行の実施率 小84.7、中96.5、高89.3% 文部省 61年度概算要求額決る 中学校1,100円アップ 修学旅行研究大会 ～次代を担う青少年の人づくりをめざして～ 10月22日大宮で開催 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行 [25] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 系統的・計画的に実施される修学旅行 ～8月の研究発表大会から～ 60年8月教育界のうごきから 大学・短大の開設“申請ラッシュ” 61～62年度で13大学20短大を/ 教育実習の成績、教員採用で重視 臨教審第三部会が検討を決める/ 高校途中退学者を追跡調査 文部省、来年度5千人を面接/ 大検(大学入学資格検定)受験者急増/自然教室事業、来年度2000校に拡充
		(3)	関修委現地研修レポ[1] 岩船・浄瑠璃・秋篠寺(全修協参事 澤田克郎) 関修委62年度輸送基本方針と修学旅行研究大会開催を決定 研修旅行作品から 「山は緑ならずとも」(中岡律子氏)、「札幌・礼文・宗谷にて」(小林一郎氏)
		(4)	中国再訪の印象 [2] 三原則(近畿日本ツーリスト修学旅行部長 天野明夫氏) 21年目の大モデルチェンジ ニュー新幹線登場 国鉄埼京線開通 大宮・川越が便利に だから！滋賀県キャンペーン 比叡山秋の催し 高速道路料金改定 日本道路公団
第285号	昭和60年 10月10日 (1984年)	(1)	自然教室は拡充 実施第3年目へ 集団宿泊の教育効果 ～問題行動へ長期的観点～ あおぞら号近畿地区運営協議会 総会開く 56年ぶり東京震度5 その時修学旅行生は 長野県支部長に小林三秋氏 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行 [26] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 集団宿泊指導と修学旅行 [1] ふれあいによる信頼関係の深まり 60年9月教育界のうごきから 「いじめ」いっそう深刻/いじめられた中学3年生が自殺/ いじめ根絶に全力あげよー文部省/臨教審のうごきから/ 教育課程を見直し、学習指導要領改定へ 9月9日教育課程審議会が発足 近修委員会で協議 62年度輸送計画
		(3)	研修旅行作品から 60年度教職員研修旅行写真コンクール入選作 尾瀬の花(新潟県立川東小学校教諭 大川原順子氏) 靈魂の里(恐山)(東京都葛飾区高砂 石橋藤野氏) 鷗穴(巖美溪)(川越市立西生田中学校 佐久間清氏) 猿沢池(東京都板橋区立志村三中学校 鶴巻懋氏) 早秋(尾瀬)(大阪市西中島小学校 太田きみ子氏) 関越自動車道全通(10月2日前橋～湯沢間開通) 科学万博が閉幕 学生団体入場者184万名 (財)全修協に感謝状 自主研修ガイドブック「マイプランニング京都」 京都の寺院 拝観料値上げ
		(4)	関修委現地研修レポ [2] 窯・墨・北山杉・借景(全修協参事 澤田克郎) 中国再訪の印象 [3] 大運河(近畿日本ツーリスト修学旅行部長 天野明夫氏)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第286号	昭和60年 11月10日 (1984年)	(1)	<p>修学旅行研究大会ひらく 自己教育力の育成をめざして 次代を担う青少年の人づくりへ熱意結集 講演要旨 自己教育力を育てる修学旅行(文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 研究報告 修学旅行を通じての自己啓発 (関修委運営委員長・栃木県横川中学校長 滝田潔氏) 西山文男監事叙勲 風紋</p> <p>(2) 講演要旨 現代青少年の心理と集団活動(筑波大学教授 加藤隆勝氏) 辻原弘市理事を悼む(全修協理事長 山本種一) 三地区修旅連 修学旅行実態調査まとめの段階に</p> <p>(3) 京都での修学旅行宿泊実績 59年は133万2千名 関修委 62年度輸送計画まとまる 近修委 62年度希望調査報告 古都をカセットでウォーキングガイド 研修旅行作品から 利尻・礼文を訪ねて(兵庫県明石市 梶原貞江氏)</p> <p>(4) 松戸六実高のテーマ別修学旅行 第2年目へ展開 60年10月 教育界のうごきから 「いじめ」の対応総点検と「体罰」含め実態調査・文部省／ 「いじめ」克服を、臨教審会長 社会全体の対応求む、体罰自粛を／ いじめ克服へ緊急提言・日教組 教職員が先頭に、一斉に家庭訪問／ 国大2校受験できる、62年春から 修学旅行の宿で名士の講演を聞く 岩手県雫石中学校 バイクの体験学習 鈴鹿サーキットで 高知県立窪川高校 11月1日オープン 鎌倉文学館、こどもの城</p>
第287号	昭和60年 12月10日 (1984年)	(1)	<p>東京私中高協会 航空機を利用する修学旅行研究見学会 貴重な体験 安全性を再認識 三地区修旅連研究発表ー新しい視点に立った修学旅行のあり方ー のぞましい修学旅行をめざして(京都府男山中学校長 村山宗幸氏) 風紋</p> <p>(2) 生徒指導と特別活動・修学旅行 [27] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 集団宿泊指導と修学旅行(2) 基本的生活習慣を習得の大切な機会 集団宿泊訓練研究協議会 自然教室棟の効果的運営を 全修協本部に鉄道電話</p> <p>(3) 三地区修旅連研究発表 新しい視点に立った修学旅行のあり方 グループ見学(栃木県宝木中学校長 片山悦男氏) 野外活動(岐阜県陽南中学校長 西田弘通氏)</p> <p>(4) 中国再訪の印象 [4] 北京で考えたこと (近畿日本ツーリスト修学旅行部長 天野明夫氏) 60年11月 教育界のうごきから 教育基本法の解釈を再検討 臨教審第1部会で論議を／ いじめ・体罰根絶、臨教審路線と対決、日教組第62回臨時大会で／ 国立大学62年度から3校受験も可能に、国立大学協会が決定／ 丸刈り強制校則は適法・熊本地裁判決、全国の中学に波紋 京都の12寺院で再び拝観停止 古都保存協力税問題 「大和路を語る会」主催 奈良県、後援 全修協 変換へんしん展 電気通信科学館</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第288号	昭和61年 1月10日 (1986年)	(1)	年頭の所感 21世紀を展望－教育改革を実現へ－(文部大臣 海部俊樹氏) 活動の新生をめざして－新世紀へあと十四年－(全修協理事長 山本種一) 風紋
		(2)	年頭の所感(つづき) 思い出深い修学旅行を!!(日本国有鉄道総裁 杉浦喬也氏) 前向きの修学旅行をめざして－中学3年間の教育の総和－ (関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会会長 佐々木達三氏) 有意義な修学旅行と魅力ある研修旅行を (全国教職員福祉団体連絡協議会会長 田中一郎氏) 文化的精神的福祉の旅を(教職員福祉問題研究会会長 菅原孝氏) 京阪神中学校修旅委 61年度経費は2.7%増
		(3)	新年を迎えて(1) 全修協31年目 活性化と発展を(全修協理事・北海道支部長 高田治郎) 新年雑言(全修協参与理事・東京都支部長 青山良道) 新年偶感(全修協理事 岡本清) 新年所感(全修協理事 成瀬幡治) 支部長を五年今年こそ(全修協山形県支部長 吉村和夫) 老後の生きがいへ小型海外旅行を (福島県退職教職員互助会事務局長 山田孫市氏) 研修参加者の好評さらに充実を(群馬県学校生活協同組合専務理事 小幡和夫) 若い先生は旅を迫力ある指導へ(全修協栃木県支部長 梅沢茂) マナー化を脱し望ましい実践を(全修協埼玉県支部長 岡田憲一郎) 支部の内容を検討充実(全修協千葉県支部長 太田芳) 旅での研修と福祉の向上を(全修協新潟県支部長 香西貞夫) 全修協の使命を体して連帯(全修協長野県支部長 小林三秋) 本年も大きく前進へ努力(全修協三重県支部長 安川武男) 豊かな旅の企画を(三重県公立学校職員互助会事務局長 岡田泰治) 事業の拡大へ最善の努力(全修協石川県支部長 大浦与三吉) 生涯教育としての人づくりをめざして(福井県学校生活協同組合専務理事 西村実氏) 新しい修学旅行の在り方を求めて(関修委会長・川越第一中学校長 滝嶋壮三氏) 三か年の継続研鑽成果をあげて (東海三県修学旅行委員会委員長・伊勢山中学校長 本田勝彦氏)
		(4)	新年を迎えて(2) 原点を再確認すべての力を発揮(全修協兵庫県支部長 魚谷時太郎) 積極的な努力を尊い体験から(全修協監事 西山文男) 心のときめきハレー彗星と旅(全修協滋賀県支部長 駒井徳左衛門) 頌春、やり抜くぞの心意気で(全修協京都府支部長 糸井一) 研修旅行に大きい期待を(京都府教育公務員弘済会常務理事 明賀猛氏) 初心に立ちかえり さらに活動を(全修協大阪支部長 瀬尾武敏) 生涯教育の視点から 教職員の教養向上(大阪府教職員互助組合事務局長 松本茂氏) 教職員福祉の拡充へ魅力あふれる企画を(大阪府教職員互助組合事務局次長 神代義秀氏) 教職員研修旅行の内容充実を(兵庫県学校厚生会専務理事 中村清三郎氏) 福祉厚生充実共に協力を(和歌山県教育互助会事務局次長 星田利雄氏) 旅は心に鮮血を シルクロードに思う(全修協山口県支部長 大田恭次) 強力な連帯をより密に(山口県教職員互助会事務局長 大野良兵氏) 若い教職員を研修旅行へ(全修協徳島県支部長 奥田元男) 企画のよさを浮彫 共に努力を(全修協宮崎県支部長 田尻貴) 全修協不惑の年へ力強いスタート(全修協鹿児島県支部長 西迫祐夫) 積極参加協力の修学旅行に(近畿地区「あおぞら号」運営協議会会長 米山武氏) 青春時代の感動を、修学旅行の教育性(近畿日本ツーリスト(株)修学旅行部長 諏訪哲夫氏)
		(5)	修学旅行実態調査<問題行動>3年のまとめ(1) 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会 調査の集計・事前指導
		(6)	修学旅行実態調査<問題行動>3年のまとめ(2) 事前指導(続き)／現地での指導
		(7)	修学旅行実態調査<問題行動>3年のまとめ(2) ※つづき 現地での指導(続き)／事後指導 学校教育の課題に応える修学旅行(文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 情報の洪水の中で修学旅行の教育的意義(筑波大学教授 加藤隆勝氏)
		(8)	春休み研修旅行 歴史・文学・自然をたつぷりと＝全修協企画主催で8コース＝ 修学旅行セミナー 沖縄に修学旅行の適地と航空機利用の条件を探る 13校が飛行機利用 石川県の高校修旅 前田家梅之御殿跡 東大構内で発掘 虎 寅 とら トラ

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第289号	昭和61年 2月10日 (1986年)	(1)	第20回修学旅行研究発表会ひらく 関修委・全修協 真剣な討議を展開／全員参加と問題行動生徒 よりよい修学旅行のあり方を求めて(栃木県宝木中学校長 片山悦男氏) 本県の修学旅行の現状と課題(栃木県壬生中学校長 松本三郎氏) 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行 [28] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 集団宿泊指導と修学旅行(3) 師弟同行による生徒理解と教師理解 夏の教職員研修旅行 北から南へ 21コース 見る旅からかみしめる旅へ 自然・歴史・文化・エトセトラ… 関修委第五回研究協議会
		(3)	修学旅行の実態調査 栃木県と神戸市
		(4)	学校行事の活性化と協働による実践的課題 [1] (全修協大阪副支部長 垣内利夫) 展示会毎月開催 科学技術館 開館30周年記念展 NHK放送博物館 11寺院で拝観停止中 曼殊院は公開 京都 比叡山と天台の美術展 全国で開催 国鉄 3月3日ダイヤ改正 新ルート開通と生活密着型 国鉄 京葉線東京地下駅着工 美術館の日程 北海道近代事物館」 ディズニーランドへ上野からも直通バス
第290号	昭和61年 3月10日 (1986年)	(1)	宿舎の安全確認を東京消防庁にきく 春の修学旅行シーズンを迎えて 点検時の重要ポイント あおぞら号近畿地区運営協議会 修学旅行等合同研究委員会 今後の在り方調査、要望 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行 [29] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 集団宿泊指導と修学旅行(4) 系統的な一貫性と安全面の確保を 自然教室広がるー新しい友の発見ー 60年度30万名を超す 60年度 第6回関修委研究協議会 年間活動を検討 京都 10寺院依然拝観停止 三千院は写経のみ可
		(3)	特色ある修学旅行めざして 名古屋市小中学校長会・中学校部修学旅行委員会 60年度実践記録から 春の研修旅行はじまる
		(4)	学校行事の活性化と協働による実践的課題 [2] (全修協大阪副支部長 垣内利夫) “大都会でエキサイティングな体験”後楽園ゆうえんち&後楽園球場 新路線一せいに 国鉄・全日空・都バス 新展示続々公開 科学技術館 三重県長島温泉 「シルクロード展」開催

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第291号	昭和61年 4月10日 (1986年)	(1)	<p>全修協創立30周年を祝う 修学旅行の発展めざし／旗を掲げ風雪に耐えて 祝辞(文部大臣 海部俊樹氏) 式辞(全国修学旅行研究協会理事長 山本種一) 昭和61年度修学旅行費等国庫補助決る 「志納金」で開門 京都の10寺院 風紋</p> <p>(2) 生徒指導と特別活動・修学旅行 [30] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 今こそ修学旅行の見直し・改善を(1) (財)全修協創立30周年式典 来賓・表彰受賞者氏名 修学旅行実施基準 61年度概要調査開始 待望久しい海底トンネル完成 道観連修旅誘致懇談会 国際理解に海外修学旅行を JAA修旅セミナー</p> <p>(3) 東京サミットで交通規制 5月2日～7日 都内 夏の教職員研修旅行 全修協研修主催 自然・歴史・文化にふれる</p> <p>(4) 全修協の思い出―表彰を受けて―(日本教育公務員弘済会専務理事 伊藤喜蔵氏) 学校行事の活性化と協働による実践的課題 [3] (全修協大阪副支部長 垣内利夫) 開幕宣言 目白押し あなたとなら・大和路 大キャンペーン展開 東京オンステージ 全国で展開 美しく伊勢志摩 伊勢神宮お木曳き 比叡山と天台の美術展覧会開催 上野 特別展パソコン通信'86 ガスの科学館開館 UFOエアドーム完成 東武動物公園 箱根ベゴニア園開園 国鉄に三番目の校名駅「同志社前」誕生 世界一のジャンボ機と欧州直行便 JAL かめりあ丸就航 伊豆諸島航路 オリンピア88就航 阪釜フェリー QE2 横浜寄港</p>
第292号	昭和61年 5月10日 (1986年)	(1)	<p>徳育の充実を 臨教審第2次答申から 体験学習、集団生活の拡大 好ましい人間づくりめざし 修学旅行春本番 今学期の国鉄連合体輸送 60年中の修学旅行生非行・事件 京都府警本部レポート 風紋</p> <p>(2) 生徒指導と特別活動・修学旅行 [31] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 臨教審第二次答申と旅行的行事・修学旅行 今後の課題 青山良道君を偲ぶ(全国修学旅行研究協会理事長 山本種一) 長期キャンペーン各県で展開 さわやか信州／いきいき富山／あじわいの岡山路 キャッチフレーズ募集 佐賀 修旅体験学習PR 千葉</p> <p>(3) [講演] 研修旅行友の会で「旅と生涯学習」(瀬沼克彰氏) 関修委61年度第一回研究協議会ひらく 62年度コース別計画人員 近修委 研修旅行友の会総会ひらく</p> <p>(4) 第30回教職員の夏季研修旅行 つくばエキスポセンター 再開 日光江戸村開村 明石海峡大橋起工 学校行事の活性化と協働による実践的課題 [4] (全修協大阪副支部長 垣内利夫) 教職員向け旅のサロン開設</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第293号	昭和61年 6月10日 (1986年)	(1)	三陸海岸で2連泊 東京杉並・和泉中 自然認識の修学旅行 国民休暇村で野鳥観察 近畿地区公立中修旅委 61年度活動へ 修旅委総会ひらく 会長に土居克巳氏 関東地区公立中修旅委 会長に飯野昭氏 東京都支部長に野尻高経氏 愛知県支部長に佐藤泰介氏 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行 [32] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 修学旅行の充実・改善をめざした実践例 <1> 航空機利用は昨年と同じ 61年度全国修旅基準の動向 国際親善の修学旅行 韓国へ高岡竜谷高 これからの生徒数 中学修旅は63年がピーク '87未来の東北博 仙台で明年開催 なら・シルクロード博 奈良で明後年開催
		(3)	夏の教職員研修旅行 満員コースも続出 ギレ切せまる 修学旅行の実態調査 小・中・高の総合記録 <1> 三重県修学旅行研究会 総合スポーツ公園 苗場グリーンランドオープン
		(4)	都内見学ガイド 歴史と文化の散歩道 東京都 日銀 貨幣博物館 学校行事の活性化と協働による実践的課題 [5] (全修協大阪副支部長 垣内利夫) 尾道〜今治ルート 生口橋起工
第294号	昭和61年 7月10日 (1986年)	(1)	京都の拝観停止6寺院 修学旅行団にのみ開門 全修協・関修委の要望に応え教育の立場を尊重 三地区修旅連総会 会長に石田俊一郎氏 福井県支部長に小笠原繁義氏 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行 [33] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 旅行的行事、修学旅行の充実・改善をめざした実践例 <2> 修学旅行の実態調査 小・中・高の総合記録 <2> 三重県修学旅行研究会 東海三県修旅委総会開く 委員長に石田氏
		(3)	ボランティアサービスの修学旅行 日頃の成果が実を結ぶ自主的行動 岐阜県各務原市立緑陽中学校 添乗員レポートから／ホテル本郷館支配人の話／生徒代表のお礼状から 近修委総会開く 北條直樹委員長再選
		(4)	さあ夏本番の旅を 北へ南へ歴史と自然 研修旅行30周年の企画 研修旅行の「作品」募集 力作、傑作を期待 学校行事の活性化と協働による実践的課題 [6] (全修協大阪副支部長 垣内利夫) 空の新時代幕開け 東京鹿児島線開設 JAL 全日空は米本土へ 日本学生会館閉館 展覧会情報 日本美術名宝展 今秋東京・京都で 国鉄車両のあゆみ展 交通博物館 絶滅の大怪獣展 長島温泉

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第295号	昭和61年 8月10日 (1986年)	(1)	<p>修学旅行費の負担軽減を 全修協・三地区修旅連が陳情 文部省へ 要保護・準要保護・へき地校の修学旅行・校外学習補助金増額 国鉄へ 本年度中に実施の修学旅行に対しては新運賃・料金の適用除外 進路校外研修の修学旅行 岡山・玉野光南高 愛媛県支部長に中野繁氏 風紋</p> <p>(2) 生徒指導と特別活動・修学旅行 [34] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 旅行的行事、修学旅行の充実・改善をめざした実践例 <3> 系統的発展的旅行的行事ー全国特活研埼玉大会からー 11月1日ダイヤ改正 9月1日運賃・料金改定 国鉄 東京モノレールも運賃改定</p> <p>(3) 修学旅行の実態調査 小・中・高の総合記録 <3> 三重県修学旅行研究会 夜の瀬戸内海でフェリー衝突 全員無事、修学旅行を続行 宮崎・本庄高校 今井玄崇氏にブルーレーク賞 東北自動車道全通 浦和ー青森 関修委、東北へ現地研修 ビデオ「体験学習編」完成 三重県観光連盟 宮崎鹿児島修学旅行マニュアル完成 長距離は土曜も約四割引 NTT 見つけて下さいあなたの山陰キャンペーン</p> <p>(4) 教職員研修旅行 秋のグリーンツアー 都内見学ガイド 地下鉄博物館オープン 63年開催の博覧会情報 未来博88 岐阜 '88長崎国際博覧会 瀬戸大橋 架橋記念博 岡山・香川 夏休み特別展開催 サイエンス・コンピューター・ランド 科学技術館 プレイランド音・光 電気通信科学館</p>
第296号	昭和61年 9月10日 (1986年)	(1)	<p>昭和62年度修学旅行の補助金 文部省の概算要求きまる 五年連続のマイナス概算要求基準の中での、修旅関係補助費の増額 指定連合体修学旅行は旧運賃・料金で 国鉄 第3回全国修学旅行研究大会ー集団宿泊指導の積み重ねによる修学旅行ー 11月14日 神戸市で開催 昭和63年度は22万名に 関修委第3回研究協議会 風紋</p> <p>(2) 生徒指導と特別活動・修学旅行 [35] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 自己指導力の育成をめざす修学旅行的行事 銀閣寺などまた拝観停止に [研究集会] 地域と教育の会 京都をどうみるか新しい構想にたって</p> <p>(3) 東京私学現地研修会 秋田・岩手の再発見 関修委現地研修会レポート [1] (全修協参事 澤田克郎) まるごと自然、東北／湖は光り緑濃く 自主研修で国際交流 京都・奈良 近鉄グレイラインツアーズ</p> <p>(4) 研修旅行 夏から秋へ 夏の「旅の作品」力作集まる 秋のグリーンツアー多数参加 都心に豪華なニュータウン アークヒルズ誕生 青函トンネルレール締結 JAL東京～小松線 開設 東富士五湖道路一部開通 河口湖＝山中湖 日本の道百選 まず53カ所を決定 新刊紹介 「京都と近郊の本」 第3回全国修学旅行研究大会 11月14日神戸市で開催</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第297号	昭和61年 10月10日 (1986年)	(1)	<p>あおぞら号近畿地区運営協議会総会開く 会長に来山武氏を再選／輸送の抜本改善を 60年度近鉄への要望書回答として 時言 修学旅行の位置づけ [1] (元豊中市教育長 北原富男氏) 教育課程改定の四項目 国の文化と伝統を尊重など 創立記念日の休日について 風紋</p> <p>(2) 生徒指導と特別活動・修学旅行 [36] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 「生徒の活動」を重視した旅行的行事 蔵の町 小江戸川越へ 研修旅行友の会 ふるさと情報を画像で お茶の水に端末機設置 (財)ふるさと情報センター 新刊紹介「韓国ソウルの本」 北海道の視察研究に好資料「広報誌北海道 別冊グラフ版」</p> <p>(3) 61年度夏季教職員研修旅行 写真、詩文入選作品きまる 旅の思い出を感動豊かに 写真4点(鶴巻懋氏、仁科定夫氏、犬飼静麿氏、豊永哲史氏) 詩文3点(杉中彰子氏、堺絹氏、山内直次氏)</p> <p>(4) 関修委現地研修会レポート [2] (全修協参事 澤田克郎) まるごと自然、東北／奥入瀬の流れは清く 博覧会情報 世界古城博覧会 来春彦根で開催 天王寺博覧会 来夏大阪で開幕 長崎国際博延期 キャンペーン だから！滋賀／ノスタルジア紀州 歴史とロマンの旅 奈良県から大阪港へ直行 近鉄東大阪線開通 関東の私鉄が東北へ直行 会津鬼怒川線開通</p>
第298号	昭和61年 11月10日 (1986年)	(1)	<p>昭和60年京都 修学旅行の宿泊人員 138万8000名に 年々増加の傾向 時言 修学旅行の位置づけ [2] (元豊中市教育長 北原富男氏) 関修委研究協議会ひらく 昭和63年度の輸送計画 21万8千余名 11月1日 国鉄ダイヤ改正 旅が一段と便利に 風紋</p> <p>(2) 生徒指導と特別活動・修学旅行 [37] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 教育課程審議会の「中間まとめ」と今後における修学旅行の在り方 (財)ふるさと情報センター 御堂筋に大阪センター開設 国鉄 六分割・民営化後の各社エリアと境界駅 「大和路を語る会」東京で開催 新刊紹介 「小京都の本」</p> <p>(3) 昭和60年京都での修学旅行宿泊実績 京都市内に宿泊した出発地別修学旅行校数、人員／ 昭和60年月別修学旅行校数、人員 研修旅行作品から 遠野・陸中海岸方面の旅(京都府第二大山崎小学校教諭 岸本正美氏)</p> <p>(4) 関修委現地研修会レポート [3] (全修協参事 澤田克郎) まるごと自然、東北／深緑の角館武家屋敷通り キャンペーン 詩情ゆたかな岩手路／ほのぼの群馬／魅て観て味て北近畿 長崎バイオパーク 10月12日オープン シートベルト 一般道路でも必ず 博覧会情報 昭和63年開催 青函トンネル開通記念博 夏に青森と函館で同時開催 3月20日～8月31日 児島・坂出両瀬戸大橋博 会期・入場料きまる</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第299号	昭和61年 12月10日 (1986年)	(1)	第3回全国修学旅行研究大会 集団宿泊指導の積み重ねを／生徒の自己学習力が育つ／修学旅行実践記録の発表 講演(要旨)特別活動の充実と今後の修学旅行のあり方(文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 第4回研究大会は東海で 三地区修旅連臨時総会 風紋
		(2)	時言 修学旅行の位置づけ [3] (元豊中市教育長 北原富男氏) 奈良市の修旅宿泊実績 60年は45万7千名 京都・大阪・神戸三市 62年度修学旅行費1.3%増 教委の諮問に答申
		(3)	第3回全国修学旅行研究大会 研究発表 教育実践報告 1年生からの校外学習の積み重ねによる修学旅行 (西宮市立甲陵中学校教諭 坂東鉄二氏) 生徒の自主的・実践的態度を育てる修学旅行・野外活動 (長岡京市立長岡第四中学校教諭 雨宮章氏)
		(4)	関修委現地研修会レポート [4] (全修協参事 澤田克郎) まるごと自然、東北 曲り家もある手づくり村 冬の研修旅行はじまる 沖縄など7コース 三百余名の参加申込 都内見学ガイド 深川江戸資料館 11月16日オープン 長崎オランダ村 明春第三次オープン パンダベビー 12月16日公開 上野動物園
第300号	昭和62年 1月10日 (1987年)	(1)	年頭の所感 教育改革の実現へ 創造で活力を(文部大臣 塩川正十郎氏) 多難な諸問題を克服 一第二の創業期を迎えてー (全国修学旅行研究協会理事長 山本種一) 風紋
		(2)	年頭の所感 安全で快適な修学旅行を！！(日本国有鉄道総裁 杉浦喬也氏) 更に研鑽に努め時代に対応する (関東・東海・近畿三地区中学校修学旅行連合委員会会長 石田俊一郎氏) 本質的な意義を再確認して(近畿地区あおぞら号運営協議会会長 来山武氏) 学校教育の課題に応える修学旅行を(文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 教職員互助団体と全修協が一体となって(教職員福祉問題研究会会長 中村清三郎氏) 修学旅行新聞300号
		(3)	新年を迎えて [1] 日本の将来が心配(全修協理事 成瀬幡治) 掲げた教育理念は不変(全修協理事・兵庫県支部長 魚谷時太郎) 的確に情勢に対応する(全修協理事 岡本清) 三十年の重さを肩に再出発を(全修協監事 西山文男) 豊かな時を過ごし 生き甲斐のために(全修協鹿児島県支部長 西迫祐夫) フロンティア精神と実践(全修協高知県支部長 土居正実) 新しい年を迎え発展に一工夫を(全修協徳島県支部長 奥田元男) 「漂泊の思ひやまず」長寿の旅の計画を(全修協山口県支部長 大田恭次) 輝かしく充実した年に(全修協大阪支部長 瀬尾武敏) 目標達成に向けて努力する(全修協千葉県支部長 太田芳) 新世代を志向する全修協の躍進を(全修協宮城県支部長 高橋富士男) われわれ自身の中なる改革を(関東地区公立中学校修学旅行委員会会長 飯野昭) 旅は師であり詩である(近畿地区公立中学校修学旅行委員会会長 土居克己)
		(4)	昭和61年度修学旅行動向調査のまとめ ～関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行委員会～ 自主性の育成めざす／調査にみる学校の動き 1.修学旅行のねらいと内容
		(5)	昭和61年度修学旅行動向調査のまとめ(つづき) 2.修学旅行の評価／3.今後の修学旅行／4.むすび

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第300号 ※つづき	昭和62年 1月10日 (1987年)	(6)	<p>新年を迎えて [2]</p> <p>発刊300号を祝して(全修協山形県支部長 吉村和夫) 心のうるおいの「旅」を(全修協栃木県支部長 梅沢茂) 教職員などのニーズに答える計画を(全修協埼玉県支部長 岡田憲一郎) 事業拡大に一そう努力(全修協石川県支部長 大浦与三吉) 近年は大ぜいの教師が関心を(全修協新潟県支部長 香西貞夫) 一人でも多くの方々の参加を(静岡県教職員互助組合事務局長 石川欽士) より多くの教師の関心と理解を(全修協京都府支部長 糸井一) 宇宙船地球号上の私(全修協滋賀県支部長 駒井徳左衛門) 日本の修学旅行のよりよき発展を (東京私立中学高等学校協会修学旅行研究調査部委員長 新井福之助氏) 今こそ全修協が心豊かな旅を提供(三重県公立学校教職員互助会事務局長 岡田泰治氏) 体験で見聞を高め豊かな心を(福井県学校生活協同組合専務理事 西村実氏) 会員の要望を的確に把握して(滋賀県教職員互助会事務局次長 富岡亨氏) 状況の変化に即応して新たな飛躍を(京都府教職員互助組合専務理事 黒住嘉輝氏) 英知を結集して暗雲を排除しよう(山口県教職員互助会事務局長 大野良兵氏) 真摯な研究活動に常々敬服を(近畿日本ツーリスト修学旅行部長 諏訪哲夫氏)</p> <p>(7) みんなが研究課題を 松戸六実高校三年目のレポート 1987東京新春風景 初日 初富士 初詣 品川～弘前に直行バス ノクターン号登場 国鉄ドリーム号にハイデッカー車</p> <p>(8) 全修協教育研修企画主催 歴史・文化・自然を訪ねて '87春の教職員研修旅行 今年もフレッシュ10コース</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第301号	昭和62年 2月10日 (1987年)	(1)	<p>関東地区公立中学校 修学旅行研究発表会開く 生徒の自主性を尊重 指導実践の成果実る 研究発表会 次回は埼玉／関修委第5回研究協議会 修学旅行の特別措置に努力 京都古都税問題 全修協 第28回通常総会開催(日程変更の案内) 宮崎県支部長に日高国松氏 風紋</p> <p>(2) 生徒指導と特別活動・修学旅行<38>(文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 修学旅行改善のための理論と実践例 「望ましい集団活動を通して」の修学旅行(1) 新春所感(続) 順不同 一大変貌のとき(全修協常務理事・茨城県支部長 永井熙氏) 大きな節目に立って(全修協常務理事・福岡県支部長 村山助雄) 教師生徒ふれあいの修学旅行を高く評価(全修協理事・北海道支部長 高田治郎) 情勢を明確に把握(大阪府教職員互助組合事務局次長 神代義秀氏) 波乱万丈の年(教職員福祉問題研究会常任幹事 明賀猛氏) 困難な中で充実を(和歌山県教育互助会事務局長 星田利雄氏)</p> <p>(3) 関修委研究発表 修学旅行を省みて ～若手教師の多い中規模校の実践を通して～ (千葉県大洲中学校教諭 村田小夜子氏) みちのくの修学旅行 ～子どもの心をとらえた体験学習～ (千葉県南行徳中学校教諭 西川裕二郎氏)</p> <p>(4) 関修委修学旅行実施報告から [1] 実施状況の実態を把握 都内見学ガイド 戦前の面影残る駒場教養散策 [展覧会情報] 地球大紀行展 全国各地で開催／ポストンで見つかった北斎展も</p>
第302号	昭和62年 3月10日 (1987年)	(1)	<p>修学旅行国際科の動き 公立高も海外へ 山口県から韓国へ 浦和市から中国へ 韓国からも続々来日 国鉄新社略称、シンボルカラー、首脳陣きまる 近修委員会 63年度輸送計画を決定 関修委 年間の活動を検討 新年度対策を練る 風紋</p> <p>(2) 生徒指導と特別活動・修学旅行<39>(文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 修学旅行改善のための理論と実践例 「望ましい集団活動を通して」の修学旅行(2) 博覧会情報(今後予定の主な博覧会) 昭和62年度 世界古城博、未来の東北博、天王寺博 昭和63年度 瀬戸大橋架橋記念博、さいたま博、なら・シルクロード博、ぎふ中部未来博 青函トンネル開通記念博 昭和64年度 アジア太平洋博、横浜YES'89博 昭和65年度 国際花と緑の博 全修協山梨県支部長 五味一男氏死去される</p> <p>(3) シルクロード文化講演会 62.7.30奈良で 名古屋市立中学校の力を結集して取り組んだ修学旅行指導事例から なら・シルクロード博 昭和63年開催</p> <p>(4) 関修委修学旅行実施報告から (2) 実施状況の実態を把握 都内見学ガイド 飯田橋・市ヶ谷・四ツ谷 外濠花だより 大連・北京へ翔ぶANA 4月16日から 四国初の国電走る 3月21日から 伊達家下屋敷跡 仙台坂遺跡発掘</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第303号	昭和62年 4月10日 (1987年)	(1)	<p>新時代へスタート (財)全修協 第28回総会開く 国際化、国鉄民営に対応 修学旅行の発展を期す 第28回通常総会あいさつ(要旨) 財団法人全国修学旅行研究協会 理事長 山本種一</p> <p>出発進行！JRグループが発足 全修協理事に鈴木力氏 山梨県支部長に山口昭氏 京都古都税問題いまだ解決せず 風紋</p> <p>(2) 生徒指導と特別活動・修学旅行<40>(文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 自発的な活動をもとに感動体験を重視した修学旅行 財団法人日中青少年旅行財団設立 会長に二階堂進氏 日中青少年の交流深める 全修協山本理事長が理事に</p> <p>(3) 班別自由行動を導入 3年目の修学研究 松戸六実高校の取り組み ふれあいと体験の旅 夏の研修旅行募集始まる 62年度修学旅行基準概要調査始まる シルクロードとは</p> <p>(4) 関修委修学旅行実施報告から(3)実施状況の実態を把握 首都のたより 旧東京音楽学校奏楽堂を復元、春季特別展開催・電気通信科学館 エレクトロホール完成・科学技術館、国鉄115年の歴史展開催・交通博物館 新路線開設 JRバス新路線開業 東京～つくば、名古屋～札幌線 JALも運航 古都のたより 駐車は2時間以内、京都の主要観光地／京阪電鉄5月24日から、京都市内は地下へ／ 奈良近況、咲く花の匂うが如く</p>
第304号	昭和62年 5月10日 (1987年)	(1)	<p>文部省 昭和62年の要保護 修学旅行の補助金 中学校38,000円、小学校12,100円に 4月13日 東京駅で出発式 JR初の連合体修学旅行専用列車 京都へ向かう 連合体修学旅行次々にスタート 京都の5カ寺が開門 5月1日から 大阪事務所を事務局に昇格 局長に大友恭氏 風紋</p> <p>(2) 生徒指導と特別活動・修学旅行<41>(文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 修学旅行改善のための理論と実践例 国際社会に生きる資質を養う修学旅行 非行防止への心得 京都府警「修学旅行の手びき」から 今年度の躍進を求めて 関修委第1回研究協議会</p> <p>(3) 夏季・教職員研修旅行 シルクロード文化講演会「奈良」と関西研修の旅 研旅友の会 総会ひらく 教福研総会で夏の研旅2,600名 大いに日中親善を深め中国へ 公立高校初の修学旅行を実施(1) 浦和市立高校</p> <p>(4) 修学旅行生の感想文(茨城県鬼怒中学校生 宮嶋美代子さん) 岡山と香川が握手 下津井瀬戸大橋つながる 都内見学ガイド 神田川遡行[1] 柳橋～万世橋 アキノ大統領のプレゼント ジュゴンの「セレナ」鳥羽へ 大手私鉄六社が値上げ 5月16日から 横浜博誘致資料 関係地区中高へ配布 キャンペーン情報 さわやか信州／あじわいの岡山路</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第305号	昭和62年 6月10日 (1987年)	(1)	<p>全国私立高校の修学旅行 61年度実施の調査 ～全修協・都中高協会～ 航空機利用伸びる 海外特に韓国が急増 62年度活動へ 各修旅委員会総会ひらく 近畿地区公立中学校修旅委 会長に浜田宏作氏 東海三県中学校修旅委 委員長に萩原克巳氏 関東地区公立中学校修旅委 会長に石川敏夫氏 三地区修旅連総会開催予告 風紋</p> <p>(2) 生徒指導と特別活動・修学旅行<42>(文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 修学旅行改善のための理論と実践例 国際社会に生きる資質を養う修学旅行(2) 昭和62年度関東地区公立中学校修学旅行委員会 総会開会あいさつ(要旨) (会長 飯野昭氏) 62年度各修学旅行委員会役員名 全日中会長に戸張敦雄氏</p> <p>(3) 日本文化のルーツを体験 中国へ公立高初の修学旅行を実施(2) 浦和市立高校 班別で、クラス別で首都東京を見学 岐阜・緑陽中 修学旅行部会を結成 近畿日本ツーリスト協定旅館連盟</p> <p>(4) 夏の研修旅行好評受付中 満員コースも続出! 都内見学ガイド 神田川遡行(2) 筋違見附あたり アジア太平洋博64年福岡で開催 「大和路を語る会」 岐阜と長野で開催 北陸路修学旅行ガイドブック作成 北陸広域観光推進協議会 日本ロマンチック街道と命名 小諸～日光</p>
第306号	昭和62年 7月10日 (1987年)	(1)	<p>関東・東海・近畿三地区修旅連 時代に即応し積極活動へ 62年度総会開く 福井県支部長に上田堅氏 新潟県支部長に青野正英氏 全修協参事に北條直樹氏 近畿中学校修学旅行委員会 会長に佐々木達三氏 第二回近修委員会開く JR西日本へ要望事項等 日中青少年旅行財団の理事長に森喜郎氏 風紋</p> <p>(2) 生徒指導と特別活動・修学旅行<43>(文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 修学旅行改善のための理論と実践例 国際社会に生きる資質を養う修学旅行(3) 62年度 修学旅行基準概要調査まとまる ～公立高は飛行機利用前向きに～</p> <p>(3) びわ湖フローティングスクール ～学習船「湖の子」で～ 滋賀県内の小学5年生全員 本年は18,800名が参加 三重県修学旅行研究会 61年度 修学旅行の実態[1] 小・中・高の総合調査 上野公園のバス混雑緩和を検討 対策会議ひらく</p> <p>(4) 教職員研修旅行 31年目の夏 国内へ、海外へ2,100名が参加 研修旅行の「作品」募集 力作、傑作を 都内見学ガイド 神田川遡行(3) お茶の水、駿河台 瀬戸大橋 来年4月10日開通へ 釧路湿原を28番目の国立公園に 出桁造の酒店を移築復元 上野 スーパーひかり モデル展示 東京駅 稚内へ、香港へ新路線 ANA</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第307号	昭和62年 8月10日 (1987年)	(1)	シルクロード文化講演会 7/30奈良で開催 大会場を埋めつくす聴衆 全修協が全面協力 修学旅行関係の補助金増額を文部省に陳情 全修協・三地区修旅連 修学旅行で進路校外研修 岡山・玉野光南高が今年も 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行<44>(文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 修学旅行改善のための理論と実践例 国際社会に生きる資質を養う修学旅行(4) 4年目の自然教室推進事業 参加33万名の大会に 62年度6月の中間集計
		(3)	大阪府公立中の修学旅行実態調査 61年度 北、大阪市、南 各地区に分けて比較 三重県修学旅行研究会61年度修学旅行の実態[2] 小・中・高の総合調査
		(4)	夏の教職員旅行 実りある旅を順調に実施 来春全国でダイヤ改正 JR 都内見学ガイド 神田川遡行[4] 水道橋、後楽園 上野公園の違法駐車を抑制 バス混雑緩和につき警察署からの要請 トラベルニュース 日本列島縦断 釧路湿原国立公園が誕生 青函トンネルのレール締結 新青森空港が開港 未来の東北博が開幕 青森～八代ハイウェイ直行 東北道と首都高が9月9日ドッキング 上野駅新幹線ホームが終日禁煙に 天王寺博が開幕 別府に豪華客船が永久入港 阿蘇に巨大野外ステージ
第308号	昭和62年 9月10日 (1987年)	(1)	修学旅行等の補助金増額へ 63年度文部省の概算要求額きまる 修学旅行で131万名が京都に宿泊 61年 64年度申込は20万8千名に 関修委第3回研究協議会 11月20日名古屋で 第4回全国修学旅行研究大会を開催 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行<45>(文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 修学旅行改善のための理論と実践例 国際社会に生きる資質を養う修学旅行[5] 永井熙君を悼む 全修協理事長 山本種一
		(3)	全修協の教職員研修旅行 秋から冬へ5コース 61年京都での出発地別修学旅行宿泊実績 三重県修学旅行研究会 61年度 修学旅行の実態 [3] 小・中・高の総合調査
		(4)	関修委現地研修 若狭・丹後・但馬の旅 [1] (全修協参事 澤田克郎) 都内見学ガイド 神田川遡行 [5] 目白台、早稲田 トラベルニュース 日本列島縦断 青函トンネル 明春3月13日に開通へ 千歳の見学資料作成 千歳観光連盟 首都高速値上げ 大型は1,200円に 東京の地下鉄案内テレホンセンターOPEN 京都市駐車場公社からのお知らせ 9月23日沖縄で金環食

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第309号	昭和62年 10月10日 (1987年)	(1)	運輸省 海外旅行倍増計画 五年後一千万人時代をめざすー修学旅行も海外へー あおぞら号近畿地区運営協議会総会開く 会長に沼守輝夫氏 全国高校日韓教育交流連絡協議会が発足 古都保存協力税 明春廃止へ 京都 修学旅行研究協議会開く ー小集団活動のあり方ー 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行<46>(文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 修学旅行改善のための理論と実践例 国際社会に生きる資質を養う修学旅行[6] 四国へ修学旅行生を ー四県官民合同のキャンペーン推進委ー
		(3)	修学旅行として結実 ー日々の成果の積みあげー(創価大学教授 木原健太郎氏) 冬の教職員研修旅行 募集中 中学校教育40年記念 全日本中学校長会東京大会を開催 前回の要請徹底を 上野地区の駐車対策 新幹線で修学旅行を JR東海が冊子作成 JR明春の開通ダイヤ 青函トンネル、瀬戸大橋
		(4)	関修委現地研修 若狭・丹後・但馬の旅[2] (全修協参事 澤田克郎) 都内見学ガイド 神田川遡行[6] 面影橋～井の頭 首都のたより とうきょうエキコン／有楽町今秋変身／神田古本まつり 関西のたより 清水三重塔落慶／花の万博起工式／京都御所一般公開／正倉院展開催
第310号	昭和62年 11月10日 (1987年)	(1)	文部省 遠足・修学旅行についての通達、検討はじめる 来年度中に改訂を 古都税廃止を可決 京都市議会 新幹線に五つの新駅が来春誕生 2&2シート「新こだま」登場 中国・韓国への修学旅行可能に 長崎県立高校 修学旅行の夜 体験学習をー京都市ー 関修委第4回研究協議会 64年度輸送計画決まる こまどり号を中心に修学旅行を考える会 全修協 法人許可30周年迎える 本部にFAX設置 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行<47>(文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 修学旅行改善のための理論と実践例 国際社会に生きる資質を養う修学旅行 [7]
		(3)	研修旅行作品から 62年度夏季研修旅行応募作品入賞きまる 北海道知事賞・入選作品 写真3点(犬飼静麿氏、清水千波氏、鶴沢芳枝氏) 詩文2点(小林文子氏、岩崎美知氏) 紀行文1点(高田トミ氏)
		(4)	関修委現地研修 若狭・丹後・但馬の旅[3] (全修協参事 澤田克郎) 来春全国規模のダイヤ改正 JR [1] 青函トンネルで氏運転はじまる 金色さんぜん 金閣が完成、11/1公開 ゴッホの「ひまわり」10月13日公開 なら・シルクロード博期間中 奈良市内のバス駐車場はすべて予約を 世界デザイン博64年 名古屋で開催 横浜YES'89 入場料金きまる

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第311号	昭和62年 12月10日 (1987年)	(1)	<p>第4回全国修学旅行研究大会開く 11月20日名古屋で 新しい修学旅行の実践求め350名集う 学校教育改善の方向と今後の修学旅行の在り方 (講演要旨)(文部省初等中等教育局教科調査官 高橋哲夫氏) 全国修学旅行研究大会 次回は茨城県で開催 三地区修旅連 「全修協概要」作成中 新春完成の見込み 風紋</p> <p>(2) 教育課程審議会 「審議のまとめ」公表ー特活の基本的な性格 現行どおり・弾力的にー(資料 63年度の修学旅行費2.3~3.3%アップ 京阪神3市 教委の諮問に答申 思い出に残る修学旅行の実践を求めて(名古屋市立平針中学校長 後藤幾郎氏) ー本市校長会中学校修学旅行委員会の取り組みー 高田治郎氏が自叙伝</p> <p>(3) 第4回修学旅行研究大会 研究発表 教育実践報告 班行動を核にした東京連泊修学旅行 ー東京をさぐり、古典も学習するー (岐阜県緑陽中学校教諭 伊藤一美氏) 生徒がつくる修学旅行ー班別行動を主にしたー(愛知県亀崎中学校教諭 土家豊氏)</p> <p>(4) 冬の研修旅行はじまる 第一団は12月26日沖縄へ JALも民営化 11月18日から 宇宙体験ランド 北九州市に建設 上野公園口から駐車場へ歩道が完成 台東区伝統工芸展示館 11/12浅草にオープン 地下鉄開通60年 遠距離通話料値下げ2月から NTT 来春全国規模のダイヤ改正 JR(2) JR編集の時刻表も国際化 大和路線、嵯峨野線などJR七線区に愛称名 特別通路で絵画展開催 東京駅</p>
第312号	昭和63年 1月10日 (1988年)	(1)	<p>年頭の所感 21世紀に向けて教育改革を推進(文部大臣 中島源太郎氏) 新時代の要請に応える 三十余年の歴史の上に立って (全国修学旅行研究協会理事長 山本種一) 茨城支部長に大川慶一氏 予告:第29回通常総会開催 全修協 日時など 風紋</p> <p>(2) 新春所感 全修協の活動に敬意を(文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 修学旅行の原点に立って考える (関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会会長 石川敏夫氏) 新あおぞら号の誕生へ向けて(近畿地区あおぞら号運営協議会会長 沼守輝夫氏) 「新しい旅行の創造」の研究(教職員福祉問題研究会会長 中村清三郎氏) 修学旅行を教育改革の大きな窓口にしよう (東海三県中学校修学旅行委員会委員長 荻原克巳氏) 研究大会の成果を学校現場の実践に生かそう (近畿地区公立中学区修学旅行委員会会長 濱田宏作氏) 「年頭にあたって」(北海道旅客鉄道株式会社取締役社長 大森義弘氏) 修学旅行費等の補助金 大蔵省へ増額陳情 予告:関修委研究発表会 日時・会場・発表内容など</p> <p>(3) 新春所感(つづき) 新生JRで快適な修学旅行を!!(東日本旅客鉄道株式会社取締役社長 住田正二氏) 修学旅行の一層のご利用を(東海旅客鉄道株式会社取締役社長 須田寛氏) 皆様をお待ちしています!(西日本旅客鉄道株式会社取締役社長 角田達郎氏) 瀬戸内海の年(四国旅客鉄道株式会社取締役社長 伊東弘敦氏) 夢とロマンの九州へ(九州旅客鉄道株式会社取締役社長 石井幸孝氏) 一九八八年の新春を迎えて(全修協理事・福岡県支部長 村山助雄) 弛むことのない前進を続けよう(全修協理事・北海道支部長 高田治郎) 触れ合い体験の有意義な修学旅行(全修協理事 成瀬幡治) 大いなる飛躍を期して(全修協理事・兵庫県支部長 魚谷時太郎) 全修協の使命と存在の意義を確認(全修協理事 鈴木力) 修学旅行を通じて教育改革を(全修協監事 西山文男) 楽しくためになる旅の仲間づくりを(全修協参与理事・東京都支部長 野尻高経) 全修協と共に修学旅行の発展を (東京私立中学高等学校協会修学旅行研究調査部委員長 新井福之助氏)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
		(4)	昭和62年度中学校修学旅行動向調査のまとめ ー関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会ー ねらいに徳育の重視 調査にみる学校のうごき 1.修学旅行のねらいと内容
		(5)	昭和62年度中学校修学旅行動向調査のまとめ(つづき) 2.修学旅行の評価 3.今後の修学旅行 4.むすび
		(6)	新年を迎えて 個性化多様化に対応の旅を組織(岩手県学校生活協同組合専務理事 熊谷碩二氏) 新企画に基づく躍進(全修協宮城県支部長 高橋富士男) 修学旅行の意義を再認識しよう(全修協山形県支部長 吉村和夫) 国際舞台への飛躍を(全修協栃木県支部長 梅沢茂) 全修協活動の原点に立ち今後の前進を(全修協千葉県支部長 太田芳) 年頭所感(全修協新潟県支部長 青野正英) 結成の原点をふまえて(全修協石川県支部長 大浦与三吉) 新鮮で質の良い研修コースを!!(静岡県教職員互助組合事務局長 石川欽士氏) 旅に想う(三重県公立学校職員互助会事務局長 山本琢三氏) 年頭の所感最大の努力傾注(福井県学校生活協同組合専務理事 定政英一氏) 河口湖シンボル像(全修協滋賀県支部長 駒井徳左衛門) 生涯教育の一環としての研修旅行を(滋賀県教職員互助会事務局次長 富岡亨氏) 情報の洪水の中 旅行で確かな知識(京都府教職員互助組合専務理事 黒住嘉輝氏) 新しい世代と高齢者の「旅」を(大阪府教職員互助組合事務局次長 神代義秀氏) 年頭所感(全修協和歌山県支部長 妙中茂氏) 幸せは自らの手で(和歌山県教育互助会事務局長 星田利雄氏) 国際化時代に(全修協山口県支部長 大田恭次) 研修旅行のより良い実現のため ロマンを求める旅の研鑽を (山口県教職員互助会事務局長 大野良兵氏)
		(7)	迎春 新年の抱負(全修協高知県支部長 土居正実) 年のはじめに(全修協徳島県支部長 奥田元男) 法人設立三十周年に思う(全修協鹿児島県支部長 西迫祐夫) 「理念」に改めて思う(近畿日本ツーリスト修学旅行部長 山田彰氏) 教育課程の本答申 特別活動の部は「審議のまとめ」に同じ 「大和路を語る会」浦和で開催 今春全国規模のダイヤ改正 JR [3] 昭和初期の修学旅行記録ー東京高師附中1年 銚子犬吠へー泊二日ー 東京高等師範付属中学校 第一学年修学旅行日程 修学旅行費決算報告 現在との比較
		(8)	全修協 教育研修企画主催 歴史・文化・自然を訪ねて '88春の教職員研修旅行

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第313号	昭和63年 2月10日 (1988年)	(1)	<p>第22回修学旅行研究発表会ひらく 関修委・全修協 三年間を集大成 丸一日の班行動 [航空機利用、海外修学旅行] 文部省が見直しを指導 43年10月通達を基本に 海外への修学旅行可能に 福岡県立高校 全修協九州事務所を開設 事務所長村山助雄・次長森田茂・総務部長立石重博氏 全修協理事に藤澤得祥氏 風紋</p> <p>(2) 生徒指導と特別活動・修学旅行<48>(文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 中学校学習指導要領「特別活動」の改訂の方向 あおぞら号近畿地区運営協議会64年度輸送計画きまる 近鉄へ要望書を手交 東海三県修旅委総会開く 64年度輸送計画を検討 曲り角にきている私学修学旅行 東京私中高協が講演会開く 韓国金玉女子高高麗神社(埼玉)へ</p> <p>(3) 関修委研究発表会(要旨) 洛中自由行動における見学活動(朝霞第四中学校教諭 小日向勝美氏) 自主性を生かした修学旅行ーグループ活動を取り入れてー (大宮市立第二東中学校教諭 川上次雄氏) 関修委修学旅行実施報告から [1] 848校の実態を把握 関修委研究協議会開く 発表会の成果を反省検討</p> <p>(4) 春の研修旅行 好評受付中! 与那国島を訪ねて ー風土・歴史・教育ー 683万人が海外旅行 昨年、史上最高 対前年23.8%増 2月19日からNTT遠距離通話料値下げ 新電電三社も同調 青函連絡船が夏に復活運航(就航予定の羊蹄丸:オレンジード写真) 全日空、東亜も今夏からソウルへ</p>
第314号	昭和63年 3月10日 (1988年)	(1)	<p>テン・ミリオン計画 海外修学旅行懇談会開く 教育的諸条件の環境づくりめざす 海外修学旅行は安全を最優先に 全修協の考え方 近修委員会 64年度計画を決定 関東・中国方面が増、信州・九州は減 関修委 62年度活動を総括し新年度へ向け協議 風紋</p> <p>(2) 生徒指導と特別活動・修学旅行 [49] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 中学校学習指導要領「特別活動」の改訂の方向 [2] 京都観光一大キャンペーン 今川市長自ら陣頭に 春の全国火災予防運動始まる 訂正…前号一面、九州事務所次長 森田茂氏は森田武氏の誤りでした。</p> <p>(3) なら・シルクロード博に関心高まる 関修委各県で説明会 「大和路を語る会」、「なら・シルクロード博」が中心に 「わかくさ」「わかば」は健在 修学旅行用気動車が四国に登場 関修委修学旅行実施報告から [2] 848校の実態を把握</p> <p>(4) 春の教職員研修旅行 好調860名でメ切る 横浜の中華街で旧正月の春節祭 ニュースあれこれ 国会議事堂に白いペール 東京ドーム完成 交通博物館でJR一周年展 五周年を迎える東京ディズニーランド 羽田の新滑走路が完工 夏から使用 修学旅行ガイドマップを作成 滋賀県 岡山空港がジェット化 「一本列島ダイヤ改正」のニューフェースたち 1. 寝台特急「北斗星」 2. 北陸線のスーパー特急 3. 展望車オンパレード 近鉄特急にはアーバンライナー</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第315号	昭和63年 4月10日 (1988年)	(1)	上海郊外で列車衝突 高知の高校生ら27名が死亡 修学旅行の安全確保に特段の配慮を 文部次官通達(全文) 高知学芸高校生の事故を悼む(全修協事務局長 前田寛) 高校生の国際交流状況61年分 文部省調査 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行 [50] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 修学旅行Q&A 多様化する修学旅行 目的の正しい把握を 修学旅行費等国庫補助きまる 中学校修学旅行費は据え置き 全修協 北九州地区の高校を対象に中国・北海道修学旅行の実地研修を実施 全修協、本年も修学旅行基準を調査
		(3)	全修協 第29回通常総会開く 国際化時代へ前進を 第29回通常総会あいさつ(要旨)(理事長 山本種一) 全修協理事に野尻高経・梅沢茂両氏 東京支部長に土橋荘司氏 ハンバーグからグラタンへ 京都で「献立講習会」開く シーズン迎えて旅館など参加
		(4)	話題豊かな夏の研修旅行募集始まる 瀬戸大橋渡りぞめの記 京都御所の参観 申込方法を変更 京都市の観光駐車場で料金改定 連絡船讃岐丸が観光船に 明日香で入館料改定 JR発足一周年 変容した東京駅
第316号	昭和63年 5月10日 (1988年)	(1)	文部省 修学旅行の安全確保を 協力体制づくりをめざし安全対策連絡会議ひらく 都道府県担当者会議でも 海外修学旅行の安全対策を協議 中国から上海列車事故の慰問団が来日 民族の英知とロマン なら・シルクロード博が開幕 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行 [51] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 修学旅行Q&A 「基礎・基本」をどうとらえるか 文部省から運輸省へ 修学旅行の安全確保を依頼 春の修学旅行シーズン今や たけなわ
		(3)	東京都内で自主研修 山形県酒田四中の例 東京ドーム見学のビッグエッグツアー 野球体育博物館もドーム内に新装移転 [旅立ちの場所] 新東京国際空港とともに 開設10周年を迎える東京シティエアターミナル おくのほそ道 旅立ちから300年
		(4)	話題豊かな夏の研修旅行募集中！！ 研修旅行友の会総会ひらく 東北・上越新幹線 東京駅乗入工事が着々進行中 夜の京都で体験学習“修養”の会場を追加 大宮駅西口に高層ビル完成 ニュースあれこれ 社寺・施設料金表を作成 京都市 京都市の駐車料、タクシーも回数券で 羽田空港の送迎デッキが無料に 日光江戸村に武家屋敷町 新潟～両津におおさど丸就航 長崎オランダ村で「観光丸」就航

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第317号	昭和63年 6月10日 (1988年)	(1)	近畿地区・関東地区公立中修学旅行委員会 63年度総会開く 近畿地区公立中学校修旅委 会長に土居克巳氏 関東地区公立中学校修旅委 会長に成石昌蔵氏 修学旅行実施基準から 公立高校の海外修学旅行急増 上海事故の続報 愛知県支部長に小林勝彦氏 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行 [52] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 修学旅行Q&A 修学旅行の安全確保はどのように配慮するか 様々なスタイルの修学旅行 東北で5コースにクラス別行動 千葉県栄中
		(3)	様々なスタイルの修学旅行(つづき) 大使館めぐりで国際感覚を 岐阜県双葉中 東京の3日間をグループ別、全体で行動 岐阜県緑陽中 かえりの新幹線は最新型2階建て 埼玉県名栗中
		(4)	夏季研修旅行好評受付中 話題性あるコースに人気集まる 時の記念日に有楽町から古今東西 東証プラザがオープン 関東大手私鉄6社が値上げ 関東地区の貸切バス料金値上げ 各地から東京へ直通 長距離バスブーム再び 鉄道も新路線が続々開通へ 京都地下鉄が延長、近鉄奈良線に接続 阿武隈急行が延長、福島まで全線開通へ 宮福鉄道も開業へ
第318号	昭和63年 7月10日 (1988年)	(1)	関東・東海・近畿三地区修旅連 本年度総会を開催 教育改革のねらいを修学旅行に具現化 修学旅行の在来線特急料金 待望の5割引実現の見通し 全修協の要請にJR西日本協力 昭和64年4月実施の予定 東海三県中学校修旅委 委員長に荻原克巳氏を再選 近畿中学校長会修旅委 委員長に佐々木達三氏再選 近畿地区公立中修旅委 委員2名を追加 青森県支部長に五十嵐晋氏 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行 [53] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 修学旅行Q&A 生涯学習の観点から修学旅行の望ましい留意事項について 修学旅行の事故防止 自由行動と消灯後に注意 京都府警察本部
		(3)	京都市観光調査年報発表 62年の入浴修学旅行生 1,382,000人(3.3%減) 「古都—その点・線・面」[1] シリーズ開始にあたって(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹) 韓国で日本からの修学旅行誘致に安全対策を推進 ANA・JASも7月からソウルへ
		(4)	北へ南へ国土学習の旅 海外へも視点を向けて 夏の教職員研修旅行始まる 小・中・高の総合調査 62年度修学旅行の実態 [1] 三重県修学旅行研究会 羽田空港 新A滑走路が完成 7月2日から使用 壱岐への修学旅行が急増中 山手線がオール新車に 7月6日ダイヤ改正 “帰ってきたおもちゃ” 交通博物館で特別展

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第319号	昭和63年 8月10日 (1988年)	(1)	文部省に増額を陳情 修学旅行等費等の補助金について、全修協・三地区修旅連が 人気「ひかり」から修学旅行締め出し JR東海の64年度方針に見直しを要望 全修協 東京毎時0分発の「ひかり」は人気抜群 近畿地区公立中修旅委 第一回運営委員会で年間計画を決定 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行 [54] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 修学旅行Q&A 海外修学旅行を実施する場合の留意点について 京都で国体開催 修学旅行生が死亡 事故防止に万全の対策を
		(3)	進路校外研修の修学旅行ー今年は関東と関西へー 岡山・玉野光南高 「古都ーその点・線・面」 [2] 清水から産寧坂へ(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
		(4)	夏の教職員研修旅行 生涯学習に様々な成果 小・中・高の総合調査 62年度修学旅行の実態 [2] 三重県修学旅行研究会 交通ニュース 新千歳空港が開港/国内の空路増設・増便/北陸自動車道が全通/長距離バスが続々登
第320号	昭和63年 9月10日 (1988年)	(1)	文部省 昭和64年度予算 概算要求額きまる 修学旅行等の補助金は今年の実態を考慮し増額 今年から文部省も後援 充実の全修協修学旅行セミナー 生徒数は年々減少の一途 文部省学校基本調査から 関東地区公立中修旅委 65年度申込は19万4千名に 第5回全国修学旅行研究大会 11月25日水戸で開催 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行 [55] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 修学旅行Q&A 中学校学習指導要領「特別活動」の改訂の方向 全修協の教職員研修旅行 秋の4コース スキー修旅が増加 長野県の実態調査から 全修協 修旅セミナー(つづき) 問題提起 修学旅行の基本的問題と今日的課題
		(3)	近畿地区公立中学校修旅委 北陸・信州へ現地研修 修学旅行現地研修を実施 山形 「古都-その点・線・面」 [3] 知恩院から青蓮院へ(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹) 67年新・在直通めざし山形でミニ新幹線起工 京滋バイパスが開通 京都文化博物館 10月1日オープン
		(4)	関修委現地研修報告 [1] 青函トンネルで函館へ(全修協参事 澤田克郎) 小・中・高の総合調査 62年度修学旅行の実態 [3] 三重県修学旅行研究会 高等学校(県立)の修学旅行の実態調査 1.回収率 2.旅行先 3.実施時期 4.旅行期間 5.一人当り経費 6.概況 養護学校の修学旅行
第321号	昭和63年 10月10日 (1988年)	(1)	第3回全修協修学旅行セミナー開く 修学旅行の基本問題と今日的課題を究明 管理から自主へ こどもの生かし方(講演要旨)(筑波大学教授 加藤隆勝氏) あおぞら号近畿地区運営協議会 会長に竹島康夫氏(本年度役員名は2面に) 千葉県支部長に吉井淳氏 第5回全国修学旅行研究大会 11月25日水戸で開催 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行 [56] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 全修協修学旅行セミナーから(1) 修学旅行と安全確保は不可分 変わりつつある中国 現地研修に参加して(全修協大阪事務局長 大友恭) あおぞら号近畿地区運営協議会・本年度役員名
		(3)	研修旅行作品から 生き生きと旅の思い出 63年度夏季研修旅行応募作品入賞きまる 北海道知事賞他 写真・紀行文・短歌 写真5点(服部康彦・真継明美・平井きよ・鶴澤芳枝・犬飼静麿氏) 詩文3点(下川陽子・柳隆明・宮川トミエ氏)
		(4)	関修委現地研修報告 [2] 函館から仏ヶ浦へ(全修協参事 澤田克郎) 「古都ーその点・線・面」 [4] 岡崎界限いまむかし(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹) 修学旅行でオリンピック観戦 ソウル 東名高速道路で集中工事 全修協の教職員研修旅行 冬の4コース募集中

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第322号	昭和63年 11月10日 (1988年)	(1)	<p>なら・シルクロード博 10月23日に閉幕 校外学習で百万人が民族の英知とロマンに浸る 明年度研修旅行の企画を検討 教職員福祉問題研究会臨時総会開く 全修協山本理事長に叙勲 勲五等双光旭日章 関東地区公立中修旅委 昭和65年度輸送計画と全国研究大会につき協議 風紋</p> <p>(2) 生徒指導と特別活動・修学旅行 [57] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 全修協修学旅行セミナーから(2) 中学校学習指導要領 特別活動改訂の方向と修学旅行 修学旅行で国際親善 ソウルオリンピックを観戦 京都市立紫野高校 スリランカ大使館へ 修学旅行の礼状に郵政大臣賞 岐阜県双葉中 修学旅行俳句入選集から 愛知県春日井中部中</p> <p>(3) シルクロード敦煌の旅 [1] (全修協理事・北海道支部長 高田治郎) 「古都ーその点・線・面」[5] “哲学の道”を北へ 永観堂・法然院・銀閣 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹) 修学旅行新聞をテレビで紹介 日光2社1寺の拝観料改定 オープンから1カ月 京都文化博物館 三十三間堂の鐘楼堂が復活</p> <p>(4) 関修委現地研修報告 [3] 霊気ただよう恐山(全修協参事 澤田克郎) JRグループ 来春全国規模のダイヤ改正 札幌駅の高架化工事が完成 JR京葉線が延長、開通へ</p>
第323号	昭和63年 12月10日 (1988年)	(1)	<p>第5回全国修学旅行研究大会 11月25日水戸で 茨城の3中学校が研究発表 みんなが創る修学旅行 全修協山本理事長叙勲 11月15日国立劇場で伝達式 全修協・各地区会議開催 64年度研修旅行の大綱を協議 第3回近畿地区中学校修学旅行研究発表会 1月20日 京都で開催 全修協 第30回総会・理事長叙勲祝賀会を開催 風紋</p> <p>(2) 第5回全国修学旅行研究大会 講演(要旨)…学習指導要領改訂の方向について (文部省初等中等教育局教科調査官 高橋哲夫氏) 研究発表(要旨)…生徒自身の生徒の手による修学旅行 (茨城県土浦第六中学校教諭 宮本千代子氏)</p> <p>(3) 第5回全国修学旅行研究大会(つづき) 研究発表(要旨)…お互いを高め合うグループ別見学学習 (茨城県豊浦中学校教諭 川上徹氏) 研究発表(要旨)…生徒と教師がともにつくり、触れ、感じる修学旅行 (茨城県下館中学校教諭 須藤和彦氏)</p> <p>(4) シルクロード敦煌の旅 [2] (全修協理事・北海道支部長 高田治郎) 「古都ーその点・線・面」[6] 白川通を北へ 金福時・詩仙堂・曼殊院 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹) 修学旅行生を恐喝 原宿で少年7人逮捕</p>
第324号	平成元年 1月10日 (1989年)	(1)	<p>年頭の所感 21世紀に向け教育改革を推進(文部大臣 西岡武夫氏) 新感覚に立った修学旅行の創造を(全国修学旅行研究協会理事長 山本種一) 風紋</p> <p>(2) 新春所感 “新しい修学旅行”に全修協活動の発展を期待(文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 教育改革の第一歩を全修協と一体となって (関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会会長 成石昌蔵氏) 初詣でに思う(あおぞら号近畿地区運営協議会会長 竹島康夫氏) 旅は体験である(教職員福祉問題研究会会長 中村清三郎氏) 生徒を前面に出すには教師の確かな教育姿勢を (東海三県中学校修学旅行委員会委員長 荻原克巳氏) 第六回全国修学旅行研究大会に向けて (近畿地区公立中学校修学旅行委員会会長 土居克己氏) 思い出づくりはJR北海道で(北海道旅客鉄道株式会社取締役社長 大森義弘氏) 第3回近畿地区中学校修学旅行研究発表会 1月20日 京都で開催 大阪事務局の住所表示変更</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第324号 ※つづき	平成元年 1月10日 (1989年)	(3)	<p>新春所感(つづき) 安全輸送体制の確立とサービスの改善を (東日本旅客鉄道株式会社取締役社長 住田正二氏) 7・4ダイヤで快適な修学旅行を！！ (東海旅客鉄道株式会社取締役社長 須田寛氏) 楽しく快適な修学旅行を(西日本旅客鉄道株式会社取締役社長 角田達郎氏) 年頭に誓う(全修協常務理事・九州事務所長・福岡県支部長 村山助雄) 人命尊重と交通事故防止を願う(全修協常務理事 鈴木力) 混雑緩和の研究が必要(全修協理事 成瀬幡治) 年頭の決意(全修協理事・兵庫県支部長 魚谷時太郎) 修学旅行の国際化(全修協理事 岡木清) 明日の活力を生む研修旅行(全修協理事・栃木県支部長 梅沢茂) 研修旅行参加者数の目標達成を(全修協監事 西山文男) 去年今年(全修協滋賀県支部長 駒井徳左衛門) 家族ぐるみで研修旅行参加を(静岡県教職員互助組合事務局長 石川欽士)</p>
		(4)	<p>昭和61年～63年中学校修学旅行動向調査のまとめ 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会 「人間としての生き方」を求める修学旅行 1.修学旅行のねらいと内容</p>
		(5)	<p>昭和61年～63年中学校修学旅行動向調査のまとめ(つづき) 「人間としての生き方」を求める修学旅行 2.修学旅行の評価 3.今後の修学旅行 4.むすび</p>
		(6)	<p>新年を迎えて 支部長としての責を果たしたい(全修協高知県支部長 土居正実) 松陰と旅(全修協山口県支部長 大田恭次) 教福研会員県 共同の目的達成を(山口県教職員互助会事務局長 大野良兵氏) 全修協プランの充実を(兵庫県学校厚生会理事長 石井亮一氏) クルージングの夢を実現へ(大阪府教職員互助組合事務局長 若松美明氏) 研修旅行32年をふりかえって(大阪府教職員互助組合事務局長 神代義秀氏) 国土学習の充実を(京都府教職員互助組合専務理事 黒住嘉輝氏) 年頭に思う(和歌山県教育互助会事務局長 星田利雄氏) 精神的リフレッシュを期待(三重県公立学校職員互助会事務局長 大野秀郎氏) 長崎の思い出(福井県学校生活協同組合専務理事 定政英一氏) 充実振興に最大の努力を(全修協石川県支部長 大浦与三吉) 旅も又人なり(全修協新潟県支部長 青野正英) 年頭所感(全修協長野県支部長 小林三秋) 生涯学習のための旅(全修協東京都支部長 土橋荘司) 先生と友との楽しい旅行を(全修協千葉県支部長 吉井淳) 旅の安全確保を(全修協宮城県支部長 高橋富士男) 迎春にあたり(全修協山形県支部長 吉村和夫) 今年も前進あるのみ、全修協の基本理念をふまえて (近畿日本ツーリスト株式会社修学旅行部長 山田彰氏)</p>
		(7)	<p>シルクロード敦煌の旅 [3] (全修協常務理事・北海道支部長 高田治郎) 「古都ーその点・線・面」 [7] 初春の祇園あたり(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹) [博覧会情報] アジア太平洋博覧会／横浜博覧会／世界デザイン博覧会 [首都のたより] 30周年を迎えた東京タワー／営団地下鉄半蔵門線が延長 地下鉄で行く 春日局ゆかりの地 伊豆大島へ新造船かとれあ丸2就航</p>
		(8)	<p>全修協教育研修企画主催 '89春の教職員研修旅行 歴史・文化・自然を訪ねて 明日への活力へ ー実りある「旅」をー</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第325号	平成元年 2月13日 (1989年)	(1)	<p>第30回通常総会を開催 1月25日(財)全修協 山本理事長受賞記念の会 1月25日東京で開催 4月から税制改革 修学旅行費にも消費税 文部省 修学旅行費等の補助金決まる 消費税分を加算 第3回近畿地区中学校修学旅行研究発表大会 1月20日京都で 生徒の自主性を生かす修学旅行 京都・滋賀の2校が発表 中国修学旅行実施報告会 3月4日 福岡市で開催 風紋</p> <p>(2) 生徒指導と特別活動・修学旅行 [58] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 新学習指導要領「案」についての解説 [1] 第3回近畿地区中学校修学旅行研究発表大会 講演要旨 修学旅行の基本問題と今日的課題 (全修協大阪事務局修学旅行部長 北條直樹) 関修委 今年度をしめくり新年度へ</p> <p>(3) 第3回近畿地区中学校修学旅行研究発表会 発表要旨 生徒が自主的・意欲的にとりくむ修学旅行をめざして (京都府長岡第三中学校教諭 松宮功氏) 生徒の自主性を促す修学旅行-学級活動・班行動を取り入れて (滋賀県高月中学校教諭 大谷泰純氏)</p> <p>(4) シルクロード敦煌の旅 [4] (全修協常務理事・北海道支部長 高田治郎) 「古都—その点・線・面」[8] 三十三間堂界限(上) (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹) 春の教職員研修旅行申込の出足好調 「大和路を語る会」3月4日前橋で開催 「印刷文化」の展示開設 国立歴史民俗博物館</p>
第326号	平成元年 3月10日 (1989年)	(1)	<p>(財)全修協主催 中国修学旅行の実態と現地事情説明会 3月4日福岡で開催(講話要旨は2面に掲載) 海外修学旅行の安全確保 文部省 新たな通知 1.情報提供に関する依頼書の提出について 2.計画段階での事前相談について 修学旅行にも消費税が! 旅行業者から学校へ案内文書 =国内旅行と消費税= すべてに3%とは限らない 1.通行税の廃止、2.料理飲食等消費税の改正、3.非課税項目、4.課税対象外 近畿中学校長会修旅委 関東方面の申込が増加 平成2年度輸送計画を決定 東海地区・修学旅行問題等を語る会開く 風紋</p> <p>(2) 生徒指導と特別活動・修学旅行 [59] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 新学習指導要領「案」についての解説 [2] 中国修学旅行体験講話(要旨)(福岡県立宇美商業高等学校校長 伊藤達治氏) 韓国からは初の修学旅行団来日</p> <p>(3) 63年度関修委修学旅行実施報告 参加人数は計画通り 888校の実態を取りまとめ 1.設置校と加盟校 2.実施の期日 3.宿泊数と実施額年 4.参加人数と学校数 5.割付と実績 6.不参加生徒 7.修学旅行費 8.小遣いのきまりと額 9.おやつ代 10.なら・シルクロード博の見学 11.あしがき 研究発表会の態勢を決定 群馬県修旅委 関修委 埼玉OB会を開催</p> <p>(4) 春の教職員研修旅行好調 840名で実施へ 観光丸が長崎から横浜港へ 常磐線に最新鋭特急スーパーひたち登場 JR東海 京都・新幹線観光コンベンションを開催 車内電話が即時式に 東海道・山陽新幹線 「古都—その点・線・面」[9] 三十三間堂界限(下) (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第327号	平成元年 4月10日 (1989年)	(1)	安全な海外修学旅行を 文部省が関係者と対策会議 外務省・運輸省とも意見交換 海外修学旅行の安全確保は実地調査がかなめ 外務省海外安全センターに聞く (財)全修協山本理事長 受賞記念の会 大阪で開催 4月から消費税がスタート 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行 [60] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 新学習指導要領についての解説(3) (財)全修協 中国修学旅行の実地研修を実施 本年度の修学旅行基準概要調査を開始 仙台が政令指定都市に
		(3)	京都で献立講習会開く 品数を揃え朝はパン食も 香川への修学旅行団にオリーブの苗木を贈呈 「さざれ石」のいわれ 博覧会今春開幕 YES'89横浜博覧会 よかとピア アジア太平洋博-福岡'89
		(4)	夏の教職員研修旅行 長崎オランダ村に大航海体験館オープン QE2(クイーン・エリザベスII世号)が横浜へ 通信総合博物館が新装再開 拝観料を再改定 日光二社一寺 「古都—その点・線・面」[10] 泉涌寺とその付近 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第328号	平成元年 5月10日 (1989年)	(1)	平成元年度 修学旅行費等の補助金 消費税分を考慮し近く決定へ こだまを二年計画で再び16両編成に 明後年から修学旅行専用列車の一本化も 修学旅行と消費税 昨年末までの契約分は課税されない方向で現在検討中 全修協 名古屋分室を「事務所」に昇格 事務所に今井幸男氏、総務部長に兼子勉氏、職員に上田尚子氏 本部総務部幹事に黒田洸一氏 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行 [61] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 新学習指導要領についての解説(4) 研修旅行友の会総会 4月22日上野で開催 今年はいくつ散策も
		(3)	夏の教職員研修旅行 募集中!! 尾瀬の自然保護にご理解を(尾瀬の自然を守る会代表 内海広重氏)
		(4)	修学旅行専用「ひかり」のグリーン車に一般客を 新幹線東京駅で階段工事 “赤い靴”の女の子 きみちゃんの像が東京麻布に 横浜博近況 -Yokohama Exotic Showcase '89- 「古都—その点・線・面」[11] 東福寺と稲荷大社 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第329号	平成元年 6月10日 (1989年)	(1)	<p>修学旅行等の消費税、経過措置決まる 小・中学校の修学旅行は二か年、高校は1か年 非課税に [時言] 修学旅行は消費税の対象外に(編集委員 北條直樹) 公立校の本年度修学旅行実施基準 海外認知は11県に 中国旅行は自粛を 外務省・運輸省が勧告 風紋</p> <p>(2) 生徒指導と特別活動・修学旅行 [62] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 中学校教育課程講習会における「学校行事」「旅行・集団宿泊的行事」資料のあらまし 修学旅行の備え万全に!! 学校旅行総合保険 6月20日から発売 海外バックツアアの事故補償額引き上げ</p> <p>(3) 近畿地区公立中学校修旅委 会長に土居克己氏を再選 関東地区公立中学校修旅委 総会提出議案を検討 全日中会長に井上輝夫氏 大使館訪問とGI活動の修学旅行 岐阜県双葉中 首都のたより カルガモの子、今年は4羽に 今年も大人気の東京ドーム 四世代の歴史を一堂に 東武博物館が5月20日オープン 交通博物館 江戸時代の交通資料展を開催 日本道路公団 全国の高速道路の通行料を改定 「大和路を語る会」金沢と福井で開催</p> <p>(4) 芭蕉の生誕地からのメッセージ(芭蕉翁記念館館長 山本茂貴氏) 夏の教職員研修旅行 芭蕉ゆかりのコースが人気上昇中 「古都—その点・線・面」[12] 吉田山・黒谷・聖護院 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)</p>
第330号	平成元年 7月10日 (1989年)	(1)	<p>東海三県・関東地区中学校 修学旅行委員会 総会を開催 東海三県中学校修旅委委員長に佐藤敏文氏 関東地区公立中学校修旅委会長に木村一氏 総会開会あいさつ 新年度のすばらしい第一歩 (関東地区公立中学校修学旅行委員会会長 成石昌蔵氏) 第四回全修協修学旅行セミナーのお知らせ 世界デザイン博 開幕前の視察研修会を実施 主催全修協 新潟県支部長に大浦俊一氏 風紋</p> <p>(2) 生徒指導と特別活動・修学旅行 [63] (文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 新学習指導要領についての解説(5) 近畿中学校長会修旅委 委員長に佐々木達三氏を三選 修学旅行に際しては事前指導の徹底を 京都府警察本部から JR紀勢線と四国各線でダイヤ改正</p> <p>(3) 三重県修学旅行研究会 小・中・高の修学旅行実践事例集を作成 自主学習でノルウェー大使館訪問 名古屋市立天神山中学校 俳句でつづる修学旅行(東京—箱根) 愛知県春日井市立中部中学校 宇宙体験ランド スペースワールド 北九州に来春オープン 電気通信科学館が閉館</p> <p>(4) 丸い豊かな良寛の心(新潟中央高校教諭 谷川敏朗氏) 全修協 夏の教職員研修旅行 全国各地へ海外へ 二千余名が参加実施に入る 「古都—その点・線・面」[13] 東山三十六峰 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第331号	平成元年 8月10日 (1989年)	(1)	修学旅行費等の補助金増額を 全修協・三地区修旅連が7月21日文部省に陳情 関東・東海・近畿三地区公立中修旅連総会開く 本年度会長に土居克巳氏を選出 指導要領改定の趣旨を修学旅行に生かす 石川県支部長に杉森外喜雄氏 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行<64>(文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 新学習指導要領についての解説 [6] 京都への修学旅行は漸減の傾向 63年は125万5千人 京都市観光調査年報から
		(3)	祇園祭の宵々々山 三地区委員参観記 祇園祭あれこれ これからの教育と修学旅行-修学旅行の多様性と個性化- (全修協東京都支部長 土橋荘司) 写真・詩歌・紀行 研修旅行の作品募集
		(4)	全修協の教職員研修旅行 延べ参加者16万名を超す 徳島への修学旅行を！東京で懇談会を開催 修学旅行は鹿児島へ！東京で情報交換会開催 「古都-その点・線・面」[14] 京の夏の風物詩 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第332号	平成元年 9月10日 (1989年)	(1)	平成2年度文部省予算 概算要求額きまる 中学校修学旅行費の補助金 初めて4万円で [時言] 教職員研修旅行の特色と課題(編集委員 北條直樹) 関東地区公立中修旅委 平成3年度は18万4000名 修学旅行の申込みを集計 神奈川県支部長に繁里昭氏 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行<65>(文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 中学校特別活動の移行措置について 夏季 教職員研修旅行 全団無事に終了 秋から冬も5コース
		(3)	関修委現地研修報告 2泊3日で讃岐路へ [1] オリーブの小豆島 (全修協参事 澤田克郎) 近中修委が現地研修 越中から飛騨路へ
		(4)	上野の輪王寺が炎上 本堂・文化財などが灰に アジア太平洋博が9月3日閉幕 発展続く東京湾岸 横浜ベイブリッジ9月27日開通へ 琵琶湖疏水記念館が8月1日開館 京阪電鉄の鴨東線10月5日開通 「古都-その点・線・面」[15] 嵐山・渡月橋付近 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第333号	平成元年 10月10日 (1989年)	(1)	第四回全修協修学旅行セミナー 修学旅行・校外学習 両セミナーを名古屋で開催 これからの教育の方向と今度の修学旅行の在り方 高等学校 校外学習セミナー 校外学習の在り方 [時言] 近鉄「あおぞらⅡ号」新出発にあたって(編集委員 北條直樹) 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行<66>(文部省教科調査官 高橋哲夫氏) -修学旅行セミナー講演要旨-学習指導要領改訂の経緯 -校外学習セミナー講演要旨- 新教育課程の方向と校外学習の在り方 近鉄 小学校修学旅行専用電車 あおぞらⅡ号(二世号)運行を開始 10月3日に出発式 「あおぞらⅡ号」試乗会 機能・設備等
		(3)	研修旅行作品から 本年度夏季研修旅行応募作品入賞決まる 写真3点(真継明美・田口照子・志波芳子氏) 短歌4点(石井祐二・加藤瑠璃子・工藤フミ子・酒井静枝氏) 俳句3点(佐々木妙子・百瀬和子・尾島みさ子氏) 紀行文3点(池谷友司・志波芳子・山上宗俊氏) あおぞら号近畿地区運営協議会総会開く 会長に竹島康夫氏を再選 「こまどり号」運行30年回顧の葉を発行
		(4)	関修委現地研修報告 2泊3日で讃岐路へ [2] 瀬戸大橋と丸亀、琴平 (全修協参事 澤田克郎) 「古都-その点・線・面」[16] 嵐山天龍寺・亀山公園 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第334号	平成元年 11月10日 (1989年)	(1)	全修協 大蔵省と自民税調へ、義務教育の修学旅行費 消費税免除を陳情 国際花と緑の博覧会 来年4月開幕に向け工事着々進行中！ 関修委 平成三年度の輸送割付を協議 [時言] 修学旅行の環境は安全か(編集委員 中島和友) 広島県支部長に岸槌和夫氏 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行<67>(文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 新学習指導要領についての解説 [7] 「あおぞら号」よ さようなら！ さようなら列車、伊勢路を走る(全修協監事 西山文男) 修学旅行の論文を募集 (財)日動火災教育振興基金
		(3)	研修旅行作品から [2]入選作 写真(鶴沢芳枝・石橋藤野・宮本千秋・瓜生八代子氏) 紀行文「奥の細道の旅」より芭蕉の足跡を訪ねて(浜松市 池谷友司氏) 東京湾岸に二つの生物園が誕生 東京都葛西臨海水族園、東京港野鳥公園
		(4)	関修委現地研修報告 2泊3日で讃岐路へ [3] 研修会と高松周辺 (全修協参事 澤田克郎) 「古都-その点・線・面」 [17] 嵯峨野、野宮・常寂光寺 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹) 横浜博、アジア太平洋博が閉幕 目標を上回る入場者 京都嵐山にFM観光案内が登場
第335号	平成元年 12月10日 (1989年)	(1)	第6回全国修学旅行研究大会開く 12月1日大阪で、 関修委研究発表会 11月17日前橋で開催 実践研究を中心に [時言] 新学習指導要領と修学旅行の今後の方向(編集委員 北條直樹) 三地区修旅連臨時総会 次回の研究大会は東海地区で 風紋
		(2)	生徒指導と特別活動・修学旅行<68>(文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 新学習指導要領についての解説 [8] 語学研修・ホームステイ体験の在り方を探る 海外研修セミナー 11月29日名古屋で開催
		(3)	海外研修セミナー講演要旨 国際感覚豊かな青少年の育成について (東京都立国際高等学校教頭 土屋正孝氏) アメリカにおける日本人語学研修生受け入れの現状 (ウィッシュインターナショナル株式会社 日本代表 鈴木実氏) 語学研修、ホームステイの心がまえ…体験を通して (財団法人エイ・エス・エフ日本協会 事務局次長 武藤多美氏) 関修委研究発表会発表要旨 達成感の充実をめざした修学旅行(群馬県小野上中学校校長 後藤秀雄氏) 体験的な班別学習を取り入れた修学旅行 一生徒の主体的な活動を目指して一 (群馬県沼田西中学校教諭 眞庭幹郎氏) まなびピア'89 幕張メッセで開催
		(4)	関修委現地研修報告 2泊3日で讃岐路へ [4] 高松からJRで帰途に (全修協参事 澤田克郎) 吉野ヶ里遺跡 11月10日から全域を公開 日本カメラ博物館が東京都心に誕生 全修協・各地区会議を開催 平成2年度研修旅行の大綱を協議 「古都-その点・線・面」 [18] 嵯峨野、落柿舎と二尊院 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第336号	平成2年 1月10日 (1990年)	(1)	<p>年頭の所感 国民の期待に応える教育改革を(文部大臣 石橋一弥氏) 国際化時代の要請に応える -35年の歴史に立って- (全国修学旅行研究協会理事長 山本種一) 風紋</p>
		(2)	<p>新春所感 修学旅行こそ人間形成の基本(文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 第6回全国大会をバネに (関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会会長 土居克己氏) 新しい知恵と創造を(関東地区公立中学校修学旅行委員会会長 木村一氏) 研修旅行の原点に立って(教職員福祉問題研究会会長 中村清三郎氏) 心の触合いをはぐくむ修学旅行 (東海三県中学校修学旅行委員会委員長 佐藤敏文氏) 楽しく思い出に残る修学旅行を (北海道旅客鉄道株式会社取締役社長 大森義弘氏) 新たな飛躍の年に(九州旅客鉄道株式会社取締役社長 石井幸孝氏)</p>
		(3)	<p>新春所感(つづき) 楽しく、快適な修学旅行を(東日本旅客鉄道株式会社取締役社長 住田正二氏) 楽しい思い出の修学旅行に東海道新幹線を (東海旅客鉄道株式会社取締役社長 須田寛氏) 万博へ、スキーへ修学旅行は快適に (西日本旅客鉄道株式会社取締役社長 角田達郎氏) 瀬戸大橋線が定着(四国旅客鉄道株式会社取締役社長 伊東弘敦氏) 修学旅行の再認識(全修協常務理事・北海道支部長 高田治郎) 年頭所感(全修協常務理事 鈴木力) マンネリからの脱却(全修協理事・兵庫県支部長 魚谷時太郎) 政治と人間(全修協理事 岡木清) 国際化への対応(全修協理事・栃木県支部長 梅沢茂) 修学旅行を子どものものに(全修協監事 西山文男) 年頭にあって(全修協山形県支部長 吉村和夫)</p>
		(4)	<p>修学旅行の実態調査を通じ、安全確保を促す 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会 平成元年度実態調査結果を集計 中学校修学旅行の安全対策「問題行動」がトップに Ⅰ.調査の目的、Ⅱ.調査の方法 Ⅲ.集計・分析 1.一般的な事項、2.準備及び事前に</p>
		(5)	<p>平成元年度実態調査結果を集計(つづき) 3.旅行中の行動に関する事項、4.宿泊に関する事項、5.事後指導に関する事項 Ⅳ むすび</p>
		(6)	<p>新年を迎えて 人を愛し、平和を愛する修学旅行も(全修協青森県支部長 五十嵐晋) 研修旅行に成果を期す(青森県教育厚生会常務理事 秋谷良保氏) 新しい年の発展を願って(全修協埼玉県支部長 岡田憲一郎) 期待される研修旅行(富山県教職員厚生会事務局長 老田義一氏) 誇りを持って頑張ろう(全修協千葉県支部長 吉井淳) 真の国際化をめざして(京都府教職員互助組合専務理事 黒住嘉輝氏) 旅の目標を明確にせよ(全修協東京都支部長 土橋荘司) 旅の多様化に創意工夫を(静岡県教職員互助組合事務局長 石川欽士氏) 変化を見据えて(全修協新潟県支部長 大浦俊一) 思うままに(全修協長野県支部長 小林三秋) 永遠の生命(全修協滋賀県支部長 駒井徳左衛門) 研修旅行に思う(大阪府教職員互助組合事務局長 田中健治氏) 先覚に学ぶ(全修協山口県支部長 大田恭次) 全修協飛躍の年に(大阪府教職員互助組合事務局長 神代義秀氏) 午歳に因んで(山口県教職員互助会事務局長 大野良兵氏) 新しい年代を迎えて(全修協高知県支部長 土居正美) さらなる飛躍を(全修協宮崎県支部長 日高国松) 誠意と情熱で教育のために(近畿日本ツーリスト修学旅行部長 山田彰氏)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第336号 ※つづき	平成2年 1月10日 (1990年)	(7)	<p>第6回全国修学旅行研究大会 講演及び研究発表要旨 講演要旨 個性を生かす教育と修学旅行 (文部省初等中等教育局教科調査官 高橋哲夫氏) 発表要旨 集団作りの中の修学旅行 - 自主性の創造をめざして - (大阪府富田林第三中学校教諭 林一幸氏) 生徒たちの創意工夫を生かした修学旅行 - リーダーの育成と班別自由行動 - (兵庫県深津中学校教諭 荻野南子氏) (財)全修協名古屋事務所が2月移転</p> <p>(8) 春の教職員研修旅行 歴史・文化・自然をたつぷりと、現地講師陣も充実 「古都-その点・線・面」[19] 嵯峨野、清涼寺と大覚寺 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹) JRグループ 3月10日ダイヤ改正を実施</p>
第337号	平成2年 2月10日 (1990年)	(1)	<p>昭和63年度 高校の国際交流状況 文部省が調査 海外修学旅行が公立高校で急増 香川県立高校も海外修学旅行OKに 修学旅行費の国庫補助 新年度政府原案が決定 [時言] 海外修学旅行について考える(編集委員 中島和友) 風紋</p> <p>(2) 生徒指導と特別活動・修学旅行<69>(文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 新学習指導要領についての解説 [9] 関東地区公立中修旅委 新年度への態勢を確立 東海三県修旅委総会開く 平成3年度輸送計画を検討 修学旅行のシーズン集中で宿舍事情悪化</p> <p>(3) 平成元年度関修委修学旅行実施報告 [1] 890校の実態を取りまとめ 大和路を語る会 3月3日宇都宮で開催 長崎自動車道が開通 1月26日 「見つけた一生の宝物」徳島県が作成</p> <p>(4) 吉野ヶ里遺跡への旅 [1] (佐賀県三田川町文化協会長 古賀静雄氏) 春の教職員研修旅行 好評受付中! 「古都-その点・線・面」[20] 嵯峨野、宝篋院から祇王寺 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)</p>
第338号	平成2年 3月10日 (1990年)	(1)	<p>国際花と緑の博覧会 4月1日大阪で開幕 第2回生涯学習フェスティバルに(財)全修協が協力 近畿中学校長会修旅委 平成三年度輸送計画を決定 信州・北陸方面の申込み急増 [時言] 「花の万博」に期待する(編集委員 北條直樹) 風紋</p> <p>(2) 生徒指導と特別活動・修学旅行<70>(文部省教科調査官 高橋哲夫氏) 新学習指導要領についての解説 [10] JR九州・沖縄営業事務所が沖縄県内中学校の修学旅行を調査 鉄道の体験乗車が好評</p> <p>(3) 平成元年度関修委修学旅行実施報告 [2] 旅費の学校差が増大 随想 [旅] (福井県学校生活協同組合専務理事 橋本正圓氏)</p> <p>(4) 吉野ヶ里遺跡への旅 [2] (佐賀県三田川町文化協会長 古賀静雄氏) 春の教職員研修旅行 好調 900名で実施へ 花の万博研修旅行 各県で予約募集始まる 「ディズニーランド」へ東京駅から快速で15分 JR京葉線が全線開通 「古都-その点・線・面」[21] 嵯峨野、化野念仏寺・直指庵 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第339号	平成2年 4月10日 (1990年)	(1)	<p>第31回通常総会を開催 3月7日 (財)全修協 創立35周年へ決意新たに 第31回通常総会あいさつ(全修協理事長 山本種一) 大阪 花の万博 いよいよ開幕 4月1日～9月30日 改正「旅券法」四月一日から施行 数次往復用に一本化、代理申請も大幅緩和 本年も修学旅行基準を調査 NTT遠距離通話料を値下げ 全修協理事に大田恭次氏、監事に駒井徳左衛門氏 風紋</p> <p>(2) 生徒指導と特別活動・修学旅行<71> 修学旅行の今後の課題 (前・文部省教科調査官 現・文教大学教授 高橋哲夫氏) 修学旅行における食事の意義</p> <p>(3) 修学旅行もグルメ時代 グループごとの盛りつけも 京都の団体旅館部会が今年も献立講習会を開催 東海道新幹線 修学旅行専用列車にも二階建編成を使用 北海道観光連盟 修学旅行誘致懇談会を開催 ～クルージング時代へ～ 青函連絡船十和田丸が横浜～神戸間の豪華客船に クイーンエリザベス2世号は大阪へ</p> <p>(4) 夏季教職員研修旅行 魅力に富むコース揃えて募集を開始！ スペースワールド 4月22日オープンへ 京のたより 二条城の入城料改定、知恩院が一部有料に 宮崎空港が拡張 宮崎港もオープン 「古都-その点・線・面」[22] 嵯峨野、広沢の池・車折神社 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)</p>
第340号	平成2年 5月10日 (1990年)	(1)	<p>平成2年度修学旅行費等の補助金増額 近く正式決定へ 本年度の修学旅行実施基準 海外修学旅行は13県1市に、航空機利用は17道県3市に 日本人海外旅行者数 昨年は966万人に 一訪日外国人は283万人— [時言] 改めて修学旅行の安全性の確保を(編集委員 北條直樹) 全修協名古屋事務所 新人事発令 兼子勉所長、谷口昌総務部長 風紋</p> <p>(2) 各地からの修学旅行生でにぎわう新幹線京都駅 平成新時代の修学旅行事情あれこれ 身軽な旅立ち、バッグはトラックで グループ自主見学 交通機関の多様化とデラックス化 見学地の広範化 教職員福祉問題研究会 第九回総会を開催 4月26日京都市で 「修学旅行に関する研究論文」募集締切近づく 一日動火災—</p> <p>(3) JR東日本 東京から下田へ スーパービュー踊り子登場 空のたより 成田空港の地下に待合室を開設 航空運賃値下げ27路線で実施へ ハマのたより 博覧会後の横浜はますます楽しい港町に</p> <p>(4) 夏の教職員研修旅行 海へ山へ花博へ 多彩なコースで募集中！ 京都市交響楽団の練習風景見学者を募集 科学技術館 発見工房がオープン 「古都-その点・線・面」[23] 幾度か嵯峨野を歩いて (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第341号	平成2年 6月10日 (1990年)	(1)	<p>修学旅行費・校外活動費 平成3年度の補助金増額を 全修協・三地区修旅連が文部省へ陳情 平成2年度予算が成立 修学旅行費補助金も決定 [時言] 考えさせられる修学旅行費増加傾向(編集委員 北條直樹) 全修協人事 岩手県支部長に熊谷碩二氏、愛知県支部長に加藤修氏 風紋</p> <p>(2) 近畿地区公立中学校修旅委 総会開く 会長に藪野昌治氏 (財)全修協 第一回組織運営委員会 6月5日開く 関東地区公立中修旅委 総会提出議案を審議 公立学校の平均的修学旅行の姿は……今年度の基準調査から</p> <p>(3) 変わりゆく修学旅行の宿泊事情 宿舎、食事の高級化 まくら投げもままならず 昔100軒、今22軒 東京・本郷の宿 ますます人気上昇の東京ディズニーランド ティーチャーセンターを園内に新設 「大和路を語る会」仙台と盛岡で開催 東京都写真美術館がオープン</p> <p>(4) 夏季教職員研修旅行 好調に申し込み受け付け中 今年は是非花博へ！ 東京～釧路航路に新鋭フェリー就航 「咸臨丸」を復元 横浜で一般公開 日光・鬼怒川へ個室付特急スペーシア登場 東武鉄道 東京・横浜のタクシー値上げ 「古都-その点・線・面」[24] 太秦映画村と広隆寺 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)</p>
第342号	平成2年 7月10日 (1990年)	(1)	<p>関東地区・東海三県中学校修学旅行委員会総会開く 関東地区公立中修旅委 会長に阿部豊氏 東海三県中学校修旅委 委員長に大島直樹氏 [時言] 夢とロマンのある修学旅行を(編集委員 北條直樹) 青森県支部長に佐藤剛氏 第2回生涯学習フェスティバル 今秋京都で開催 風紋</p> <p>(2) 近畿中学校長会修旅委 委員長に上野和平氏 修学旅行中に貴重な体験 岐阜・双葉中 東京都内見学でアメリカ大使館を訪問 東京・明星学園小 四国旅行で阿波の藍染を体験</p> <p>(3) 今も健在懐かしい乗り物 JR在来線の修学旅行専用電車 こまどり号／わかくさ号 海の記念日のルーツ 重要文化財「明治丸」 六月生まれの新しい乗り物 東北新幹線にも二階建車両 成田空港へニュースカイライナー登場 京成 超豪華客船クリスタルハーモニー処女航海へ</p> <p>(4) 夏の教職員研修旅行 国内全域から海外まで 7月24日から実施へ 京都・二条城 本丸御殿を特別公開 京都・岡崎公園駐車場の入退時間を変更 JAL 東京～広島線を開設 JR東日本 夏休み子ども時刻表を発刊 山陽新幹線高架化で営業キロを短縮 「古都-その点・線・面」[25] 太秦から双ヶ丘へ (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第343号	平成2年 8月10日 (1990年)	(1)	<p>関東・東海・近畿三地区公立中修学旅行連合委 総会開く 会長に大島直樹氏 児童数減少は小三まで 文部省学校基本調査から 全修協支部長人事 静岡県支部長に石川欽士氏 島根県支部長に川角尊慈氏 [時言] 修学旅行の一枚一館を考える(編集委員 中島和友) 風紋</p> <p>(2) 文部省の調査から 学年別在学者数は公立校で減少が顕著、私立校では増加の傾向 京都市観光調査年報から 京都への修学旅行 昨年は123万5千人に 小・中は減少、高校は微増 (財)日中青少年旅行財団 会長に三塚博氏、理事長に梶本保邦氏 近畿日本ツーリスト協定旅館連盟 修学旅行部会開く 修学旅行のサービス向上を</p> <p>(3) 進路校外研修の修学旅行 岡山県立玉野光南高 おりえんとびいなすが処女航海へ 7月12日 北国のたより 暑寒別・天売・焼尻が55番目の国定公園に 青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸 青森にオープン 奥羽線でダイヤ改正 営業キロ短縮と一部区間の値下げも JR北海道でも大幅ダイヤ改正 九州のたより '90長崎「旅」博覧会8月3日に開幕 アフリカンサファリに「であいの村」オープン 南九州観光の統一キャッチフレーズを募集中</p> <p>(4) 道東へ、高山へ 全修協 秋の教職員研修旅行 「古都-その点・線・面」[26] 仁和寺と竜安寺 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)</p>
第344号	平成2年 9月10日 (1990年)	(1)	<p>平成3年度 文部省予算 概算要求額決まる 修学旅行費等の補助金は実態に見合うよう増額 関東地区公立中修旅委 第3回研究協議会開く 平成4年度の申込人員は179,514名に [時言] 夏雑感(編集委員 北條直樹) 全修協支部長人事 福井県支部長に三橋昌幸氏、佐賀県支部長に北崎稔氏 風紋</p> <p>(2) 修学旅行現地研修会報告 近畿地区公立中修旅委 山口から別府へ、スペースワールド 関東地区公立中修旅委 松本から長岡へ、立山黒部アルペンルート</p> <p>(3) 第6次空港整備計画中間報告から 成田・羽田・関西を優先 全国航空網の拡充へ 防災の日のルーツ 東京都慰霊堂と復興記念館 後楽園スタジアムが東京ドームに社名変更 霞が関ビルが36階を当分閉鎖</p> <p>(4) 京・遊・学 観光と大学案内のガイドマップが誕生 清水の舞台 修復工事が完了 ハマのたより 博覧会跡地に新施設が続々登場 よこはまコスモワールド、臨港パーク、みなとみらい21横浜館 関帝廟が落成、中華街の新名所に 「古都-その点・線・面」[27] 花園 妙心寺と法金剛院 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第345号	平成2年 10月10日 (1990年)	(1)	第5回全修協修学旅行セミナー 修学旅行の未来像を求め 9月7日京都で開催 花の万博が閉幕 入場者数は2,312万人超す パスポートが小型に 平成四年度から導入検討 [時言] 修学旅行と鉄道諸事情(編集委員 中島和友) 風紋
		(2)	第5回全修協修学旅行セミナー講演要旨「教育改革のねらいを生かす修学旅行」 (文部省初等中等教育局 教科調査官 成田國英氏) 常務理事 村山助雄君を悼む(全修協理事長 山本種一)
		(3)	あおぞら号近畿地区運営協議会総会開く 会長に入江信男氏 北京市旅遊局から陳延代表が来訪 前田局長と懇談 台風で度々 東海道新幹線が運行不能に 修学旅行にも影響 鉄道記念日のルーツ 本邦鉄道起源地と鉄道発祥記念碑
		(4)	(財)全修協 修学旅行総覧を発刊 日光江戸村「体験学習帳」を作成配布 東京・本郷に新名所 神田上水石樋を復原 10月12日から公開 「古都-その点・線・面」[28] 等持院、立命館、堂本美術館 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第346号	平成2年 11月10日 (1990年)	(1)	(財)全修協・三地区修旅連 来年度修学旅行費等の補助金 増額を大蔵省に陳情 文部省の概算要求どおりに 大分県立高校の韓国への修学旅行 来年度から可能に [時言] 教職員研修旅行と生涯学習(編集委員 北條直樹) 風紋
		(2)	修学旅行を考える(文部省教科調査官 渡部邦雄氏) 京都での生涯学習フェスティバルに50万人が参加 (財)日動火災振興基金 修学旅行研究論文コンクールで表彰式 川崎・大師中が特選に 関東地区公立中修旅委 平成4年度輸送計画を決定
		(3)	スキー修学旅行が増加 平成元年度 長野県調べ JR四国が11月21日ダイヤ改正 JR各社が来年3月ダイヤ改正 浮いて新遊体験ぞ〜ん!! 青函連絡船メモリアルシップ 「八甲田丸」青森港に華々しくオープン (青森ウォーターフロント開発(株)専務取締役 奈良聖氏) (財)全修協 修学旅行総覧を発刊
		(4)	一冬休みを楽しく一教職員研修旅行 参加者募集中! 神奈川県立金沢文庫新館が落成 ユネスコ村が閉村 即位の礼に伴い 東京都内で交通規制 東京の営団地下鉄が運賃改定 11月1日から 営団半蔵門線が水天宮前まで全線開通へ 京都地下鉄が北山へ延長開通 「古都-その点・線・面」[29] 金閣寺と左大文字山 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第347号	平成2年 12月10日 (1990年)	(1)	<p>第7回全国修学旅行研究大会 ～11月28日豊橋市で～ 連帯感の育成を図る 特色ある修学旅行 愛知県と三重県の二中学校が研究発表 来年度大会は千葉県で 三地区修旅連臨時総会 海外旅行者一千万人！！ 一年早く目標を達成 来訪外客は300万人に [時言] 自主的班別行動と修学旅行(大阪事務局長 大友恭) 風紋</p> <p>(2) 第七回全国修学旅行研究大会講演要旨 教育改革と修学旅行(文部省初等中等教育局教科調査官 渡部邦雄氏) 第七回全国修学旅行研究大会発表要旨 集団意識を高める手作りの修学旅行(愛知県青陵中学校教諭 鎌田孝一氏) 特色ある修学旅行の実践を求めて(三重県名張市立南中学校長 松崎一三氏)</p> <p>(3) 関東地区中の研究発表会 栃木の2校が班別行動中心に11月15日宇都宮で開催 一人一人にやる気と心を育てる修学旅行 ～合い言葉「みんながリーダー」～ (小山市立美田中学校教諭 松岡芙久子氏) 新しい修学旅行の在り方を考える ～同一目標別 班行動～ (宇都宮市立国本中学校教諭 大瀧伸一氏) 近畿地区中の研究大会は12月3日奈良で開催 和歌山・奈良の二校が発表</p> <p>(4) (財)日中青少年旅行財団 中国修学旅行セミナー開く 改善された現況を確認 足利学校が復原オープン 嵯峨野観光鉄道が来年4月開業 下津井電鉄は年末に廃止へ NTT 東京の電話局番変更 「古都-その点・線・面」[30] 御土居と鷹峯・玄琢 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)</p>
第348号	平成3年 1月10日 (1991年)	(1)	<p>年頭の所感 国際社会への貢献に向け 生涯学習・国際交流を推進(文部大臣 井上裕氏) 創立三十五周年を更に躍進する年に(全国修学旅行研究協会理事長 山本種一) 風紋</p> <p>(2) 新春所感 ※順不同 特別活動の特質を生かした教育を(文部省教科調査官 渡部邦雄氏) 修学旅行の意義について思う (関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会会長 大島直樹氏) 輸送サービスの充実で より思い出に残る修学旅行を (北海道旅客鉄道株式会社取締役社長 大森義弘氏) 生きがいある旅行で目標完遂へ(教職員福祉問題研究会会長 神代義秀氏) 生涯の思い出となる修学旅行を (関東地区公立中学校修学旅行委員会会長 阿部豊氏) 今後もますます充実した研究を (近畿地区公立中学校修学旅行委員会会長 藪野昌治氏) 瀬戸大橋を渡って交流(四国旅客鉄道株式会社取締役社長 伊東弘敦氏) 平成3年度修学旅行費等の国庫補助金 政府原案が決定</p> <p>(3) 新春所感 ※順不同 安全を基盤にした総合生活サービス企業へ (東日本旅客鉄道株式会社取締役社長 住田正二氏) 東海道新幹線で快適な修学旅行を (東海旅客鉄道株式会社取締役社長 須田寛氏) 三都を中心に思い出に残る旅を (西日本旅客鉄道株式会社取締役社長 角田達郎氏) 楽しい旅の思い出作り(九州旅客鉄道株式会社取締役社長 石井幸孝氏) 旅行の楽しさ!!(全修協常務理事・北海道支部長 高田治郎) 全修協を現場のものに(全修協常務理事 鈴木力) 年頭のごあいさつ(全修協理事・兵庫県支部長 魚谷時太郎) 修学旅行を想う(全修協理事 岡木清) 世界の中の日本人(全修協理事・栃木県支部長 梅沢茂) 地理を観る(全修協理事・山口県支部長 大田恭次) 年末の大きい収穫(全修協監事 西山文男) 自然に感動する(全修協監事・滋賀県支部長 駒井徳左衛門) 全修協理事に前田事務局長補選</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第348号 ※つづき	平成3年 1月10日 (1991年)	(4)	<p>全国公・私立高等学校 平成元年度修学旅行実態調査の結果 「修学旅行総覧-新しい修学旅行-」から 回答状況、修学旅行分類、実施学年・参加状況、実施時期・泊数、修学旅行費、小遣いの上限額、旅行先方面・地区別入込傾向、宿泊地の状況、自主見学・自由行動実施地・所要時間・実施形態の状況 修学旅行総覧を発刊 (財)全修協 内容の概要</p> <p>(5) 全国公・私立高等学校 平成元年度修学旅行実態調査の結果(つづき) 修学旅行・各種体験活動の動向 体験活動の実施有無・実施回数・所要時間・実施地・所要経費・主要内容 都道府県・政令指定都市教育委員会調査 平成元年度 公立高等学校 スキー修学旅行の動向 スキー修学旅行実施県の地区別実施率、実施率ベスト・テン</p> <p>(6) 新年を迎えて ※順不同 多様なニーズにこたえる企画を(全修協佐賀県支部長 北崎稔) 旅行目標に努力(全修協高知県支部長 土居正実) 年頭所感(全修協徳島県支部長 奥田元男) 新春を迎えての回想(山口県教職員互助会事務局長 大野良兵氏) 専門性を生かした親しみのある研修企画を (兵庫県学校厚生会専務理事 中村清三郎氏) 年頭の決意(全修協大阪支部長 瀬尾武敏) 年頭にあたり(京都府教職員互助組合専務理事 黒住嘉輝氏) 改めて「旅」(全修協新潟県支部長 大浦俊一) 修学旅行で体験すること(全修協東京都支部長 土橋荘司) 生涯学習の一翼を(全修協千葉県支部長 吉井淳) 年頭所感(全修協埼玉県支部長 岡田憲一郎) 鋭い眼と柔軟な感覚を(全修協青森県支部長 佐藤剛) 平成三年を迎えて(全修協山形県支部長 吉村和夫) 年頭にあって(全修協岩手県支部長 熊谷碩二) 地方文化に学ぶ(青森県教育厚生会常務理事 秋谷良保氏) よりよい修学旅行へ新たな決意(近畿日本ツーリスト修学旅行部長 山田彰)</p> <p>(7) 国際性豊かな青少年の育成を目指し 第2回海外研修セミナー 12月12日金沢で開催 講演1 高校生の国際交流活動について (福井県武生東高等学校教頭 小川英雄氏) 講演2 アメリカにおける日本人語学研修生受け入れの現状 (ウィッシュインターナショナル(株) 日本代表 鈴木実氏) 講演3 語学研修・ホームステイの心構え ～体験を通して～ (財)エイ・エフ・エス日本協会事務局次長 武藤多美氏) 第五回近畿地区中学校修学旅行研究発表大会 発表要旨 創意あふれる班別自主活動を取り入れた修学旅行 ～都内散策活動を通して～ (和歌山県伏虎中学校教諭 東康修氏) 自ら学び、行動する生徒の育成を目指す修学旅行 (奈良県高田中学校教諭 南昌克氏)</p> <p>(8) 春の教職員研修旅行 話題多いコースで参加者募集始まる JRグループのダイヤ改正 実施は3月16日に 「花の万博」から全修協に感謝状 「古都-その点・線・面」[31] 紫野・大徳寺周辺 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第349号	平成3年 2月10日 (1991年)	(1)	湾岸戦争 揺れる海外旅行 長期化すれば修学旅行に影響も 近畿地区公立中修旅委 次期大会の充実と組織強化を協議 [時言] 真の体験学習とは(編集委員 北條直樹) 岩手県教育旅行研究会 修学旅行研究懇談会を開催 心豊かな修学旅行の実施を目指して 風紋
		(2)	平成二年度 中学校修学旅行安全対策実態調査のまとめ 班別自主行動の安全確保が大きな課題 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会 Ⅰはじめに Ⅱ集計・分析 1.全般的な事項、2.準備及び事前指導に関する事項、 3.旅行中の行動に関する事項
		(3)	平成二年度 中学校修学旅行安全対策実態調査のまとめ ※つづき Ⅱ集計・分析 4.宿舎に関する事項、5.事後指導に関する事項 Ⅲむすび
		(4)	春の教職員研修旅行 好評受付中！ 東北・上越新幹線が6月20日東京駅発着に 国立民俗学博物館 ドイツ人の見た元禄時代 ～ケンペル展を開催～ 北海道修学旅行懇談会 岡山・広島・松山で開催 「大和路を語る会」 3月8日横浜で開催 「古都-その点・線・面」[32] 西賀茂周辺(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第350号	平成3年 3月10日 (1991年)	(1)	創立35周年を祝う 3月6日(財)全修協 総会、記念式典、祝賀会、 祝辞(文部大臣 井上裕氏)、式辞(全修協理事長 山本種一)、表彰 修学旅行に対する消費税の経過措置 三月末で終了 国内修学旅行の航空機利用 条件付で許可 東京都立高 風紋
		(2)	平成二年度 関東地区公立中修旅委 919校の修学旅行実施報告を集計 タクシー利用が急増 1.設置校と加盟校、2.宿泊数と実施学年、3.実施の時期、4.参加校数と人数、 5.割付と実績、6.不参加人数、7.修学旅行費、8.小遣いとおやつ代の決まり
		(3)	平成二年度 関東地区公立中修旅委 919校の修学旅行実施報告を集計 ※つづき 9.小遣いとおやつ代の平均、10.見学地・体験学習地、11.グループ活動、 12.夜の行事、13.花博の見学、14.宿泊の状況、15.昼食、 16.利用した現地交通機関、17.まとめ
		(4)	東海三県中学校修学旅行委、近畿中学校修学旅行委 平成4年度の輸送計画を決定 東京都庁が西新宿移転 45階に無料展望室も トイレマップを京都市が作成 「古都-その点・線・面」[33] 賀茂川・北山通(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第351号	平成3年 4月10日 (1991年)	(1)	修学旅行の春到来 全国で340万人が実施 宮城県立高 平成四年度から海外修学旅行可能に NTT 二年連続して通話料を値下げ (財)全国修学旅行研究協会 平成三年度事業計画の大綱 [時言] 修学旅行は安全第一に(編集委員 中島和友) 風紋
		(2)	今年は温かい鍋物も 京都の旅館が献立講習会 東京都庁が移転完了 四月からすべて新庁舎で 嵯峨野観光鉄道が4月27日から営業 JR奈良線に快速登場 東名の渋滞区間を拡幅 御殿場→大井松田 横浜・日本丸総帆展帆の日程 東京フリーきっぷ 4月から値上げ 東京ドーム 日本ハム戦の日程
		(3)	修学旅行に不可欠 安全・高速 新幹線 新幹線のスピードテスト 東海道と上越で記録更新 青函連絡船メモリアルシップ 摩周丸が函館にオープン ウォーターフロントリゾート ハウステンボス来春佐世保にオープン
		(4)	夏の教職員研修旅行 北へ南へ16コース 参加者募集中!! フォトコンテスト 撮っておきの京都 作品を募集 「古都-その点・線・面」[34] 紵の森・下鴨神社(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第352号	平成3年 5月10日 (1991年)	(1)	今年度初の連合体修学旅行専用列車 4月13日東京駅で出発式 湾岸戦争が終結 海外修学旅行への影響解消 ライトアップも復活へ [時言] 「歴史街道」への期待と要望(編集委員 北條直樹) 全修協人事 徳島県支部長に杉玲二氏、修学旅行部主幹に福原徳丸氏 風紋
		(2)	戦艦大和の慰霊塔参拝 教職員研修旅行 奄美徳之島コースに参加して(兵庫県学校厚生会会員 高橋勇氏) 全修協の教職員研修旅行 夏季参加者募集中!! (財)日動火災教育振興基金 論文集「修学旅行の研究」を発刊 JR東北・上越新幹線 東京駅への試運転開始
		(3)	修学旅行地近況レポート 南関東2都の歴史散策 古都 太平記の鎌倉 首都 東京・本郷 文京ふるさと歴史館が誕生
		(4)	今春 テーマパークは花盛り スペースワールド開業一周年 入園者は200万人を突破 西日本最大のテーマパーク レオマワールド 4月20日にオープン 日光江戸村に大忍者劇場完成 「古都-その点・線・面」[35] 葵祭・上賀茂神社(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第353号	平成3年 6月10日 (1991年)	(1)	近畿地区・関東地区公立中 修学旅行委員会総会開く 近畿地区公立中学校修旅委 会長に高橋喜吉氏 関東地区公立中学校修旅委 会長に井桁孝氏 本年度公立校の修学旅行実施基準 海外修学旅行が前進 [時言] 列車衝突事故の再発防止を(編集委員 中島和友) 風紋
		(2)	夏季教職員研修旅行一申込み好調 満員コース続出ー 本年度の修学旅行委員名 近畿地区公立中学校修学旅行委員会、関東地区公立中学校修学旅行委員会 教福研第十回総会 5/22～23 福岡市で開催 全修協人事 新潟県支部長に敷井健一郎氏、兵庫県支部長に村上旭氏 韓国観光公社 '91韓国修学旅行感想文・写真コンクールを実施
		(3)	東京都心に2つの原点 ながたちょう 100周年を迎えた日本水準原点 にほんばし お江戸日本橋は架橋八十周年 [解説]火砕流 工業技術院地質調査所 地質標本館の資料から
		(4)	東北・上越新幹線が6月20日から12・13番線へ ますます充実 東京駅 学生団体は「東京」「上野」の使い分けを JR 交通博物館 東北本線全通100年記念 東北線資料展を開催 「古都-その点・線・面」[36] 大田神社と深泥池(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第354号	平成3年 7月10日 (1991年)	(1)	平成4年度修学旅行費等の国庫補助金増額を 6月24日全修協・三地区修旅連が文部省へ陳情 関東・東海・近畿三地区中修学旅行連合委員会総会開く 7月9日 会長に井桁氏、副会長に中嶋・高橋両氏を選出 [時言] 実地調査は綿密に(編集委員 北條直樹) 特別地方消費税の免税点が七月から改定 風紋
		(2)	全修協主催 海外修学旅行セミナー 6月18日仙台で開催 全修協の夏季教職員研修旅行 7月26日から実施へ 東海三県中学校修旅委 会長に中嶋春雄氏 近畿中学校長会修旅委 委員長に土居克己氏 全修協人事 愛媛県支部長に三好富士夫氏
		(3)	近畿日本ツーリスト協定旅館連盟 修学旅行部会全体会議 パネルディスカッション「修学旅行における旅館のサービスはいかにあるべきか」 学校と旅館の代表がそれぞれの意見を交換 フォトコンテスト 撮っておきの京都 作品を募集 東京・下町 夏の風物詩 朝顔市、七夕、四万六千日
		(4)	東京駅に新名所 漢字の小径と家紋の小径が開通 スペースワールド内に宇宙博物館オープン 島原・雲仙地区の交通情報 京都観光二日乗車券が誕生 「古都-その点・線・面」[37] 円通寺・妙満寺・宝ヶ池(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第355号	平成3年 8月10日 (1991年)	(1)	文部省学校基本調査 公立小・中・高校 児童生徒数の減少続く 私立校は漸増傾向 平成4年度の修学旅行 海外・航空機が更に拡大 [時言] 今年の修学旅行前半を終わって(編集委員 中島和友) 風紋
		(2)	京都への修学旅行 昨年は115万4千人に 中・高は減少、小は増加 京都市観光調査年報から ますます盛んな京都のタクシー利用修学旅行
		(3)	三重県の小・中・高校修学旅行実態調査から 平成2年度665校の回答を集計 全修協の研修旅行 優雅な歴史風俗絵巻 時代祭と奈良 非公開文化財特別拝観
		(4)	見学・交通ニュース 栃木県立日光自然博物館が完成 広島平和記念資料館が改修完了 関越トンネルが拡幅・開通 山形新幹線工事のため奥羽線の一部バス代行 七尾線が電化9月1日から 「古都-その点・線・面」[38] 妙法・国際会館・岩倉(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第356号	平成3年 9月10日 (1991年)	(1)	平成4年度の文部省予算 概算要求決る 修学旅行費等の補助金は今回も大幅に増額 関東地区公立中修旅委第3回研究協議会開く 全国大会の対策を協議、平成5年度輸送計画も [時言] 流行より教育論を(編集委員 北條直樹) 風紋
		(2)	修学旅行における旅館のサービスはいかにあるべきか 基調提案・パネルディスカッション(概要) 学校が望む旅館のサービスとは/旅館が提供できるサービスとは コーディネーターの基調提案(全修協大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
		(3)	修学旅行における旅館のサービスはいかにあるべきか(続) パネリストの基調提案(1) 事故防止と親切な心(水戸市立第一中学校長 加瀬忠氏) パネリストの基調提案(2) 大集団への配慮を(名古屋市立箕瀬中学校長 水野明氏) パネリストの基調提案(3) 楽しくそして厳しく(西宮市立大社中学校長 土居克己氏)
		(4)	修学旅行における旅館のサービスはいかにあるべきか(続) パネリストの基調提案(4) ホテル利用と公衆道徳(東京ホテル浦島取締役社長 塩地博昭氏) パネリストの基調提案(5) 京都の現状とサービス(ホテル佐野家取締役社長 佐野喜一郎氏) パネリストの基調提案(6) 長崎から学校への希望(ホテル白雲荘取締役社長 林功氏)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第356号	平成3年 9月10日 (1991年)	(5)	修学旅行における旅館のサービスはいかにあるべきか(続) パネルディスカッション 安全/一校一館/人手不足
		(6)	修学旅行における旅館のサービスはいかにあるべきか(続) パネルディスカッション 季節の平準化
		(7)	修学旅行における旅館のサービスはいかにあるべきか(続) パネルディスカッション講評(元全日本中学校長会長 谷合良治氏) 関東地区公立中修旅委 平成5年度の申込みは169,869名に 東北コースの減少が顕著 東北本線が全通100周年 上越線は全通60周年 東京国際空港が開港60周年
		(8)	近畿地区公立中修旅委 現地研修会レポート 北四国 [上]-愛媛- “北東北に針路をとれ”キャンペーン実施中 “しあわせランド四国”キャンペーンを実施 山口のサビエル記念聖堂が全焼 「古都-その点・線・面」[39] 岩倉実相院・鞍馬(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第357号	平成3年 10月10日 (1991年)	(1)	第6回全修協修学旅行セミナー 9月25日大阪で開催 これからの修学旅行の教育的課題と実践をテーマに 来年度修学旅行費等の補助金 文部省の概算要求どおりに 全修協・三地区修旅連が大蔵省に陳情 海外研修セミナー 名古屋と福岡で開催 海外研修セミナー基調提案 これからの修学旅行の教育的課題と実践 「修学旅行変更保険」来年4月から適用開始 風紋
		(2)	[時言] 台風と修学旅行(編集委員 中島和友) 第6回全修協修学旅行セミナー講演要旨 修学旅行の教育的課題と使命(文部省教科調査官 渡部邦雄氏) わたしの修学旅行(奈良芸術短期大学教授 木村芳一氏)
		(3)	あおぞら号近畿地区運営協議会開く 会長に岡本修一氏 近畿地区公立中修旅委 現地研修会レポート 北四国 [下]-香川-
		(4)	トラベルニュース日本列島縦断 山形新幹線工事が進行 奥羽線福島～山形間は11月5日から標準軌に 庄内空港が10月1日にオープン 大和路を語る会11月7日札幌で開催 「東京の博物館」改訂版を発行 交通博物館が開館70周年 神田古本まつり 10月26日～11月3日 東京都庁の見学 10月26日は中止 東京ディズニーランド休園日変更“ビッグ10”廃止 厳島神社拝観は11月からの予定 豊肥線が復旧 全線開通へ 「古都-その点・線・面」[40] 八瀬・大原寂光院(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第358号	平成3年 11月10日 (1991年)	(1)	<p>第三回海外研修セミナー 10月28日米国オレゴン州使節団を迎え名古屋で開催 11月1日には福岡で再びセミナーを開催 兵庫県教委 航空機利用を含め 来年度以降県立学校の修学旅行実施基準を見直し [時言] 学校行事としての修学旅行(編集委員 北條直樹) 風紋</p> <p>(2) 海外研修セミナーの概要 福岡では昭和初期の「人形大使」が話題に 近修委 平成5年度申込の大綱を決定 関東地区公立中修旅委 平成5年度輸送計画を決定 (財)全修協 事務局体制を強化 長崎県支部長に近藤禮司氏</p> <p>(3) 教福研臨時総会 10/29～30 岐阜市で開催 11月20日から大手私鉄が運賃改定 日本最大の客船「飛鳥」が完成 JR四国がダイヤ改正 11月21日 山手線が11両に6扉車を増備 武蔵野線も8両に JR東日本 東京～新大阪間を2時間半に JRが来年3月ダイヤ改正</p> <p>(4) 冬の教職員研修旅行募集始まる!! 太陽のにおいあふれる南の島々へ 首都のたより しながわ水族館が10月19日開館 特別展「ぶんきょうの仏たち」12月1日まで 文京ふるさと歴史館 「古都-その点・線・面」[41] 大原・三千院周辺(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)</p>
第359号	平成3年 12月10日 (1991年)	(1)	<p>第8回全国修学旅行研究大会 千葉県の二中学校が研究発表 集団の中に自己を生き、協力し合う修学旅行を求めて 来年度大会は兵庫県で 三地区修旅連臨時総会 [時言] 今年の修学旅行を振り返って(編集委員 中島和友) 風紋</p> <p>(2) 第8回全国修学旅行研究大会 大会講演要旨、研究発表要旨 集団の中に自己を生きかす修学旅行(文部省教科調査官 渡部邦雄氏) リーダー養成を中心にした修学旅行～ついていく旅行からつくる旅行へ～ (千葉県国分寺台西中学校教諭 斉藤正行氏) 班別テーマを持った修学旅行を作る ～主体的な活動を通じた豊かな体験の育成を目指して～ (千葉県柏第五中学校教諭 山田守人氏) 大分の生涯学習フェスティバルに68万人が参加</p> <p>(3) 第6回近畿地区中学校修学旅行研究発表大会を開催 11月12日大津市で これからの修学旅行における生徒の自主活動と教師の関わり 研究発表要旨 3年間を通じた主体性を育てる修学旅行～生徒の主体的活動を通じて～ (滋賀県日吉中学校教諭 地村卓氏) 修学旅行を成功させるための学年代議員を中心とした事前の取り組みについて ～主体的な係活動を目指して～ (京都府長岡第三中学校教諭 大木義文氏)</p> <p>(4) (財)日中青少年旅行財団 中国修学旅行セミナー開く 現状の説明と実施状況報告 JR東海 超特急は「のぞみ」に 不通の鉄道が次々に復旧へ 伊豆急行、信楽高原鉄道、武蔵野線 東京都内に二つの地下鉄新線が開業 南北線(赤羽岩淵～駒込間)、都営12号線(光が丘～練馬間) 京都・嵐山嵯峨野の近況 渡月橋に巨大中州、嵐山美術館が閉館、トロッコ列車は水曜運休、 釈迦堂の除夜の鐘中止 「古都-その点・線・面」[42] 京都駅と東本願寺(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第360号	平成4年 1月10日 (1992年)	(1)	<p>年頭の所感 教育は人づくりの原点(文部大臣 鳩山邦夫氏) 大転換期を志新たに(全国修学旅行研究協会理事長 山本種一) 風紋</p>
		(2)	<p>新春所感 学習指導要領の精神を具現する教育を(文部省教科調査官 渡部邦雄氏) 積重ねのある修学旅行を (関東・東海・近畿三地区中学校修学旅行連合委員会会長 井桁孝氏) 研修旅行一万人をグローバルに実現へ(教職員福祉問題研究会会長 神代義秀氏) 体験活動で新鮮な修学旅行を(あおぞら号近畿地区運営協議会会長 岡本修一氏) 夢発見に結ぶ旅(東海三県中学校修学旅行委員会委員長 中嶋春雄氏) 生徒の自主性ある修学旅行を(近畿地区公立中学区修学旅行委員会会長 高橋喜吉氏) 平成4年度修学旅行費等の国庫補助金 政府原案が決定 事務局の陣容を強化</p>
		(3)	<p>新春所感(つづき) 北海道の大自然を背景に(北海道旅客鉄道株式会社取締役社長 大森義弘氏) お客様第一をモットーに今年も(東日本旅客鉄道株式会社取締役社長 住田正二氏) 楽しい思い出作りを東海道新幹線で(東海旅客鉄道株式会社取締役社長 須田寛氏) 有意義で思い出に残る修学旅行を(西日本旅客鉄道株式会社取締役社長 角田達郎氏) 四国への往来を便利に(四国旅客鉄道株式会社取締役社長 伊東弘敦氏) 今年も輸送改善で楽しい旅のお手伝いを (九州旅客鉄道株式会社取締役社長 石井幸孝氏) 修学旅行の思い出!!(全修協常務理事・北海道支部長 高田治郎) 年頭にあって(全修協常務理事 鈴木力) 信義と友愛が組織の命(全修協理事 魚谷時太郎) 年頭の所感(全修協理事・栃木県支部長 梅沢茂)</p>
		(4)	<p>修学旅行の実態調査を通じ、安全確保を促す -関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会- 過去三年間継続して中学校修学旅行の安全対策を調査 班別自主見学を中心に問題行動と交通事故を懸念、更に宿舎内の災害も -平成3年度実態の集計から- I.調査の目的 II.調査の方法 III.集計・分析 1.全般的な事項/2.準備及び事前指導に関する事項</p>
		(5)	<p>-平成3年度実態の集計から- (つづき) III.集計・分析 3.修学旅行中の行動に関する事項/4.宿舎に関する事項 5.事後指導に関する事項 IV.むすび</p>
		(6)	<p>新年を迎えて 松陰記念館へ(全修協理事・山口県支部長 大田恭次) 君の命が世の光(全修協監事・滋賀県支部長 駒井徳左衛門) 平和の尊さを噛みしめて(全修協青森県支部長 佐藤剛) 年頭雑感(青森県教育厚生会常務理事 秋谷良保氏) 平成四年の年頭に当たって(全修協山形県支部長 吉村和夫) 年頭所感(全修協千葉県支部長 吉井淳) 京都への修学旅行をどう見るか(全修協東京都支部長 土橋荘司) 積極性のある余暇活用を(全修協静岡県支部長 石川欽士) 全修協に期待する(京都府教職員互助組合専務理事 黒住嘉輝氏) 年頭に想う(京都府公務員弘済会専務理事 明賀猛氏) 文化的で心豊かな旅を(兵庫県学校厚生会専務理事 中村清三郎氏) 社会のニーズにこたえる研修旅行(大阪府教職員互助組合事務局長 田中健治氏) 昨年の成果を今年も(和歌山県教育互助会常務理事 西下和夫氏) 新企画による研修旅行の成果に向けて(山口県教職員互助会事務局長 大野良兵氏) 東京初詣名所点描 柴又帝釈天</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第360号 ※つづき	平成4年 1月10日 (1992年)	(7)	<p>新年を迎えて(つづき) 年頭に想う(全修協大阪支部長 瀬尾武敏) 寿'92年(全修協兵庫県支部長 村上旭) 全修協の更なる発展を(全修協徳島県支部長 杉玲二) 研修旅行の実績向上を目指して(全修協高知県支部長 土居正実) 世相を越えて心に豊かさを(全修協愛媛県支部長 三好富士夫) 第3回中国修学旅行実地研修会を実施-昨年末に江蘇省へ- 山形新幹線は「つばさ」に 東京ディズニーランドの休園日</p> <p>(8) 春の教職員研修旅行募集始まる いい旅の思い出を残しましょう 今年の干支は申・猿 「古都-その点・線・面」[43] 西本願寺と東寺(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)</p>
第361号	平成4年 2月10日 (1992年)	(1)	<p>関東・東海・近畿公立中学校の修学旅行連合 平成五年度の輸送計画を決定 東京で積雪17cm、翌朝は震度5 [時言] 実態に即した修学旅行計画を(編集委員 北條直樹) 風紋</p> <p>(2) 国際理解教育と海外修学旅行 (文部省初等中等教育局中学校課長補佐 阪内宏一氏) 新春を迎えて[続] 旅・一言(福井県学校生活協同組合専務理事 橋本正圓氏) 中国への修学旅行に朗報 特別航空運賃を4月から通年適用へ</p> <p>(3) 旅の原点 “汽笛一声”の新橋 汐留貨物駅跡地の遺跡を発掘 首都のたより 東京都交通局が運賃を一部改定 2月5日 企画展「江戸・明治の風景と人びと」3月1日まで 交通博物館 鉄道と観光ポスター展 4月19日まで ハマのたより 早春の横浜近況 日本丸 今年の総帆展帆と満船飾 ジャパニーズドリーム 横浜～神戸航路を中止</p> <p>(4) 春の教職員研修旅行 10コース25団 好評受付中!! 大和路を語る会 2月14日千葉で開催 京都市 修学旅行懇談会を静岡、金沢、千葉、新潟で開催 京のたより 京都市内にチンチンバスが登場 知恩院の三門大修理が完成 嵐山の中州除去作業始まる 「古都-その点・線・面」[44] 神泉苑と二条城(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)</p>
第362号	平成4年 3月10日 (1992年)	(1)	<p>(財)全修協 3月4日東京・市ヶ谷で第33回評議員会を開催 新時代に向け決意新たに 国公立の幼・小・中・高 9月から第2土曜日を休業に [時言] 「東京震度五」の教訓(編集委員 中島和友) 風紋</p> <p>(2) 学校週五日制について(文部省初等中等教育局中学校課長補佐 関裕行氏) 関東地区公立中修旅委 JR・京都の旅館組合代表と意見を交換 千葉市が4月1日政令指定都市に</p> <p>(3) 近畿地区公立中修旅委 平成四年度の諸日程を協議 旧青函連絡船羊蹄丸がイタリアの「国際船と海の博覧会」へ 新幹線にニューフェース 東海道新幹線に「のぞみ」が登場 JRグループの3月14日ダイヤ改正で 山形新幹線「つばさ」は7月1日に開業 東京ドーム日本ハム戦の日程 昭和63年完成以来、修学旅行生の見学先として定着 第二・第四土曜日を休業に</p> <p>(4) 夜の京都で体験学習 平成3年は70校1万5千人が参加 京のたより 三十三間堂の観音二十八部衆像が復活／二条城本丸御殿 春の特別公開 京都御所 春の一般公開／嵐山・嵯峨野近況 「古都-その点・線・面」[45] 大極殿跡と北野天満宮(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第363号	平成4年 4月10日 (1992年)	(1)	(財)全修協主催 海外修学旅行セミナー 3月26日仙台市で開催 韓国旅行を中心に撮っておきの京都 第2回フォトコンテスト 入選作決まる [時言] 修学旅行事前指導の心構え(編集委員 北條直樹) 風紋
		(2)	京都の団体旅館が献立講習会 今年京会席料理が登場 東海道新幹線「品川新駅」建設へ トップ会談で合意 JR東日本・JR東海近鉄に新型特急22000系登場 鹿児島県への修学旅行は前年より14.9%減少 (財)全国修学旅行研究協会 平成四年度の事業活動計画
		(3)	夏季教職員研修旅行 全国ネットの20コース募集中! 長崎オランダ村ハウステンボス 3月25日オープンに先立ち事前視察会を開催 登別伊達時代村が4月23日オープン
		(4)	東京ディズニーランドの入園者は 開園以来1億1千4百万人に見学・交通ニュース 奈良写真美術館が4月14日オープン 京都「無鄰菴」の洋館を公開 京都市内のバス・地下鉄が運賃改定 4月1日 京都のチンチンバス増発 一日十五回に 都内の博物館15館でスタンプラリーを実施 4月19日まで 銀ブラバスが東京に登場 「古都-その点・線・面」[46] 船岡山と本能寺(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第364号	平成4年 5月10日 (1992年)	(1)	本年度の連合体修学旅行専用列車 第一陣がスタート 東海道新幹線東京駅で 4月13日 恒例の出発式を実施 春の修学旅行シーズン最盛期へ=東京の近況= [時言] タクシー値上げを憂慮する(編集委員 中島和友) 風紋
		(2)	「学校週五日制」について 教育委員会の考え方、学校現場の声など 修学旅行などの行事の準備時間を削減=岩手県教委= 運動会・遠足は年一回に、地域活動に関連付けも=福岡県教委=
		(3)	学校週五日制と修学旅行 東海地区学校現場の声から旅の原点 深川に松尾芭蕉像と「奥の細道」五十句が 横浜MM21のランドマークタワーが日本一の高さに 全修協本部修学旅行部長に井桁孝氏
		(4)	交通・見学ニュース 東京ディズニーランドが11月に料金を改定 山形新幹線・新千歳空港 JR東日本・北海道が7月1日ダイヤ改正 山形新幹線展を開催 交通博物館 東京・横浜のタクシー値上げ 5月26日から 京都知恩院三門 5月末まで公開 「古都-その点・線・面」[47] 京都御所と御苑(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第365号	平成4年 6月10日 (1992年)	(1)	近畿地区・関東地区公立中学校修学旅行委員会 総会を開催 近畿地区公立中学校修旅委 会長に黒澤文雄氏 関東地区公立中学校修旅委 会長に清水章夫氏 平成4年度公立校の修学旅行実施基準 海外・航空機が拡大 [時言] 学校週五日制と学校行事(編集委員 前田寛) 風紋
		(2)	「学校週五日制」家庭や地域社会の協力を=和歌山県教委= 教福研第12回総会 5/27~28 京都市で開催 本年度の修学旅行委員名 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 関東地区公立中学校修学旅行委員会 全修協人事 愛知県支部長に玉置和生氏 全高長会長大野武夫氏、全日中会長に牧野禎夫氏 (財)全修協 九州事務所が移転 中国への修学旅行 本年中は査証が無料に
		(3)	北海道と千葉の中学生が修学旅行の宿で交流会 5月21日花巻温泉 修学旅行・遠足に適地 大津市歴史博物館(滋賀)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第365号 ※つづき	平成4年 6月10日 (1992年)	(4)	夏の教職員研修旅行 満員コースが続出中!! 金閣寺の参拝志納料 来年4月から値上げ 撮っておきの京都 第3回フォトコンテスト 今年も作品を募集中!! 「古都-その点・線・面」[48] 相国寺と室町幕府(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第366号	平成4年 7月10日 (1992年)	(1)	全修協・三地区修旅連 全員参加の修学旅行を目指して 文部省に陳情 要保護・準要保護家庭とへき地校の児童生徒に国庫補助金の増額を 文部省の国際交流調査から 海外修学旅行は4年で倍増 [時言] 文化財見学の意義(編集委員 北條直樹) 風紋
		(2)	東海三県中学校修旅委 会長に柳澤伸郎氏 近畿中学校長会修旅委 委員長に安場明彦氏 (財)全修協の調査結果から[1] 旅館への荷物搬入について 全修協人事 青森県支部長に小笠原美德氏、千葉県支部長に田邊渉氏 文部省人事 事務次官に坂元弘道氏、初中局長に野崎弘氏
		(3)	全修協の夏季教職員研修旅行 7月26日から実施へ 「ありがとう運動」の具体的展開について 学校・旅館・業者が意見を交換 学校が望む旅館のサービスとは/旅館が提供できるサービスとは 新千歳空港ターミナルが7月1日オープン 東京都庁展望室 開室時間を変更 NTTが遠距離通話料を6月19日から値下げ 博覧会情報 三陸・海の博覧会、第1回ジャパンエキスポ富山'92、信州博覧会、世界祝祭博覧会
		(4)	山形新幹線が7月1日開業 JR夏のダイヤ改正 北海道と東日本は7月1日、九州は7月15日、四国は7月23日から 「古都-その点・線・面」[49] 西陣・大報恩寺・聚楽第址 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第367号	平成4年 8月10日 (1992年)	(1)	文部省学校基本調査から 幼稚園から高校まで児童生徒数は更に減少 公立学校だけの現象 関東・東海・近畿三地区公立中修学旅行連合委員会 総会 会長に黒澤文雄氏 [時言] 修学旅行の意義の再確認(編集委員 井桁孝) 風紋
		(2)	近畿日本ツーリスト協定旅館連盟修学旅行部会から(続) 学校週五日制のスタートについて(文部省初等中等教育局教科調査官 成田國英氏) サービスの理論から 修学旅行におけるサービスの向上 (立教大学社会学部観光学科教授 前田勇氏)
		(3)	京都市観光調査年報から 京都への修学旅行 平成3年は110万5千人が宿泊 (財)全修協の調査結果から[2] 水筒の必要性について 公立高の海外修学旅行 昨年度は50校が実施
		(4)	クオリティミニガイド 文化財とは 有形文化財、無形文化財、民俗資料、記念物 韓国観光ビザ手続きが大幅簡素化 東京駅八重洲北口の団体集合場所が移転 山手線全駅が8月から禁煙に JR東日本 関西汽船の新造船 さんふらわあ、こがね 8月3日から就航 「古都-その点・線・面」[50] 三条通周辺(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第368号 一部カラー印刷開始	平成4年 9月10日 (1992年)	(1)	平成5年度文部省予算概算要求決まる 修学旅行費等の補助単価は大幅増額 学校が望む旅館のサービスとは／旅館が提供できるサービスとは 学校・旅館・業者が意見交換 主張 修学旅行、その先におもいを！ (関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会会長 黒澤文雄氏) 風紋
		(2)	[修学旅行を考える] 大切な五つの心(京都 青蓮院門跡 村田弦三郎氏) 修学旅行生の作文 心に残る修学旅行(埼玉県富士見市立東中学校生徒 対馬清佳さん) 第1回韓国修学旅行実地研修会を実施 -ソウル・慶州・釜山-
		(3)	「ありがとう運動」の具体的展開について シンポジウム 学校が望む旅館のサービスとは／旅館が提供できるサービスとは 過剰サービスはマイナスに(千葉県中原中学校教諭 柿久保一男氏)
		(4)	「ありがとう運動」の具体的展開について シンポジウム(つづき) サービスは有料である(兵庫県甲子園中学校校長 中村実男氏) 人と人の触れ合いを大切に(京都 ホテル新門荘取締役社長 山内義信氏) 旅館の命はおもてなしの心(河口湖 レークサイド大屋ホテル専務取締役 中村茂氏)
		(5)	「ありがとう運動」の具体的展開について シンポジウム(つづき) 学校へ物申す勇気が大切(近畿日本ツーリスト新潟支店次長 長谷川秀雄氏) パネルディスカッション(1)
		(6)	「ありがとう運動」の具体的展開について シンポジウム(つづき) パネルディスカッション(2)
		(7)	「ありがとう運動」の具体的展開について シンポジウム(つづき) パネルディスカッション(3) 近畿地区公立中修学旅行委 能登半島へ現地研修 関東地区公立中修学旅行委 研究発表会準備対策と平成6年度輸送計画を検討
		(8)	クオリティミニガイド 文化財保存制度の沿革 情報発信基地 京都の私立大・キャンパス体験ツアーを実施 京都 秋の特別公開予定 大和路を語る会 10月6日福岡で開催 世界の建築物を一堂に 東武ワールドスクウェア 来春オープンへ 「古都-その点・線・面」[51] 山科あたり(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第369号	平成4年 10月10日 (1992年)	(1)	学校週5日制が9月12日 全国一斉にスタート 日中国交正常化20年 修学旅行生は17歳 蘇州・虎丘斜塔を見学 昨年は40校が訪中 来年度修学旅行費等の補助単価増額を 全修協と三地区修旅連が10月6日大蔵省に陳情 第7回全修協 修学旅行セミナー 9月25日名古屋で開催 主張 学校週5日制と修学旅行(広報委員 井桁孝) 風紋
		(2)	[修学旅行を考える] 情報交換を密に (東京近鉄観光バス(株)代表取締役専務 小山哲氏) 修学旅行生の作文 中国との友情を胸に (福岡県立宇美商業高等学校生徒 山本愛子さん) あおぞら号近畿地区運営協議会 岡本修一会長が留任 近畿地区公立中修学旅行委員会 全国研究大会の成功を
		(3)	平成4年9月12日<第2土曜日>各地の表情あれこれ 福岡では奉仕活動、東京の私立校は平常どおりが大多数、名古屋では模擬試験 豊橋ではウミガメ放流、関市では鶉飼教室も、大阪府は映画観賞会、 兵庫県はノー部活デー、甲子園では徹夜の行列、神戸では親の職場見学 現地研修会報告 レオマ、高梁から京都へ[上] (関東地区公立中学校修学旅行委員会監事 八木原茂雄氏)
		(4)	クオリティミニガイド 文化財保護法 情報発信基地 第4回全国生涯学習フェスティバル 宮城で開催 東京都庁が月2回ライトアップ 交通博物館 鉄道開業120年記念「鉄道錦絵の世界」展を開催 京都・大津・奈良 古都三縦走キャンペーン 3月31日まで実施 首里城公園が11月3日オープン 「古都-その点・線・面」[52] 小栗栖・醍醐・隋心院 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第370号	平成4年 11月10日 (1992年)	(1)	<p>今秋の修学旅行事情 多様化が顕著に 全国で150万人が実施 公立高の航空機利用が拡大 主張 知性を高め 感性を豊かに(広報委員 北條直樹) 風紋</p> <p>(2) 修学旅行生の作文 心に残る修学旅行 華厳の滝(横浜篠原小学校児童 杉山裕子さん) 現地研修会報告 レオマ、高梁から京都へ[下] (関東地区公立中学校修学旅行委員会監事 八木原茂雄氏) [修学旅行を考える] よこそ伊勢に!(岩戸屋取締役社長 牧戸福嗣氏) 関修委 平成6年度輸送計画を検討</p> <p>(3) 学校週五日制と特別活動 9月25日 名古屋で開催の 第七回全修協修学旅行セミナー講演要旨 (文部省初等中等教育局教科調査官 渡部邦雄氏) 修学旅行の現状と今後 修学旅行セミナー記念講演要旨 (東海旅客鉄道株式会社取締役社長 須田寛氏)</p> <p>(4) クオリティミニガイド 屋根のかたち 情報発信基地 磐越自動車道が会津坂下まで開通、東京ドーム前の特設会場でポリシヨイサーカス 京都 平安神宮 応天門の改修が完了、スペースワールド 体験学習ガイドブックを作成 教福研第13回総会を開催 「古都-その点・線・面」[53] 日野・木幡・黄檗 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)</p>
第371号	平成4年 12月10日 (1992年)	(1)	<p>(社)日本旅行業協会・旅行業者19社 ホームステイの安全確保へ適正協議会が発足 第9回全国修学旅行研究大会 神戸で11月27日に開催 視野を広げ、心豊かな人間性を育成 主張 修学旅行に思う(元全日本中学校会長 谷合良治氏) 風紋</p> <p>(2) 修学旅行生の作文 旅館のことと富士山と (和歌山県紀之川中学校生徒 西井映理菜さん) 生涯学習フェスティバル 宮城県で参加者百万人超す 次回は愛知県で開催 関修委修学旅行研究発表会 浦和で12月4日に開催 第4回海外研修セミナー“ニュージーランドホームステイ”千葉で11月20日に 修学旅行を考える 旅館業の立場から(長崎ホテル白雲荘代表取締役社長 林功氏)</p> <p>(3) 第9回全国修学旅行研究大会 研究発表要旨 よく食べ、よく学び、よく遊ぼう-信頼する・される修学旅行- (大阪府美原町立西中学校教諭 脇坂健一郎氏) 心の豊かさを求める修学旅行-人間としての在り方を基盤に- (兵庫県東光中学校教諭 平位隆昭氏) 「のぞみ」が博多へ毎時1本 平成5年3月18日JRダイヤ改正</p> <p>(4) クオリティミニガイド 屋根の形 [2] 情報発信基地 江戸東京博物館が来春3月28日オープン、東京港のレインボーブリッジは来夏開通へ 鎌倉にもレトロバス「りんどう号」が登場、京都市の「体験学習」プログラムを充実強化 龍安寺が拝観料一部改訂小学生団体も拝観可能に 「古都-その点・線・面」[54] 宇治平等院辺り (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第372号	平成5年 1月10日 (1993年)	(1)	年頭の所感 学校週五日制の定着に向け全力を(文部大臣 森山眞弓氏) 新時代感覚による修学旅行の創造を目指して (全国修学旅行研究協会理事長 山本種一) 風紋
		(2)	新春を迎えて 初松籟 寿ぐ (関東・東海・近畿三地区中学校修学旅行連合委員会会長 黒澤文雄氏) 共感と完成をはぐくむ (関東地区公立中学校修学旅行委員会会長 清水章夫氏) 修学旅行の特質と価値を大切に (東海三県中学校修学旅行委員会委員長 柳沢伸郎氏) 直接体験からの人間形成を (あおぞら号近畿地区運営協議会会長 岡本修一氏) 教育と国民生活向上への寄与を期待する (教職員福祉問題研究会会長 黒住嘉輝氏) 伊勢の式年遷宮に向けて (近畿日本鉄道(株)取締役社長 金森茂一郎氏) 新造船で信頼の船旅を (関西汽船(株)取締役社長 是則直道氏)
		(3)	思い出多い修学旅行を鉄道の旅から (北海道旅客鉄道株式会社取締役社長 大森義弘氏) 心を込めた修学旅行のお手伝いを (東日本旅客鉄道株式会社取締役社長 住田正二氏) 忘れられない思い出を東海道新幹線で (東海旅客鉄道株式会社取締役社長 須田寛氏) よりよい体験を通じて一生の思い出に (西日本旅客鉄道株式会社取締役社長 井手正敬氏) 予讃線電化で一層快適に (四国旅客鉄道株式会社取締役社長 伊東弘教氏) 九州ネットワークをさらに充実 (九州旅客鉄道株式会社取締役社長 石井幸孝氏) クオリティミニガイド 屋根のかたち [3] つのや造り
		(4)	特別活動における修学旅行の意義 [1] (文部省教科調査官 鹿嶋研之助氏) 第9回関東地区公立中学校修学旅行研究発表会 研究発表要旨 主体性を伸ばす班別行動(埼玉県富岡中学校教諭 大磯宏氏) 体験学習を通して生き方を学ぶ東北修学旅行-三年間を見通した取り組み- (埼玉県狭山市立東中学校教諭 藤川喜久男氏)
第373号	平成5年 2月10日 (1993年)	(1)	平成五年度修学旅行費等の国庫補助金政府原案が決定 第五回海外研修セミナー ニューゼalandホームステイ 1月23日、静岡市で開催 主張 スキーと修学旅行(広報委員 北條直樹) 風紋
		(2)	特別活動における修学旅行の意義 [2] (文部省教科調査官 鹿嶋研之助氏) 修学旅行生の作文 韓国にて日本を思う (苫小牧総合経済高等学校生徒 佐藤友子さん)
		(3)	修学旅行を考える 計画には時間的余裕を(東海旅客鉄道(株)営業本部販売部長 山崎徳雄氏) 配流の島隠岐 [上] (全修協常務理事・北海道支部長 高田治郎) 夏の教職員研修旅行 この夏は尾瀬へ！ 現地研修と元気回復 中国への修学旅行 今年から査証は1000円に
		(4)	クオリティミニガイド 屋根のかたち [4] ハツ棟造り 情報発信基地 東京・四谷に消防博物館がオープン 横浜・日本丸の総帆展帆と満艦飾 「京の冬の旅」キャンペーン 3月18日まで 福岡市営地下鉄が3月3日から空港へ延長 「古都-その点・線・面」 [55] 鳥羽・城南宮 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第374号	平成5年 3月10日 (1993年)	(1)	平成6年度修学旅行の連合体輸送計画決まる-関東・東海・近畿三地区中学校- 人員の減少傾向続く 主張 JRダイヤ改正と修学旅行(広報委員 中島和友) 風紋
		(2)	特別活動における修学旅行の意義 [3] (文部省教科調査官 鹿嶋研之助氏) 配流の島隠岐 [下] (全修協常務理事・北海道支部長 高田治郎)
		(3)	修学旅行生の作文-心に残る修学旅行- 平戸の文化を訪ねて(東京都立第四商業高校生 鈴木美奈さん) -修学旅行を考える- 楽しく思い出に残る空の旅を (日本航空(株)第三客室乗員部パーサー 福室美恵子氏) 韓国ビザが一時不要に、今年8月から年末まで 4月15日に開園10周年 東京ディズニーランド 東京ドーム プロ野球日本ハム戦等の日程
		(4)	クオリティミニガイド 屋根のかたち[5] 鋸(しころ)ぶき、蓋(わた)づくり 情報発信基地 「福島空港」が3月20日オープン 長野自動車道が全線開通 3月25日 江戸東京博物館と分館江戸東京たてももの園が3月28日開館 東武ワールドスクエアは4月24日オープン 奈良・正倉院の外側を4月1日から一般公開 5・10・11月の毎土曜 京都御所が参観可能に 「古都-その点・線・面」[56] 伏見・桃山(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第375号	平成5年 4月10日 (1993年)	(1)	学校週5日制で修学旅行の事前・事後の指導時間数削減を懸念 関東・東海・近畿公立中の修学旅行動向調査まとまる 撮っておきの京都 第3回フォトコンテスト 入選作が決定 主張 体験重視-修学旅行に新たな意義を (あおぞら号近畿地区運営協議会会長 岡本修一氏) 風紋
		(2)	教職員と生涯生活設計(文部省大臣官房福利課課長補佐 阪内宏一氏) 平成5年度修学旅行費等の国庫補助金が正式に決定 (財)全修協第34回評議員会を3月10日東京・市ヶ谷で開催 諸議案を承認可決 挨拶 新しい修学旅行の創造に挑戦(全修協理事長 山本種一) 会席料理も二種類 京都の旅館が献立講習会
		(3)	修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 思い出の立て干し網(大阪市西天満小学校児童 松本栄次君) -修学旅行を考える-京の旅をより有意義に (京都・清水順正代表取締役専務 上田両四郎氏) 東北地方観光宣伝協議会が修学旅行誘致事業を展開 大津市歴史博物館 内容充実・特別展も
		(4)	クオリティミニガイド 鳥居の種類[1] 情報発信基地 日光二社一寺が拝観料を改定 4月1日 上信越自動車道の藤岡～佐久69.5キロが開通 伊勢自動車道は伊勢まで全線が開通 伊勢戦国時代村が二見に 4月27日オープン 羽田空港新ターミナルビルが9月オープン 多摩21 ぐらしの祭典を開催 TAMAらいふ21 「古都-その点・線・面」[57] 新京極・寺之内・寺町 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第376号	平成5年 5月10日 (1993年)	(1)	春の修学旅行シーズン開幕 4月13日東京駅で専用列車の出発式 本年度第一陣が京都へ 神奈川県立高が航空機利用の修学旅行を開始 主張 「みどりの日」に思う(広報委員 中島和友) 風紋
		(2)	修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 旅行中のごみはすべて自宅へ (福岡県福岡中学校生徒 原田あやか・坂下暁子さん) —修学旅行を考える—自由度の高い雰囲気 (株式会社オリエンタルランド運営課マネージャー 小川稔氏) 修学旅行出発式あいさつ 奈良・京都を訪ねる3日の旅へ(茨城県土浦第一中学校生徒 齊藤大地君)
		(3)	ねらいは「徳育」がトップ 「生徒中心」の指導形態は低率 関東・東海・近畿公立中の修学旅行動向調査から 夏の教職員旅行 北海道から九州まで 全国版22コースを募集 申し込み受付中 6月9日(水)は休日に 皇太子結婚の儀 全修協人事 岩手県支部長に千葉和夫氏、三重県支部長に山中貢氏
		(4)	クオリティミニガイド 鳥居の種類[2] 黒木鳥居、神明鳥居 情報発信基地 長崎オランダ村が再開 キャンパスツアー企画書『大学のまち京都』を発行 撮っておきの京都 フォトコンテスト 作品を募集中 「古都-その点・線・面」[58] 洛中 壬生寺・六角堂・山鉾町 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第377号	平成5年 6月10日 (1993年)	(1)	「海外」航空機が更に増加 平成5年度公立校の修学旅行実施基準 「海外修学旅行」総数22県5市 「航空機利用」総数1都1道27県9市に 5月14日 大阪上本町駅であおぞらⅡ号の出発式 JR 6月8・9日は学生団体に閑散期料金を適用 主張 修学旅行の事後指導と評価(広報委員 北條直樹) 風紋
		(2)	修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 初めて乗った航空機(神奈川県立商工高等学校生徒 出口未来さん) —修学旅行を考える—修学旅行での飲み物について思うこと (東急観光(株)教育旅行部長 藤田昌大氏) 伊勢志摩がおもしろい 来年7月22日から11月6日まで108日間開催「世界祝祭博覧会」紹介
		(3)	伊勢志摩に新しい魅力誕生“志摩スペイン村” (株)志摩スペイン村営業部広報宣伝課課長 串田幹男氏) 班別行動が主流に 生徒の自主性を尊重 関東・東海・近畿公立中の修学旅行動向調査から 情報発信基地 江の島の岩屋が22年ぶりに再開 「旅の文化研究所」設立記念シンポジウムを開催
		(4)	クオリティミニガイド 鳥居の種類[3] 鹿島鳥居、春日鳥居、八幡鳥居 教職員研修旅行に25回参加して(京都福西小学校教諭 河合勝己氏) 「古都-その点・線・面」[59] 高雄・榎尾・梶尾 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第378号	平成5年 7月10日 (1993年)	(1)	平成6年度修学旅行費等の国庫補助金増額を6月16日に文部省へ陳情 全修協・三地区修旅連 (財)全修協 航空機利用修学旅行研究会を6月29日横浜で開催 主張 「試み」のある修学旅行を求めて (岐阜県美濃加茂市立西中学校長 木村康夫氏) 風紋
		(2)	修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 感動した修学旅行(岐阜県美濃加茂市立西中学校生徒 吉田誠君) 修学旅行不参加の理由は、心の病が体の病を上回る 関東・東海・近畿公立中の修学旅行実施報告を集計
		(3)	春の修学旅行シーズン終了へ 各地区修学旅行委員会が総会を開催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 会長に山本陽造氏 東海三県中学校修学旅行委員会 委員長に安藤和夫氏 関東地区公立中学校修学旅行委員会 会長に菊池正利氏 (財)全修協本部が移転 全修協人事 新潟県支部長に飯塚不二男氏
		(4)	クオリティミニガイド 鳥居の種類[4] 山王鳥居、両部鳥居 情報発信基地 日本トランスオーシャン航空がスタート 石見空港がオープン 房総特急に新型車両登場 内房・外房線を各二往復 JR東日本 京都一周トレイル東山コースがオープン 「古都-その点・線・面」[60] 山崎・天王山 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第379号	平成5年 8月10日 (1993年)	(1)	国内修学旅行の航空機利用 公立高校の増加が顕著 神奈川・群馬両県で平成六年度は60校を越す推測 主張 修学旅行の教育的意義(広報委員 北條直樹) 風紋
		(2)	関東・東海・近畿三地区修旅連 会長に安藤和夫氏 近畿中学校長会修旅委 会長に中村実男氏 近江商人の心を学ぶ「行商」を修学旅行先で-滋賀県立八幡商高一 進路校外研修の修学旅行-岡山県玉野光南高一
		(3)	<心に残る修学旅行>修学旅行先で行商体験 生徒の感想(抜粋) 伝統の行商実習を復活(滋賀県立八幡商業高等学校教諭 山口比呂美氏)
		(4)	クオリティミニガイド 神社建築[1] 情報発信基地 日本一の超高層ビル ランドマークタワーが横浜に 7月16日完成 宮崎のシーガイアにオーシャンドーム完成 東京のレインボーブリッジが8月26日に開通 ミキモト真珠島が今秋施設拡充・入場料金改定 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見[1] プロローグ (全国修学旅行研究協会理事・総局長 前田寛)
第380号	平成5年 9月10日 (1993年)	(1)	幼稚園から高校まで 児童生徒の減少続く 文部省の学校基本調査から 私立中学生は増加 秋の計画輸送が開幕 修学旅行の主役は高校2年生 主張 修学旅行先の食文化を学ぼう(広報委員 中島和友) 風紋
		(2)	日光林間学園の思い出(東京都延山小学校児童 野村あゆみさん) -修学旅行を考える- 生きた歴史を体感しよう (新東地域開発(株)日光江戸村専務取締役 秋本美樹氏) 京都への修学旅行 平成4年の宿泊者は102万人に-前年より8万5千人減- 京都市観光調査年報から
		(3)	今年も夏休みに現地研修を実施 関東地区公立中学校修学旅行委員会と近畿地区公立中学校修学旅行委員会 関修委現地研修会に参加して 修学旅行に期待する-一層の創意工夫を- 福島県・宮城県コース(茨城県水戸市立第三中学校長 菊池正利氏) 福島県・山形県コース(千葉県五井中学校長 立野和夫氏) 阿蘇・雲仙・ハウステンボスへ近畿地区公立中修旅委

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第380号 ※つづき	平成5年 9月10日 (1993年)	(4)	クオリティミニガイド 神社建築[2] 神明造、大社(おおやしろ)造 情報発信基地 東京モノレールが延長・運賃改定 レインボーブリッジへ都バスが新路線を開業 ホンダコレクションホールが鈴鹿にオープン 世界リゾート博 平成6年7月16日から9月25日まで72日間開催(和歌山) 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見[2] 吾妻鏡と鎌倉 (全国修学旅行研究協会理事・総局長 前田寛)
第381号	平成5年 10月10日 (1993年)	(1)	第8回全修協修学旅行セミナー開く 全国から280名が参加 9月14日江戸東京博物館で 羽田空港の新旅客ターミナルがオープン 9月27日 主張 新学力を培う修学旅行(広報委員 井桁孝) 風紋 (2) ー修学旅行生の作文ー 最高の思い出(名古屋市立振甫中学校生徒 藤川京子さん) あおぞら号近畿地区運営協議会 岡本修一会長が留任 長野県への修学旅行 平成二年以降は減少傾向に (3) 第8回全修協修学旅行セミナー ＝講演＝(要旨) 新学力観とこれからの学校教育(文部省教科調査官 渡部邦雄氏) ＝記念講演＝(要旨)江戸東京四百年の歴史を集めて (江戸東京歴史財団参事 吉田孝之氏) (4) クオリティミニガイド 神社建築[3] 住吉造、春日造 第5回全国生涯学習フェスティバル 愛知で開催 大和路を語る会 10月28日松江で開催 ー修学旅行を考えるー 宇宙疑似体験より((株)スペースワールド大阪支店副支店長 橋本克宏氏) 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見[3] 鎌倉概観① (全国修学旅行研究協会理事・総局長 前田寛)
第382号	平成5年 11月10日 (1993年)	(1)	平成6年度修学旅行費等の国庫補助単価増額を 全修協・三地区修旅連が大蔵省へ陳情 中学校は5万円台に 主張 修学旅行三原則の再確認(広報委員 北條直樹) 風紋 (2) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 修学旅行を終えて(和歌山県紀見北中学校生徒 田中祐子さん) 修学旅行を考える 目的の多様化に対応して (株)鈴鹿サーキットランド東京営業所 嘉門順也氏 海外研修セミナーを各地で開催 国際社会に貢献できる主体性ある日本人の育成を 韓国修学旅行セミナー、オーストラリア教育委員会との教育研修会 ニュージーランドホームステイセミナー 教福研が第15回総会を10月28日～29日 鳥羽で開催 (3) 法隆寺、姫路城に続いて京都・周辺の17社寺等を文化庁が世界遺産に推薦 法隆寺では除夜の鐘を 関東地区中修学旅行委 平成7年度の申込集計 修学旅行実施報告から、不参加理由の変遷が英字紙の記事に NTTが電話料金を改定 長距離は値下げ、公衆電話は値上げ JR東日本がダイヤを改正 12月1日 全修協の役員人事 理事に中畦肇氏 (4) クオリティミニガイド 神社建築[4] 流(ながれ)造、八幡造 情報発信基地 第61回伊勢神宮式年遷宮が完了 新空港が本郷町に10月29日オープン 皇居東御苑内に三の丸尚蔵館が開館 博覧都市江戸東京展 江戸東京博物館で開催 大津歴史博物館 平成6年の特別展示 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見[4] 鎌倉概観② (全国修学旅行研究協会理事・総局長 前田寛)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第383号	平成5年 12月10日 (1993年)	(1)	修学旅行研究大会を各地で開催—自主活動を中心に— 近畿・東海・関東の順に修学旅行委と全修協が共催 近畿地区大会は11月19日和歌山で 第10回全国修学旅行研究大会は11月26日名古屋で 主張 様変わりする修学旅行(広報委員 中島和友) 風紋
		(2)	新しい学力観に立つ指導を(文部省小学校課教科調査官 成田國英氏) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 羽田新空港を利用して(駒場東邦高等学校生徒 金川暢宏君) 修学旅行を考える 海外修学旅行に寄せて (関西汽船(株)取締役船客部長 森喬太郎氏)
		(3)	第8回近畿地区中学校修学旅行研究大会=発表要旨= 自ら学び主体的に創造する修学旅行-1日班別自主活動を通して- (奈良県三郷中学校教諭 藤田辰男氏) 班活動を生かした仲間作り-自主自立を目指して- (和歌山県妙寺中学校教諭 天野久氏) 全修協の研修旅行 来春の企画が決定
		(4)	クオリティミニガイド 神社建築[5] 権現造、日吉(ひえ)造 情報発信基地 韓国ビザ不要期間が来年末まで一年間延長 東京山手線内の全駅でゴミ分別収集 2月から 三月までの土・休日に東京散策きっぷを発売 営団地下鉄 第28回京の冬の旅キャンペーン 3月18日まで 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見 [5] 鎌倉概観<3> (全国修学旅行研究協会理事・総局長 前田寛)
第384号	平成6年 1月10日 (1994年)	(1)	年頭の所感 年頭の所感(文部大臣 赤松良子氏) 新時代にふさわしい修学旅行創造を目指して (全国修学旅行研究協会理事長 山本種一) 風紋
		(2)	新春を迎えて 「今こそ修学旅行」 (関東・東海・近畿三地区中学校修学旅行連合委員会会長 安藤和夫氏) 修学旅行に期待する(関東地区公立中学校修学旅行委員会会長 菊池正利氏) 修学旅行と新学力観(近畿地区公立中学校修学旅行委員会会長 山本陽造氏) ゆとりと自然との触合いを(あおぞら号近畿地区運営協議会会長 岡本修一氏) 教育と暮らしにゆとりとうるおいを(教職員福祉問題研究会会長 黒住嘉輝氏) 伊勢志摩、更に充実(近畿日本鉄道(株)取締役社長 金森茂一郎氏) 船旅ならではの学習と体験を(関西汽船(株)取締役社長 是則直道氏)
		(3)	一生の思い出を鉄道の旅から (北海道旅客鉄道株式会社取締役社長 大森義弘氏) 21世紀を担う子供たちへ(東日本旅客鉄道株式会社取締役社長 松田昌士氏) 歴史文化の再発見を(東海旅客鉄道株式会社取締役社長 須田寛氏) 夢と感動の体験(西日本旅客鉄道株式会社取締役社長 井手正敬氏) 本州・四国を結び安全で正確な運転を (四国旅客鉄道株式会社取締役社長 伊東弘教氏) 特急ネットワークの充実で快適な修学旅行を (九州旅客鉄道株式会社取締役社長 石井幸孝氏) 1月24日から郵便料金改定 名古屋事務所が移転
		(4)	第10回全国修学旅行研究大会研究発表要旨(平成5年11月26日・名古屋) 自主的に活用できる生徒を目指して-東京班別行動ができるまで- (愛知県南部中学校教諭 長谷川濃里氏) 買物ツアーからの脱却を-生徒の欠損体験を補う校外学習- (岐阜県緑ヶ丘中学校教諭 松田孝弘氏) クオリティミニガイド 寺院建築[1] 飛鳥時代、奈良時代、平安時代、鎌倉時代

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第385号	平成6年 2月10日 (1994年)	(1)	<p>関東地区中学校の修学旅行研究発表会水戸で開催 体験学習を通して生き方を学ぶ修学旅行 主張 世界遺産と修学旅行(広報委員 北條直樹) 文化遺産登録 今年期待の奈良県斑鳩町 法隆寺 風紋</p> <p>(2) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 車窓から見た中国(中村学園三陽高等学校生徒 原洋介君) 修学旅行を考える 思いやりのある修学旅行生(京都青蓮院 村田弦三郎氏) 魅力ある修学旅行を 岩手県教育旅行研究所が第四回修学旅行研究協議会を開催 交通機関の情報 JR北海道・JR九州が3月1日ダイヤ改正 営団地下鉄が東京見学のガイドブックを作成</p> <p>(3) 第29回関東地区公立中学校修学旅行研究発表会 研究発表要旨 生きかた・在り方を学ぶ体験学習への援助指導の試み (茨城県御所ヶ丘中学校教諭 秋田昌彦氏) 体験を通して自らの生き方を考える修学旅行への取り組み (茨城県赤塚中学校教諭 安島一之氏) アメリカンフェスティバル'94 今夏幕張で開催 春の教職員研修旅行 募集順調</p> <p>(4) クオリティミニガイド 寺院建築[2] 室町時代、江戸時代 情報発信基地 台湾が今年から120時間のノービザ滞在を許可 志賀高原の旅館は長野オリンピック期間中も修学旅行を受入れ “京都1200”大学と文化のつどいを開催 スペースワールドが料金改定 2月までに予約の学生団体は年末まで旧料金で 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見[6] 鎌倉概観④ (全国修学旅行研究協会理事・総局長 前田寛)</p>
第386号	平成6年 3月10日 (1994年)	(1)	<p>平成6年度修学旅行費等の国庫補助金政府原案が決定 総額・単価とも増額 中学校は初めて5万円に 京都のフォトコンテスト 入選決まる 昨年よりレベルアップ 主張 修学旅行と宿舎を考える(前水戸市立赤塚中学校長 八木原茂雄氏) 風紋</p> <p>(2) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 思い出の彫刻の森美術館(奈良県三郷中学校生徒 新宅美緒さん) -修学旅行を考える- 大きな感動の旅中国への修学旅行 (財)日中青少年旅行財団専務理事 村上司郎氏) 平安建都千二百年記念行事の紹介 高台寺の特別公開とライトアップ、 修学院離宮の特別参観20歳以上を対象に抽選・記載例</p> <p>(3) 平成7年度各地区中学校連合の修学旅行輸送計画決まる 大都市圏での人員減少が顕著に 私立中への進学が影響 関東地区は一校増 人員は一万二千人減 東海三県も六千人減、近畿地区も人員漸減 近畿地区も人員漸減 但馬・理想の都の祭典 4月9日開幕 兵庫県 東京ドーム プロ野球日本ハム戦等の日程 近鉄“伊勢志摩ライナー” 2月8日に試乗会</p> <p>(4) クオリティミニガイド 寺院建築[3] 時代区分判定の目安 情報発信基地 十和田湖「乙女の像」が6月までに化粧直しに 観光小辞典「京都」京都市観光協会が発行 近畿日本ツーリスト 宿泊データガイドを発刊記念セット価格で 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見[7] 梅花逍遥 (全国修学旅行研究協会理事・総局長 前田寛)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第387号	平成6年 4月10日 (1994年)	(1)	<p>全修協修学旅行セミナー 建都1200年の京都で9月27日に開催 京都商工会議所塚本会頭と(財)全修協山本理事長が会談 全修協海外セミナー“オーストラリア・ニュージーランドのホームステイ”を東京・横浜で 主張 建都千二百年と京都修学旅行(広報委員 北條直樹) 風紋</p> <p>(2) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 初めての農業体験(埼玉県三室中学校生徒 今部桂子さん) 京都の旅館が今年も献立講習会 京会席が2種類、ブレンド米の試食も -修学旅行を考える- 京の宿の経営者から (京都府旅館環境衛生同業組合団体旅館部会理事 北原茂樹氏)</p> <p>(3) 全修協第35回評議員会を3月16日東京で開催 諸議案を満場一致可決 役員は全員重任 志摩スペイン村が4月22日にオープン 全修協九州 オーストラリアホームステイ下見研修会を実施 現地の好条件を確認</p> <p>(4) クオリティミニガイド 仏像鑑賞[1] 情報発信基地 国内航空6社のダイヤ編成が2か月単位、搭乗締切は15分前に 東京外環道が関越道に直結 3月30日 横浜・日本丸の総帆展帆と満艦飾 長島温泉に世界最大級の木製コースター完成 京都・清水寺が5月8日まで夜間公開 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見[8] 五山閑寂① (国修学旅行研究協会理事・総局長 前田寛)</p>
第388号	平成6年 5月10日 (1994年)	(1)	<p>修学旅行のシーズン開幕 4月13日東海道新幹線 東京駅で出発式 本年度の連合体専用列車第一陣が京都へ 撮っておきの京都 フォトコンテスト今年も作品を募集中 主張 教職員研修旅行一万人計画の完遂を(大阪事務局長 大友恭) 風紋</p> <p>(2) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 青蓮院を訪れて(埼玉県昭和中学校生徒 川畑早百合さん) 4月13日修学旅行専用列車出発式 生徒代表挨拶(埼玉県昭和中学校生徒 江森純子さん) 建都1200年の京都に新施設が続々登場 嵯峨野ランアート、裸の大将記念館、陶板名画の庭、花の乱展示館 東海道の終点 京都三条大橋に弥次さん喜多さん像</p> <p>(3) -修学旅行を考える- 修学旅行今昔(日本教職員共済会協同組合専務理事 大西賢司氏) 平成6年春 東京・上野の修学旅行風景 夏の教職員研修旅行 北へ南へ21コース 参加者を募集中 首都の情報あれこれ 科学技術館にコンストリアム<建設館>が完成 三井物産のカルガモのひな 今年11羽誕生 東京ディズニーランドでスペシャルイベント「アラジンの大冒険」開催 首都高速道路が通行料改定 大型車は1400円に</p> <p>(4) クオリティミニガイド 仏像鑑賞[2] 釈迦如来 情報発信基地 鳥羽水族館が4月10日新装オープン 手塚治虫記念館が宝塚に 4月25日開館 JR豊肥線が復旧 5月1日から全線開通 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見[9] 五山閑寂② (全国修学旅行研究協会理事・総局長 前田寛)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第389号	平成6年 6月10日 (1994年)	(1)	平成6年度公立校の修学旅行実施基準 海外・航空機過半数の県で 今年も伊勢志摩へ 5月9日大阪上本町で近鉄「あおぞらII号」の出発式 主張 国立公園の還暦と修学旅行(広報委員 中島和友) 風紋
		(2)	修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 初めての宇宙体験(滋賀県彦根市立西中学校生徒 金戸真美さん) 修学旅行を考える 長崎でオランダの体験を (ハウステンボス(株)東京支社長 東山嘉輝氏) イベント情報 平成7年 藤原京創都1300年記念祭 奈良県橿原市で開催 平成8年 世界都市博覧会 東京臨海副都心で開催 世界・炎の博覧会 佐賀県有田地区で開催 全修協人事 山形県支部長に高橋敬氏、大阪支部長に林田昭喜氏、愛知県支部長に松山基紀氏
		(3)	関東・東海・近畿地区公立中 平成5年度修学旅行実施報告の集計・分析から 修学旅行の不参加理由は心の病が更に増大 全高長会長に増井俊明氏、全日中会長に中進士氏
		(4)	クオリティミニガイド 仏像鑑賞[3] 阿弥陀如来、薬師如来、大日如来 情報発信基地 徳川家康像が江戸東京博物館北側に完成 交通博物館 鉄道のプレート展を開催 「安土城天守」を復元 地元安土で一般公開 JR・南海 関西空港線が6月15日開業 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見[10] 五山閑寂③ (全国修学旅行研究協会理事 前田寛)
第390号	平成6年 7月10日 (1994年)	(1)	平成6年度修学旅行費等の国庫補助金 6月23日正式に決定 中学校5万円の要望が初めて結実 JR6社への修学旅行申込締切日 大幅に繰り上げ イベント情報 紀伊半島の東と西で二つの博覧会が今月開幕 まつり博・三重'94、世界リゾート博 アメリカンフェスティバル'94は幕張で開催中 第6回全国生涯学習フェスティバルは10月に富山で開催 主張 体験学習を心の糧に(広報委員 中島和友) 風紋
		(2)	修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 東京下町の職人さんに学ぶ(愛知県城山中学校生徒 岸田樹さん)
		(3)	春の修学旅行シーズン終了へ 各地区修学旅行委員会が総会を開催 関東地区公立中学校修旅委 会長に横嶋孝夫氏 東海三県中学校修旅委 委員長に吉田俊彦氏 近畿地区公立中学校修旅委 会長に山口光則氏 あおぞら号近畿地区運営協 会長に西中隆氏 近畿中学校長会修旅委 会長に吉井弘美氏
		(4)	クオリティミニガイド 仏像鑑賞[4] 観音菩薩(聖観音) 情報発信基地 東北・上越新幹線にオール2階建て編成 十和田湖の乙女の像 美しい姿で再び湖岸に メモリアルシップ摩周丸は7月20日復活 '94信州夏季学生村 9月まで申込受付中 松本空港がジェット化 7月26日から再開へ 鈴鹿・ホンダコレクションホールで第2回展 別府阿蘇道路が6月25日から無料に 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見[11] しづのおだまき① (全国修学旅行研究協会理事・総局長 前田寛)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第391号	平成6年 8月10日 (1994年)	(1)	<p>関東・東海・近畿三地区修旅連 平成6年度役員と事業計画を決定 会長に横嶋孝夫氏 主張 連合体輸送に参加しよう(広報委員 北條直樹) 風紋</p> <p>(2) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 実行委員をやって(千葉県田中中学校生徒 近藤剛君) -修学旅行を考える- 将来のよい旅人づくりのために(奈良交通(株)東京案内所長 玉置明氏) 文部省人事 高校課長に河上恭雄氏、中学校課長に石川明氏 イベント情報 京都・大文字五山送り火の点火時刻 世界・炎の博覧会 平成8年7月19日から10月13日まで87日間に</p> <p>(3) 関東・東海・近畿三地区中の平成5年度修学旅行動向調査から 班別活動が定着、週5日制の影響は減少 7月15日 全修協 志摩スペイン村へ現地視察研修会を実施</p> <p>(4) クオリティミニガイド 仏像鑑賞[5] 各種の菩薩 情報発信基地 関西国際空港が9月4日オープン JR西日本が駅名改称 東京・上野に巨大なシロナガスクジラ 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見[12] しづのおだまき<2> (全国修学旅行研究協会理事・総局長 前田寛)</p>
第392号	平成6年 9月10日 (1994年)	(1)	<p>平成7年度修学旅行費等の国庫補助金増額を陳情 8月25日に文部省へ 全修協・三地区修旅連 文部省の学校基本調査から 児童生徒数が更に減少 私立小・中学校は微増 主張 テーマパークでの学習(広報委員 中島和友) JR 平成8年春の修学旅行申込締切日を変更 風紋</p> <p>(2) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 私の校外研修-立教大学を訪ねて- (岡山県玉野光南高等学校生徒 大西美穂子さん) 進路校外研修を毎年実施 玉野光南高 海外修学旅行が増加 文部省の平成4年度高校の国際交流状況調査から 京都市観光年報から 京都への修学旅行平成5年度の宿泊者は104万51千人 9年ぶり増加へ</p> <p>(3) 今年も夏休みに現地研修を実施 関修委現地研修報告 宮城・岩手の恵まれた自然環境と文化 (埼玉県所沢市立東中学校長 丹生忠三氏) 全修協・近畿地区公立中修旅委 体験学習に熱心な石川県へ現地研修 全修協・第6回中国修学旅行実地研修会を実施 北京・南京・蘇州・上海へ</p> <p>(4) クオリティミニガイド 仏像鑑賞[6] 石造物いろいろ<1> 石仏① 情報発信基地 東京駅の「銀の鈴」が地下中央通路へ移転 「世界都市博覧会」の入場券前売を開始 全国都市緑化きょうとフェア 9月23日開幕 京都御所秋の一般公開 修学院離宮の特別参観 11月にも抽選で実施 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見[13] しづのおだまき<3> (全国修学旅行研究協会理事・総局長 前田寛)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第393号	平成6年 10月10日 (1994年)	(1)	第9回全修協修学旅行セミナー「修学旅行で学ぶ」テーマに9月27日に京都で開催 主張 同窓会の話題に思う(広報委員 北條直樹) 風紋
		(2)	修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 関西空港から北海道へ(成徳学園高等学校生徒 織田さなえさん) 沖縄県への修学旅行 平成5年は更に増加 650校 11万人 平成5年度長野県への修学旅行 スキーが増加、1000校超す 全修協人事 栃木県支部長に大野信一氏
		(3)	今年も夏休みに現地研修を実施 近畿地区公立中修旅委 箱根・富士へ現地研修 自然と歴史を再認識 全修協九州事務所 第2回韓国修学旅行実地研修会を実施 関東地区公立中修旅委 青森・秋田へ現地研修 古代遺跡と文化遺産
		(4)	クオリティミニガイド 仏像鑑賞[7] 石造物いろいろ<2> 石仏② 情報発信基地 JR旅客5社が12月3日にダイヤ改正 東京駅の貸切バス乗降場所が変更 芭蕉没後300年記念展「芭蕉と近江の門人たち」大津市歴史博物館で開催 東京都庁舎の展望室10月22日(土)は見学不可 スペースワールドが今秋から年中無休に 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見[14] 萩花蕭条 (全国修学旅行研究協会理事・総局長 前田寛)
第394号	平成6年 11月10日 (1994年)	(1)	(財)全修協・三地区修旅連 平成7年度修学旅行費等の国庫補助単価増額を10月12日大蔵省陳情 第11回全国修学旅行研究大会 10月28日宇都宮で テーマは「主体的に活動し自ら学ぶ修学旅行」 主張 修学旅行で学ぶ(広報委員 井桁孝) 風紋
		(2)	修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 志摩スペイン村(大阪市北巽小学校児童 安田裕樹君) 修学旅行を考える 見る・知る・感じるスペイン パルケエスパーニャ (株)スペイン村販売促進部長 萬波康正氏) 関東地区公立中学校修学旅旅委 平成8年度の申込を集計 減少は最小限に 第6生涯学習フェスティバルが閉幕 次回は北海道で開催
		(3)	第9回全修協修学旅行セミナー 講演要旨 修学旅行と地域文化(文部省教科調査官 渡部邦雄氏) 記念講演 歴史都市の修学旅行(武庫川女子大学教授 森谷尅久氏)
		(4)	クオリティミニガイド 仏像鑑賞[7] 石造物いろいろ<3> 道祖神 情報発信基地 韓国ビザ不要期間来年へ継続が決定 東京・明石町に新名所 聖路加ガーデンが完成 首都高速道路渋谷線が11/19～23全面通行止 大阪～鳥取を短絡 智頭急行が12/3開業 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見[15]他氏排斥 (全国修学旅行研究協会理事・総局長 前田寛)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第395号	平成6年 12月10日 (1994年)	(1)	平成7年度から学校週5日制を月2回に、文部省が各都道府県教委に通知 第二、第四土曜日休業 私学、修学旅行に課題残る 主張 月二回の週5日制と修学旅行(編集委員 北條直樹) 全修協の研修旅行 来年度企画が決定 全修協人事 岐阜県支部長に福井信郎氏 風紋
		(2)	修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> うどん教室奮闘記(十文字高等学校生徒 林真衣さん) 第11回全国修学旅行研究大会 研究発表・講演要旨 三年間を見通し自ら学びとる力の育成を目指す修学旅行 (栃木県市貝中学校教諭 田上富男氏) 研究テーマの設定を中心に生徒自らが計画した修学旅行の実践 (栃木県豊郷中学校教諭 古田真隆氏)
		(3)	第11回全国修学旅行研究大会 研究発表・講演要旨(つづき) 講演要旨[上] 修学旅行の起源から体験学習まで (文部省初中局中学校課課長補佐 大槻達也氏)
		(4)	クオリティミニガイド 仏像鑑賞[8] 石造物いろいろ<4> 石塔 情報発信基地 角館歴史村・青柳家に「ハイカラ館」が完成 JR仙山線が復旧11月17日から全線開通 首都高速道路「鶴見つばさ橋」が12/21開通 世界祝祭博覧会が閉幕 京都・平安建都1200年のクロージングイベント 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見[16] 古都秋霜 (全国修学旅行研究協会理事・総局長 前田寛)
第396号	平成7年 1月10日 (1995年)	(1)	年頭の所感(文部大臣 与謝野馨氏) 創立四十周年に期す(全国修学旅行研究協会理事長 山本種一) 風紋
		(2)	新春を迎えて 体験学習と集団学習 (関東・東海・近畿三地区中学校修学旅行連合委員会会長 横嶋孝夫氏) 修学旅行の在り方(東海三県中学校修学旅行委員会委員長 吉田俊彦氏) 行事の精選と修学旅行 (近畿地区公立中学校修学旅行委員会会長 山口光則氏) 新たな修学旅行の創造を(あおぞら号近畿地区運営協議会会長 西中隆氏) 研修旅行の更なる拡充を(教職員福祉問題研究会会長 黒住嘉輝氏) スペイン文化を楽しく学習(近畿日本鉄道(株)取締役社長 田代和氏) 道中主義の船旅で体験学習を(関西汽船(株)取締役社長 是則直道氏)
		(3)	新春を迎えて(つづき) 心に残る修学旅行のお手伝いを (北海道旅客鉄道株式会社取締役社長大森義弘氏) 鉄道新時代の修学旅行に向けて (東日本旅客鉄道株式会社取締役社長 松田昌士氏) 新しい日本の旅へ(東海旅客鉄道株式会社取締役社長 須田寛氏) 心の触れ合う体験(西日本旅客鉄道株式会社取締役社長 井手正敬氏) 瀬戸内海を渡る交流(四国旅客鉄道株式会社取締役社長 伊東弘敦氏) 多彩な観光地に向けて快適な修学旅行を (九州旅客鉄道株式会社取締役社長 石井幸孝氏) 京都の文化財17社寺・城が世界文化遺産に
		(4)	クオリティミニガイド 仏像鑑賞[9] 石造物いろいろ<5> 石塔② 第11回全国修学旅行研究大会 講演要旨[下] 自主見学・五日制・マルチメディア (文部省初中局中学校課課長補佐 大槻達也氏)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第397号	平成7年 2月10日 (1995年)	(1)	平成7年度修学旅行費等の国庫補助金政府原案が決定 総額・単価とも増額 中学校は52,800円に 近畿地区公立中学校修学旅行研究大会を1月20日長岡京市で開催 「視野を広げ、自ら学ぶ意欲を高め、心豊かな人間性を育成する修学旅行」をテーマに 主張 阪神大震災を見舞う(広報委員 中島和友) 風紋
		(2)	修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 九州三日間の思い出(滋賀県南郷中学校生徒 福島早智江さん) 初めて見た富士山(京都府南桑中学校生徒 大西志麻里さん) 阪神大震災 神戸地区通過の鉄道が不通に JR学校団体に特別措置 阪神大震災によるJRの不通区間 近畿地区中の修学旅行輸送計画 平成8年度は12万3千名に 今春分の地震対策会議も 北海道修学旅行懇談会を広島と松山で開催 台湾修学旅行セミナー 3月7日東京で開催 文部省人事 事務次官に野崎弘氏、初中局長に井上孝美氏、教育助成局長遠山耕平氏
		(3)	第9回近畿地区公立中学校修学旅行研究大会 研究発表要旨 生徒一人ひとりが体験活動を通して喜びと感動を実感できる修学旅行をめざして (滋賀県南郷中学校教諭 草野圭夫氏) 最上級生としての自覚を促す修学旅行の取り組み (京都府南桑中学校教諭 小嶋恒夫氏) 情報発信基地[1] 国内航空6社の座席予約が2か月前からに 台湾のノービザ滞在今年から14日以内に 東京の班別自主見学のチェックポイントにマクドナルドの店舗を ハウステンボスが「修学旅行フリーパスポート」を新設
		(4)	クオリティミニガイド 石造物いろいろ<6> 石塔③ 情報発信基地 [2] 「大学と文化のつどい」京都で今春も開催 鎌倉シネマワールド10月開業に向け上棟式 鈴鹿サーキットに温泉「クア・ガーデン」が誕生 横浜・日本丸の総帆展帆と満艦飾 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見[17] やぐら幽遠① (全国修学旅行研究協会理事・総局長 前田寛)
第398号	平成7年 3月10日 (1995年)	(1)	近修委 学校の希望調査やJRへの要請 震災に緊急対応 近畿中学校平成7年度の修学旅行はほぼ予定通り実施へ 撮っておきの京都 フォトコンテスト 修学旅行の部入選作決まる 主張 被災地の子供に修学旅行を(広報委員 北條直樹) 風紋
		(2)	修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> もう一度体験したい修学旅行(群馬県新治中学校生徒 高橋恵理さん) 阪神大震災による影響 福岡・平尾中 関西修学旅行を断念、蒜山へスキーに 山陽新幹線・東海道本線の復旧は連休過ぎに JR各社がダイヤ改正 西日本は4月20日に、東日本の東北地区は3月24日、西日本は4月20日 旅券の有効期間が10年に、7月20日が祝日に 改正法が成立
		(3)	全国高等学校の修学旅行実態調査から[1] 平成5年度は92%が実施 (財)全修協 夏季教職員研修旅行に海外特別企画を設定-創立40周年を記念して- イベント情報 TAP岐阜・滋賀観光キャンペーンが開幕 藤原京創都1300年記念祭 ロマントピア藤原京'95 3月29日から橿原市で 東京ドーム プロ野球日本ハム戦等の日程 ハウステンボスのシーズンイベント
		(4)	クオリティミニガイド 五街道[1] 情報発信基地 東京都写真美術館が恵比寿ガーデンプレイスに再オープン 東京都営交通が3月1日から運賃改定 京浜地区のタクシーも3月18日から650円に 京都御所春の一般公開 4月7日～11日に 宝塚大劇場は三月末に、パウホールと手塚治虫記念館は既に復旧再開 香川県が「修学旅行ガイドかがわ」を作成 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見[18] やぐら幽遠② (全国修学旅行研究協会理事・総局長 前田寛)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第399号	平成7年 4月10日 (1995年)	(1)	<p>震災で不通のJRが全面復旧 修学旅行も予定どおりに 在来線は4月1日、新幹線は8日に開通 山梨県立高も海外へ 全修協海外修学旅行セミナー 3月17日に甲府で開催 主張 自主活動中の安全確保を(広報委員 中島和友) 海外研修セミナー ニュージーランドホームステイ 全修協が東京と横浜で開催 風紋</p> <p>(2) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 愛と涙と感動の交流会(埼玉県浦和市立高校生徒 酒井歩子さん) 生徒の好みは肉料理 健康食品も配慮 京都の旅館が恒例の献立講習会ひらく あおぞら号近畿地区運営協 輸送・宿泊・見学について伊勢志摩の関係者と協議 関東地区公立中学校修旅委 新年度へ向けて一層の相互協力を 関修委 OB会を結成</p> <p>(3) 藤原京創都1300年記念 ロマンピア藤原京'95 橿原市で3月9日開幕 <地震・津波・噴火をカバー>修学旅行傷害保険に天災危険保障プラン 全国高等学校の修学旅行実態調査から [2] 海外旅行は西高東低 夏の教職員研修旅行参加者を募集中 国内は20コース</p> <p>(4) クオリティミニガイド 五街道 [2] 起点のお江戸日本橋 情報発信基地 小岩井農場で今年から各種「体験学習」を しながわ水族館へ日の出棧橋から定期船 箱根の早雲山ケーブルカーが新型車両に TAP岐阜・滋賀フリーきっぷを発売 JR 洛北八瀬・鞍馬への叡山電鉄が運賃改定 山口県が修学旅行誘致ガイドブックを作成 クレインパークいずみ・ツル博物館が出水市に 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見[19] 古都春彩 (全国修学旅行研究協会理事・総局長 前田寛)</p>
第400号	平成7年 5月10日 (1995年)	(1)	<p>春の修学旅行シーズンが開幕 東海道新幹線で京都へ 関東地区中学校 4月13日に東京駅で専用列車の出発式 撮っておきの京都 フォトコンテスト 今年も作品を募集中 主張 心に残る修学旅行(広報委員 北條直樹) 風紋</p> <p>(2) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 思い出深い修学旅行(千葉県市川市立第二中学校生徒 美濃部雅子さん) 修学旅行専用列車出発式 4月13日 生徒代表あいさつ (千葉県西原中学校 坂本忍さん) 大都会への修学旅行は安全確保を第一に 国内航空運賃の事前購入割引がスタート</p> <p>(3) 全国高等学校の修学旅行実態調査から [3] 80%が宅配便利用 旅行実施は土・日を避けて 北関東・甲信越静の小学校修学旅行調査から イベント情報 “東京フロンティア”世界都市博は中止か 将軍吉宗まつり 日光江戸村で開催中 大津市歴史博物館特別展等決まる しあわせランド四国キャンペーンを開催 世界炎の博覧会 平成8年7月19日から10月13日まで87日間に 全修協夏の教職員研修旅行 参加者を募集中</p> <p>(4) クオリティミニガイド 東海道[1] 情報発信基地 日本道路公団 高速道路料金値上げを実施 「旅フェア'95」開催 来場者は11万人超す 岐阜県が修学旅行ガイドブックを作成 スペースワールドが4月22日 開園5周年 新刊紹介 「邂逅—入江泰吉仏像写真の世界」 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見[20] 古都の余滴 (全国修学旅行研究協会理事・総局長 前田寛)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第401号	平成7年 6月10日 (1995年)	(1)	平成7年度公立校の修学旅行実施基準 航空機・海外の前進続く-中学の韓国施行も- 小学生は伊勢志摩へ 近鉄「あおぞらⅡ号」出発式 5月18日、大阪上本町で 主張 全修協四十年に思う(編集委員 全修協理事・総局長 前田寛) 風紋
		(2)	修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 地震被災地から長崎へ(兵庫県潮見中学校生徒 坂田乙佳さん) 関東地区公立中学校修旅委 6月1日に総会を開催 会長に篠澤喜雄氏 教福研第18回総会 5/10～11京都市で 会長に長野猛彦氏 (財)全修協の新業務体制
		(3)	おかげさまで6月25日 全修協は創立40周年 全修協40周年の歩み(抜粋) 平成7年春の修学旅行スナップ三題 全修協創立40周年記念事業 各教職員研修旅行海外特別企画 申込み順調
		(4)	クオリティミニガイド 東海道[2] 情報発信基地 「世界都市博」が中止に 東京都水道歴史館が本郷にオープン 中央線東京駅が重層化 7月2日から3階へ 大阪～神戸間の鉄道が6月中に全線復旧へ 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見(21) 露坐仏有情【1】 (全国修学旅行研究協会理事 前田寛)
第402号	平成7年 7月10日 (1995年)	(1)	第5回海外研修セミナー ニュージーランドホームステイ 6月30日名古屋市で 春の修学旅行シーズン閉幕へ 最終帰着は7月12日 主張 新しい学力観に立った修学旅行の創造を (あおぞら号近畿地区運営協議会会長 西中隆氏) 風紋
		(2)	修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 真珠養殖について(大阪市立中央小学校児童 吉田結香さん) 近畿地区公立中学校修旅委 会長に木下脩三氏 文部省人事 高校課長に伊勢呂祐史氏、中学校課長に加茂川幸生氏 全修協人事 新潟県支部長に酒井徳成氏 全連小会長に薩日内信一氏
		(3)	東海三県中学校修旅委 委員長に青木一氏 近畿中学校修学旅行委 委員長に山口光則氏 全修協の夏季研修旅行 募集締切り・実施迫る 全修協 全国、公・私立高等学校修学旅行実態調査の結果 まとめの冊子が完成
		(4)	クオリティミニガイド 中山道[1] 情報発信基地 長野県が修学旅行ガイドブックを作成 大手私鉄が運賃改定 9月1日から実施 神戸地区の鉄道不通区間 7月5日現在 JR東海・西日本 子供向け'95夏休み新幹線キャンペーンを展開 JR北海道 深名線が9月3日限り廃止に 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見[22]露坐仏有情【2】 (全国修学旅行研究協会理事・総局長 前田寛)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第403号	平成7年 8月10日 (1995年)	(1)	<p>関東・東海・近畿三地区公立中修旅連 平成7年度役員と事業計画を決定 会長に木下脩三氏 JRがダイヤ改正 来年の修学旅行に影響も 主張 交通機関の変遷と修学旅行(広報委員 中島和友) 風紋</p> <p>(2) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 京都・奈良への初めての旅(武蔵村山市立第一中学校生徒 山辺哲君) 全修協の夏季研修旅行-実施も残すところあとわずか- 京の夏の風物詩 祇園祭の宵々山 三地区修旅連有志が見学 近畿中学校修学旅行委 9年度申込は10月27日締切 8年度はダイヤ改正の影響も イベント情報 TAP栃木・群馬観光キャンペーンが開幕</p> <p>(3) 公立高の海外修学旅行 平成6年度の増加顕著 全修協の調査結果を朝日新聞が報道 関東・近畿地区中学校の平成6年度動向調査から 「今後も修学旅行継続」が100%</p> <p>(4) クオリティミニガイド 中山道[2] 情報発信基地 宮崎県が修学旅行のガイドブックを作成 九州自動車道が全通 青森～鹿児島が一本に 北陸新幹線工事に伴い上越新幹線に区間運休 旅券法が11月改正 20歳以上は10年旅券も 世界都市博の前売入場券払戻しは12月末まで 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見[23] 七坂七口【1】 (全国修学旅行研究協会理事・総局長 前田寛)</p>
第404号	平成7年 9月10日 (1995年)	(1)	<p>平成8年度修学旅行費等の国庫補助金増額を陳情 全修協と三地区修旅連文部省へ8月14日に 平成7年度文部省の学校基本調査から 学年別の児童生徒数 中1以外はすべて減少 私立校は増加傾向 主張 変えなければならないもの、変えてはならないもの (関東・東海・近畿三地区修旅連会長 木下脩三氏) 風紋</p> <p>(2) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 東京・横浜・小浦を体験して (名古屋市立千種中学校生徒 青山恵美・石丸友子さん) 日本旅行業協会に修学旅行委員会を設置 (財)日中青少年旅行財団 中国修学旅行セミナー 福岡・大阪・東京で開催 京都市観光調査年報から 平成6年の修学旅行、前年より1割増加 全修協人事 静岡県支部長に増田博史氏</p> <p>(3) 沖縄県観光要覧から 沖縄へは13万3千人 昨年の修学旅行、前年より2割増加 近畿地区公立中学校修旅委 北九州・山口へ現地研修 大宇宙と明治維新を体験</p> <p>(4) クオリティミニガイド 日光街道 情報発信基地 法務史料展示室が東京・桜田門に解説 私鉄運賃改定に伴い一日乗車券も値上げ 京都御所の一般公開、今秋は10月6日～10日に 「桃山の春・光悦展」京都市文化博物館で開催 9月からJR九州の普通・快速が全面禁煙に 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見[24] 七坂七口【2】 (全国修学旅行研究協会理事・総局長 前田寛)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第405号	平成7年 10月10日 (1995年)	(1)	<p>第10回全修協修学旅行セミナー 9月19日に名古屋で開催 「修学旅行で培う生涯学習への道」テーマに 主張 修学旅行で培う生涯学習への道(基調提案から) (全修協 鴻田好通) 風紋</p> <p>(2) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 長崎への旅の収穫(兵庫県東谷中学校生徒 平方宏朋君) 関東地区公立中修旅委 平成9年度申込を集計 804校147,000人に あおぞら号近畿地区運営協 会長に西中隆氏を再選 平成9年度申込は11月20日までに 全修協大阪事務局が移転 9月25日</p> <p>(3) 関東地区公立中学校修旅委東北現地研修会に参加して 岩手・青森の情熱に敬服(関修委運営委員長 新井俊雄氏) 「まごころ秋田」を実感(関修委事務局長 田口静夫氏) 交通情報 「なすの」号30本を新設 東北新幹線が大幅ダイヤ改正 12月1日実施 道東・上信越・秋田高速道路が続々開通 富士宮道路は無料に</p> <p>(4) クオリティミニガイド 奥州街道 情報発信基地 「かわらミュージアム」近江八幡市に誕生 松竹シネマワールドが10月10日オープン 葛飾北斎展 江戸東京博物館で開催中 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見[25] 静閑の古寺 (全国修学旅行研究協会理事・総局長 前田寛)</p>
第406号	平成7年 11月10日 (1995年)	(1)	<p>(財)全修協・三地区修旅連 平成8年度修学旅行費・校外活動費の国庫補助単価増額を 10月12日大蔵省へ陳情 主張 修学旅行専用電車「あおぞら号」33年と今後の修学旅行 (広報委員 北條直樹) 風紋</p> <p>(2) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 歌声にあふれた修学旅行(大阪府長野中学校生徒 西端克哉君) 長野県への修学旅行 平成6年度は13%減 阪神大震災がスキーに影響 JR北海道・四国・九州が運賃改定を申請 晩秋のたより 東京・臨海副都心へ“ゆりかもめ”が開通 京都の紅葉最盛期へ</p> <p>(3) 第10回全修協修学旅行セミナー講演要旨 修学旅行で培う生涯学習への道(文部省教科調査官 鹿嶋研之助氏) 平成6年度関東・東海・近畿三地区公立中修旅連の実施報告から 連合体輸送加盟率は59%</p> <p>(4) クオリティミニガイド 甲州街道 情報発信基地 韓国ビザ不要 更に来年へ延長が決定 上信越自動車道の須坂～中野が11月末開通へ 金精道路は無料に 大阪人権博物館 12/5にリニューアルオープン 東京ディズニーランドが来年4月に料金改定 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見[26] 幕府三遷 (全国修学旅行研究協会理事・総局長 前田寛)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第407号	平成7年 12月10日 (1995年)	(1)	第12回全国修学旅行研究大会 11月28日大阪で開催 テーマは「体験を重視し自ら学ぶ意欲を高め心に残る修学旅行を求めて」 各地から370名が参加 第31回関東地区公立中学校修学旅行研究発表会 12月7日前橋で開催 主張 JRのダイヤ改正と修学旅行(広報委員 中島和友) 風紋
		(2)	修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 韓国修学旅行の感想 (福岡市住吉中学校生徒 高山裕貴・樋口与将君、松村まどかさん) 韓国人はとても親切/異文化をいろいろと体験/同世代と楽しく交流 全修協 教職員研修旅行の来年度企画を決定 関東地区公立中学校修学旅行委 平成9年度は808校に 11月24日出発日を公表 東海三県中学校修学旅行委 平成9年度申込は492校・94,728人に 霊峰富士三態
		(3)	第12回全国修学旅行研究大会 研究発表要旨 生徒の主体性を重んじた修学旅行の創造 (大阪府長野中学校教諭 中山宏・伝刀永一氏) 修学旅行を通して自治、学習、友情を高める (兵庫県東谷中学校教諭 江口直宏氏)
		(4)	クオリティミニガイド 宿場 情報発信基地 奈良の春日大社が式年創造替工事を完了 ふるさとプラザ東京が原宿にオープン サトーハチロー記念館が11月末日に閉館 来年北上市で再開予定 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見[27] 石の鎌倉【1】 (全国修学旅行研究協会理事・総局長 前田寛)
第408号	平成8年 1月10日 (1996年)	(1)	平成八年 年頭の所感(文部大臣 島村宣伸氏) 二十一世紀を展望する修学旅行の創造を目指して (全修協理事長 山本種一)(遺稿) 山本種一理事長逝く 89歳 風紋
		(2)	新年を迎えて 親の願い、生徒の期待に (関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会会長 木下脩三氏) 「自分の修学旅行」を創ろう (関東地区公立中学校修学旅行委員会会長 篠澤利喜雄氏) 時代に即応するために (東海三県中学校修学旅行委員会委員長 青木一氏) 新学力観に立った修学旅行の創造を (あおぞら号近畿地区運営協議会会長 西中隆氏) 研修旅行の向上を目指して(教職員福祉問題研究会会長 長野猛彦氏)
		(3)	新年を迎えて(つづき) 話題集まる伊勢志摩(近畿日本鉄道(株)取締役社長 田代和氏) 瀬戸内海の船旅を通して体験学習を(関西汽船(株)取締役社長 是則直道氏) 特急列車の充実で思い出の修学旅行を (北海道旅客鉄道株式会社取締役社長 大森義弘氏) 未知との体験を修学旅行で (東日本旅客鉄道株式会社取締役社長 松田昌士氏) 歴史・文化の再発見を(東海旅客鉄道株式会社取締役社長 葛西敬之氏) 「心の絆を深める」修学旅行のお手伝いを (西日本旅客鉄道株式会社取締役社長 井手正敬氏) 四国再発見の旅(四国旅客鉄道株式会社取締役社長 伊東弘敦氏) JR九州の総合力で修学旅行のお手伝いを (九州旅客鉄道株式会社取締役社長 石井幸孝氏) JR北海道・四国・九州が1月10日運賃改定 特急料金は据置き JR各社がダイヤ改正 3月16日実施
		(4)	第31回関東地区公立中学校修学旅行研究発表会 研究発表要旨 集団の行動力を求める修学旅行 (群馬県渋川市立北中学校教諭 今成保治氏) 主体性を育てる修学旅行の実践(群馬県池田中学校教諭 田村正紀氏) 岐阜県・富山県の合掌造りが世界遺産に 日本で6件目の登録 埼玉・千葉の県立高が国内航空機利用可能に

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第409号	平成8年 2月10日 (1996年)	(1)	平成8年度修学旅行費等の国庫補助金政府原案が決定 実態に合わせて総額・単価とも増額 文部大臣に奥田氏、政務次官は日下部禧代子氏、事務次官は井上孝美氏に 1月7日(財)全国修学旅行研究協会 故山本種一理事長の葬儀 関係者多数が参列 主張 修学旅行の平準化を考える(広報委員 中島和友) 風紋
		(2)	修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 学校祭とつなげ事前学習を生かして(愛美学園美濃加茂高等学校) 折り鶴一万羽と長崎へ(今瀬裕美子さん) 三教科で事前学習(井戸宏子さん) 踏み絵も是非見たい(宮嶋雅代さん) 近畿地区中の修学旅行輸送計画決定 平成9年度は11万8千人余に 九州方面が微増 関東、信州・北陸は減 全修協 オーストラリア、ニュージーランド海外研修セミナー 関東各地で開催
		(3)	第31回関東地区公立中学校修学旅行研究発表会 講演要旨 これからの学校教育と修学旅行の果たす役割 (文教大学教授 高橋哲夫氏) 思い出の旅 大草原モンゴル紀行[上] (全修協常務理事・北海道支部長 高田治郎)
		(4)	クオリティミニガイド 関所 情報発信基地 大和路を語る会 2月15日仙台で開催 北海道修学旅行懇談会 横浜・大阪・金沢で開催 東京に鉄道新線続々開業 自主見学も多彩に 横浜・日本丸の総帆展帆と満艦飾 鳥羽ぶらじる丸が閉館 唐招提寺が拝観料改定 スペースワールドに新施設誕生 3月2日 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見[28] 石の鎌倉【2】 (全国修学旅行研究協会理事長代行 前田寛)
		(5)	(財)全国修学旅行研究協会 故山本種一理事長をしのんで 弔辞 (池田市長 倉田薫氏) (全修協常務理事 高田治郎) お別れのことば (全修協理事長代行 前田寛) ご逝去を悼む (全修協常務理事 鈴木力) 山本理事長を悼む (教職員福祉問題研究会会長 長野猛彦氏)
		(6)	山本種一先生をしのぶ (京都教弘友の会幹事長 明賀猛氏) 互助組合の生みの親 (財)大阪府教職員互助組合参与 神代義秀氏) 故山本理事長追悼記 (近畿日本ツーリスト(株)副社長 玉中秀明氏) 先生との出会い (全国修学旅行研究協会大阪事務局長 大友恭) 生涯を教育に尽くした人 (元全国修学旅行研究協会専務理事 白滝末紀氏) 弔電

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第410号	平成8年 3月10日 (1996年)	(1)	<p>文部省の国際交流状況調査から 高校の海外修学旅行平成6年度は95,010人に 在籍生徒の5%超す 行先国は韓国、中国、米国の順 撮っておきの京都フォトコンテスト 修学旅行の部入選作が決定 主張 修学旅行で校種間の連携を(広報委員 北條直樹) 風紋</p> <p>(2) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 信州・北陸旅行の思い出(京都府長岡第四中学校生徒 村田のぞみさん) 第12回全国修学旅行研究大会 講演要旨 修学旅行における体験学習[上] (文部省教科調査官 鹿嶋研之助氏)</p> <p>(3) 平成6年度文部省の高校国際交流調査から 海外留学は11%減 3ヶ月未満の研修は微増 修学旅行は神戸へ!! 総理府復興対策本部が要請 中突堤は3月20日復旧 高知県立高が海外修学旅行可能に 旅行業法が改正 4月1日から施行 春の教職員研修旅行申し込み締め切る 思い出の旅 大草原モンゴル紀行[下] (全修協常務理事・北海道支部長 高田治郎)</p> <p>(4) クオリティミニガイド 脇往還[1] 本坂道、佐屋路、美濃路、伊勢路、水戸道、日航例弊使街道、壬生道 情報発信基地 「知的な旅を楽しむ」シンポジウムを開催 NHK放送博物館がリニューアルオープン 東京ドーム プロ野球日本ハム戦などの日程 京都御所春の一般公開 4月4日～8日に ハウステンボスのシーズンイベント 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見[29] 故寺無辺 (全国修学旅行研究協会理事長代行 前田寛)</p>
第411号	平成8年 4月10日 (1996年)	(1)	<p>様変わりする修学旅行 班別行動が主流に 中学校の平成6年度調査から - 集団行動も大切 - 87%が自主見学を実施 京都で今年も献立講習 生徒向け京会席など 全修協 鈴木力常務が理事長に 前田総局長が専務理事、谷合・安部・林田の三氏が理事に 故山本理事長の遺志「21世紀を展望する修学旅行の創造」を实らせるために (全修協理事長 鈴木力) 風紋</p> <p>(2) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 彼の笑顔から学んだこと(新潟県糸魚川東中学校生徒 万治淳史君) 第12回全国修学旅行研究大会講演要旨 修学旅行における体験学習 [下] (文部省初等中等教育局教科調査官 鹿嶋研之助氏)</p> <p>(3) 修学旅行と東海道新幹線 (東海旅客鉄道(株) 取締役営業本部長 山崎徳雄氏) 全修協の第36回評議員会 諸議案を満場一致可決 全修協 夏の教職員研修旅行 募集を開始 国内16、海外5コース 新支部長紹介 茨城県支部長に八木原茂雄氏、兵庫県支部長に土居克己氏、 滋賀県支部長に山森正氏</p> <p>(4) クオリティミニガイド 脇往還 [2] 日光御成道、佐倉道、山陽道、山陰道、長崎道、北国路、北国街道 情報発信基地 啄木生誕110年・賢治生誕100年記念行事を開催 岩手県内 青函連絡船「羊蹄丸」船の科学館で公開 東京臨海副都心の近況 新宇治橋が三月末完成 阪九フェリーに新造船 神戸港中突堤が復旧 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見 [30] 小社静彦 (全国修学旅行研究協会専務理事 前田寛)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第412号	平成8年 5月10日 (1996年)	(1)	春の修学旅行シーズン開幕 連合体専用列車のトップは関東地区中学校 恒例の出発式 4月13日に東京駅で フォトコンテスト 撮っておきの京都 作品を募集中!! 主張 海外修学旅行を考える(全修協理事長代行・専務理事 前田寛) 風紋
		(2)	修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 感動の三日間(栃木県雀宮中学校生徒 黒崎宏則君) 出発式 生徒代表あいさつ 「JRのみなさんお世話になります」(茨城県下根中学校生徒 坂本武司君) 「知的な旅を楽しむ」歴史街道推進協議会がシンポジウム 4/3 「わかば奨学金基金」震災遺児への奨学金に協力と援助を 兵庫 京都府警「修学旅行のてびき'96」を作成 茨城県立高校も国内航空機利用可能に 新支部長紹介 山形県支部長に細谷晃三氏
		(3)	平成6年度 全国公・私立中学校の実態調査から [1] 修学旅行の実施率は97.2% 計画は「教師と生徒」が過半数 全国公、私立中学校の実態調査から(1)
		(4)	新標準旅行業約款を制定 4月1日から適用 一(社)日本旅行業協会の解説— 企画手配旅行とは/企画手配旅行の特徴は 情報発信基地 “旅フェア'96”千葉で盛大に開催 鉄道路線の最新情報 特急「秋田リレー号」、営団地下鉄南北線、東京臨海高速鉄道、 東葉高速鉄道 小樽交通記念館が4月20日オープン 加賀百万石時代村が4月22日オープン 五重の塔もくつきり 京都・八坂通の電柱を撤去 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見 [31] 無品の小寺 <1> (全国修学旅行研究協会専務理事 前田寛)
第413号	平成8年 6月10日 (1996年)	(1)	平成8年度公立学校の修学旅行実施基準から 航空機・海外が更に前進 一路伊勢志摩へ「あおぞらII号」で 5月9日小学校の出発式 主張 修学旅行の最近の問題点(広報委員 水野清孝) 風紋
		(2)	修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 楽しかった伊勢志摩の旅(大阪市開平小学校児童 嶋川千代恵さん) JR北海道のリゾート列車を初めて修学旅行専用 東京潤徳女子高校 関東地区公立中学校修旅委 6月4日総会を開催 会長に仁木忠昭氏 教職員福祉問題研究会総会 5月15・16日 福島市で開催 会長に長野猛彦氏を再選 全高長会長に和田征士氏、全日中会長に佐野金吾氏 新支部長紹介 愛知県支部長に松本朋充氏
		(3)	教育の窓 生徒の問題行動に思うこと (文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 全修協平成6年度 全国公・私立中学校の実態調査から [2] 修学旅行費・小遣いの実態明らかに—修学旅行費は年々高騰—
		(4)	旅のワンポイントガイド 野球場建設地から縄文の巨大遺跡が出現…三内丸山遺跡 情報発信基地 サトウハチロー記念館が北上市に移転・再開 東京都庁近くに 営団地下鉄西新宿駅が誕生 JR工事に伴う区間運休 6月23日東海道本線、6月30日京浜東北線 JR大糸線の不通区間復旧の見込みは府枚 立山ロープウェイは6月10日から運転再開 雲仙・普賢岳ドームを「平成新山」と命名 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見 [32] 無品の小寺 <2> (全国修学旅行研究協会専務理事 前田寛)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第414号	平成8年 7月10日 (1996年)	(1)	<p>中教審が審議のまとめ 学校週5日制の完全実施 生きる力の育成と総合学習の新設を 来年4月から消費税が5%に 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会 総会を岐阜で開催 会長に青木一氏 主張 教職員研修旅行におもう(全修協大阪事務局長 大友恭) 風紋</p> <p>(2) 教育の窓「生きる力」と特別活動 (文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 近畿地区公立中学校修旅委 会長に藤井政勝氏 東海三県中学校修旅委 委員長に青木一氏を再選 文部省 初中局長に辻村哲夫氏、高校課長に石川明氏、 小学校課長に金森越哉氏</p> <p>(3) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> リゾート列車の旅(潤徳女子高等学校生徒 垣沼宏美さん) 修学旅行は東北へ!! 広範な校外学習も 6県が東京で説明会を開催 平成6年度 全国公・私立中学校の実態調査から [3] 班別自主見学(活動)の実施率87% -自主見学が修学旅行の主流か- 「全国公・私立中学校修学旅行実態調査の結果」冊子が完成 新支部長紹介 岩手県支部長に村上熙氏、千葉県支部長に大池俊介氏、 静岡県支部長に赤塚照一氏</p> <p>(4) 旅のワンポイントガイド 夏の尾瀬探勝 夏の教職員研修旅行 参加申込締め切る 大自然・遺跡に人気集中 情報発信基地 日本ロマンチック街道でステッカーラリー 世界炎の博覧会 7月19日から佐賀で JR「宮崎空港線」が7月18日開通 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見 [33] 無品の小寺 <3> (全国修学旅行研究協会専務理事 前田寛)</p>
第415号	平成8年 8月10日 (1996年)	(1)	<p>平成7年度修学旅行実施基準調査から 公立校185校が海外へ、航空機利用は1430校に 昨年の京都への修学旅行 過去15年で最低に 主張 修学旅行の教育性充実を目指して (理事長代行・専務理事 前田寛) 風紋</p> <p>(2) 縄文人の心意気 -三内丸山遺跡を訪ねて- (東京都板橋第九小学校長 矢谷由美子氏) 岡山・玉野光南高の進路校外研修 先輩の案内でキャンパス見学も 近畿中学校修学旅行委 委員長に津田安啓氏</p> <p>(3) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 「舞楽と京舞の夕べ」を見て (東京都青嵐中学校生徒 塚見理紗さん) 舞楽鑑賞の体験学習 東京・青嵐中 夜の京都で 京都市交通局が運賃値上げを申請 普賢岳噴火活動は終息 島原市が説明会を開催 平成6年度 全国公・私立中学校の実態調査から [4] 出発曜日は火、水、月、日の順 金、土曜日発は少数 新支部長紹介 愛媛県支部長に大西信也氏</p> <p>(4) 旅のワンポイントガイド 世界・焔の博覧会 情報発信基地 JR秋田新幹線の愛称は「こまち」号に決定 しながわ水族館に「ペンギンランド」新設 三菱みなとみらい技術館で特別展を開催中 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見 [34] 無品の小寺 <4> (全国修学旅行研究協会専務理事 前田寛)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第416号	平成8年 9月10日 (1996年)	(1)	平成9年度修学旅行費等の国庫補助金増額を 全修協・三地区修旅連 8月19日に文部省へ陳情 平成8年度も児童生徒数の減少続く 文部省の学校基本調査から 主張 「生きる力」と修学旅行(広報委員 北條直樹) 風紋
		(2)	教育の窓 いじめ問題に思う(文部省主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 白馬・黒部・上高地(京都市月輪中学校生徒 大西政人君) 消費税 修学旅行に対する経過措置 平成9年度に限り3%に
		(3)	関修委現地研修会に参加して 震災から力強く復興する街・神戸(関修委運営委員長 中村徳治氏) 近畿地区公立中修学旅行委 大自然と世界遺産の岐阜・富山へ現地研修 「全国公・私立中学校修学旅行実態調査の結果」冊子が完成
		(4)	旅のワンポイントガイド 夏の月山登頂 夏の教職員研修旅行 全コース無事に終了 国立歴史民俗資料館で「倭国乱る-卑弥呼の登場まで-」の企画展示 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見 [35] 無品の小寺 <5> (全国修学旅行研究協会専務理事 前田寛)
第417号	平成8年 10月10日 (1996年)	(1)	第11回全修協修学旅行セミナー 関係者が参集し開催 9月20日に江戸東京博物館で テーマは「21世紀を展望する修学旅行」 主張 二十一世紀を展望した修学旅行(本部事務局長 鴻田好通) 風紋
		(2)	修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> シンガポールでホームステイ (佐賀県高志館高等学校生徒 前田真由美さん、北古賀美和さん、城島昌明君) あおぞら号近畿地区運営協 会長に里見喜一氏 O-157対策を協議 伊勢志摩の関係業者と
		(3)	長野県への修学旅行 平成7年度は9%増 長野県商工部観光課 関東地区公立中学校修旅委 平成10年度申込みは810校・14万6千人に 平成6年度 全国公・私立中学校の実態調査から [5] 保険付保率86%、宅配便利用は時代のすう勢か
		(4)	旅のワンポイントガイド 時代祭り10月22日 情報発信基地 JRが12月1日ダイヤ改正を実施 東京都庁舎の展望室 10月26日(土)は見学不可 京都御所秋の一般公開 11月1日から5日に びわ湖大橋 米プラザが10月8日オープン 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見 [36] 仏教諸宗 <1> (全国修学旅行研究協会専務理事 前田寛)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第418号	平成8年 11月10日 (1996年)	(1)	(財)全修協・三地区修旅連 平成9年度分 修学旅行費・校外活動費の国庫補助単価増額を 10月9日陳情 海外修学旅行の安全対策パンフレット JATAが作成 主張 あなたならどうする -教育者の反省から- (広報委員 井桁孝) 風紋
		(2)	教育の窓 現代若者考(文部省主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> みんなで歩いた戦場ヶ原 (東京都板橋第二小学校児童 関根美保さん) 関修委 平成10年度輸送計画を確認 東海修委 平成10年度輸送計画を協議 教福研 来年度教職員研修旅行計画を協議
		(3)	第11回全修協修学旅行セミナー シンポジウム要旨 21世紀を展望する修学旅行
		(4)	旅のワンポイントガイド 関西電力黒部ルート 情報発信基地 世界・焔の博覧会が10月13日閉幕 上信越自動車道など高速道路が続々開通 京都の夜の紅葉鑑賞ライトアップの情報 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見 [37] 仏教諸宗 <2> (全国修学旅行研究協会専務理事 前田寛)
第419号	平成8年 12月10日 (1996年)	(1)	自ら学ぶ修学旅行を 近畿と関東で中学校の研究会 近畿地区中学校修学旅行研究大会 11月22日に奈良で開催 「体験を重視し、自ら学ぶ意欲を高め、心に残る修学旅行を求めて」 を主題に 第32回関東地区公立中学校修学旅行研究発表会 11月29日に市原市で開催 テーマは「主体的に活動し、自ら学ぶ修学旅行」 文部大臣に小杉隆氏 政務次官は佐田玄一郎氏に 主張 祝日月曜三連休化は必要か(理事長代行・専務理事 前田寛) 風紋
		(2)	教育の窓 教育課程審議会の検討内容 (文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 沖縄の強烈な印象(大阪府四条畷高等学校生徒 片岡芙美さん) 「祝日三連休」目指し推進会議が発足
		(3)	第11回近畿地区中学校修学旅行研究大会 発表要旨 体験を重視し、自ら学ぶ意欲を高め、心に残る修学旅行を求めて -学ぶ喜びを求めて-(和歌山県愛徳中学校長 岩崎篤氏) 大規模校における修学旅行実施に伴う班別活動の導入について -平成7年度及び8年度に実施された修学旅行からの一考察- (奈良県片塩中学校教諭 佐藤政幸氏)
		(4)	旅のワンポイントガイド 除夜の鐘、おけらまいり 情報発信基地 世界遺産に原爆ドームと厳島神社が登録 東京国際フォーラムが来年一月オープン 主要テーマパーク来春の休園日 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見 [38] 仏教諸宗 <3> (全国修学旅行研究協会専務理事 前田寛)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第420号	平成9年 1月10日 (1997年)	(1)	平成九年 年頭の所感(文部大臣 小杉隆氏) 法人四十周年に想う 修学旅行の展望から創造へ (全修協理事長 鈴木力) 風紋
		(2)	新年を迎えて 「生きる力」の育成を求め (関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会会長 青木一氏) よりよい修学旅行を目指して (関東地区公立中学校修学旅行委員会会長 仁木忠昭氏) 体験学習を目指した修学旅行 (近畿地区公立中学校修学旅行委員会会長 藤井政勝氏) 「生きる力」と体験活動 (あおぞら号近畿地区運営協議会会長 里見喜一氏) 教職員研修旅行目標完遂について (教職員福祉問題研究会会長 長野猛彦氏) 魅力増す伊勢志摩への旅 (近畿日本鉄道(株)取締役社長 田代和氏) 瀬戸内海の歴史と未来を船旅で (関西汽船(株)取締役社長 江口壽一氏)
		(3)	新年を迎えて(つづき) 新しい時代へ思い出に残る修学旅行を (北海道旅客鉄道株式会社取締役社長 坂本眞一氏) あたらしい旅の発見 (東日本旅客鉄道株式会社取締役社長 松田昌士氏) 地域にふさわしい旅の提供を (東海旅客鉄道株式会社取締役社長 葛西敬之氏) 生涯の糧となる修学旅行のお手伝いを (西日本旅客鉄道株式会社取締役社長 井手正敬氏) 三橋時代と四国(四国旅客鉄道株式会社取締役社長 伊東弘敦氏) 快適な旅の提案(九州旅客鉄道株式会社取締役社長 石井幸孝氏) JR各社が3月22日ダイヤ改正を実施 大阪近郊は3月8日に
		(4)	第32回関東地区公立中学校修学旅行研究発表会 研究発表要旨 自主性をはぐくむ修学旅行の取組み (千葉県土中学校教諭 鈴木俊幸氏) 生徒の自主性を高める修学旅行のありかた (千葉県木刈中学校教諭 眞野義行氏) 近畿地区中の修学旅行輸送計画が決定 平成10年度は11万4千人に 九州方面の増加続く 情報発信基地 修学旅行の宿舎ホテルポポロ東京が4月1日オープン
第421号	平成9年 2月10日 (1997年)	(1)	第13回全国修学旅行研究大会 12月4日に名古屋で開催 「主体性を伸ばし、行動力を高める修学旅行」を主題に 全国各地から354名が参加 全国公立高等学校海外修学旅行の実態動向調査 平成7年度実施校を全修協が集計中 / 韓国、中国、5日以内が主流 平成8年の出入国者数が過去最高を更新 主張 ふるさつを見直そう(広報委員 中島和友) 近畿日本ツーリスト 修学旅行コーナーをホームページに開設 風紋
		(2)	第13回全国修学旅行研究大会 講演要旨 教育の今日的課題 [上] -修学旅行への期待- (東京家政学院大学教授 成田國英氏)
		(3)	第13回全国修学旅行研究大会 研究発表要旨 伝統工芸学習を取り入れた修学旅行 (名古屋市城山中学校教諭 井辰幸司氏) 自ら考え行動する修学旅行をめざして (三重県西橋内中学校教諭 豊田眞理子氏) 関東地区公立中学校修学旅行委 完全週五日制専門委設置へ 春の教職員研修旅行 「毛利元就」コースに人気集中

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第421号 ※つづき	平成9年 2月10日 (1997年)	(4)	旅のワンポイントガイド 毛利元就、そのゆかりの地を訪ねて ～生誕の地「吉田」から「厳島の戦い」へ～ 情報発信基地 北海道修学旅行懇談会 東京・福岡・佐賀で開催 横浜・日本丸の総帆展帆と満船飾 臨海副都心の愛称がレインボータウンに バスの新路線も開通 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見 [39] 鎌倉の名数 (全国修学旅行研究協会専務理事 前田寛)
第422号	平成9年 3月10日 (1997年)	(1)	4月から消費税率が5%に 修学旅行は経過措置適用 「撮っておきの京都」フォトコンテスト 修学旅行の部入選作決まる 主張 広い視野で体験学習を(広報委員 北條直樹) 風紋
		(2)	教育の窓 我が国の教育が動く (文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 沖縄県への修学旅行 平成7年も増加続く レール情報 新線開業とダイヤ改正 ①JR東西線 ②秋田新幹線 ③北越急行(株)ほくほく線
		(3)	教育の今日的課題 [下] -修学旅行への期待- (東京家政学院大学教授 成田國英氏) 東海三県中学校修学旅行委員会 平成10年度は478校、93,719人に 関東地区公立中学校修学旅行委 新年度事業計画を決定
		(4)	旅のワンポイントガイド 毛利元就、そのゆかりの地を訪ねて～毛利氏の軌跡、山口・萩へ～ 情報発信基地 東京湾横断道路の名称が「アクアライン」に 東京ドーム プロ野球日本ハム戦等の日程 京都御所春の一般公開 4月4日～13日に 志摩スペイン村の新施設が3月1日デビュー スペースワールドに「アトラスタワー」誕生 吾妻鏡にみる鎌倉の再発見 [40] エピローグ (全国修学旅行研究協会専務理事 前田寛)
第423号	平成9年 4月10日 (1997年)	(1)	平成9年度 修学旅行費等の国庫補助金 総額30億5千万円に決定 全員参加の基本条件 実態に合わせて 一人単価は毎年増額 京都の旅館が献立講習会 高校総体も考慮し栄養たっぷり 主張 学校週五日制時代の修学旅行の確立を(本部事務局長 鴻田好通) 風紋
		(2)	<修学旅行実践報告>生きる力を育てる修学旅行 伝統工芸を肌で感じとる職場体験学習を取り入れて (新潟県潮陵中学校校長 四津谷満夫氏) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> ハワイ見聞記(岐阜県私立富田高等学校生徒) 学校訪問(梶田清仁君) アリゾナ記念館を見て(有本尚子さん) 修学旅行ちよつといい話 保健室への土産
		(3)	消費税アップ 修学旅行周辺の対応は様々に JR東京駅の待合場所と改札 団体は日本橋口を原則に 全国公立高等学校海外修学旅行の実態動向調査 冊子が完成 行先は韓国、中国が大多数 特色は交流会
		(4)	旅のワンポイントガイド 角館の桜 情報発信基地 韓国観光公社 修学旅行マニュアル作成 小樽交通記念館が1周年特別展を開催 東京の交通博物館はJR10周年記念展開催 名古屋・大阪にもドーム球場が誕生 中国横断道が全通、日本海と太平洋直結 大和路遍歴 [1] プロローグ「平城宮跡」(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第424号	平成9年 5月10日 (1997年)	(1)	春の修学旅行シーズン開幕 連合体専用列車のトップ、関東地区の中学校が関西へ 緊張の中にも期待と夢を乗せ、東京駅で恒例の出発式 4月13日 京都では歓迎のセレモニー ようこそおこしやす 主張 修学旅行の新しい意義の創造(広報委員 水野清孝) 風紋
		(2)	教育の窓 学校教育を考える (文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 出発式と古都の印象(埼玉県高麗中学校生徒 菊池ゆう子さん) 関修委専用列車出発式 生徒代表あいさつ 楽しい思い出作りをありがとう(埼玉県向陽中学校生徒 吉岡正彰君)
		(3)	京都府警 京都の見学を安全に!!「修学旅行のてびき'97」を作成 古都奈良の文化財を「世界遺産」に推薦 全修協 夏の教職員研修旅行 国内・海外へ18コース 全国公立高等学校海外修学旅行の実態動向調査 内容の抜粋 [2] 今後の計画に訪問国の諸情報を 中国の春蕾計画に協賛 ホリデイが新企画発表 修学旅行ちよっといい話 割りばしの回収 文部省人事 小学校課長に徳重眞光氏
		(4)	旅のワンポイントガイド 司馬遼太郎『街道をゆく』「島原・天草の諸道」を訪ねて 情報発信基地 臨海副都心の「共同溝展示室」がオープン 北陸新幹線 高崎～長野間が10月1日開業 時計の手づくり体験も、下諏訪に「儀象堂」誕生 京都地下鉄が6月3日国際会館まで延長 大和路遍歴 [2] 東大寺(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第425号	平成9年 6月10日 (1997年)	(1)	平成9年度公立学校の修学旅行実施基準概要調査から 高校の国内航空機利用 許可はもはや一般的に、海外「不許可」も減少 小学校は伊勢志摩へ、5月8日に近鉄上本町で「あおぞらII号」の出発式 主張 新時代にふさわしい教職員研修旅行の創造へ (理事長代行・専務理事 前田寛) 風紋
		(2)	教育の窓 中央教育審議会の動向 [1] (文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 気になる天気(大阪市鷹合小学校児童 鈴木登志弘君) 修学旅行ちよっといい話 二階のグリーン車貸切
		(3)	全修協第37回評議員会 5月20日に東京で 諸議案を満場一致承認 関東地区公立中学校修旅委 6月6日に総会を開催 会長に岡村政彦氏 教福研が第22回総会 5月21日東京で開催 年間目標の達成を 修学旅行は八重山へ 各地で説明会を開催 全連小会長に安藤駿英氏 全修協役員人事 理事に田平英二氏 新支部長紹介 愛知県支部長に山田哲郎氏
		(4)	旅のワンポイントガイド 司馬遼太郎『街道をゆく』韓のくに紀行(前編) 情報発信基地 東京都水の科学館が臨海副都心にオープン 駒ヶ岳ロープウェイが11月から1年間運休 梅小路蒸気機関車館が7月5日改装オープン 大和路遍歴 [3] 若草山から戒壇院へ(全修協大阪 北條直樹)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第426号	平成9年 7月10日 (1997年)	(1)	7月26日 よりよい修学旅行を目指し、京都仏教会と学校側が懇談 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会 東京で総会を開催、会長に岡村政彦氏 全修協役員人事 理事に岡村征彦氏 主張 春のシーズンを終えて(広報委員 中島和友) 風紋
		(2)	教育の窓 中央教育審議会の動向 [2] (文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 広島・山口・北九州へ(長崎県相浦中学校生徒 百枝慎帆さん)
		(3)	近畿地区公立中学校修旅委 会長に新谷紀久男氏 東海三県中学校修旅委 委員長に榊原伸亮氏 関修委総会で募金 わかば奨学金基金へ みちのく文化シンポジウムを開催 7月18日東京で 文部省人事 事務次官に佐藤禎一氏、高校課長に素川富司氏 中学校課長に河村潤子氏 新支部長紹介 新潟県支部長に齋藤俊氏
		(4)	旅のワンポイントガイド 司馬遼太郎『街道をゆく』韓のくに紀行(中編) 情報発信基地 修学旅行ガイドブック 東北・北陸・九州で作成 ぐるっと東北学びランド'97/北陸楽修旅行/別冊修学旅行・九州編 山陰・夢みなど博覧会 7月12日から境港で ハウステンボスに「ディベアキングダム」 10月10日開設 大和路遍歴 [4] 御蓋山・春日大社(全修協大阪 北條直樹)
第427号	平成9年 8月10日 (1997年)	(1)	京都修学旅行を考える懇談会 寺院側と学校代表が初会合 よりよい修学旅行の発展目指す 7月8日 マレーシアの最新事情と体験発表 教育旅行セミナーを開催 主張 中学校五十周年と修学旅行(広報委員 北條直樹) 風紋
		(2)	教育の窓 心が病んでいる (文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行生の作文<心に残る東京分散学習> 感動の体験学習 (名古屋市天神山中学校生徒 高橋栄子さん・山内聡子さん) 近畿中学校修学旅行委 委員長に高橋茂氏 新支部長紹介 茨城県支部長に園部三雄氏
		(3)	京都への修学旅行客 昨年はほぼ横ばいに 北京市から高校生 代表30人が訪日 海外修学旅行実施に関し 問い合わせ相次ぐ
		(4)	旅のワンポイントガイド 司馬遼太郎『街道をゆく』韓のくに紀行 [後編] 情報発信基地 秋田自動車道が東北自動車道と直結 横浜の最新情報 「外交官の家」公開/「自動車道」開通 倉敷チボリ公園が7月18日オープン 大和路遍歴 [5] 興福寺(全修協大阪 北條直樹)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第428号	平成9年 9月10日 (1997年)	(1)	平成10年度修学旅行費等の国庫補助金増額を 全修協・三地区修旅連 8月6日に文部省に陳情 平成9年度文部省の学校基本調査から 児童生徒数は更に減少 主張 学校週五日制とこれからの修学旅行(本部事務局長 鴻田好通) 風紋
		(2)	文部省の平成6年度特別活動実施調査から「学校行事」が減少傾向に 第9回生涯学習フェスティバル 10月9日～13日新潟で開催 マレーシア・東北へ新コースの研修を実施 マレーシアの最新事情を高校関係者が視察研修 大自然と体験学習の宝庫東北へは中学校関係者が 山形県・秋田県コース、青森県・岩手県コース 近畿地区公立中学校修旅委 新規コース開発に福岡・壱岐へ現地研修
		(3)	鉄道・高速道路 年内に続々開通 <鉄道> ①大阪高速鉄道モノレール 8月22日延長 ②大阪市営地下鉄長堀鶴見緑地線 8月29日延長 ③営団地下鉄南北線(東京)9月30日延長 ④JR長野行き新幹線(北陸新幹線)10月1日開業 ⑤土佐くろしお鉄道 10月1日延長 ⑥京都市営地下鉄東西線 10月12日開業 ⑦JR大糸線 11月29日復旧全通 <道路> ①磐越自動車道 10月1日全通 ②上信越自動車道 10月16日延長 沖縄県への修学旅行 平成8年も増加傾向に 新支部長紹介 大分県支部長に廣瀬孝三氏
		(4)	旅のワンポイントガイド 東京・臨海副都心 レインボータウン [1] 今秋 3回に分けてJRがダイヤ改正 ①9月1日JR西日本 ②10月1日JR東日本 列車名統一、東京駅のホーム増設 ③11月29日東海道・山陽新幹線、中・四国、九州 JR東日本が本社を新宿に移転 大和路遍歴 [6] 写真美術館から白毫寺へ(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第429号	平成9年 10月10日 (1997年)	(1)	第12回全修協修学旅行セミナー 学校週5日制とこれからの修学旅行 9月18日に大阪で開催、生きる力の育成と期待される人間像で 文部大臣に町村信孝氏、政務次官は森田健作氏に 主張 長いものには巻かれない(広報委員 井桁孝) 風紋
		(2)	現地研修 青森県・岩手県コースに参加して (関修委副会長 永野宏氏) 関東地区公立中学校修旅委 平成11年度の申込みは810校・14万2千人に あおぞら号近畿地区運営協 里見喜一会長を再選 11年度申込は締切は11月20日
		(3)	京都修学旅行を考える懇談会 主要寺院と学校代表が意見交換 今後も継続して開催を 新幹線「あさま」号修学旅行の一番乗り 長野・中野西高校 修学旅行総覧 改訂版を11月発行
		(4)	旅のワンポイントガイド 長野新幹線「あさま」いよいよ開業 情報発信基地 フジテレビ球体展望室が10月から有料に 東京都庁の展望室等10月25日は休館 東名高速道路で10月21～31日に集中工事 魚市場から魚やさんまで 特別展を開催 鳥羽・海の博物館 京都の秋のライトアップ、今年は金閣寺も 大和路遍歴 [7] 春日野・飛火野(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第430号	平成9年 11月10日 (1997年)	(1)	全修協・三地区修旅連 修学旅行費等の国庫補助 平成10年度分も増額を 10月7日大蔵省に陳情 主張 修学旅行と環境教育(本部事務局長 鴻田好通) 風紋
		(2)	教育の窓 家庭と地域との連携を考える (文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 古都の静寂にふれた旅 (東京都三鷹市立第六中学校生徒 大塚俊介君) 東海三県中学校修学旅旅委 平成11年度の申込みは459校・8万9千人に 新支部長紹介 佐賀県支部長に田中政人氏
		(3)	第12回全修協修学旅行セミナー シンポジウム 要旨 [1] ①「生きる力の育成」からみた修学旅行 ②児童・生徒の主体性、創造性と体験学習
		(4)	旅のワンポイントガイド 長野新幹線「あさま」沿線だより [1] 「安中榛名～軽井沢」 マレーシア教育旅行視察研修見聞記 [1] 首都クアラルンプールへ(団長 鴻田好通) 大和路遍歴 [8] 国立博物館と正倉院(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第431号	平成9年 12月10日 (1997年)	(1)	教育課程審議会 「中間まとめ」を発表 2003年に向けて年間70時間を削減 (財)全修協 月6日財団法人40周年記念式典を挙行 祝辞 修学旅行研究に期待(文部大臣 町村信孝氏) 主張 財団法人四十周年を迎えて(理事長代行・専務理事 前田寛) 風紋
		(2)	教育の窓 教育課程審議会「中間まとめ」の語るもの (文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 楽しかった奈良・京都 (名古屋市千音寺小学校児童 折付康宏君) 情報発信基地 JR大糸線が復旧 都営12号線が延長 安房トンネルと東京湾横断道路が開通
		(3)	第12回全修協修学旅行セミナー シンポジウム 要旨 [2] ①期待される生徒像(学校が育てるべき資質・能力) ②学校週五日制の意義・内容を深める修学旅行
		(4)	旅のワンポイントガイド 長野新幹線「あさま」沿線だより [2] 「佐久平～長野」 マレーシア教育旅行視察研修見聞記 [2] 教育省訪問後マラッカへ(鴻田団長) 大和路遍歴 [9] 歴史教室から元興寺へ(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第432号	平成10年 1月10日 (1998年)	(1)	平成十年 年頭の所感(文部大臣 町村信孝氏) 21世紀を勝ち抜く教育研究財団をめざして(全修協理事長 鈴木力) 風紋
		(2)	新年を迎えて 生きる力を育てる (関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会会長 岡村政彦氏) 心に残る修学旅行を (東海三県中学校修学旅行委員会委員長 榊原伸亮氏) 総合的な学習の場を修学旅行で (近畿地区公立中学校修学旅行委員会会長 新谷紀久男氏) 「ゆとり」の中で「生きる力」の育成を (あおぞら号近畿地区運営協議会会長 里見喜一氏) 二十一世紀に向けて研修旅行の課題 (教職員福祉問題研究会会長 長野猛彦氏) 魅力的な伊勢志摩・奈良大和路へ (近畿日本鉄道(株)取締役社長 田代和氏)
		(3)	新年を迎えて(つづき) 一生の思い出づくりを快適な船旅で (関西汽船(株)取締役社長 江口壽一氏) 新しい時代へ思い出に残る修学旅行を (北海道旅客鉄道株式会社取締役社長 坂本眞一氏) 修学旅行で自己発見を (東日本旅客鉄道株式会社取締役社長 松田昌士氏) 歴史・伝統・文化の再発見を (東海旅客鉄道株式会社取締役社長 葛西敬之氏) 一生の記念に残る修学旅行を (西日本旅客鉄道株式会社取締役社長 南谷昌二郎氏) 四国三橋時代 (四国旅客鉄道株式会社取締役社長 伊東弘教氏) 九州、そしてアジアへ (九州旅客鉄道株式会社取締役社長 田中浩二氏) 新型の新幹線車両、東京駅に続々登場(500系、E4系Max)
		(4)	第14回全国修学旅行研究大会 11月28日に浦和市で開催 主体性を伸ばし行動力を高める修学旅行 近畿地区中の修学旅行輸送計画が決定 平成11年度は10万8千人に 九州方面が大幅減少 第14回全国修学旅行研究大会 研究発表要旨 生徒の知恵と発想を大事にし、主体的に生きる力を育む修学旅行 -「やれば、できる」の精神を生かして- (埼玉県鷲宮中学校教諭 田村俊明・増田雅行氏) 自主的活動をめざした修学旅行 (埼玉県鴻巣西中学校教諭 金子桂一氏)
第433号	平成10年 2月10日 (1998年)	(1)	「全国 国・公・私立高等学校修学旅行実態調査報告書」刊行 これからの修学旅行のヒントに 訪問先ベスト10、実施時期 主張 修学旅行研究の成果と課題(本部事務局長 鴻田好通) 第12回近畿地区中学校修学旅行研究大会開催 「体験を重視し、生きる力を育成する修学旅行」主題に 風紋
		(2)	教育の窓 教育課程審議会「中間まとめ」を読んで (全修協事務局長 鴻田好通) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> ◎祈り、研修、善意の旅 ◎平和祈念、班別研修、そして善意の花 (愛美学園美濃加茂高校生徒 白木健一君)
		(3)	第14回全国修学旅行研究大会 記念講演 [上] 学校教育の転換と修学旅行への期待 (文部省教科調査官 森嶋昭伸氏)
		(4)	旅のワンポイントガイド 最後の将軍・徳川慶喜～生誕の地・水戸散策～ マレーシア旅行記(団長 鴻田好通) 大和路遍歴 [10] 奈良まちを歩く(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第434号	平成10年 3月10日 (1998年)	(1)	<p>ー春の旅行シーズンを迎えてー安全で快適な空の旅 <航空機の非常脱出誘導に係わる委員会> 主張 平成九年度を総括する(前田理事長代行・専務理事 前田寛) 風紋</p> <p>(2) 第14回全国修学旅行研究大会 記念講演 [下] 学校教育の転換と修学旅行への期待 (文部省教科調査官 森嶋昭伸氏)</p> <p>(3) 第12回近畿地区中学校修学旅行研究大会 研究発表要旨 「個に応じた体験学習」を取り入れた修学旅行 (京都府長岡第二中学校教諭 吉川祥子氏) ぐるっと200 -自ら計画する修学旅行を求めて- (滋賀県栗津中学校教諭 浦谷政之氏) マレーシア教育旅行視察記 [4] (団長 鴻田好通)</p> <p>(4) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 感動をくれた修学旅行 (東京都文京区立第九中学校生徒 中嶋亜樹さん) 春季教職員研修旅行 申し込み受付締切り 大和路遍歴 [11] 奈良市庁から法華寺へ(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)</p>
第435号	平成10年 4月10日 (1998年)	(1)	<p>海外修学旅行の実態に変化 (文部省「高校における国際交流等の状況調査」) 京都修学旅行献立講習会 班別行動にも対応しやすい等、工夫が随所に 全修協人事 定年退職、新任、身分変更、職名変更 主張 「三年後の修学旅行を考える」(総局長 鴻田好通) 風紋</p> <p>(2) 教育の窓 ナイフ事件が象徴するもの (文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> (滋賀県稲枝中学校生徒 水谷文美さん)</p> <p>(3) 地球と人にやさしい修学旅行を 全修協は修学旅行における環境学習の研究・実践を助成します 環境学習へのアプローチ、修学旅行との接点、 修学旅行の質の転換、研究・実践を助成 修学旅行における環境学習研究・実践校募集要項、 研究・実践分野の例、総合的推進計画</p> <p>(4) 鎌倉花ある記 [序] 旅のワンポイントガイド 「東京湾アクアライン」に行く 川崎～木更津～房総 情報発信基地 アンテナショップ広島、宮崎が新宿に拠点を 京都の魅力を新発見～修学旅行相談所(京都)～ 大和路遍歴 [12] 般若寺から佐保・佐紀へ(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第436号	平成10年 5月10日 (1998年)	(1)	平成10年度修学旅行費等の国庫補助金 総額29億3600万円に決定 対象者若干減により前年比96%、一人単価はほぼ前年同額を確保 春の修学旅行シーズン開幕 連合体輸送で関西へ 一生の思い出に残る修学旅行を 東京駅で修学旅行専用列車の出発式 関修委第一陣京都到着 今年も歓迎式盛大に挙行 主張 修学旅行における環境学習の推進 (理事長代行・専務理事 前田寛) 風紋
		(2)	教育の窓 教育の改革と教師の意識 (文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 夢 (福岡県私立三陽中学校生徒 稲田潤也君)
		(3)	地球と人にやさしい修学旅行を 全修協の修学旅行における環境学習の研究・実践校の募集開始 夏の教職員研修旅行 古代から現代を遠望する 京都府警「修学旅行のてびき98」 京都の修学旅行を安全に 京都修学旅行懇談会開催 新支部長紹介 山形県支部長に鈴木英雄氏
		(4)	鎌倉花ある記 [1] 旅の素材 愛知県はモノづくりの一大拠点です 自動車・トヨタ博物館やきもの 瀬戸市歴史民俗資料館・愛知県陶磁資料館 伝統工芸・有松鳴海絞会館・和紙のふるさと 博物館・産業技術記念館・博物館明治村 情報発信基地 古代日本の首都であった平城京にこのたび朱雀門よみがえる 大和路遍歴 [13] 西大寺・秋篠寺(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第437号	平成10年 6月10日 (1998年)	(1)	関東地区公立中学校修学旅行委員会 5日制専門部会 学校週5日制に伴う修学旅行の課題に関する調査報告 伊勢志摩への修学旅行 今年も出発「あおぞらⅡ号出発式」5月12日近鉄上本町駅 主張 環境における学校・家庭・社会の連携を(理事・総局長 鴻田好通) 風紋
		(2)	教育の窓 教育改革プログラム (文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 修学旅行-京都・奈良-(名古屋市東志賀小学校児童 森川恵理さん) 環境学習研究・実践校募集 申込み受付開始
		(3)	(財)全修協第38回評議員会 理事長に谷合良治氏 関修委総会・6月5日に開催 会長に中川實氏 東海三県修旅委総会 委員長に森川肇氏 全日中会長に安齋省一氏、全高長会長に岡本裕之氏 夏の教職員研修旅行 国内・海外とも募集継続中
		(4)	鎌倉花ある記 [2] フジ 旅のワンポイントガイド スペースワールド テーマは宇宙、主役は君たち 情報発信基地 国立歴史民族資料館 夏の催しもの 第175回歴博講演会 企画展示 第28回歴博フォーラム 小・中学生のための科学技術体験学習の集い 大和路遍歴 [14] 薬師寺(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第438号	平成10年 7月10日 (1998年)	(1)	教育課程審議会 審議のまとめ発表 基準改善四つのねらい 国内航空機利用と海外修学旅行の現状 修学旅行における環境学習研究助成校 選考審査委員会委員決まる 主張 修学旅行の実態と完全学校週五日制への対応 (広報委員 水野清孝) 風紋
		(2)	教育の窓 教課審「審議のまとめ」にみる改善のポイント (文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> (埼玉県南浦和中学校生徒 小川美由起さん)
		(3)	修学旅行を考える懇談会 二回目を7月15日に 関修委平成十年度役員 全修協兵庫支部長に中村清三郎氏 近修委総会・6月16日開催 会長に井上昭男氏
		(4)	鎌倉花ある記 [3] アジサイ(東慶寺) 旅のワンポイントガイド -日本三大祭-祇園祭 情報発信基地 7月18日大館能代空港、7月28日佐賀空港が開港 鳥羽・海の博物館 夏の催しもの 大和路遍歴 [15] 唐招提寺(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第439号	平成10年 8月10日 (1998年)	(1)	京都・奈良の修学旅行を考える懇談会 仏教会「地球と人のやさしい修学旅行」に賛意、学校の取り組みに期待 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会 会長に井上昭男氏 主張 二十一世紀、修学旅行は変わるのか(専務理事 前田寛) 風紋
		(2)	教育の窓 教育改革プログラムと中教審答申概要(総局長 鴻田好通) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 平和学習と体験学習(大阪府明治池中学校生徒 大堀雄一郎君)
		(3)	教育界ニュース 文部省人事 修学旅行費国庫補助金増額を文部省に陳情 全国都道府県並びに政令指定都市公立学校修学旅行実施基準概要 調査結果まとまる 完全学校週五日制実施に伴う修学旅行の課題に関する調査 三地区結果まとまる
		(4)	鎌倉花ある記 [3] ビヨウマナギ(浄智寺) 旅のワンポイントガイド 観光と環境の共生「飛騨エコパスポート」 情報発信基地 「旅の文化研究所」で旅に関する研究プロジェクトを公募中 大和路遍歴 [16] 山の辺の道 <上>(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第440号	平成10年 9月10日 (1998年)	(1)	西向き修学旅行の声が高まる東海修委の近況報告 大阪府立高校航空機利用調査 国内修旅を中心に87.7%が利用を考える 主張 地球と人にやさしい修学旅行(修学旅行部長 岡本征彦) 風紋
		(2)	教育の窓 「総合的な学習の時間」を考える (文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 共に分かち合う(名古屋市港明中学校生徒 伊藤恵美さん)
		(3)	海外修学旅行に新保険登場「海外航空機欠航補償保険」発売 東海修委中国現地研修 近公修委九州現地研修 全国の私立高校修学旅行実態調査の実施 全修協神奈川県支部長に小中儀隆氏
		(4)	環境学習旅行ガイド [1] 公害の原点「水俣病」から学ぶ 鎌倉花ある記 [5] サルスベリ(本覚寺) 大和路遍歴 [17] 山の辺の道 <下>(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第441号	平成10年 10月10日 (1998年)	(1)	「第13回全修協修学旅行セミナー」が台風7号の暴風雨にめげず開催された テーマは「地球と人にやさしい修学旅行」 平成11年度 関東・東海・近畿地区公立中学校の計画輸送概況 JR修学旅行連合体輸送生徒数が少子化により年々減少傾向を辿る 主張 古都の修学旅行を考える(広報委員 北條直樹) 風紋
		(2)	教育の窓 道徳教育に思う (文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 共に分かち合う(北九州市立戸ノ上中学校生徒 下長美幸さん)
		(3)	第13回全修協修学旅行セミナー シンポジウム<討議の要約> 「地球と人にやさしい修学旅行」を目指して 基調提案(骨子)「環境学習による教育効果」
		(4)	環境学習旅行ガイド [2] 海から学ぶ、島から学ぶ、壱岐の環境学習旅行 大和路遍歴 [18] 法隆寺<上> (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹) 鎌倉花ある記 [6] マンジュシャゲ(英勝寺)
第442号	平成10年 11月10日 (1998年)	(1)	全修協調査の全国私立高校修学旅行実施調査より 平成10年度、私立高校における修学旅行の内、海外修学旅行は30%となった 平成12年度実施の公立中学校修学旅行連合体計画輸送の発表が各地で始まる 主張 修学旅行と環境学習(名古屋事務局長 水野清孝) 風紋
		(2)	教育の窓 通勤風景と心の教育 (東京農業大学教授・前文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 楽しかった修学旅行(茨城県水戸市立第三中学校生徒 佐藤あゆみさん)
		(3)	私立高校における海外修学旅行実施状況(抜粋) -全修協調査資料より(平成10年9月実施)- (財)全修協第二代理事長 鈴木力氏逝去 第34回関東地区公立中学校修学旅行研究発表会開催のご案内 全修協新潟県支部長に小船井欽治氏
		(4)	環境学習旅行ガイド [3] 自然を感じ、自然と仲良しになる自然体感環境学習「軽井沢」 鎌倉花ある記 [7] ヒメツルソバ(円覚寺) 大和路遍歴 [19] 法隆寺<中> (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第443号	平成10年 12月10日 (1998年)	(1)	第15回全国修学旅行研究大会が開催される 第34回関東地区公立中学校修学旅行研究発表会 開催 「主体的に活動し 自ら学ぶ修学旅行」 主張 新学習指導要領への期待(前田寛) 風紋
		(2)	教育の窓 新しい学習指導要領案 (東京農業大学教授・前文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行生の作文<心に残る修学旅行> 自分発見の修学旅行(大阪市晴明丘南小学校児童 小林史明君)
		(3)	第15回全国修学旅行研究大会<研究発表要旨>平成10年10月20日(金) 「体験を重視し、生きる力を育成する修学旅行」 講演「教育課程改訂と修学旅行」 (東京家政学院大学教授・元文部省教科調査官 成田國英氏) 研究発表1「生徒の自主性を生かす修学旅行」-「実行委員会活動」を中心に- (大阪府堺市立浜寺南中学校教諭 寺田孝志氏) 研究発表2「ウォークラリーから始めた修学旅行班別行動への試み」 (兵庫県西宮市立山口中学校教諭 鶴山実紀子氏) (財)全修協秋田県支部長に川村豊太氏
		(4)	環境学習旅行ガイド [4] 大地のエネルギー、そして自然との共生 「雲仙・島原」 鎌倉花ある記 [8] ツワブキ(安養院) 大和路遍歴 [20] 法隆寺<下> (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第444号	平成11年 1月10日 (1999年)	(1)	平成十一年 年頭の所感(文部大臣 有馬朗人氏) 修学旅行の抱える今日的課題(全国修学旅行研究協会理事長 谷合良治) 風紋
		(2)	教育の窓 新学習指導要領から (東京農業大学教授・前文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行における環境学習研究助成指定校審査結果
		(3)	新年を迎えて:年頭の所感 感動体験が生きる力に (関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会会長 井上昭男氏) 修学旅行の教育的充実を (関東地区公立中学校修学旅行委員会会長 中川實氏) 思い出に残る修学旅行を (東海三県中学校修学旅行委員会委員長 森川肇氏) 生きる力を育む (あおぞら号近畿地区運営協議会会長 竹内功氏) 北九州市教育観光 修学旅行説明会、開催される
		(4)	環境学習旅行ガイド [5] 自然に感謝する心を学ぶ「蔵王」 鎌倉花ある記 [9] サザンカ(安国論寺) 大和路遍歴 [21] 斑鳩の里 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第445号	平成11年 2月10日 (1999年)	(1)	平成12年度三地区連合体計画輸送の大筋が決定 参加校及び申込人員共に前年を大幅に下回る 主張 新学習指導要領と修学旅行 風紋
		(2)	教育の窓 モラルとしつけ (東京農業大学教授・前文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) エネルギー・環境教育の視点を育む修学旅行 修学旅行における環境学習研究・実践レポートⅠ (東京都小金井第二中学校)
		(3)	平成10年度 中学校修学旅行の実態(調査報告) 「関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会のまとめより」 全修協監事に中西朗氏
		(4)	環境学習旅行ガイド [6] 雄大な大自然とのふれあい「阿蘇」 鎌倉花ある記 [9] ロウバイ(明月院) 大和路遍歴 [22] 大安寺・喜光寺 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第446号	平成11年 3月10日 (1999年)	(1)	平成9年度全国国公立中学校修学旅行実施状況まとまる 班別自主研修の実施率は91.6%、体験学習の実施率は31.8% 主張 学校週五日制と修学旅行の関わり 風紋
		(2)	教育の窓 中学校の選択教科 (東京農業大学教授・前文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行を子供達で造り上げ 地球にやさしい環境を考えた活動の展開 修学旅行における環境学習研究・実践レポートⅡ (岐阜県美濃加茂市立古井小学校)
		(3)	修学旅行における体験学習実践事例集が刊行される -関東地区公立中学校修学旅行委員会専門委員会編集- 平成11年度修学旅行連合体輸送列車のダイヤ決定 -関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会管内-
		(4)	環境学習旅行ガイド [7] 大自然との共存こそアイヌ伝統文化の誇り「阿寒」 鎌倉花ある記 [完] コウバイ(宝戒寺) 大和路遍歴 [23] 大和郡山く上 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第447号	平成11年 4月10日 (1999年)	(1)	<p>関東・近畿地区公立中学校修学旅行委員会 平成11年度事業計画大綱大筋固まる 関東地区公立中学校修学旅行委員会 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 近旅連教育旅行部会 第23回委員会開催される 主張 平成11年度修学旅行のスタートに当たって 風紋</p> <p>(2) 教育の窓 年度始めを契機に (東京農業大学教授・前文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 沖縄の歴史と文化から生き方を学ぶ 修学旅行における環境学習研究・実践レポートⅢ(三重県伊賀町立拓殖中学校)</p> <p>(3) 『修学旅行ホームページ』5月1日スタート (財)全修協 修学旅行ホームページINDEX 「思い出の京都 修学旅行作文・マルチメディア作文コンクール」 京都で修学旅行受入れ旅館による献立講習会が開催される (財)全国修学旅行研究協会 平成11年度事業計画の大綱決まる</p> <p>(4) 環境学習旅行ガイド [8] 森と高原の自然、生活との調和を考える「白樺湖、蓼科、美ヶ原」 大和路遍歴 [24] 大和郡山<下> (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)</p>
第448号	平成11年 5月10日 (1999年)	(1)	<p>全修協「修学旅行ホームページ」5月1日いよいよオープン 東京駅学生団体待合(集合)場所の変更について 日本橋口→丸の内地下1階 東京駅における団体貸切バスの乗車場所の変更について 北口路上→鍛冶橋駐車場 主張 修学旅行における体験学習と班別自主学習 風紋</p> <p>(2) 教育の窓 教師考 (東京農業大学教授・前文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 東北地方の豊かな自然と歴史文化体験 修学旅行における環境学習研究・実践レポートⅣ(群馬県昭和中学校)</p> <p>(3) 平成11年度「関修委」関西への修学旅行第一陣 栃木県真岡東中学校修学旅行(同行記) 倭は国のまほろば…今夏も橿原考古学博物館特別講座を開催! 京都班別自主活動向け情報機器「いまどこサービス」の利用始まる 奈良「世界遺産ぐるっとバス」の運行について(奈良交通)</p> <p>(4) 環境学習旅行ガイド [9] 「山、森、湖」高原の自然と対話する「志賀高原」 第14回全修協修学旅行セミナー:環境学習のご案内 大和路遍歴 [25] 藤原京(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第449号	平成11年 6月10日 (1999年)	(1)	ラムサール条約に日本から漫湖(沖縄)が新規追加登録される 「修学旅行パスポート」4月より配布を開始した ～京都市産業観光局・観光協会～ 主張 環境学習旅行の推進について 風紋
		(2)	教育の窓 今、なぜ「やさしさ」なのか (日本特別活動学会常任理事・東京学芸大学講師 井上裕吉氏) 体験を通して、自然や社会と自分のかかわりを考えて、 たくましく生きる力を身につける修学旅行 修学旅行における環境学習研究・実践レポートV (山形県米沢市立第一中学校)
		(3)	班別自主学習と「ドームパラダイス」で思い出いっぱいの修学旅行 愛知県中部中学校(同行記) 全修協 第87回理事会、第39回評議員会が開催 鴻田氏が常務理事に選任、前田氏は専務理事を退任し、顧問に就任 東京でのいろいろな「一日乗車券」 A.都区内フリーきっぷ(JR東日本発売)／B.一日乗車券(営団地下鉄発売)／ C.一日乗車券(東京都交通局発売)／ D.東京フリーきっぷ(JR東日本・営団地下鉄・東京都交通局発売) 全修協三重県支部長に大廣佳二氏
		(4)	環境学習旅行ガイド [10] 北の原野と海、雄大な自然と向き合う「猿払村」 大和路遍歴 [26] 今井町(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹) 京都市でごみ減量推進会議スタート ジャパンフローワ2000(兵庫県淡路島) 「花と緑の国際博覧会」前売入場券が発売開始される
第450号	平成11年 7月10日 (1999年)	(1)	第14回全修協修学旅行セミナーが【環境学習】をテーマとして開催される 3つの願い、6つの取り組み 主張 今後の環境学習への取り組みについて 風紋
		(2)	教育の窓 学習指導要領の移行措置について(中学校) (東京農業大学教授・前文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 京都を明日につなげよう ～エコ修学旅行をめざして～ 修学旅行における環境学習研究・実践レポートVI(神奈川県座間中学校)
		(3)	長崎で平和について考え、阿蘇で自然の偉大さに触れた修学旅行 大阪府富田林市立明治池中学校 5月30日(日)～6月1日(火) (同行記:全修協 永田勇二郎 記) 京の宿で環境学習 「割りばしリサイクル」への取り組み 近畿日本ツーリスト協定旅館ホテル連盟 平成11年度 各地区修学旅行委員会の役員が決定
		(4)	環境学習旅行ガイド [11] 全てが環境学習の教室、亜熱帯の自然・文化・生活・歴史「沖縄<1>」 大和路遍歴 [27] 飛鳥<1>(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第451号	平成11年 8月10日 (1999年)	(1)	(財)全国修学旅行研究協会調査 「平成10年度全国公立高校海外修学旅行実施状況調査」まとまる 全国の公立高校で海外修学旅行を308校で実施、生徒53,949人が参加した。 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会 平成11年度(第28次)総会が開催される 主張 公正取引委員会による近畿地区における 修学旅行取扱旅行者に対する勧告について 風紋
		(2)	教育の窓 生きる力の育成とこれからの学校行事 ー環境教育の視点を活かすー (日本特別活動学会常任理事・東京学芸大学講師 井上裕吉氏) 豊島産業廃棄物の学習から 今日の世界の現状・生活を考える 修学旅行における環境学習研究・実践レポートⅦ(岐阜県中津川市立第二中学校)
		(3)	「平成10年度全国公立高校海外修学旅行実施状況調査報告」(その一) (財)全国修学旅行研究協会 調査 旅の文化研究所では『伊勢文化フォーラム』開催に伴う参加者募集中
		(4)	環境学習旅行ガイド [12] 全てが環境学習の教室、亜熱帯の自然・文化・生活・歴史 「沖縄<2>」 大和路遍歴 [28] 飛鳥<2> (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第452号	平成11年 9月10日 (1999年)	(1)	国内修学旅行(公立高校)における航空機利用許可地区は98.3%となった。 平成10年度実施 航空機利用率 各地域別 主張 国際理解教育の充実と海外修学旅行の発展 風紋
		(2)	教育の窓 ガイダンスの出現 (東京農業大学教授・前文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) スキーを通じて自然を身近に感じると共に自然の中で体験学習を深める 修学旅行における環境学習研究・実践レポートⅧ (奈良市立富雄中学校)
		(3)	「平成10年度全国公立高校海外修学旅行実施状況調査報告」(その二) (財)全国修学旅行研究協会 調査 修学旅行費の国庫補助金を 三地区連合修旅委と当協会で文部省に陳情
		(4)	環境学習旅行ガイド [12] 全てが環境学習の教室、亜熱帯の自然・文化・生活・歴史 「沖縄<3>」 大和路遍歴 [29] 飛鳥<3> (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第453号	平成11年 10月10日 (1999年)	(1)	10年後(2009年)の修学旅行人口は今年度(1999年)より76万人減少の見込み ー修学旅行に見る少子化傾向ー 主張 連合体輸送の継続発展に向けて 風紋
		(2)	教育の窓 ボランティア活動の導入 (東京農大教授・前文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 学生団体として初めて参加「NGO環境市民」との「京都エコ修学旅行」 修学旅行における環境学習研究・実践レポートⅨ(千葉県柏市立土中学校)
		(3)	平成十三年度関修委連合体計画輸送について 新しい修学旅行先を求めて四国現地研修会を近公修委が実施 奈良市観光課で修学旅行向けCD-ROMを製作 JR団体構成人員の改定について
		(4)	環境学習旅行ガイド [13] スポーツフィールドに人間の健康の秘密を探る「菅平高原」 大和路遍歴 [30] 飛鳥<4> (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第454号	平成11年 11月10日 (1999年)	(1)	<p>関東地区公立中学校修学旅行委員会各学校より JR連合体輸送に関わる安全確保と継走臨への改善要望が高まる。 主張 一校一館を考える視点 風紋</p> <p>(2) 教育の窓 移行期に臨んで (東京農業大学教授・前文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行は今 班別自主学習に「修学旅行ナビ」登場</p> <p>(3) スペイン村と伊勢志摩の自然に感激 近畿地区「あおぞら号」小学校修学旅行 大阪市立清明丘南小学校に同行取材 あおぞら号計画輸送 平成十三年度実施分より 身障者対応等が改善される 平成13年4月オープン予定のユニバーサルスタジオジャパン(大阪)の 修学旅行団体仮予約申込が始まる</p> <p>(4) 環境学習旅行ガイド [14] “海・人・歴史” 自然、文化、生活環境を学ぶ「伊勢志摩」 大和路遍歴 [31] 阿部文殊院(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)</p>
第455号	平成11年 12月10日 (1999年)	(1)	<p>第16回「全国修学旅行研究大会」が『体験を重視し、生きる力を培う修学旅行』を テーマとして、愛知県岡崎市で開催される 近修委地区、平成十二年度(九州方面)修学旅行連合体輸送ダイヤが決定 主張 全国修学旅行研究大会を終わって 風紋</p> <p>(2) 教育の窓 生徒指導を生かした教育課程の編成 (東京農業大学教授・前文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 第16回全国修学旅行研究大会「特別講演」 「生きる力」とこれからの修学旅行 (文部省初等中等教育局 中学校課教科調査官 森嶋昭伸氏)</p> <p>(3) 第16回全国修学旅行研究大会「研究発表要旨」 大会テーマ『体験を重視し、生きる力を培う修学旅行』 体験的活動を通じて、学級の目指す姿を見つめる旅 (岐阜県陽南中学校 清水憲雄・久保田尚志氏) 生きる力を育てる修学旅行 三年間の体験学習の一つとして実践 (愛知県東陵中学校 三輪道敏氏、修学旅行実行委員会生徒10名)</p> <p>(4) 環境学習旅行ガイド [15] 新しい都市環境と自然環境の創造に向けて「アーバン・エコ大阪」 大和路遍歴 [32] 談山神社(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)</p>
第456号	平成12年 1月10日 (2000年)	(1)	<p>平成十二年 年頭の所感(文部大臣 中曽根弘文氏) 年頭の所感(全修協理事長 谷合良治) 風紋</p> <p>(2) 教育の窓 「総合的な学習の時間」の指導計画作成(一) (東京農業大学教授・前文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 長崎県修学旅行 現地研修会報告 【近畿地区中学校班】【関東地区公立高校班】</p> <p>(3) 「新年を迎えて」年頭の所感 新しい修学旅行の創造を (関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会会長 野田正美氏) 2000年を迎えて(関東地区公立中学校修学旅行委員会会長 高梨眞佐岐氏) 充実した修学旅行をめざして(近畿地区公立中学校修学旅行委員会会長 杉本敏和) 新しい時代に向けて(あおぞら号近畿地区運営協議会会長 竹内功氏) 全修協本部事務所が九段に移転しました</p> <p>(4) 環境学習旅行ガイド [16] 歴史文化保護と現代の共生「京都エコ学習」 大和路遍歴 [33] 長谷寺(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)</p>

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第457号	平成12年 2月10日 (2000年)	(1)	京都への修学旅行人数は年間96万人(平成10年度実績) (京都市産業観光局) 修学旅行でホノルルマラソンに参加 兵庫県立飾磨工業高校 主張 世界遺産を学ぶ 風紋
		(2)	教育の窓 「総合的な学習の時間」の指導計画作成(二) (東京農業大学教授・前文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 新時代の教職員研修旅行について (財)全国修学旅行研究協会
		(3)	飾磨工業高校268名 ホノルルマラソン(42.195km) 全員完走 海外修学旅行を実施して(兵庫県立飾磨工業高等学校教頭 芳木宏行氏) 生徒感想文(吉田真寿美さん・星山申成くん・福田友規くん)
		(4)	環境学習旅行ガイド [17] 大都会で学ぶ環境学習 人と自然、生活と地球環境を考える「東京」 大和路遍歴 [34] 當麻路<上> (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第458号	平成12年 3月10日 (2000年)	(1)	今、スキー修学旅行は <信州へのスキー修学旅行 減少傾向続く> 「エコツーリズム都市・京都」シンポジウムが開催される 主張 修学旅行の課題 -平成11年度から12年度へ向けて- 風紋
		(2)	教育の窓 地方分権一括法と学校教育 (東京農業大学教授・前文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 新刊紹介【総合的な学習】『かがやき』新しい教育課程の創造と実践
		(3)	スキー修学旅行の現況と課題について -信州スキー修学旅行取材して-
		(4)	環境学習旅行ガイド [18] 環境学習旅行の発展を期して「まとめ」 大和路遍歴 [35] 當麻路<下> (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第459号	平成12年 4月10日 (2000年)	(1)	体験学習の取り組み、各地で活発化 -平成11年度、関東・東海・近畿地区公立中学校修学旅行実施状況調査より- 主張 修学旅行と体験学習 -体験学習をどうすすめるか- 風紋
		(2)	教育の窓 子どものしつけと心 -ある調査から- (東京農業大学教授・前文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行実施事例紹介1 一人一人が楽しく生き生きと活動する修学旅行 ~体験学習を通して~ (栃木県宮の原中学校)
		(3)	これからの体験学習取組に向けて(その1) ユニバーサル・スタジオ・ジャパン 東京オフィスを三月九日より開設
		(4)	修学旅行 最新お国じまん [1] 「よう来たね、長崎」 大和路遍歴 [36] 當麻路から樫原へ(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第460号	平成12年 5月10日 (2000年)	(1)	東京(試行)・千葉の公立高校で海外修学旅行が相次ぎ許可される 2000年春の修学旅行スタート 主張 体験学習への期待 風紋
		(2)	教育の窓 「抱え込み」から「協働」へ -少年非行への対応- (東京農業大学教授・前文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行実施事例紹介2 生徒の主体性を生かす修学旅行 ~実行委員会活動を中心に~ (和歌山県上秋津中学校)
		(3)	これからの体験学習取組に向けて(その2) 明日香に亀形石造物の発見 [夏季教職員研修旅行特別企画] 樫原考古学特別講座 東京で見る! 学ぶ! 「企画施設ガイドブック」発行される 全修協だより 支部長人事 静岡県支部長に村木規量氏、愛知県支部長に安保章一氏 事務局人事 本部修学旅行部長兼調査研究部長 柳川達郎氏、名古屋事務局長 西尾日邦氏
		(4)	修学旅行 最新お国じまん [2] 「よう来てくれはりました、奈良」 大和路遍歴 [37] 大和三山 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第461号	平成12年 6月10日 (2000年)	(1)	東京での体験学習は、環境学習と国際交流が増加 北海道は大丈夫です 有珠山火山活動に関する状況を踏まえた北海道への修学旅行実施について 主張 班別学習への期待 風紋
		(2)	教育の窓 修学旅行の採点 (東京農業大学教授・前文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行実施事例紹介3 触れる感じる学ぶ 修学旅行 ～文化をCATCH 自然をGET たくさん学ぼう三日間～ (名古屋市滝ノ水中学校)
		(3)	特集 「首都圏での体験学習」 1.体験学習実施状況 2.体験学習の主な内容 3.よりよい体験学習実施に向けて なつかしの東京修学旅行 40年前の東京修学旅行見学先 全修協だより
		(4)	修学旅行 最新お国じまん [3] 「よぐ来たねしい～青森」 大和路遍歴 [38] 壺阪寺(大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第462号	平成12年 7月10日 (2000年)	(1)	平成11年度、公立高校海外修学旅行は377校で実施、6万2千名が参加 全修協「平成十一年度全国公立高等学校海外修学旅行実施状況調査報告」 主張 修学旅行のまとめ 一生徒の変容をどうとらえるかー 風紋
		(2)	教育の窓 問われる管理職 (東京農業大学教授・前文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行実施事例紹介 4 「自然との共生」を図る人づくりを 一屋久島、鹿児島ー(群馬県尾瀬高等学校)
		(3)	～平成12年度修学旅行基準概要調査まとまる～ 公立高校の海外修学旅行は全国の85%が許可 国内航空機利用は全国の公立高校で可能 全国公立高等学校海外修学旅行実施状況推移など 平成11年度、全国公立高校の海外修学旅行実施状況調査結果 平成12年度各地区修学旅行委員会事業計画決まる 関東地区公立中学校修学旅行委員会(関修委) 東海三県中学校修学旅行委員会(東海修委) 近畿地区公立中学校修学旅行委員会(近公修委) 全修協だより 全修協岩手県支部長に森越康雄氏
		(4)	修学旅行 最新お国じまん [4] 「ゆくさ おさいじゃした～鹿児島」 大和路遍歴 [39] 閑話休題 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第463号	平成12年 8月10日 (2000年)	(1)	駿台甲府高等学校がタイでボランティア研修旅行 主張 修学旅行のまとめ 一生徒の発達、変容をとらえる観点ー 風紋
		(2)	教育の窓 問題行動と感性 (東京農業大学教授・前文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行実施事例紹介 5 班別学習で長岡京遺跡発掘体験(熊本県熊本高等学校)
		(3)	タイの人々と心触れ合う国際交流 国際ボランティア体験と平和学習(駿台甲府高等学校) 京都修学旅行パスポートが更に充実
		(4)	修学旅行 最新お国じまん[5] 「ようおいでやす～滋賀」 大和路遍歴 [40] 柳生 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第464号	平成12年 9月10日 (2000年)	(1)	2002年6月開催 ワールドカップサッカー大会 修学旅行への影響は微妙？ 主張 教職員研修旅行の新しい展開に向けて 風紋
		(2)	教育の窓 学校行事と相互的な学習の時間 (東京農業大学教授・前文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行実施事例紹介6 シルバーガイドとあるく班別研修(埼玉県北本市立東中学校)
		(3)	浦和市立岸中学校が志賀高原で農業体験 種まき体験後の生育具合はインターネットで バリアフリーをめざす志摩スペイン村で「ふれあいフェスタ2000」を本年11月に開催 第1回高校生自然環境サミット開催 平成13年度、修学旅行費国庫補助金を文部省に陳情(三地区修旅連、全修協) 平和の発信拠点「永井隆記念館」長崎に開館
		(4)	修学旅行 最新お国じまん [6] 「おでってなんせ～ 岩手」 大和路遍歴 [41] 聖林寺・箸墓古墳 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第465号	平成12年 10月10日 (2000年)	(1)	沖縄への修学旅行生は264千人(対前年比119%) 平成11年度入込実績が沖縄県より発表 平成14年度関修委連合体輸送計画の大筋決まる 2002年は関西地区へ秋季も実施 風紋
		(2)	教育の窓 教育改革への動き[1] (東京農業大学教授・前文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 京都市から修学旅行向けCD-ROM「出会いふれあい京都修学旅行」が完成 全国の学校に配布中 平成14年度完成を目指して「勤労体験プラザ」(仮称)が全国から名称を公募
		(3)	修学旅行実施事例紹介7 山形(西川、寒河江)で勤労(農業・林業)体験学習(千葉県見明川中学校) ユニバーサル・スタジオ・ジャパン 来春オープン、修学旅行生の料金決まる
		(4)	修学旅行 最新お国じまん [7] 「めんそーりょー美ら島うちなー～ 沖縄」 大和路遍歴 [42] 室生寺<1> (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第466号	平成12年 11月10日 (2000年)	(1)	関修委と全修協とで 東海道新幹線修学旅行列車への乗り継ぎ列車の料金割引をJR東日本に陳情 東海修委、加盟校の減少傾向が続く 平成14年度連合体申し込みがまとまる 関修委研究協議会でJR東日本・東海と意見交換会を開催 風紋
		(2)	教育の窓 教育改革への動き [2] (東京農業大学教授・前文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行実施事例紹介8 神戸・淡路地区震災学習(東京都みなみ野中学校)
		(3)	水俣市で環境学習 一新潟県東本町小学校 奈良東大寺の拝観料 来年1月より値上げ 旅の文化研究所で「伊勢文化フォーラム」参加者募集中 近公修委 本年8月「沖縄」現地研修会を実施
		(4)	修学旅行 最新お国じまん [8] 「来たってやー ～大阪」 大和路遍歴 [43] 室生寺<2> (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第467号	平成12年 12月10日 (2000年)	(1)	第17回全国修学旅行研究大会、前橋市で開催 学校の創意を生かした研究実践発表「生きる力」を育てる修学旅行 「オーストラリア教育旅行セミナー」を開催 12月16日、同国大使館にて 主張 平成12年から新しい世紀へ向けて 風紋
		(2)	教育の窓 生徒指導学会の誕生 (東京農業大学教授・元文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏)
		(3)	修学旅行実施事例紹介9 第17回全国修学旅行研究大会 発表要旨 『自主的に取り組む班別行動を目指した修学旅行』 (群馬県新治中学校教諭 高橋隆雄氏) 『自ら学び自ら考え、生き生きと活動する修学旅行』-総合的な学習の時間を活用して- (群馬県長野原西中学校教諭 埴田栄一・田中充弘氏)
		(4)	修学旅行 最新お国じまん [9] 「まあ、いっぺん来てみいや ～高知」 大和路遍歴 [44] -当尾の里- 岩船寺・浄瑠璃寺 (大阪事務 北條直樹)
第468号	平成13年 1月10日 (2001年)	(1)	平成十三年 年頭の所感(文部科学大臣 町村信孝氏) 年頭の挨拶21世紀の修学旅行を(全修協理事長 谷合良治) 「新しい学校教育における修学旅行について」全修協が諮問 風紋
		(2)	教育の窓 これからの情報教育 (東京農業大学教授・元文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行実施事例紹介10 福祉(高齢者疑似体験)・防災体験学習「地元でできない体験から学ぶ修学旅行を目指して」 (京都府本城中学校)
		(3)	新税期を迎えて～年頭の所感～ 二十一世紀を迎えて (関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会会長 石田和男氏) 「生徒の夢」を大切にしたい修学旅行を (東海三県中学校修学旅行委員会委員長 濱田健氏) あたらしい修学旅行を目指して (近畿地区公立中学校修学旅行委員会会長 小林十寸夫氏) 新世紀に生きる修学旅行を(あおぞら号近畿地区運営協議会会長 田中孝治氏) 二十一世紀の幕開けを迎えて(全国連合小学校校長会会長 三上裕三氏) 二十一世紀の幕開けにあたり(全日本中学校長会会長 高木清文氏) 二十一世紀を迎えて(全国高等学校長協会会長 水谷弘氏)
		(4)	修学旅行 最新お国じまん[10] 「深呼吸しにおいて！の～んびり ～北海道」 大和路遍歴 [45] 月ヶ瀬 (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第469号	平成13年 2月10日 (2001年)	(1)	平成12年度関東地区公立中学校の修学旅行実施状況まとまる 修学旅行での体験学習実施率は72.2% 文部科学省発足(平成13年1月6日より) 群馬県・神奈川県を対象に「韓国修学旅行セミナー」を開催-韓国観光公社- 風紋
		(2)	教育の窓 教養教育と生きる力 -中教審「審議のまとめ」から- (東京農業大学教授・元文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行実施事例紹介11 調査体験(東京)・漁村体験(下田)学習 -「生きる力」につなぐ修学旅行の取り組み- (滋賀県彦根中学校)
		(3)	第17回全国修学旅行研究大会 記念講演要旨 「これからの学校教育と修学旅行」(文部科学省教科調査官 森嶋昭伸氏) 体験プラザの名称「私のしごと館」に
		(4)	修学旅行 最新お国じまん [11] 「癒しの国 ～和歌山」 大和路遍歴 [6] 吉野山<1> (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第470号	平成13年 3月10日 (2001年)	(1)	首都圏公立高校の海外修学旅行 千葉県で9校が計画(2001年度)、東京都3校を試行(2002年度) 奈良市への修学旅行は1,128千人(対前年比6%減) 宿泊生徒数は奈良市22万人、111京都市98万人 ー平成11年奈良市入込み観光者数調査報告からー 風紋
		(2)	教育の窓 教員の評価 (東京農業大学教授・元文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行実施事例紹介12 大地に生きる、土に触れる 体験学習 自然に慣れ親しむ(老岐) (大阪府西山田中学校)
		(3)	ユニバーサル・スタジオ・ジャパン 3月31日オープン 見る・学ぶ・ふれあい「韓国修学旅行」感想文・写真作品を募集 修学旅行情報「Kagoshima CityROM」を作成 海の博物館(鳥羽市)13年度前期開催行事 第7回ニュージーランド交流体験研修 私の中で何かが変わった2000年の夏 ーふれあい、学ぶ、心の交流ー
		(4)	修学旅行 最新お国じまん [12] 「こんね! 太陽と緑あふれる宮崎へ」 大和路遍歴 [47] 最終回 吉野山<2> (大阪事務局修学旅行部長 北條直樹)
第471号	平成13年 4月10日 (2001年)	(1)	「修学旅行ホームページコンクール」全修協で今秋実施 インターネットの活用による修学旅行の充実・発展を目指して 春の修学旅行スタート 2001年の修学旅行生徒数は4,116千人 主張 二十一世紀 修学旅行のスタートのあたって 風紋
		(2)	教育の窓 学校教育の自己点検ー世論調査からー (東京農業大学教授・元文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行実施事例紹介13 多種多様な学習テーマによる「自分の生き方を考える」修学旅行(千葉県葛城中学校)
		(3)	海外安全ホームページのご案内ー外務省ー 体験・環境学習特集ページを開設ー高知県ー 『なら奈良館』オープン 近鉄奈良駅ビル 夢と想像力を育む教育プログラムを提供 ユニバーサル・スタジオ・ジャパン 有意義な体験学習を応援する多彩なテーマ
		(4)	修学旅行 最新お国じまん [13] 「さわやか信州～長野県」 海外修学旅行 国際理解・交流のための基礎知識 「見る、まなぶ、ふれあう」韓国
第472号	平成13年 5月10日 (2001年)	(1)	体験学習の取組み、さらに増加 新しい体験分野の情報を希望 ー平成12年度関東・東海・近畿地区公立中学校修学旅行実施状況調査よりー 思い出に残る修学旅行を 東京駅で修学旅行専用電車出発式 「修学旅行ホームページコンクール」実施要項決まる 9月公募をスタート 風紋
		(2)	教育の窓 問題行動への対応策 [1] (東京農業大学教授・元文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行実施事例紹介14 “発見”と“人とのふれあい”環境(エコマップ体験学習・京都(福岡県宮田西中学校)
		(3)	体験学習の実施状況 ー平成12年度 関東・東海・近畿 三地区公立中学校修学旅行委員会からの 実施状況調査からー 第12回「馬場賞」研究活動を募集 国際理解教育の研究と実践を顕彰 米国教育カリキュラムの視察研修を実施 特別史跡 吉野ヶ里遺跡 吉野ヶ里歴史公園として4月21日開園 観光の名所を結ぶ3系統を新設ー京都市交通局ー 電力展示室をリニューアルー科学技術館ー
		(4)	修学旅行 最新お国じまん [14] 「見たいけん～熊本県」 海外修学旅行 国際理解・交流のための基礎知識 “安心感が違う。でっかい教室 オーストラリア”

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第473号	平成13年 6月10日 (2001年)	(1)	「総合的な学習の時間」を修学旅行に活用が57%と回答 「これからの修学旅行の在り方」より 全国公立小・中・高校意識動向調査－全修協調査－ 沖縄の入域観光客は451万人－平成12年観光客数動向－ 公立中学校の沖縄修学旅行が増加へ 風紋
		(2)	教育の窓 問題行動への対応策 [2] (東京農業大学教授・元文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行実施事例紹介15 ふれる、感じる修学旅行・沖縄(兵庫県荒牧中学校)
		(3)	楽しい修学旅行を！近鉄上本町駅で「あおぞらⅡ号」出発式 「わたしの平和宣言」を募集－広島市－ 東京ディズニーランド「エレクトリカルパレード・ドリームライツ」スタート ジャパンエキスポ山口2001「山口きらら博」7月14日開幕
		(4)	修学旅行 最新お国じまん [15]「うつくしま、ふくしま～福島県」 海外修学旅行 国際理解・交流のための基礎知識 “治安が良く、学習素材豊富なシンガポール”
第474号	平成13年 7月10日 (2001年)	(1)	アジアへの修学旅行推進へ兵庫県教委が方針 －全修協主催－マレーシア・シンガポール海外修学旅行セミナーを開催 風紋
		(2)	教育の窓 しつけの徹底 (東京農業大学教授・元文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行実施事例紹介16 留学生との国際交流～京都東山を歩く(福岡県守垣中学校)
		(3)	社団法人経済同友会が「学校と企業・経営者の交流活動」を展開中 21世紀の新たな夢を描くサイエンスパーク 日本科学未来館オープン 環境学習VTRを作成 ハウステンボス 平成13年度各地区修学旅行委員会 事業計画決まる
		(4)	修学旅行 最新お国じまん [16]「知る、創る、触れる体験学習～山口県」 海外修学旅行 国際理解・交流のための基礎知識 “あらゆる素材を兼ねそろえた学びの地ハワイ”
第475号	平成13年 8月10日 (2001年)	(1)	沖縄への航空機利用修学旅行に対し、集約輸送実現に向けた検討を組み入れ ～平成13年度近公修委事業計画に～ より一層の国際交流を願って((財)全国修学旅行研究協会) 風紋
		(2)	教育の窓 生徒指導要録の改善について－特別活動の記録－ (東京農業大学教授・元文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行実施事例紹介17 生徒たちによるテーマ別体験学習(栃木県栃木西中学校)
		(3)	今後も、より積極的に学生団体を受入れ76% －旅館・ホテルの「これからの修学旅行の受入れ対応」調査－
		(4)	修学旅行 最新お国じまん [17]「自然と生活のふるさと体験～山形県」 海外修学旅行 国際理解・交流のための基礎知識 教育素材の宝庫マレーシア

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第476号	平成13年 9月10日 (2001年)	(1)	インターネットの活用による修学旅行の充実と発展を目指して 『第1回修学旅行ホームページコンクール』作品募集を開始 情報教育充実のための諸施策ならびにコンピュータ等の整備状況 主張 新学期のスタートにあたって 風紋
		(2)	教育の窓 「学力」論議に思う (東京農業大学教授・元文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 人と自然との真の共生を学び、考える 第2回『高校生自然環境サミット』開催
		(3)	生徒と先生でつくるインターネット学習(東京都台東区忍岡中学校) 東京ディズニーシー 9月4日オープン 特別展「美術の中のこどもたち」-東京国立博物館で今秋開催-
		(4)	修学旅行 最新お国じまん [18] 「来てみんさい〜広島」 海外修学旅行 国際理解・交流のための基礎知識 微笑みの国タイランド
第477号	平成13年 10月10日 (2001年)	(1)	海外修学旅行の実施は、まず安全性の確認を 海外修学旅行の安全確保について(平成元年2月9日文部省初等中等局長通知) 沖縄は支障なく平常 主張 修学旅行の実施は前向きに 風紋
		(2)	教育の窓 「総合的な学習の時間」の原点への回帰 (東京農業大学教授・元文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 研究・体験活動を中心に据えた宿泊行事 (大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎)
		(3)	“これからの修学旅行について先生方大いに夢を語る” -全修協主催・修学旅行ラウンドテーブル(円卓会議)を開催-
		(4)	修学旅行 最新お国じまん[19] 「おざってたんせ〜秋田」 海外修学旅行 国際理解・交流のための基礎知識 人と自然に学ぶ国ニュージーランド
第478号	平成13年 11月10日 (2001年)	(1)	「京都こそ修学旅行の原点です。」京都市産業観光局は語る 京都市の修学旅行入り込み数が微増 -平成12年中985千人が入洛-京都市観光調査年報- 沖縄はまったく平常 沖縄観光振興会議を開催 -国土交通省- 沖縄観光振興宣言 平成13年11月4日 沖縄観光振興会議 第1回修学旅行『ホームページコンクール』に応募殺到 風紋
		(2)	教育の窓 学校の主体性 (東京農業大学教授・元文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行実施事例紹介20 テーマ別行動〜京都 -個々の生徒のニーズを生かす見学、体験学習- (千葉県千葉西高等学校)
		(3)	沖縄の現状を正しく見てもらいたい 修学旅行関係者を沖縄へ招へい-国土交通省- 修学旅行列車についての意見交換会開催 身の回りのリサイクル等 最新技術を紹介 -環境学習にも最適- (財)機械産業記念事業団 研究・体験旅行の成果と課題[1] -修学旅行の総合的な学習を通して- (大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎教諭 田中譲氏)
		(4)	修学旅行 最新お国じまん [20] 「観光から感動へ〜大分」 海外修学旅行 国際理解・交流のための基礎知識 もっと知りたい日本のことを。もっと知ってほしい台湾のことを。台湾

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第479号	平成13年 12月10日 (2001年)	(1)	第18回全国修学旅行研究大会を大阪で開催 体験的学習を通して生きる力を育成する修学旅行 主催:関東・東海・近畿三地区修旅連合委員会/(財)全修協 修学旅行関係者沖縄招へい事業の実施について(書面:国土交通省) 『第1回修学旅行ホームページコンクール』応募締切 391校が参加、研究・実践の成果をHPで! 修学旅行はノービザで 中国国家旅遊局 風紋
		(2)	教育の窓 FDに学ぶ (東京農業大学教授・元文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行実施事例紹介21 総合学習とリンクさせた長崎修学旅行「KIZUKE!」なかま・ひと・自分 ～長崎から夢へ～ (大阪府松原第二中学校)
		(3)	将来の国際交流を見据え、セミナー、現地研修会を実施 タイ修学旅行セミナー(12/1) 西安現地研修会(12/25) 新ユニセフハウス オープン 途上国の子どもたちの様子を紹介 研究・体験旅行の成果と課題 [2] ー修学旅行の総合的な学習を通してー (大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎教諭 田中譲氏)
		(4)	修学旅行 最新お国じまん[21]「ございん～スマイルあったか宮城」 海外修学旅行 国際理解・交流のための基礎知識 悠久の歴史、山紫水明、そして躍動の今を訪ねて 中国
第480号	平成14年 1月10日 (2002年)	(1)	平成十四年 年頭の所感(文部科学大臣 遠山敦子氏) 「21世紀修学旅行の創造をめざして」提唱、実践へ(全修協理事長 谷合良治) 風紋
		(2)	教育の窓 HRとHR (東京農業大学教授・元文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行実施事例紹介22 体験学習を取り入れた班別自主学習 一生の思い出に残る 京都ぶらり旅(千葉県西志津中学校)
		(3)	沖縄修学旅行に一人2千円助成ー国土交通省ー 第18回全国修学旅行研究大会記念講演要旨 学校教育の転換とこれからの修学旅行 (文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 森嶋昭伸氏)
		(4)	修学旅行 最新お国じまん[22]「来まっし～石川」 特別取材 パース(西オーストラリア州) ～自然と共存する、学習要素豊富なフレンドリィシティ～
第481号	平成14年 2月10日 (2002年)	(1)	修学旅行での体験学習はますます増加 関東地区公立中学校では74.5%が実施 『第1回修学旅行ホームページコンクール』審査結果発表は2月28日(金) 風紋
		(2)	教育の窓 他者の存在 (東京農業大学教授・元文部省主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行実施事例紹介23 生きる力を育てる修学旅行 ～修学旅行を総合的な学習と位置づけての実践～(千葉県湖北台中学校)
		(3)	「第2回西安修学旅行現地研修会」を開催 ー企画(財)全国修学旅行研究協会ー まなびの国山形まるごと感動やまがた体験 山形県教育旅行誘致説明会開催 九州国立博物館(仮称)について [1] 福岡県総務部国立博物館対策室
		(4)	修学旅行 最新お国じまん[23]「よう来んさった～佐賀」 特別取材 西安(中国) ～悠久の歴史を湛える、東西文明を結ぶシルクロードの出発点～

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第482号	平成14年 3月10日 (2002年)	(1)	第1回『修学旅行ホームページコンクール』 (主催:財団法人全国修学旅行研究協会)優秀作品決定! 5人以上の訪中修学旅行団体はノービザ 中日国交正常化30周年記念で、修学旅行団に便宜 風紋
		(2)	教育の窓 社会性の育成 (東京農業大学教授・元文部省主任視学官 渡部邦雄氏) 行ってよかった沖縄修学旅行 ～自分の目で確かめた平穏無事な沖縄のすがた～ (大阪府茨田高等学校教諭 湯前登氏)
		(3)	私の体験した韓国修学旅行 –感想文・写真を募集– 韓国観光公社大阪支社 総合的な学習の時間に一役 –都市と農山漁村交流のためのシンポジウムを開催– 九州国立博物館(仮称)について [2] 福岡県総務部国立博物館対策室 文字をとおして古代社会の実像を描く–歴博創設20周年記念展示を開催– 国会議員を模擬体験 修学旅行で参議院特別体験
		(4)	修学旅行 最新お国じまん[24] 「feel(フィール)～神戸(兵庫)」 特別取材 メルボルン、シドニー 豊かな大自然と魅力あふれる文化に学ぶ ～オーストラリアの教育旅行プログラム～
第483号	平成14年 4月10日 (2002年)	(1)	平成14年度近畿圏における公立中学校 沖縄修学旅行の動向と15年度以降の予測 ～依然として顕著な増加傾向を示す～ 主張 生きる力に繋がる体験の充実を 風紋
		(2)	教育の窓 総合的な学習の出発 (東京農業大学教授・元文部省主任視学官 渡部邦雄氏) 東京都の宿泊税は平成14年度から施行予定 修学旅行への影響は少ないと思われる 平成14年度、関修委事業計画の大筋が固まる
		(3)	東京での体験学習は国際理解学習と社会・職場体験が多い 21世紀最初の世界博覧会は、地球環境に配慮した問題提起型 –「愛知万博」2005年に開催– 九州国立博物館(仮称)について [3] 福岡県総務部国立博物館対策室 伝えよう震災の教訓–「人と防災未来センター」 神戸にオープン
		(4)	修学旅行 最新お国じまん[25] 「とやま五感楽習～富山」 日本の学校との交流を求める地元校 文化、歴史に触れ、学ぶ ～学習素材あふれるタイ～
第484号	平成14年 5月10日 (2002年)	(1)	近畿圏の公立中学校 1/3が「旅行先を変えたい」 過半数が「土日をさけたい」と希望! 近公修委、平成13年度修学旅行実施状況調査まとまる 平成14年度 修学旅行費等の要保護・準要保護児童生徒への国庫補助金 総額28億3百万円、前年比0.4%の微増 風紋
		(2)	教育の窓 品性に思う (東京農業大学教授・元文部省視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行実施事例紹介24 自然環境に関する体験型ボランティア学習 –マレーシア修学旅行– (群馬県尾瀬高等学校)
		(3)	春の修学旅行スタート 小・中学生の希望を乗せて専用列車出発 長崎修学旅行の道案内は「あじさいワールド」で –長崎市教育情報ネットワークを開設– [修学旅行紹介インターネットホームページ事例集<1>] (山口大学附属山口小学校) NEWSピックアップ –日本初の修学旅行は見聞鍛練1ヶ月、福岡で日誌発見–
		(4)	修学旅行 最新お国じまん[26] 「歴史と自然、産業を学ぶ～静岡・伊豆」 世界最大の恐竜博2002 今夏、千葉市幕張メッセで開催!!

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第485号	平成14年 6月10日 (2002年)	(1)	丸ノ内鍛冶橋駐車場存続へ、駐車料金は値上げ 修学旅行としての「体験型学習」 (全国修学旅行研究協会理事長 中西朗) 台湾修学旅行セミナー、九州修学旅行フォーラムを開催 風紋
		(2)	教育の窓 学力問題再考 (東京農業大学教授・元文部省主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行実施事例紹介25 淡路・神戸の震災学習と伝統芸能・漁業体験(名古屋市城山中学校)
		(3)	沖縄の入域観光客数は443万人、対前年98%—平成13年観光客数の動向— サイエンスキャンプ2002参加者募集 すべてが“まなび”のフィールド やまがたまNAVI(CD-ROM)を作成
		(4)	修学旅行 最新お国じまん[27] 「見て体験して楽しく学ぶ～横浜」 [修学旅行紹介インターネットホームページ事例集<2>] (文化女子大学附属杉並中学校)
第486号	平成14年 7月10日 (2002年)	(1)	『第2回修学旅行ホームページコンクール』開催 —大賞に文部科学大臣奨励賞— 今回から文部科学省も後援 修学旅行ドットコムを全面リニューアル—修学旅行に関する総合サイトへ— 修学旅行委員会特設HPの開設について 風紋
		(2)	教育の窓 教育改革の主体 (東京農業大学教授・元文部省主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行実施事例紹介26 “心育む修学旅行目指して”(千葉県流山市立南部中学校)
		(3)	雲仙岳災害記念館7月1日オープン 島原半島の体験学習プログラム 「特別企画 中国雲南恐竜発掘体験の旅」募集 「世界最大の恐竜博2002」7月19日から幕張メッセで開催！ (山口大学附属山口小学校)
		(4)	修学旅行 最新お国じまん[28] 「遊び学び体験する～福岡・北九州」 [修学旅行紹介インターネットホームページ事例集<3>] (千葉県立木更津高等学校)
第487号	平成14年 8月10日 (2002年)	(1)	京都市への修学旅行入り込みは102万6千人 前年比104.1%と増加した —平成13年京都市観光調査まとまる— 平成15年度修学旅行費等の補助金増額を陳情 平成16年度、関東・東海・近畿地区中学校のJR連合体輸送計画の大綱決まる 風紋
		(2)	教育の窓 教師と研修 (東京農業大学教授・元文部省主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行実施事例紹介27 サッカー親善試合など豊富な交流体験 —マレーシア・シンガポール—(千葉県立八街高等学校)
		(3)	台湾では385校の高校が学校訪問を受入れ 台湾修学旅行セミナーを開催 台湾修学旅行へのメッセージ(抜粋) 中華民国教育部政務次官 北京で「日中子供フォーラム」を開催 日中国交正常化30周年記念事業として
		(4)	修学旅行 最新お国じまん[29] 歴史と自然を楽しむ～伊勢志摩(三重) [修学旅行紹介インターネットホームページ事例集<4>] (近江兄弟社高等学校)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第488号	平成14年 9月10日 (2002年)	(1)	平成14年度修学旅行人口は380万人と見込む －文部科学省調査「学校基本調査速報」より－ 全修協の「21世紀修学旅行プロジェクト」第2期計画のスタートにあたって 風紋
		(2)	教育の窓 体験活動ばやり (東京農大教授・元文部省主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行実施事例紹介28 出会い、ふれあい、分かち合い ～神戸の中学校との交流活動、フィールドワークを通して～ (名古屋市立上社中学校)
		(3)	『第2回修学旅行ホームページコンクール』開催へ －大賞には文部科学大臣奨励賞－9月より作品募集 奥深い自然を体験 環境学習等、学習素材も豊富！ 近公修委「屋久島」現地研修を実施
		(4)	現地校も学校交流・受入れに積極的 －台湾修学旅行現地研修会－(財)全国修学旅行研究協会 [修学旅行紹介インターネットホームページ事例集<5>] (兵庫県立西宮今津高等学校)
第489号	平成14年 10月10日 (2002年)	(1)	学校のインターネット接続率は、ほぼ100%に到達 －文部科学省の平成13年度情報教育実態調査結果まとまる－ 風紋
		(2)	教育の窓 教えない教師 (東京農業大学教授・元文部省主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行実施事例紹介29 東京学習旅行 社会と人間 共生～共に生きる～(岩手県厨川中学校)
		(3)	『タイ・フォトコンテスト』作品募集 主催タイ国政府観光庁 京都の最新情報は「京都市観光文化情報システム」で！ 交通博物館(東京) 東日本の新幹線展を開催 中国旅行記 目で見、肌で感じた中国(元東京都中学校長会長 前田烈氏)
		(4)	修学旅行 最新お国じまん[30] 「晴れの国～岡山」 [修学旅行紹介インターネットホームページ事例集<6>](岐阜県北陵中学校)
第490号	平成14年 11月10日 (2002年)	(1)	関修委、東海修委でJRとの意見交換会を開催 修学旅行の重要性和安全確保を双方で確認 風紋
		(2)	教育の窓 読書のすすめ (東京農業大学教授・元文部省主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行実施事例紹介30 －異文化理解の学校交流－(岩手県甲子中学校)
		(3)	平成14年沖縄への修学旅行生は28万人余りの見込み 米国テロ後の状況から飛躍的な回復見せる 平成16年度 各修学旅行委員会計画輸送の学校乗車日の決定と発表要項が固まる 『京都で学ぶ日本の歴史と文化』発刊(京都市) <海外修学旅行>タイ・バンコク・アユタヤ 修学旅行現地研修会のご案内
		(4)	修学旅行 最新お国じまん[31] 「四国の産業・伝統体験～徳島、香川」 [修学旅行紹介インターネットホームページ事例集<7>] (大阪府立阪南高等学校)

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第491号	平成14年 12月10日 (2002年)	(1)	9・11から回復の兆し 再び増加傾向を辿る海外修学旅行 第2回「修学旅行ホームページコンクール」応募締切り 全国公立学校465校の力作揃う 「みんなで創ろう21世紀の修学旅行」を主題に研究発表会を開催 風紋
		(2)	教育の窓 教育基本法の見直し (東京農業大学教授・元文部省主任視学官 渡部邦雄氏) 第18回全国修学旅行研究大会 発表要旨 生徒が主体的に取り組む修学旅行 (三重県西陵中学校教諭 今村新次・坂倉徳子氏)
		(3)	第18回全国修学旅行研究大会 発表要旨(つづき) 自ら考え、ともに学ぶ修学旅行 『総合的な学習の時間』『ともに生きる』の中に位置づけて (愛知県明治中学校教諭 横田里志氏)
		(4)	愛知万博の入場料金きまる 2005年3月25日から愛知県で開催 縄文遺跡三内丸山に「縄文時遊館」オープン [修学旅行紹介インターネットホームページ事例集<8>] (名古屋市立城山中学校)
第492号	平成15年 1月10日 (2003年)	(1)	平成十五年 年頭の所感(文部科学大臣 遠山敦子氏) 年頭に当たって思うこと(全修協理事長 中西朗) 風紋
		(2)	教育の窓 「学力調査」に思う (東京農業大学教授・元文部省主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行実施事例紹介32 自ら学び考える力の育成を目指す修学旅行(埼玉県神泉中学校)
		(3)	第19回全国修学旅行研究大会記念講演要旨 「新しい学校づくりと修学旅行」 (文部科学省初等中等教育局視学官 宮川八岐氏)
		(4)	震災の記憶を伝え、将来の災害に備える『人と防災未来センター』 ラムサール条約 藤前干潟(名古屋)と宮島沼(北海道)が新登録、登録湿地13に
第493号	平成15年 2月10日 (2003年)	(1)	中学校の航空機利用広がる 近畿圏では平成16年度260校が予定 平成16年度各地区修旅委連合体輸送計画きまる 風紋
		(2)	教育の窓 外部評価を考える (東京農業大学教授・元文部省初等中等教育局主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行実施事例紹介33 学び、育てよう“沖縄のこころ”－総合的な学習を通して－(奈良県春日中学校)
		(3)	都立高校の海外修学旅行試行事例を発表 －3月27日マレーシア修学旅行ビデオ発表会を開催－ 奈良市への修学旅行生は87万人、対前年92% －平成13年奈良市入込観光客数調査報告から－ 現地校も日本と実りある学校交流を希望 タイ修学旅行現地研修会レポート(全国修学旅行研究協会)
		(4)	修学旅行 最新お国じまん[32] 「～京都 その1～」 人と防災未来センター第2期 人未来館4月26日新たにオープン 山口県教育旅行説明会を開催 山口県修学旅行誘致促進協議会

通巻	発行年月日	ページ	主な記事
第494号 (最終号)	平成15年 3月10日 (2003年)	(1)	『第2回修学旅行ホームページコンクール』優秀校決まる 主催:財団法人全国修学旅行研究協会 文部科学大臣奨励賞に盛岡白百合学園高等学校(岩手県) お知らせ「修学旅行新聞」休刊について 風紋
		(2)	教育の窓 学校観の激変 (東京農業大学教授・元文部省主任視学官 渡部邦雄氏) 修学旅行実施事例紹介34 「(平和・交流・自然)体験旅行」(和歌山県清川中学校)
		(3)	2003年3月30日 関西文化学術研究都市に…私のしごと館プレオープン
		(4)	修学旅行 最新お国じまん[33]「～京都 その2～」 国立歴史民俗博物館 開館20周年記念「はにわー形とこころー」展 韓国修学旅行感想文・写真コンクールー韓国観光公社主催ー 大賞に大阪府立夕陽丘高校(感想文部門)、千葉県立成田国際高校(写真部門) 横浜にまたひとつ、新しい施設がオープン 横浜都市発展記念館、横浜ユーラシア文化館